

自然環境保全基礎調査  
植生調査実施要領（平成 29 年度版）

平成 29 年 4 月

環境省自然環境局  
生物多様性センター

## 自然環境保全基礎調査植生調査実施要領（平成 29 年度版）の改訂

本実施要領は、「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領（平成 28 年度版）」の一部を見直し、平成 29 年度版実施要領として改訂したものである。平成 29 年度の植生調査業務は、本実施要領、植生図 GIS データ製品仕様書、植生図 GIS データ作成ガイドラインに準拠する。主な改訂は以下の通りである。

- 判読画像の確認を、幹事法人より使用権利が貸与される空中写真及び衛星画像の確認を行った上で、最適な画像を選択・入手することとした。
- 特定植物群落等の現地確認結果を特定植物群落確認状況一覧表等にまとめ、第 2 回ブロック調査会議で検討することとした。
- 優占種調査 2 の位置を今後はできるだけ対象となる植生の位置とすることとした。
- ブロック版報告書の構成を単年度業務と 2 ヶ年度業務で分けて示した。
- ブロック版報告書の本文 1（4）実施体制を追加し、打合せ一覧、ヒアリング一覧を記載することとした。また、ブロック版報告書（確認用）の資料編に打合せ記録簿を追加することとした。

## 目次

<b>1. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1.1 目的 .....	1
1.2 経緯 .....	1
1.3 本要領の位置づけ .....	1
1.4 調査対象地域 .....	2
1.5 実施体制 .....	3
1.6 業務管理サイト・メーリングリスト .....	6
1.7 植生図の基本的仕様 .....	7
1.7.1 基図 .....	7
1.7.2 判読画像 .....	7
1.7.3 最小表示面積 .....	7
1.7.4 凡例 .....	7
1.7.5 隣接植生図との調整 .....	8
1.7.6 GIS データの仕様 .....	9
1.8 植生図の図化指針 .....	9
<b>2. 植生図の作成方法</b> .....	<b>10</b>
2.1 植生図の作成工程 .....	10
2.2 工程管理 .....	13
2.2.1 管理資料の確認・承認手順 .....	13
2.2.2 打合せ .....	15
2.3 計画・準備 .....	17
2.3.1 判読画像の入手及び確認 .....	17
2.3.2 既存資料の収集及び活用方法の検討 .....	18
2.3.3 2次メッシュ管理リスト及び2次メッシュ別工程表の作成 .....	20
2.3.4 着手打合せ .....	21
2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング .....	21
2.3.6 現地調査計画書の作成 .....	22
2.4 植生判読及び現地調査 .....	27
2.4.1 予備判読 .....	27
2.4.2 現地調査 .....	27
2.4.3 図化基準案の作成 .....	36
2.4.4 植生図案の作成・提出 .....	37
2.5 第1回ブロック調査会議 .....	41
2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載 .....	41

2.5.2	会議の開催	43
2.5.3	議事録及び議事概要の作成	43
2.5.4	会議後の打合せ（中間打合せ）	43
2.6	凡例検討部会	44
2.6.1	仮凡例の検討	44
2.6.2	仮凡例の検討フロー	45
2.7	植生図 GIS データの作成	46
2.7.1	植生図案の確定	46
2.7.2	植生図 GIS データの入力及び修正	47
2.7.3	2次管理資料の提出と進捗状況の報告	48
2.7.4	植生図全図の確認	49
2.8	第2回ブロック調査会議	51
2.8.1	会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載	51
2.8.2	会議の開催	53
2.8.3	議事録及び議事概要の作成	53
2.8.4	会議後の打合せ	53
2.9	植生分科会	54
2.10	成果品の作成	55
2.10.1	植生図の最終確認	55
2.10.2	成果品案等の提出	55
2.10.3	成果の確認	56
2.11	納品	57
<b>3.</b>	<b>調査成果とりまとめ</b>	<b>58</b>
3.1	成果品の概要	58
3.1.1	成果品の概要	58
3.1.2	環境省 RL 種にかかわる情報	61
3.2	GIS 植生図の出力図	62
3.2.1	GIS データ及び植生図	62
3.3	ブロック版報告書	63
3.3.1	ブロック版報告書の仕様	63
3.3.2	ブロック版報告書の作成	65
3.3.3	ファイル作成要領	67
3.4	現地調査データ	68
3.4.1	現地調査入出力システムの概要	68
3.4.2	現地調査データの内容	72
3.5	電子ファイル（電子媒体）	76
3.5.1	格納媒体	76

3.5.2 電子媒体の表題 .....	76
3.5.3 DVD の内容 .....	80
3.6 空中写真等.....	82
3.6.1 空中写真に関わる成果品の構成.....	82
3.6.2 空中写真アルバムの整理 .....	84
3.6.3 標定図の整理 .....	86
3.7 電子ファイル.....	88
資料1 全国レベルの精度基準	
資料2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き	
資料3 統一凡例一覧表（大・中・細区分）	
資料4 山岳地調査の手引き	



# 1. 調査の概要

## 1.1 目的

自然環境保全基礎調査（以下「基礎調査」という。）は自然環境保全法第4条に基づき、概ね5年ごとに地形、地質、植生及び野生動物に関する調査その他自然環境の保全のために講ずべき施策の策定等のために実施している調査である。本調査は、基礎調査のうち植生に関わる調査であり、全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備することを目的として実施するものである。

## 1.2 経緯

我が国の自然環境の最も基本的な構成要素である植生については、1978年（昭和53年）～1987年（昭和62年）度の第2回・3回基礎調査において全国の縮尺5万分の1現存植生図（以下、「1/5万植生図」という。）が作成され、1988年（昭和63年）～1998年（平成10年）度の第4回・5回基礎調査では人工衛星データにより把握可能な植生改変地域の更新を行ってきた。

しかしながら、環境影響評価法が施行されたこと、また里地・里山の保全等の近年の自然環境への関心の高まりの中、植生図は日本全土を面的に網羅する自然環境に関する最も基礎的な資料として今後の自然環境保全施策の適切な推進に必要不可欠であり、環境アセスメントの基礎資料としても精度の高い植生のデータを提供していくことが求められていたため、1999年（平成11年）度以降の第6回基礎調査より新たに縮尺2万5千分の1現存植生図（以下、「1/2.5万植生図」という。）の作成に着手した。第6回基礎調査では、植生図を作成していくために空中写真から植生情報を判読した判読情報資料図を作成するとともに、現地調査を実施して植生原図\*の作成を行い、2004年（平成16年）度までの調査期間で全国の約3分の1の図面を整備した。第6回基礎調査では全国規模での凡例の統一等の改訂を行い、作成手法においてもGISを使用した植生図\*の作成が進む等の変更を行った。

2005年（平成17年）度より開始した第7回基礎調査では、第6回基礎調査で整理したGISデータの仕様に基づき、植生図GISデータを作成し、これまでに全国の約70%の地域を整備した。

\* 本業務では、第6回植生調査において紙ベースで作成された1/2.5万植生図を「植生原図」と呼ぶ。平成16年度以降、仕様に基づいて作成されたGISデータ並びに出力図は、これと区別する意味で「植生図」と呼ぶ。

## 1.3 本要領の位置づけ

本要領は、2013年（平成25年）度以降の植生調査業務について、全国的観点から植生図の精度を確保・均質化するため、作業の実施体制、作業内容、作業の進め方を明確にしたものである。

なお、植生図GISデータの技術的事項については、本要領とは別に「植生図GISデータ製品仕様書」及び「植生図GISデータ作成ガイドライン」に定めた。

## 1.4 調査対象地域

本調査は、基本的に国土を8ブロック（北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄：図 1.4.1）に分割して業務を実施する。

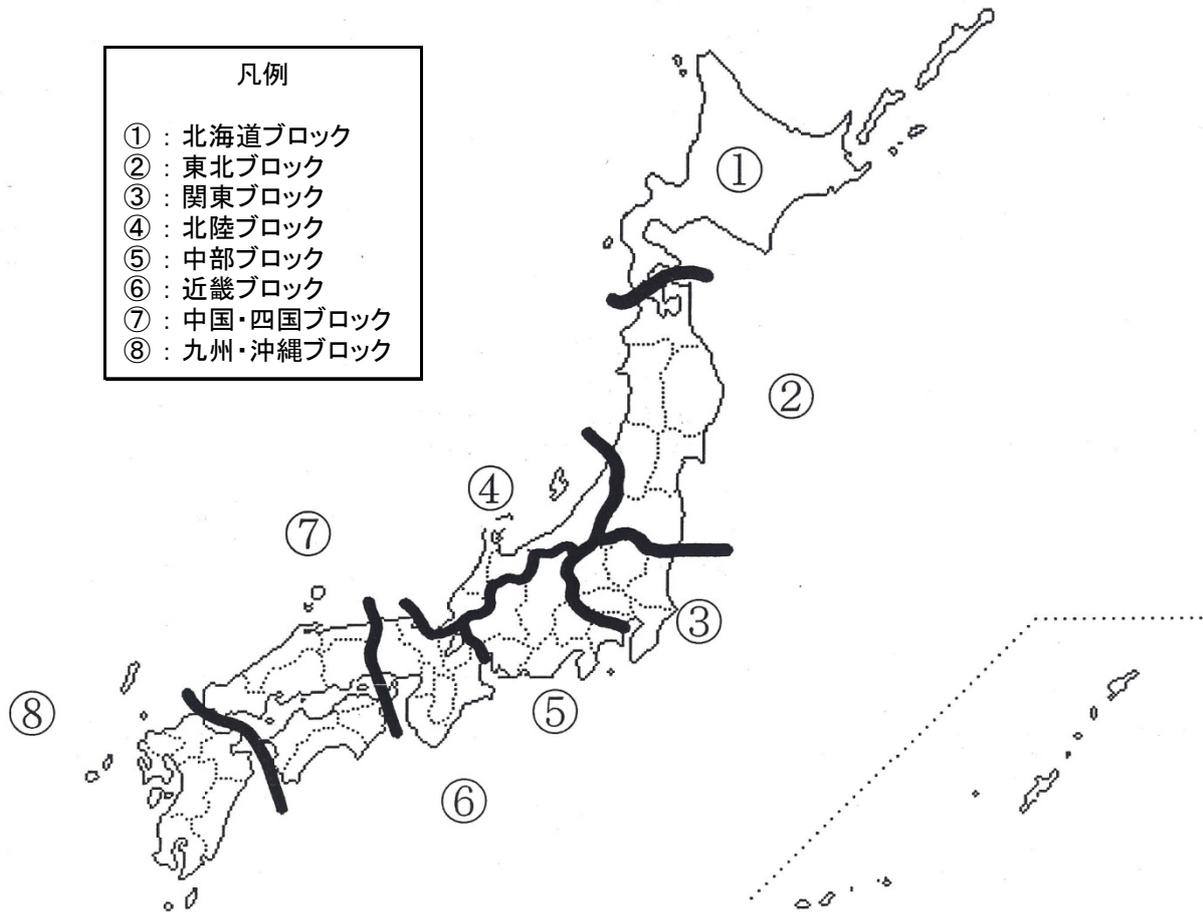


図 1.4.1 調査ブロック位置図

## 1.5 実施体制

本調査は、環境省（生物多様性センター）、環境省から業務を請け負った「現地調査法人」\*<sup>1</sup>及び「幹事法人」\*<sup>2</sup>が連携し、一定の精度が確保された植生図を作成する。

各者の役割分担は以下のとおりとする。環境省、現地調査法人、幹事法人は、学識経験者の助言を参考にし、植生図の精度管理\*<sup>3</sup>を実施する。図 1.5.1 に実施体制を示す。

\*<sup>1</sup> 現地調査法人：環境省からの業務請負により、植生図作成業務を担当する法人

\*<sup>2</sup> 幹事法人：環境省からの業務請負により、植生図精度管理業務を担当する法人

\*<sup>3</sup> 植生図の精度管理：植生図の精度管理とは、植生図の全国的な精度を確保するため、要領及び協議にて定めた作成手法に沿って、工程に応じて中間成果及び最終成果の植生図の精度を確認し、必要に応じて修正を行う作業を指す。

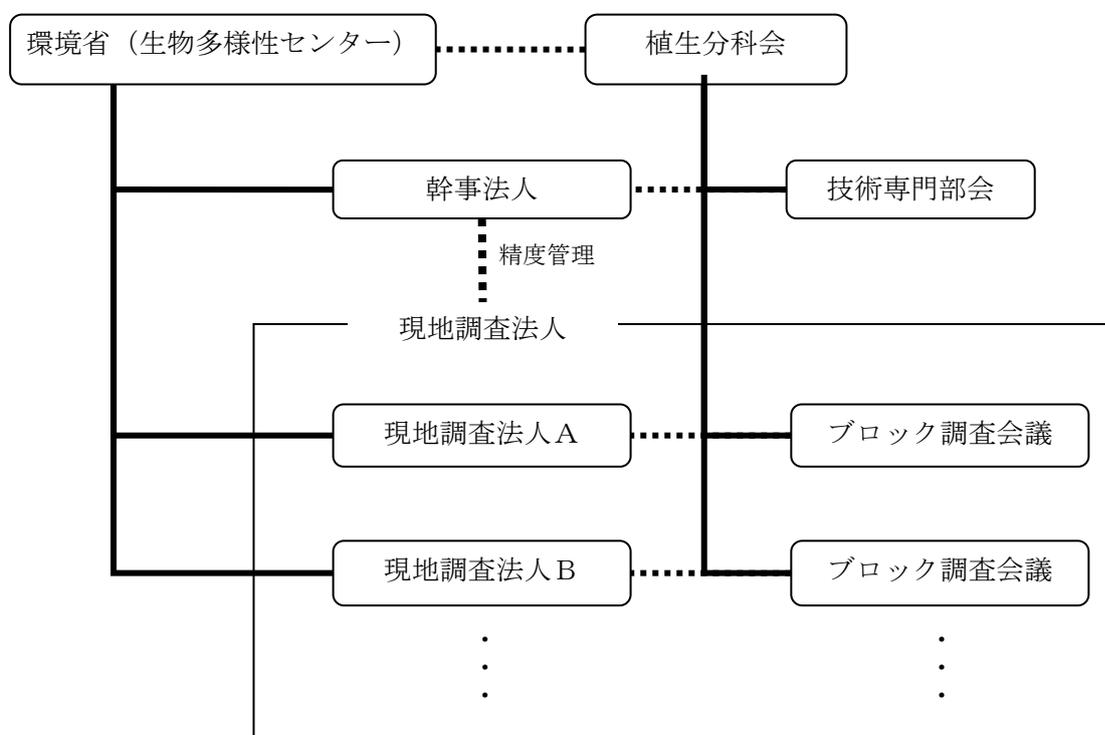


図 1.5.1 植生調査業務の実施体制

### 環境省（生物多様性センター）

- 植生調査業務の進行管理及び監督
- 植生図最終成果品の検査
- 植生分科会の事務局

### 幹事法人

- 植生図の全国レベルの精度の均一性及び水準を保つための現地調査法人間の調整
- 現地調査法人の途中成果及び進捗の確認と環境省への報告

- 植生調査業務を円滑に進めるための現地調査法人への情報提供・技術的支援
- 技術専門部会の事務局、植生分科会の会議資料の作成
- 体制

(1) 業務管理者

全国の植生図の精度管理を円滑に進めるため、業務の全体を総括する業務管理者をおく。業務管理者は、精度管理担当者が実施する植生図の精度管理を統括し、全ブロックの進捗管理を行う。

(2) 精度管理担当者

ブロック間の植生図精度を調整するため、精度管理担当者をおく。精度管理担当者は、各ブロックの植生図精度を確認し、確認結果に応じて現地調査法人への作成支援を行い、各ブロックの植生図作成の進捗管理を行う。

## 現地調査法人

- 植生図成果品の作成（現地調査の実施、調査結果とりまとめを含む）
- 整備地域内及び隣接植生図図幅間の精度調整
- 幹事法人からの指示に基づく管理資料等の修正
- ブロック調査会議の事務局
- 体制

(1) 業務管理者

複数の図幅作成者（植生図の図幅別作成者を以下「作成者」とする）相互の調整、図幅間の精度調整、作成者の進捗管理を行うため「業務管理者」をおく。業務管理者は、植生図作成業務全体を統括し、業務の進捗管理を行う。また、図幅ごとの精度管理と全図面間の調整を行い、工程ごとの精度管理結果を環境省及び幹事法人に報告する。

(2) 作成者

各図幅の植生判読を行う「作成者」をおく。作成者は、日本の植生に関する知見を有する者が担当する。作成者は、現地調査法人の業務計画に従い、担当する図幅の植生図を作成する。

## 植生図精度を均一化するために開催する会議

(1) 植生分科会

目的：植生図精度の均一化を図るため、全国レベルで統一する必要がある事項についての検討、作成された植生図の確認。

事務局：環境省

構成員：植生、画像判読に関する技術を専門とする学識経験者及び各ブロック統括委員（表 1.5.1）

(2) 技術専門部会

目的：植生調査を実施する上で必要となる専門的知見による技術的な検討等。

事務局：幹事法人

平成 29 年度に開催を予定している技術専門部会  
凡例検討部会

目的：植生図作成業務において現地調査法人から提案される追加凡例の可否、公開にあたって保護上配慮すべき凡例の表示方法等の検討。

構成員：植物社会学、植生学等に関する広範な知見を有するほか、植生図作成に関する統一凡例等に詳しい学識経験者等の専門家。

表 1.5.1 植生分科会検討員名簿（平成 28 年度）（敬称略）

区分	氏名	所属・役職	備考 (担当ブロック)
植生分科会検討員	星野 義延(座長)	東京農工大学農学部教授	関東ブロック
	原 慶太郎	東京情報大学総合情報学部教授	
ブロック統括委員	植村 滋	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授	北海道ブロック
	齋藤 員郎	山形大学名誉教授	東北ブロック
	星野 義延	東京農工大学農学部教授	関東ブロック
	増沢 武弘	静岡大学客員教授	中部ブロック
	古池 博	石川県地域植物研究会会長	北陸ブロック
	武田 義明	神戸大学名誉教授	近畿ブロック
	波田 善夫	岡山理科大学生物地球学部生物地球学科特担教授	中国・四国ブロック
	中西 弘樹	長崎大学名誉教授	九州・沖縄ブロック

### (3) ブロック調査会議

目的：植生図作成業務において、調査実施に必要な事項の検討。年2回程度の開催とするが、開催形式、開催時期は環境省とブロック統括委員の協議により決定する。

事務局：現地調査法人

構成員：学識経験者、ブロック統括委員（座長）（表 1.5.1）＋都道府県ごとに検討委員1人（北海道は9人）

都道府県担当者：原則として未整備地域を含む都道府県ごとに1人

## 1.6 業務管理サイト

植生調査関係者（環境省、植生分科会検討員、技術専門部会委員、ブロック検討委員、幹事法人、現地調査法人、都道府県の担当職員）を対象とした、電子データのアップやダウンロードができるサイト。管理資料の提出や植生調査関係者間の情報共有等に利用することができる。幹事法人が運営する。

## 1.7 植生図の基本的仕様

### 1.7.1 基図

国土地理院発行の、最新の縮尺 1/2.5 万地形図または数値地図とする。

### 1.7.2 判読画像

植生判読は、縮尺 1 万分の 1～3 万分の 1 程度の最新の空中写真による立体視判読を基本とする。

幹事法人より、植生図作成に利用可能な空中写真及び衛星画像（カラー地上解像度 50cm 程度のオルソ画像で、概ね全国土を網羅）の使用権利を貸与するため、現地調査法人は幹事法人に確認し、整備地域を撮影した空中写真及び衛星画像等の画像から、植生判読に最適な判読画像を選定し入手する。立体視できない画像配信サービスを使用したり、Google、Yahoo 等が提供する Web 画像等を参照する場合には、実施計画書に示した「判読画像の選定方針」に従い、判読の適否について十分に検討を行った上で、判読画像の使用の可否を決定する。ただし、山地の多い地域については空中写真の購入を必須とする。空中写真を購入する際は、60%のオーバーラップをもって立体視できる枚数を購入し、カラー空中写真はカラー現像とする（モノクロ焼きは不可）。

### 1.7.3 最小表示面積

本業務で作成される植生図は、植生の最小抽出単位概ね 1ha (1/2.5 万地形図上で 4mm×4mm) で作成するものとし、植生図の区分線の位置精度や、不可とする事例を示した「全国レベルの精度基準（資料 1）」に適合するものとする。

### 1.7.4 凡例

植生図で用いる凡例は、種組成を重視し植生区分の精度等を全国的な視点で統一した「環境省統一凡例（以下「統一凡例」という）」を用いる。統一凡例は、植生区分—大区分（相観的な区分）—中区分（優占種的な区分）—細区分（群集及び群集レベルの群落）の各段階に位置づけられる（表 1.7.1）。

凡例名で略記する場合は、大・中・細区分の最下の区分名を用い、名称が重複する場合は凡例名の（ ）に植生区分等を付記し凡例名だけで区別ができるようにする。

植生図には原則として、細区分（群集レベル）の凡例を用いるが、植生情報が少なく群集レベルの細分・修正が困難な場合は、中区分・大区分の凡例を用いてもよい。

統一凡例は、調査の結果判明した新凡例の追加登録等、植生情報の蓄積状況に応じて年度単位で更新する。最新の統一凡例一覧表（大・中・細区分）を資料 3 に示す。

凡例のうち、伐採跡地、農耕地、市街地等の凡例は「伐採跡地・土地利用等判読の手引き（資料 2）」に従って図化するものとする。

表 1.7.1 統一凡例の大・中・細区分等

区分	植生区分*1	大区分	中区分	細区分
主な基準	クラス域 自然・代償等	主として群系	群団または 優占種群落	群集または 群集レベルの群落
各段階のコード*2	I から X	大コード：01-58	中コード：00-	細コード：00-
凡例コード(略記)*2	I から X	大コード+中コード+細コード (例 260000、 220500、 220501)		

- \*1. 植生区分は I から X までの 10 区分で全凡例に付加されている。※1/5 万植生図に準拠
- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| I 高山帯自然植生域          | VI ヤブツバキクラス域自然植生     |
| II コケモモトウヒクラス域自然植生  | VII ヤブツバキクラス域代償植生    |
| III コケモモトウヒクラス域代償植生 | VIII 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 |
| IV ブナクラス域自然植生       | IX 植林地、耕作地植生         |
| V ブナクラス域代償植生        | X その他                |
- \*2. 大・中・細の各段階は 2 桁のコードと大区分名・中区分名・細区分名で示される。凡例はコードを結合した 6 桁の凡例コードと大・中・細の最下位の区分名を示した凡例名で略記される。群落を区別するために群落の後の ( ) に植生区分を示す場合がある。(表 1.7.2)。

表 1.7.2 凡例コードと凡例名

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	01	オクチョウジザクラ ーコナラ群集	220501	オクチョウジザクラ ーコナラ群集	細
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	.00	-----	220500	コナラ群落 (V)	中
V	26	伐採跡地群落	.00	-----	.00	-----	260000	伐採跡地群落 (V)	大

1.7.5 隣接植生図との調整

整備地域が過年度整備済み植生図と隣接する場合、表 1.7.2 に示した目安に従って図化するものとする。

本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、該当ブロックと調整を図りながら図化を進めることになるため、幹事法人が情報提供等の支援を行う。

表 1.7.2 整備地域間の植生図不整合の内容と対応策

項目	内容	対応策
経年変化	松枯れ、伐採、土地改変 (道路) 等	そのまま不整合とする
図化精度	竹林など (1ha 前後の小パッチ)	くぐりの細かさは基本的に 1/5 万植生図を下回らないようにする
	くぐり全体の精粗の傾向	地域ごとの図化精度のモデルが必要
凡例の考え方	中区分ー細区分	そのまま不整合とする
	クラス域	目安となる広域のクラス域区分図を整理し、参考とする
	移行帯 (日本海ー太平洋、クラス域、常緑ー落葉)	ブロック調査会議等の協議により対応策を検討する。

### 1.7.6 GIS データの仕様

植生図の GIS データ及び出力図（紙地図、画像ファイル）の仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書」に、作成方法については「植生図 GIS データ作成ガイドライン」による。

## 1.8 植生図の図化指針

植生図化とは、植生に関する基礎的な知見を持つ作業者が、現地調査結果を反映させながら画像判読を行い、植生と立地環境の関係を明らかにして、植生の配分を地形図上に図化していく作業である。本業務では、植生学の基礎的な知見と現地調査結果に基づき、以下に示す指針に準じて図化を進めるものとする。図化精度は、植生図の区分線の位置精度や、不可とする事例を示した「全国レベルの精度基準（資料1）」に適合するものを基準とする。

- 1 植生の水平的、垂直的な分布パターンを正しく認識して図化を行う。
- 2 地形の構成や微地形の配列に基づく植生配分を正しく図化する。
- 3 自然植生と代償植生の区別を正しく行う。
- 4 特殊な立地における植生や希少な群落を漏れなく図化する。

## 2. 植生図の作成方法

### 2.1 植生図の作成工程

植生調査業務の1ヵ年度整備における標準的な植生図の作成工程を表 2.1.1 に、作成フローを図 2.1.1 に示した。なお、2ヵ年度での整備が予定されているブロックについてもこれに準ずるが、詳細は別途協議の上検討する。

現地調査法人は、作成フロー及び表 2.1.2 に示した工程スケジュールに従って業務を実施する。オルソ画像、衛星画像等のデジタル画像をディスプレイ上に表示し、判読しながら GIS 入力する場合は、「植生判読」と「植生図 GIS データの作成」工程を並行して進めることとなり表 2.1.1 の(2)に示した工程となるが、本要領では(1)の工程に沿って植生図作成方法を示す。

現地調査法人は、植生図の図化精度確保及び作業進捗状況の確認のために必要な資料(以下「管理資料」という。)を工程ごとに作成し、幹事法人及び環境省に提出する。幹事法人の確認及び環境省の承認が得られない場合には、その時点までの業務として業務を中断し、変更契約または契約を解除することがある。

表 2.1.1 植生図の作成工程

	(1) 植生原図作成後に GIS 入力する場合	(2) 植生判読しながら GIS 入力する手法
1	計画・準備	計画・準備
2	植生判読及び現地調査	植生判読・GIS 入力及び現地調査
3	第1回ブロック調査会議	第1回ブロック調査会議
4	凡例検討部会	凡例検討部会
5	植生図 GIS データの作成	—
6	第2回ブロック調査会議	第2回ブロック調査会議
7	植生分科会	植生分科会
8	成果品の作成	成果品の作成
9	納品	納品

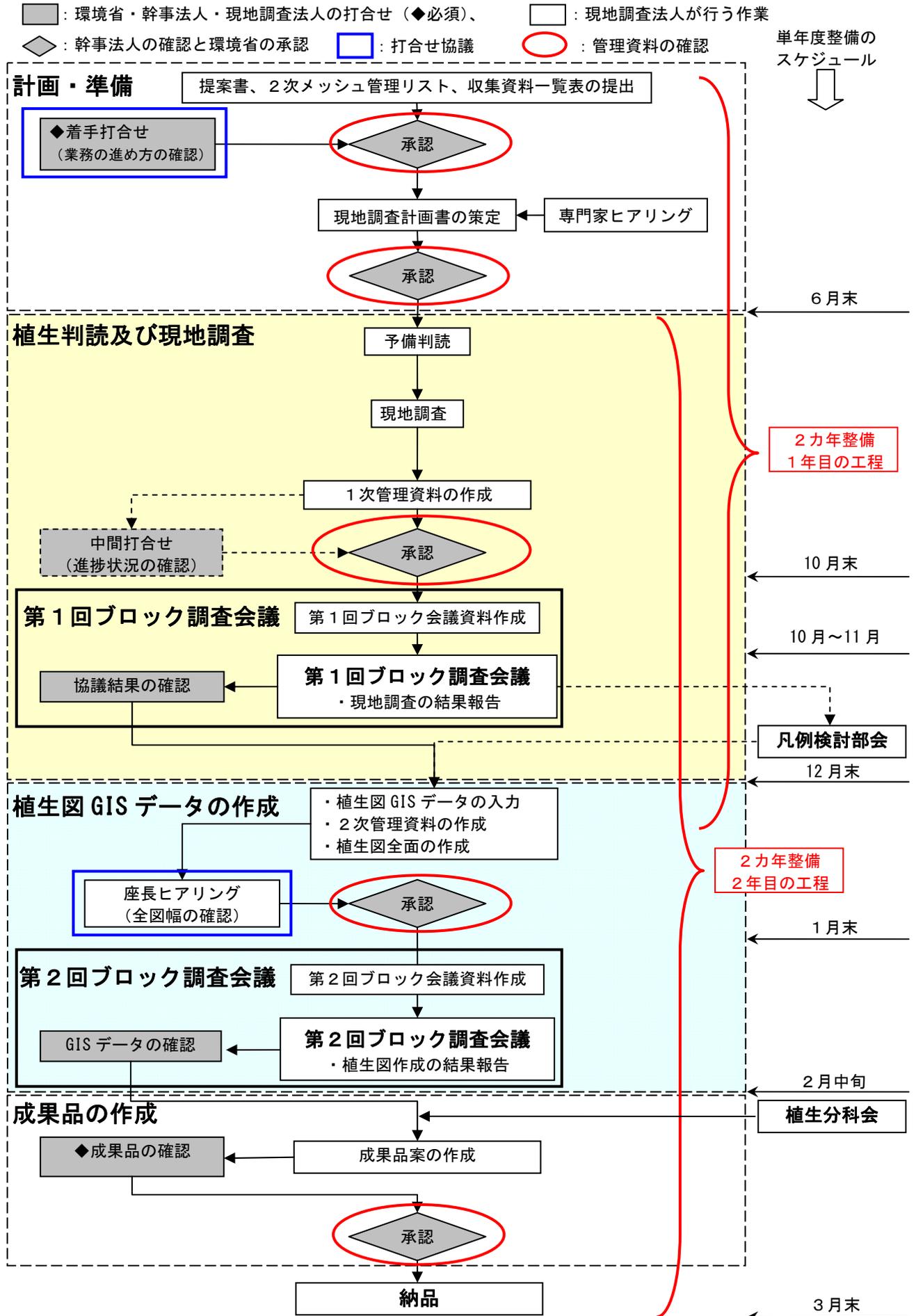


図 2.1.1 植生図作成フロー

表 2.1.2 植生図工程スケジュールの目安

項目	H〇〇年						H△△年			備考		
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月
0 打合せ・協議		● 着手時			○ 進捗状況 確認	● 第1回ブ ロック調 査会議後			○ 進捗状況 確認	● 第2回ブ ロック調 査会議後	○	○：必要 に応じて 実施
1 計画・準備		○ ヒアリング										
2 植生判読及び現地調査		[Grey Bar]										
3 第1回ブロック調査会議						●						
4 凡例検討部会								●				
5 植生図GISデータの作成								[Grey Bar]				
6 第2回ブロック調査会議									●			
7 植生分科会											●	
8 成果品の作成											[Grey Bar]	
9 納品											●	納期：3月 ○日

※判読しながら GIS 入力を行う場合は、工程 2 と工程 5 が連続する。

2 ヶ年度整備の場合、詳細は  
別途協議の上検討する

## 2.2 工程管理

### 2.2.1 管理資料の確認・承認手順

現地調査法人が作成・提出する管理資料を表 2.2.1 に示した。現地調査法人は、管理資料（案）を作成し、環境省及び幹事法人に同時に提出する。管理資料の提出に際しては、本業務用に運営されている「業務管理サイト」（1.6 参照）にアップロードし、アップロードしたことを環境省及び幹事法人に電話またはメールで連絡する。

幹事法人は、現地調査法人から提出された管理資料（案）について、全国レベルの精度基準等に照らして内容を確認し、環境省と調整の上、必要に応じて現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は管理資料（案）の修正を行い、管理資料の提出と同様の手順で、修正後の管理資料を環境省及び幹事法人に再提出する。修正が不要となった段階で、環境省が承認する。

それぞれの管理資料の確認・承認を受ける期日等の日程に関しては、原則として各打合せ時に協議して定める。日程の変更が必要な場合には、環境省、幹事法人及び現地調査法人が協議し、日程を定める。

現地調査法人は、環境省の承認を受けた後に管理資料の内容を変更しようとする場合には、環境省及び幹事法人に変更案を提出し、当初の管理資料の確認・承認と同様の手順により変更案を確定させる。

表 2.2.1 工程ごとに作成・提示が必要となる資料

工程	管理資料		資料の提出・承認			承認後に着手できる工程
	資料名	資料の内容	提出のみ	確認・承認	備考	
計画・準備	2次メッシュ管理リスト	2次メッシュ別の管理者、作成者、判読画像等の情報をまとめたリスト		●	着手打合せ時に協議する	植生判読
	2次メッシュ工程表	2次メッシュ別の植生図作成工程をまとめた工程表		●		
	収集資料一覧表	整備地域の植生に関して収集した文献資料の一覧表	●			
	提案書（実施計画書）	業務の実施方針、実施体制、工程計画等をまとめた計画書		●		
	着手打合せ記録簿	環境省、現地調査法人および幹事法人による着手打合せの記録簿		●		
	ヒアリング調査票	ブロック統括委員、ブロック検討委員および学識経験者等のヒアリング記録をまとめた調査票		●	ヒアリング対象者に確認をいただく	
	現地調査計画書	現地調査の重点地域、使用凡例案、調査スケジュール、調査の実施体制等をまとめた計画書		●		
植生判読および現地調査	1次管理資料：使用凡例案	整備地域の凡例（案）の一覧表		●	第1回ブロック調査会議の1ヶ月前までに提出	第1回ブロック調査会議の開催*
	1次管理資料：図化基準案	空中写真での特徴（判読キー）、凡例の決定方法、類似する群落との区別点、分布・立地などを凡例ごとにまとめた一覧表		●		
	1次管理資料：1次確認用植生図	重点地域から選定した植生図の一部（植生図成果の最終的な凡例適用を想定したもの）		●		
	1次管理資料：1次確認用植生図一覧表・一覧図	1次確認用植生図の各図面の管理者、作成者、判読写真、判読上の問題点等の一覧表と1次確認用植生図の一覧図		●		
第1回ブロック調査会議	第1回ブロック調査会議資料	第1回ブロック調査会議の配付資料		●	会議の7日前までに提出	第1回ブロック調査会議の開催
	作成中の植生図全図	作成途中の植生図全図	●		第1回ブロック調査会議で提示する。	—
	中間打合せ記録簿	第1回ブロック調査会議後に行う環境省、現地調査法人および幹事法人による打合せの記録簿		●		植生図の作成
	第1回ブロック調査会議議事録および議事概要	第1回ブロック調査会議の議事録および議事概要		●		
凡例検討部会	仮凡例検討資料（仮凡例があるブロックのみ）	仮凡例の内容、既存凡例との違い、組成調査票、調査地点位置図、既存資料等、仮凡例検討に必要な資料	●			—
植生図の作成	2次管理資料：使用凡例案	第1回ブロック調査会議以降の検討結果を反映した凡例（案）の一覧表		●	第2回ブロック調査会議の1ヶ月前までに提出	第2回ブロック調査会議の開催
	2次管理資料：図化基準案	第1回ブロック調査会議以降の検討結果を反映した図化基準（案）		●		
	2次管理資料：2次確認用植生図	1次確認用植生図の範囲を含む図面一面（整備地域5面あたり1面の頻度で作成）		●		
	2次管理資料：2次確認用植生図一覧表・一覧図	2次確認用植生図の各図面の管理者、作成者、判読写真、判読上の問題点等の一覧表と2次確認用植生図の一覧図		●		
	2次管理資料：1次確認用植生図の反映結果図	幹事法人の1次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図		●		
第2回ブロック調査会議	第2回ブロック調査会議資料	第2回ブロック調査会議の配付資料		●	会議の7日前までに提出	第2回ブロック調査会議の開催*
	植生図全図	植生図案（GISデータ出力図）全図		●	第2回ブロック調査会議で提示する。	成果品の作成
	中間打合せ記録簿	第2回ブロック調査会議後に行う環境省、現地調査法人および幹事法人による打合せの記録簿		●		
	第2回ブロック調査会議議事録および議事概要	第2回ブロック調査会議の議事録および議事概要		●		
植生分科会	植生分科会資料	植生図案から得られた知見等をまとめた資料および植生図全図	●			—
成果品の作成	成果品案：GISデータ出力図及び接合部修正案	植生図GISデータ出力図全図、過年度植生図との接合部で修正が生じた場合の修正案		●	最終確認までに提出	納品
	成果品案：電子ファイル	植生図GISデータ、報告書案ファイル、現地調査データ		●		
	成果品案：報告書案	植生調査実施要領に準じてまとめた報告書案		●		
	2次確認用植生図の反映結果図	幹事法人の2次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図		●		

\*ブロック調査会議日程の調整は、管理資料の承認前に行ってよい。

## 2.2.2 打合せ

着手、中間の時点で現地調査法人、環境省及び幹事法人との3者等での打合せを持つ。必要に応じ、これ以外の時点にも3者での打合せを行う。現地調査法人は、打合せにおいて協議した事項を「打合せ記録簿」（表 2.2.2）にとりまとめ、打合せ後7日以内に環境省及び幹事法人に提出し、承認を得る。

表 2.2.2 打合せ記録簿フォーム

No. 1		調査年度	2017	ブロック		頁	
件名	平成 29 年度自然環境保全基礎調査植生調査 △△△△				記入者名	所属	記入日
	日時		場所		打合せ方法		
年月日 ( ) 時 ~ 時				面談・電話・メール			
参加者	現地調査法人	所属		代表者氏名	参加者氏名		
	環境省	所属		代表者氏名	参加者氏名		
	幹事法人	所属		代表者氏名	参加者氏名		
協議内容							
着手打合せ事項 1. 作業方針 ①植生情報の収集方針 ②既存資料の活用方針 ③主判読画像の選定方針 ④図化手法及び GIS データ作成手法 ⑤図幅ごとの精度管理手法 ⑥ブロック統括委員等のヒアリング予定 ⑦現地調査の進め方及びスケジュール 2. 実施体制 3. 工程計画							

### (1) 着手打合せ

判読画像、既存資料等を収集・整理し、業務全体の工程計画が策定された段階で実施する。着手打合せでは、提案書、2次メッシュ管理リスト（案）、2次メッシュ別工程表（案）収集資料一覧表の内容について確認するとともに業務の進め方について協議し合意を図る。

現地調査法人は、提案書2次メッシュ管理リスト（案）、2次メッシュ別工程表（案）収集資料一覧表を協議資料とする。幹事法人は、1/5万植生図凡例一覧等協議に必要な資料を提供する。

協議の結果、協議資料の内容で合意された場合は、出席者の確認を得た打合せ記録簿の提出をもって、幹事法人の確認、環境省の承認とする。

打合せ協議の結果、協議資料の修正が必要となった場合には、現地調査法人は、提案書を修正し、環境省及び幹事法人に提出する。その後の確認・承認の手順は 2.2.1 管理資料の確認・承認手順に示すところによる。

## (2) 中間打合せ

原則として第1回ブロック調査会議及び第2回ブロック調査会議終了後（当日）に、ブロック統括委員等にも出席いただき実施する。打合せの内容は、本章の2.5.4、2.8.4による。そのほか、必要に応じて、環境省、現地調査法人、幹事法人、ブロック統括委員等の委員と中間打合せを行う。会議当日に打合せを実施できない場合は、現地調査法人は、電話、メール等で環境省及び幹事法人、ブロック統括委員等と調整を行う。

現地調査法人は、中間打合せ終了後に打合せ記録簿を作成し、環境省及び幹事法人に提出する。

## 2.3 計画・準備

### 2.3.1 判読画像の入手及び確認

1.7.2 に示した判読画像の仕様に従い、判読画像を入手する。なお、幹事法人より、植生図作成に利用可能な空中写真及び衛星画像（カラー地上解像度 50cm 程度のオルソ画像で、概ね全国土を網羅）の使用権利を貸与するため、幹事法人に確認し、整備地域を撮影した空中写真及び衛星画像等の画像から、植生判読に最適な判読画像を選定し入手する。

整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4も参照する。撮影年月日、画像の解像度、雲影・山影の状況等を精査し、図幅ごとに主判読画像及び判読参照画像を選定し、図幅ごとの判読画像を2次メッシュ管理リストにとりまとめる。図幅ごとに使用した画像の履歴を記録できるよう作業体制を整える。同一図幅でも場所ごとに主判読画像が異なる場合は、複数の主判読画像について「左半分は〇〇、右半分は△△」等の説明を2次メッシュ管理リストの備考欄に記載する。作成工程の途中段階で主判読画像を変更する場合、判読参照画像を追加・不使用とした場合は、2次メッシュ管理リストを更新し、幹事法人に更新した2次メッシュ管理リストを提出する。

なお、空中写真を購入する際には、植生判読に適した焼付となるよう、購入元と交渉を図るとよい。

#### **主判読画像**

植生判読において、ポリゴンの区分線を入れる根拠とした判読画像を主判読画像とする。できるだけ撮影年月日が最新のものが望ましい。判読画像の解像度、撮影時期によって、図幅ごと、あるいは場所ごとに主判読画像が異なる場合もあるため、作成者は使用履歴を記録しておく。

#### **判読参照画像**

主判読画像以外に使用した判読画像を判読参照画像とする。各ポリゴンの凡例決定の際、撮影時期の異なる複数の判読画像を比較すると、凡例決定が効率的となる。

## 2.3.2 既存資料の収集及び活用方法の検討

### (1) 既存資料の収集・整理

現地調査法人は、地域の植生に詳しい学識経験者や専門家等の協力を得ながら、地域の植生に関する情報や、地方自治体で作成した報告書や植生図などを収集し、次のような植生情報を整理する。情報収集は整備地域を中心とするが、該当する調査ブロック全体を対象とする。

収集した植生情報の位置情報等を整理することにより、植生分布の特徴について把握する。

植生分布に関する情報	
▶	特殊立地、自然植生に関する情報
▶	島嶼部や高山地域のように現地調査実施が困難な地域の植生情報
▶	分布が極めて限定される植生に関する情報
▶	標高、地形・地質、気象・気候等の立地環境条件に関する情報
統一凡例の検討に関する情報	
▶	統一凡例の細分・修正等の検討の必要性が高い植生に関する植生情報

収集した資料は、位置情報をもとに整理し「収集資料一覧表（表 2.3.1 収集資料一覧（例）」としてとりまとめる。幹事法人は現地調査法人から得た情報を「既存資料データベース」に追加・整理する。

表 2.3.1 収集資料一覧（例）

1) 既存文献情報は既存資料データベースの既存文献情報テーブルに、位置情報は位置情報テーブルへ組みこむ。  
2) A:学会誌、紀要等、B:報告書等、C:環境影響評価書、D:その他

既存文献情報1)														
文献ID	ブロック 文献 No	収集 年度	文 献 区 分	タイトル	著者	発 行 年	出典名称	出典巻号	出典pp	出典発行者	公 開 の 可 否	問 合 せ 先	資 料 の 有 無	資料保管法人
	8	2010	B	遠音別岳原生自然環境保全地域の植生系調査の概要と気象環境特性	甲山隆司・工藤岳・西村貴司	1997	遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書		13-27	環境庁自然保護局	可		有	〇〇株式会社
	9	2010	D	北海道高山植生誌	佐藤謙	2007			210-225	北海道大学出版会	可		有	〇〇株式会社
	22	2010	A	野付崎放牧草地の植生	西村裕・安達篤	1975		第21巻 第3号 別刷		日本草地学会誌	可		有	〇〇株式会社

### (2) 既存資料の活用方法

現地調査法人は、過年度までに作成された「既存資料データベース」と当該年度に新たに収集した既存資料より、調査年度や植生の変化状況などを考慮し、活用方法を検討する。以下に、既存資料の活用方法の留意点を示す。なお、既存資料活用の検討結果については、後述するヒアリング調査結果も含め、図化の参考とするとともに報告書に記載する。

#### 1) 整備地域に分布する群落・群集に関する資料

ブロック別凡例案の検討資料として活用する。

## 2) 位置情報の明らかな既存の植生調査資料

以下のような地域については、植生状況が既存資料の調査当時と変化していないことを判読画像等によって確認した上で、現地調査を補完する植生調査資料として活用する。

- 離島島嶼部や高山地域のように現地調査を実施しにくい地域
- 分布がきわめて限定されている群落の分布する箇所

## 3) 1/5万植生図等の既存の植生図

整備地域及びその周辺の自然植生、二次林、植林の分布状況を主体として、1/5万植生図等既存図面の引用方法・参照方法を決定する。自然植生、二次林、植林で大きな変化のない箇所は、必要に応じて現地確認を行い、既存資料の凡例から統一凡例へのよみかえを決定する。

## 4) 地形図情報、森林施業図等の地理情報

地形図に示された水田、農耕地、水域等の土地利用情報や、国有林・県有林・民有林の施業履歴を植生図化に利用する場合、土地利用の現状や施業履歴データの内容を確認した上で、それらの地理情報の活かし方を打合せ又はブロック調査会議等で協議する。

### 2.3.3 2次メッシュ管理リスト及び2次メッシュ別工程表の作成

適切な工程管理を行うため、現地調査法人は、2次メッシュ別の管理者、作成者、現地調査者、判読画像等の情報をまとめた「2次メッシュ管理リスト(表2.3.2)」及び「2次メッシュ別工程表(表2.3.3)」を作成し、幹事法人及び環境省に提出する。なお、「2次メッシュ管理リスト(案)」は着手打合せ時の資料とする。

2次メッシュ管理リスト及び2次メッシュ工程表は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である(確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照)。

同一図幅を複数の作成者で判読する場合は、主たる作成者を作成者欄に記載する。2次メッシュ別の工程表には、判読工程、現地調査工程、GIS入力工程の予定を記入する。また、1次確認用植生図の対象図幅を示す。

業務の途中で使用する判読画像、作成者等を変更する場合は、事前に環境省及び幹事法人と協議する。また、判読作業の精度確保のため作成者が優占種調査等の現地調査者を兼ねることを基本とする。現地調査者は原則として2名以上を配置する。

業務管理者は、作業の進捗とともに2次メッシュ工程表に作業実績を記入して進捗管理を行い、中間打合せ時または必要に応じて環境省及び幹事法人に提出して進捗状況の報告を行う。

表 2.3.2 2次メッシュ管理リスト(例)

地形図情報			植生図作成情報										空中写真諸元						空中写真備考											
ブロック	アワー	2次メッシュ	整備	図幅名	注1	注2	1/5万	都道府県	ブロック	植生図	作業単	植生図	植生図	他作成	撮影	他主体	白黒	整理	他整理	撮影	写真	他縮尺	撮影	他季節	写真	デジタル	その他補助的	GIS	コース、写真	撮影年月日
番号	番号	コード	番号	(1/2.5万地形図)	(1)	(2)	地形図			作成年度	位コード	作成機関	管理者	作成者	主体	主体	(4)	番号	番号	地区	縮尺	年月	縮尺	番号	形式	利用	利用	番号	番号	
1	1	654571	GIS	透音別図②	2		八木浜	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	3	環境省	3	PTH-42号		知床半島	20,000	2004.11			5	使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1		2004.11
1	2	654570	GIS	透音別図	1		八木浜	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	3	環境省	3	PTH-42号		知床半島	20,000	2004.11			6	使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1		2004.11
1	3	654560	GIS	横置筆浜			八木浜	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	2		1	04-24		第3知床-種田	16,000	2004.7			23	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C12(16-21) C13(16-21) C14(17-21) C15(16-21)	2004.7.23 2004.9.16
1	4	654550	GIS	黒別			黒別	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	2		1	04-24		第3知床-種田	16,000	2004.7 2004.9			12	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C16(17-20) C17A(4-7) C18A(4-7)	2004.7.23 2004.9.16
1	5	654541	GIS	伊茶仁②	2		黒別	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	2		1	04-24		第3知床-種田	16,000	2004.7 2004.9			1	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C22A(7)	2004.7.3 2004.7.23 2004.9.16
1	6	654540	GIS	伊茶仁①	1		黒別	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	2		1	04-24		第3知床-種田	16,000	2004.7 2004.9			20	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C19A(4-7) C20A(4-8) C21(16-21) C22A(1-6)	2004.7.3 2004.7.23 2004.9.16
1	7	654532	GIS	野村崎①	2		野村崎	北海道	北海道	2010	10	〇〇(株)	植生太郎	植生花子	1		1	HO-2005-SX		根室	30,000	2005.10			2	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C2(21-22)	2005.10.7 2005.10.27

表 2.3.3 2次メッシュ別工程表フォーム

NO	作成者	1次確認用植生図	図幅管理番号	図幅名	2次メッシュ番号	予備判読 ★現地調査 植生判読(植生図案の作成) ◆管理資料の提出 GISデータの作成・修正												備考					
						H25						H26											
						5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
(例)																							
1	〇〇〇〇	●	01	△△	101010					★					★								
			05	□□	...					★					★								
			06	××	...					★			◆		★								
			08	〇〇	...					★					★								
2	△△△△	●	02	...	...					★					★								
			03	...	...					★					★								
			04	...	...					★			◆		★								
			07	...	...					★					★								
			10	...	...					★					★								
3	□□□□	●	11	...	...					★					★								
			12	...	...					★			◆		★								
			13	...	...					★					★								
			14	...	...					★					★								
			15	...	...					★					★								

#### 2.3.4 着手打合せ

2.3.1～2.3.3 の工程で検討した結果を踏まえ、環境省、現地調査法人及び幹事法人にて着手打合せを行う。着手打合せの詳細は、2.2.2 を参照する。

#### 2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング

現地調査法人は、判読画像の整理、地域植生情報の収集、既存資料の活用方法を検討した後、仕様書に定めるブロック統括委員と整備地域に係わる都道府県のブロック検討委員等にヒアリングを行う。複数委員による合同ヒアリング（ワーキング形式）で実施してもよい。ヒアリング（ワーキング）の実施方法、時期については、環境省、幹事法人、ブロック統括委員等と調整を図る。

ヒアリングでは、提案書、現地調査計画書、既存資料等の資料を示して業務の進め方について説明を行い、以下の事項等について助言を得る。現地調査法人は、ヒアリング後1週間以内に協議結果を「ヒアリング調査票」にとりまとめ、環境省及び幹事法人の他、ヒアリング参加者に提出する。

##### (1) 重点地域の選定

自然植生等の重要な植生、植生判読の難しい地域、植生の分布境界が不明瞭な地域等、植生図化の精度管理、現地調査を重点的に行う地域（重点地域）を協議の上、選定する。なお、重点地域は、現地調査法人が、第1回ブロック調査会議前に提出する「1次確認用植生図」の対象範囲に対応させる。

##### (2) 現地調査の留意点

現地調査すべき群落とその調査方法等について教示いただく。必要に応じて、現地調査に入る前に現地調査計画書をブロック統括委員に提出する。

##### (3) 隣接植生との接合

統一凡例に置換した 1/5 万植生図全体図、整備地域の隣接地域で過年度に作成された 1/2.5 万植生図を含めた全体図を作成し、クラス域の境界、隣接植生との不整合等、植生図を作成する上で予測される課題を協議する。

##### (4) 専門家等の紹介

ブロック統括委員及びブロック検討委員が整備地域の情勢や植生に詳しい専門家等をご存じの場合は、紹介していただき、必要に応じてヒアリング等を行う。

##### (5) 既存資料（地域植生情報）

2.3.2 にて収集した資料等を提示し、既存調査結果を利用できる地域等の確認を行う。また、提示した資料の他に整備地域に関わる植生情報について、未公表の植生情報を中心に紹介していただく。

### 2.3.6 現地調査計画書の作成

現地調査法人は、表 2.3.4 に示した項目・内容を含む現地調査計画書（案）を作成し、幹事法人及び環境省に提出する。

現地調査計画書は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

現地調査計画書（案）の作成にあたっては、ブロック統括委員等のヒアリング結果等を踏まえて現地調査を重点的に行う地域、凡例検討に多数の調査地点数を必要とする凡例、調査結果を引用できる既存資料等の確認を行う。整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4も参照する。また、現地調査計画書（案）の作成に際して、必要に応じて現地視察を行うこと。

組成調査の調査時期・地点等については、ブロック統括委員等と協議を行った上で現地調査計画書に反映させる。調査時期については、北海道ブロック・東北ブロック等の山岳地域については9月末までに、その他の地域については10月末までに終了することが望ましい。

表 2.3.4 現地調査計画書の項目

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 現地調査のポイント：重点的に調査すべき地域や凡例等</li><li>2. 隣接植生図との調整：隣接部の重点調査地域、特に注意すべき植生・構成種等</li><li>3. 現地調査計画図：現地調査計画、主要な植生の位置等をまとめた全体図</li><li>4. 現地調査地点配分表：図幅別、凡例別に調査地点数の配分をまとめた一覧表</li><li>5. 使用凡例案：植生図での使用凡例の一覧表</li><li>6. 現地調査に係わる許認可事項：立ち入り許可、届出の必要な地域</li><li>7. 現地調査の実施体制：現地調査者一覧表、安全管理対策等</li></ol> |
|---|

#### (1) 現地調査のポイント

下記等の特に重点的に調査すべき地域・凡例や、現地調査に関わる留意事項等、整備地域における現地調査の要点について記述する。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>➤ 一次確認用植生図の対象図幅</li><li>➤ 特殊立地の植生</li><li>➤ 二次林等、群落境界が不明瞭と考えられる凡例</li><li>➤ 自然性の高い植生</li><li>➤ 特定植物群落</li><li>➤ 季節的に早く落葉・枯死してしまう植生（早く調査を実施すべき植生）</li><li>➤ ヒアリングで指摘された地域・凡例</li><li>➤ 新規凡例となる可能性がある凡例</li><li>➤ 隣接植生図と整合性を図る凡例 など</li></ul> |
|---|

## (2) 隣接植生図との調整

整備地域が、過年度整備済み植生図または本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、接合部調整に必要な現地調査の重点箇所、注意すべき凡例、調査時期等についてまとめる。特に本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、環境省及び幹事法人与調整の上、必要に応じて隣接ブロックの担当現地調査法人与協議して効率的な現地調査計画を作成する。

## (3) 現地調査計画図

1/2.5万地形図、第2回～第7回植生図GISデータ等を用いて、現地調査の重点地域、1次確認用植生図の対象図幅、既存資料の活用地域または箇所（特定植物群落、自然公園地域等）を記載した現地調査計画図を作成する。以下に、留意事項を示す。

- 図面類の体裁は、地形図等に手書き記入する程度でもよい。
- 調査対象地域全体の現地調査計画が確認できるよう、縮尺1/20万程度の地形図に書き込むとわかりやすい。対象地域が広い場合は、作業しやすい図郭に区切って作成してもよい。
- 特に重点的な現地調査を行うべき地域等は、必要に応じて、1/2.5万～1/5万程度の地形図や1/5万植生図を基図とした現地調査計画図を作成してもよい。

## (4) 調査地点配分表

既存資料の活用方針（既存資料による現地調査の補完等）を考慮して、「2.4.2 現地調査」に示す調査手法による組成調査及び優占種調査を行う地点配置（ばらつき）を検討する。

調査地域全体における植生分布の偏りの概要を把握するため、1/5万植生図GISデータ（凡例を統一凡例で置換したもの）を用いた2次メッシュ別の凡例面積集計表を作成した上で、組成調査及び優占種調査の地点配分表を作成する（表2.3.5）。

表 2.3.5 調査地点配分表の例

凡 例			図 幅						
			1	2	3	4	5	...	...
判読対象 I	自然林	ヤマボウシ・ブナ群集	1～2						
		シキミーモミ群集	1～2						
		イロハモミジ・ケヤキ群集							
	二次林	クレーミズナラ群集		2～5					
		クレーコナラ群集		2～5					
判読対象 II	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林							
		カラマツ植林							
	...	...							

(5) 使用凡例案

1/5 万植生図の凡例、既存資料及びブロック統括委員等のヒアリング結果より、植生図の使用凡例案（表 2.3.6）を作成する。凡例名、凡例コード等は巻末資料 3 に従う。過年度整備済み植生図または本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、隣接図幅の凡例も入れて凡例案を作成する。現地調査では、使用凡例案の各凡例について植生情報を収集する。

表 2.3.6 使用凡例案（例）

クラス調査種：A)高山帯自然植生を含む、V)コケモトウヒクラスを含む、F)ブナクラスを含む、C)ヤブツバキクラスを含む  
 第7回平成17年度更新状況：新)凡例として登録、修)変更後として登録、更新状況：(修)平成12年度に要検討として保留、(仮)平成13年度以降の仮凡例

凡例番号	凡例コード	凡例名	大区分	中区分	細区分	クラス	更新状況	注記	調査地点(緯経)	現地調査番号	第5回凡例(津輪)	接合部凡例(石敷)	接合部凡例(東崎)	接合部凡例(青木)	現地調査番号	第5回凡例(青木)	接合部凡例(油)	接合部凡例(三日月)
1	220503	ユキグニミツバツツジコナラ群集	V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	03	ユキグニミツバツツジコナラ群集	細	C							
3	271201	ヤブコウジースダシ群集	VI	27	常緑広葉樹林	12	スダシ群落	01	ヤブコウジースダシ群集	細								
4	280500	スギ群落	VI	28	暖温帯針葉樹林	05	スギ群落	00		中	C							
5	320100	ヤナギ高木群落(VI)	VI	32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	00		中								
9	450100	ススキ群団(VI)	VI	45	二次草原	01	ススキ群団	00		中								
18	460000	伐採跡地群落(VI)	VI	46	伐採跡地群落	00		00		大								
8	490000	砂丘植生	VI	49	砂丘植生	00		00		大								
38	470400	ヨシクラス	VI	47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	00		中								
40	470600	ヒルムシロクラス	VI	47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロクラス	00		中								
12	540100	スギ・ヒノキ・サワラ植林	IX	54	植林地	01	スギ・ヒノキ・サワラ植林	00		中								
13	540300	クロマツ植林	IX	54	植林地	03	クロマツ植林	00		中								
51	540902	ニセアカシア群落	IX	54	植林地	09	外国産樹種植林	02	ニセアカシア群落	細								
52	541200	その他植林(落葉広葉樹)	IX	54	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	00		中	修							
16	550000	竹林	IX	55	竹林	00		00		大								
h	560100	ゴルフ場・芝地	IX	56	牧草地・ゴルフ場・芝地	01	ゴルフ場・芝地	00		中								
f	570100	路傍・空地雑草群落	IX	57	雑作地	01	路傍・空地雑草群落	00		中								
e	570101	放棄畑雑草群落	IX	57	雑作地	01	放棄畑雑草群落	00		中	改							
e	570200	果樹園	IX	57	雑作地	02	果樹園	00		中								
a	570300	畑雑草群落	IX	57	雑作地	03	畑雑草群落	00		中	改							
b	570400	水田雑草群落	IX	57	雑作地	04	水田雑草群落	00		中								
d	570500	放棄水田雑草群落	IX	57	雑作地	05	放棄水田雑草群落	00		中	改							
k	580100	市街地	X	58	市街地等	01	市街地	00		中								
i	580101	緑の多い住宅地	X	58	市街地等	01	緑の多い住宅地	00		中								
L	580300	工場地帯	X	58	市街地等	03	工場地帯	00		中								
m	580400	造成地	X	58	市街地等	04	造成地	00		中								
w	580600	開放水域	X	58	市街地等	06	開放水域	00		中								
r	580700	自然裸地	X	58	市街地等	07	自然裸地	00		中								

(6) 現地調査に係わる許認可事項

現地調査に際しては、表 2.3.7 に示す法令等を遵守し、必要な申請の有無について記載する。標本の採取等については、原則として申請が不要になるよう写真で種を判別する等、調査方法を考慮する。やむを得ず申請する場合、国立・国定公園、国有林等の各種許可申請（立ち入り、採集等）については、担当機関への申請は原則として現地調査法人が行う。詳細は担当機関に問い合わせ、所定の様式に調査日程、同行者、調査ルートなどを具体的に記載し、必要に応じて環境省に協力依頼状の発行等を依頼し、許可申請を行う。申請書類等は調査適期を逸しないよう早めに準備する。また、採集に係わる許可証を得た場合には、各調査者は現地調査に際し許可証（必要に応じて許可証の写し）を必ず携行する。

表 2.3.7 標本採集に際し留意すべき法令等

法令等	関連機関	備考
文化財保護法	文化庁	注 1
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境省	注 2
自然公園法	環境省	注 3
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律	環境省等	
その他の都道府県・市町村の条例等	都道府県・市町村	

注 1：天然記念物を採集する可能性がある場合は、天然記念物の現状変更該当するため、「文化

財保護法」に基づき、文化庁・都道府県等に申請し、許可を得る。

注2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種を採集する場合又は採集の可能性のある場合は、あらかじめ環境大臣と協議を行う必要がある。

注3：「自然公園法」の特別地域、特別保護地区での指定植物を採集する場合には、国立公園にあつては環境大臣、国定公園・県立公園にあつては都道府県知事の許可を受けなければならない。また、指定期間中、立入りが規制される区域があるため留意する。

## (7) 現地調査者一覧表

現地調査の場所、時期、現地調査者を一覧表にして記載する。現地調査のうち、優占種調査及び判読結果の現地確認作業は、植生判読の作業者が加わることを原則とする。

## (8) 安全管理対策等

現地調査に際しては、以下のとおり安全の確保に十分配慮し、事故防止に努める。現地調査計画書に安全管理対策を明記し、現地調査者に周知する。

### ● 現地調査実施前の安全確認事項

- (ア) 現地調査計画は日程に余裕を持って作成し、現地調査の実施前に調査者間で工程、危険要素等について打合せを行う。この結果、必要に応じて安全対策の追加や工程の組替えを行う。
- (イ) 作成している緊急時の連絡体制(組織内、警察署、消防署、病院、労働基準監督署等)を確認しておくとともに、携帯電話が通じない場合もあるので確実な連絡の実施計画を立てる。
- (ウ) 調査に適した服装、安全管理に必要な携行品を確認し、準備する(例：登山靴、ゴム長靴、軍手、雨具、防寒具、非常食、ヘルメット、救急セット、連絡体制表、熊鈴、通信機具(携帯電話・トランシーバー))。
- (エ) 野外に生息する危険な生物(ハチ、マムシ、クマ等)の被害を受けたときの対処(応急手当等)をあらかじめ確認しておき、薬品・必要な器具等を装備に含める。

### ● 現地調査時の注意点

- (ア) 現地調査実施時は、単独での行動は行わず、原則として2名以上で行動する。
- (イ) 天気予報等により天候、気象状況等を事前に確認し、危険が予想されるような場合には、適宜行程の見直しを行う。
- (ウ) ガレ場や崖地形、水域等、現地の地形に応じた危険への予知や想定を行い、十分な装備を持つとともに無理な行動は行わない。
- (エ) 降雨による急激な増水、急流や水域の深み、吹雪、猛獣・有毒生物との遭遇等、気象・水象の急変や生物学的な危険が想定されることに十分留意しておく。
- (オ) 現地調査に入る前に調査に適した服装、安全管理に必要な携行品を再確認する。
- (カ) 水際の調査では、水没等の重大な事故に遭遇する可能性があるため、救命胴衣、安全ロープ等の準備を十分に行う。

- (キ) 危険な生物(ハチ、マムシ、クマ等)に遭遇する危険を出来るだけ回避するよう心掛ける(ハチの巣に近づかない等)。
- (ク) 車輛の運用前点検、及び交通法規を遵守した安全運転、悪路走行時の安全確認に努める。また、地元車輛優先に心がける。

## 2.4 植生判読及び現地調査

### 2.4.1 予備判読

2.3 計画・準備で整理した空中写真及び既存資料をもとに、予備的な植生判読を行い、空中写真の色調、肌理、密度、樹高（群落高）、樹冠の大きさ等のパターンに着目して、空中写真での特徴（判読キー）を整理する。必要に応じ、1/2.5 万地形図上に判読線を記入する。この段階で、素判読図（樹冠大・小、草地等の大まかな相観区分図）を作成しても良いが、判読が難しい部分を無理に区分しないよう留意する（判読が難しい部分は必ず現地で確認して区分すること）。

### 2.4.2 現地調査

現地調査では、空中写真及び 1/2.5 万地形図（予備判読結果、植生判読のキーとなる空中写真パターンの箇所や要確認箇所を記入したもの）を携行し、実際の植物群落の分布と空中写真とを現地で比較、照合することで判読キーを修正・再整理する。これらの作業と並行して、次に示した調査の目的に沿って組成調査と優占種調査を実施する。調査地点数の配分については、表 2.4.1 の判読対象区分も参考にする。なお、組成調査、優占種調査データを整理する際には、地域植物誌等の照合により誤同定のないようチェックを行う。

特定植物群落についてはできるだけ現地調査を行い、その結果を一覧表にとりまとめる。

特に、整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料 4 を参照して効率的な調査を実施する。

表 2.4.1 判読対象区分

判読対象Ⅰ：自然林、特殊立地の植生
判読対象Ⅱ：植林地、低木林等
判読対象Ⅲ：農耕地、市街地など

#### (1) 組成調査

- 目的

植生図の凡例を決定するための調査。植物社会学的な植生調査手法に基づき、出現種や植生構造の調査を行う。凡例の根拠となる典型的な群落のデータを取得する。

- 地点

農耕地、市街地を除く全ての凡例及び、特定植物群落（地点位置が特定できない場合及び立ち入りが困難な場合を除く）において実施する。

地点数は、判読対象Ⅲを除く全ての凡例について、少なくとも 1 凡例につき 2 地点以上取得する。特に、判読対象Ⅰ、統一凡例に新たに追加する凡例については重点的に調査を行う。広範囲に分布する二次林の凡例については、1 凡例につき 1 地形図あたり 2 地点以上取得する。二次林、自然林等の植生の境界域が不明瞭な場所については、想定される境界

域の周辺において、調査地点数を多めに設定する。雪田など多種の小群落から成る複合体の凡例は、主たる群落のデータがあればよい。

調査地点の位置は、相観や立地条件が均質とみなされるような場所で、対象とする凡例の典型的な植生データを取得できるように設定する。林縁部や、異質の群落が隣接する境界部を含まないように留意する。

調査区の形と大きさは群落高と同等の長さを一片とする方形区を目安とする。調査区の大きさは調査面積を増しても出現種がほとんど増加しなくなるまでの最小面積が必要である。必要な面積があれば、調査区の形は方形区でも円形でもよく、群落の広がりに応じた不定形でもよい。

- 方法

階層別に出現種をリストアップし、被度・群度、立地環境等を組成調査票（表 2.4.2）に記録するとともに、記録写真撮影（外観、林内、林床）を行う。出現種の完全なリストであることと隣接群落の要素を含まないことが重要である。植生調査地点は GPS 等により正確な緯度経度を記録する。

※組成調査票は植生現地調査データベースの「調査地点一覧テーブル（調査地点概況）」と「植物表テーブル（出現種データ）」に入力し、素表を作成してデータの内容、同種異名等を点検する。なお、種の誤同定を避けるために、地域植物誌等との照合によるチェックを行う。また、可能な場合はブロック検討委員（あるいは該当地域のフロラに詳しい学識経験者等）に出現種リストをチェックしていただくことが望ましい。

表 2.4.2 組成調査の調査票例

植生調査票							調査年度	2015
二次メッシュ		調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番		
地点コード	553913	02	013	001	100907	001	調査地点名	S09
二次メッシュ	553913	地形図名	男体山			調査年月日	2015年8月24日	
ブロック名	関東	都道府県名	栃木	市町村名	日光市湯元		出現種数	30
緯度	旧測地系	度 分 秒		新測地系	36度 49分 19.6秒			
経度		度 分 秒			139度 23分 34.9秒			
調査面積	10×10		海拔	2005m		方位	S30W	
傾斜	35°		地形	斜面中部		土壌	褐色森林土	
風当	強		日当	陽		土湿	適	
資料No.			資料名称					
発行年			発行者			記載された群落		

階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数
高木層	オオシラビソ	13	70	38(max50)	4
亜高木層	シラビソ	7	80	6	5
低木層1	—	2.5	60	3	9
低木層2					
草本層1	チシマザサ	1.2	100	—	24
草本層2					
コケ層					

植生区分	II	凡例コード	050102	凡例名	シラビソ-オオシラビソ群集
大区分	亜高山帯針葉樹林	中区分	オオシラビソ群団	細区分	シラビソ-オオシラビソ群集
群落名	オオシラビソ群落				

被度群度	種名	被度群度	種名	被度群度	種名
<高木層>		+	ダケカンバ		
3・3	オオシラビソ	+	タケシマラン		
2・3	コメツガ	+	ナナカマド		
2・2	シラビソ	+	ミヤマアキノキリンソウ		
1・1	ダケカンバ	+	ミヤマウラジロイチゴ		
<亜高木層>		+	ミヤマワラビ		
3・3	シラビソ				
2・2	オオシラビソ				
2・2	ナナカマド				
2・2	ネコシデ				
1・2	タカネザクラ				
<低木層1>					
2・2	オオカメノキ				
2・2	オオシラビソ				
2・2	シラビソ				
1・2	サラサドウダン				
1・2	ハクサンシャクナゲ				
1・1	ナナカマド				
1・1	ミネカエデ				
+	クロベ				
+	ムラサキヤシオ				
<草本層1>					
4・5	チシマザサ				
1・2	クマイザサ				
1・2	ゴゼンタチバナ				
1・2	コミヤマカタバミ				
1・2	サラサドウダン				
1・2	ツルツゲ				
++2	シノブカグマ				
++2	スゲ属の一種				
++2	スノキ				
++2	ツルリンドウ				
++2	ヘビノネゴザ				
++2	マイヅルソウ				
++2	ミネカエデ				
+	アズマシャクナゲ				
+	オオカメノキ				
+	オオバスノキ				
+	コメツガ				
+	シラビソ				

調査法人名	〇〇〇〇(株)
調査者	〇〇〇〇
代表写真	553913020130011009070010101.jpg
備考	

## (2) 優占種調査

### ● 目的

組成調査ができない箇所等において、植生判読作業を補足するための調査であり、判読画像の見え方に対して、植生の区分線と区分内容（凡例）をあてはめるための判読キーを収集する調査である。組成調査の簡易なタイプとして優占種や林内の区分種数種をリストアップして凡例を決定する調査（優占種調査1）と、判読画像の見え方の現地照合を行うために、判読キーとなる地点の景観写真の撮影及び区分方法を記録する調査（優占種調査2）とがある。本調査は、原則として作成者（判読者）が行う。

### ● 地点

以下のような場所で、優占種調査を実施する。

- 植物群落（凡例）の分布パターンと判読画像との対応が典型的な場所（判読キーとして典型的な場所）
- 画像判読だけでは凡例を特定しにくい場所

判読対象Ⅰに重点をおき、優占種調査1・2をあわせて1枚の地形図あたり10～15地点以上を目安として調査地点を設定する。判読対象Ⅱのうち、凡例との対応が明瞭な地域については簡略化してもよい。判読対象Ⅲは、原則として優占種調査は行わなくてもよいが、放棄耕作地等の遷移によって優占種の確認が必要な箇所は、必要に応じて調査地点を設定する。

なお、空中写真の見え方が鮮明でないために凡例が決定できない箇所等については、優占種調査地点のほかにも、同様の群落をできるだけ多く現地で確認する。

### ● 方法

#### 1) 優占種調査1

優占種調査地点の相観を把握できるよう、優占種調査地点を外観できる記録写真を撮影し、撮影地点と撮影方向、相観的な特徴、優占種、群集標徴種や群落区分種等の凡例決定の指標となる林内の構成種、立地、空中写真の見え方、想定される凡例等について優占種調査票1（表2.4.3）に記録する。種の記載については、既存文献、過年度報告書等で事前に群落区分種、群集標徴種、立地、地域特性等の区分点を把握した上で、優占種以外の必要な種も含めなるべく階層別に2種まで記録する。

※ 優占種調査票1は植生DBの調査地点一覧テーブルに入力する。

#### 2) 優占種調査2

画像判読の目安となるよう、見通しのよい地点から多種の群落の相観や立地の違い、群落相互の配分等が把握できる景観写真を撮影し、対象となる主たる凡例の地点、撮影方向、相観的な特徴、主たる凡例名、区分線の位置等について優占種調査票2（表2.4.4）に記録する。主たる凡例以外の凡例については備考欄に詳細に記載する。

※ 優占種調査票2は植生DBの調査地点一覧テーブルに入力する。

表 2.4.3 優占種調査1の調査票例

植生調査票						調査年度	2015
優占種調査1							
二次メッシュ	調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番		
地点コード	553903	01	013	002	100824	001	調査地点名 Y01
二次メッシュ	553903	地形図名	中禪寺湖			調査年月日	2015年8月24日
ブロック名	関東	都道府県名	栃木	市町村名	日光市中宮祠		出現種数
緯度	旧測地系	度 分 秒		新測地系	36度 44分 42.8秒		
経度		度 分 秒			139度 25分 0.5秒		
調査面積	10×10		海拔	1270m		方位	—
傾斜	0°		地形	平地		土壌	褐色森林土
風当	中		日当	陽		土湿	適
資料No.			資料名称				
発行年	発行者				記載された群落		

階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数
高木層	ハルニレ	15	90	40max	
亜高木層	ハルニレ・ミズナラ	8	30	10	
低木層1	—	3	10	4	
低木層2					
草本層1	シロヨメナ	0.5	30	—	
草本層2					
コケ層					

植生区分	IV	凡例コード	160301	凡例名	ハルニレ群集
大区分	溪畔林	中区分	ハルニレ群落	細区分	ハルニレ群集
群落名	ハルニレ群落				

調査法人名	〇〇〇〇(株)
調査者	〇〇〇〇
代表写真	553903010130021008240010101.jpg
備考	



### (3) 特定植物群落調査

- 目的

将来の特定植物群落見直しのための参考情報の収集を目的とした調査。現地調査時に重要なポイントとされた特定植物群落について、現地調査（組成調査）と同時に可能な範囲で現況確認を行い、特定植物群落と植生図の凡例との関係、特定植物群落の現況などを把握し整理する。

- 地点

特定植物群落（地点位置が特定できない場合及び立ち入りが困難な場合を除く）において実施する。群落としてのまとまりを欠き植生図の凡例にならない場合などでもできるだけ現況確認を行う。

- 方法

特定植物群落の地点で植生調査を実施し写真撮影を行う。調査結果（組成調査または優占種調査）はその他の地点の調査結果と合わせて植生DBや現地写真に収録する（2.4.2参照）。

また、特定植物群落ごとに現地確認状況、現地調査地点の凡例名、所見、特記事項等を特定植物群落確認状況一覧表（表 2.4.5）に記録する。特定植物群落のエリアが広く数メッシュにまたがる場合は、2次メッシュ別に分けて記録する。現地確認状況は、特定植物群落と同一の位置で同一の群落を確認した場合、隣接する位置で同様の群落を確認した場合、あるいは確認できなかった場合などをコードで記入する。所見や特記事項は、追跡調査実施要領（「平成9年度特定植物群落調査要綱」別紙）に準じて簡単に記載する。変化状況や変化原因は、現地調査時に確認できる範囲で明かなものを選択する。特定植物群落確認位置図として現地調査地点と特定植物群落分布図を重ね合わせた位置図を示す。

なお、整備地域において、特定植物群落に選定されていない環境保全上重要な群落を確認された場合は、特定植物群落の追加候補を将来的に検討する際の参考情報として、環境保全上重要な群落調査票（表 2.4.6）、環境保全上重要な群落位置図にとりまとめる。

※本来調査に影響を及ぼさない範囲で行う。

上述した現地調査法人が整理した特定植物群落の確認結果は、ブロック調査会議で協議いただいた上で、幹事法人が参考情報として整理する。図 2.4.1 に特定植物群落調査の検討のフローを示す。

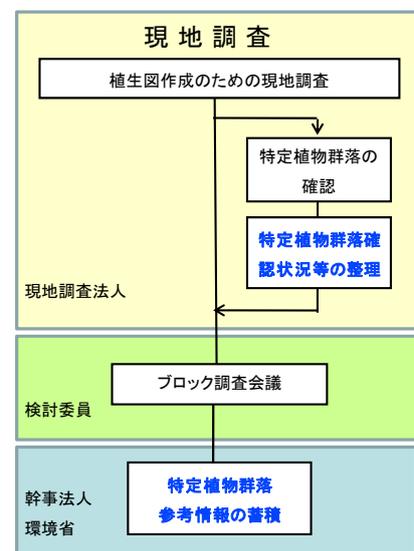


図 2.4.1 特定植物群落検討のフロー

表 2.4.5 特定植物群落確認状況一覧表の例

\*1調査方法コード 1:現地調査、2:聞き取り調査、3:文献調査、4:その他

\*2現地確認状況コード 上記が1か4の場合細分:1a. 同じ位置(エリア/ポイント及び周囲100m、以下同じ)で組成調査または優占種調査を実施、1b. アプローチ困難などの理由により範囲外の隣接する同種の群落で組成調査または優占種調査を実施、1c. 同じ位置にある別の群落の組成調査または優占種調査を実施(特定植物群落の位置に該当群落が確認できず、位置優先で別の群落を調査)、1d. 群落の変化などにより同じ位置での群落の写真撮影のみ。優占種調査はなし、1e. アプローチ困難などにより遠景の写真撮影、または優占種調査を実施

4a. アプローチ困難(立入禁止、道路通行止、登山道の廃道、時間不足等)のため未確認、4b. 次年度調査実施予定(2か年業務)、4c. その他

\*3変化状況コード 1.面積、群落構成とも著しい変化なし、2.面積に著しい変化あり、3.群落構成に著しい変化あり、4.個体数(個体群選定の場合)に著しい変化あり、5.群落または個体群の消滅、不明

\*4変化原因コード(インパクトの種類) 0.特になし、1.人の立ち入り、2.盗掘、3.農林業開発、4.道路開発、5.観光開発、6.水辺の開発、7.その他の開発、8.周辺の開発、9.植物の侵入、10.虫害・菌害、11.動物の侵入、12.汚染物質の侵入、13.ゴミの投棄、14.自然災害、15.その他、不明

\*5存続・削除に関する意見 1.特定植物群落として存続、2.特定植物群落から削除

特定植物群落コード	特定植物群落名称(都道府県統一)	都道府県	2次メッシュコード	地形図名	調査方法コード*1	現地確認状況コード*2	調査区番号	現地調査地点の凡例名	特記事項 所見	変化状況コード*3	変化原因コード*4	存続・削除意見*5
1208	松前、福島の海岸植生	北海道	624001	白神岬	1	1a	SkS01 SkS02 SkS05	海岸断崖地植生	設置されたエリアはミズナラ-エゾイタヤ群落を含んでいるらしく、非常に広がっている。	1	0	1
1214	松前一江差海岸台地上のミズナラ・イタヤ林	北海道	624001	白神岬	1	1a	SkY03	トリアシヨウマーミズナラ群集	エゾイタヤの純林はみられず、ミズナラが混生、または優占する。	1	0	1
1214	松前一江差海岸台地上のミズナラ・イタヤ林	北海道	623927	江良①	1	1a	ErY01 ErS13 ErS14	エゾイタヤ-シナノキ群集	過去に伐採等の影響を受けている林分も含むが、主に海岸に面した急傾斜地にエゾイタヤが1種で優占する群落を確認した。概ね分布域を維持している。	1	0	1
34101	小なぎり谷のヒトモトスキ群落	広島	513232	厳島	1	1a	KS006	塩沼地植生	面積は極端に減少していると思われる	2	不明	
34103	多々良潟の塩沼地植生	広島	513232	厳島	1	1a	KS140	塩沼地植生	広大により保全されているが面積は極僅か	2	15	1
34104	宮島のアカマツ林	広島	513232	厳島	1	1a	KS133	アカマツ群落(VII)	マツ枯れにより著しく減少、組成的に貧弱な林分が残存している	2	10	
34104	宮島のアカマツ林	広島	513222	阿多田島	1	1a	KS020	アカマツ群落(VII)	マツ枯れにより著しく減少	2	10	
34105	ベニマンサク群落	広島	513232	厳島	1	1a	KS096	アカマツ群落(VII)	調査地点周辺は「おおの自然公園」として保全されている マツ枯れの影響により倒木が目立つようである	2	10	1
34118	万古溪の峡谷植生	広島	513241	津田	1	1a	KS076	アカマツ群落(VI)	図示されているエリアの多くは二次林のアカマツ群落(VII)として整理される	不明	不明	1
35024	根笠観音樹林	山口	513127	周防須万	1	1a	MH019	ウラジロガン群落	落石対策工のコンクリート構造物が特定植物群落内に確認されるが、構成種に大きな変化は見られなかった	1	0	1
35070	和佐八幡宮社叢	山口	503263	伊保田②安下庄②	1	1a	SM009	タブノキ-ヤブニッケイ二次林	林冠の常緑広葉樹の古木は枯死し林内にモウソウチクが繁茂	3	9	2
35082	楢杜八幡宮社叢	山口	513210	玖珂	1	1a	TS040	シギミーモミ群集	林の面積は極僅かである	2	不明	1
35085	松原(三丘)八幡宮社叢	山口	513200	上久原	1	1a	TS005	コジイ群落	林床に伐採跡あり	1	0	1
35104	二俣神社社叢	山口	513126	周防鹿野	1	1a	MH002	ツクバネガシ群落	高木の倒木や幹折れが確認された。倒木により特定植物群落の斜面下部側がギャップとなっていた。群落内部の構成種には大きな変化は見られなかった	1	0	1
35105	熊野神社社叢	山口	513126	周防鹿野	1	1a	MH013	ツクバネガシ群落	特定植物群落内では確認されないが、隣接する植林地にはモウソウチクの侵入が確認された	1	0	1
46071	阿久根市及び川内市の海岸沿のマサキートベラ群集	鹿児島	473061	西方	1	1a	西方 KNO9, KN11	マサキートベラ群集	海岸の岩崖を中心としてマサキートベラ群集が確認されたが、植生の遷移によって減少してきていると考えられる。	不明	不明	1

表 2.4.6 環境保全上重要な群落調査票の例

(12)取扱		環境保全上重要な群落調査票				自然環境保全基礎調査	
						調査年度	2016
						都道府県	北海道
(3)対照番号	(4)二次メッシュコード	(5)1/2.5万地形図名	(6)件名			(7)選定基準	
	604032・604033・624042・604043	湯ノ里・渡島知内・神明・木古内	上磯郡木古内町・知内町、檜山郡上ノ国町、松前郡福島町のトドマツ-キタゴヨウ群落			B・C	
(8)位置			(9)所在市町村	(10)標高(m)	(11)面積(ha)		
知内川水系の森越川・中ノ川流域、木古内川水系の瓜谷川流域ほか			上磯	木古内・知内	40	225	49.2ha
内容	<p>キタゴヨウおよびゴヨウマツ（ヒメコマツ）は、北海道では渡島半島から奥尻島にかけて地帯と、日高山脈の2団地にわかれて分布し、それぞれが分布の北限となっている。渡島半島では戦前に木材として伐採された影響で自然分布はかなり減少したと考えられるが、詳細な分布は明らかになっていない。</p> <p>本票では渡島半島南部の上磯郡木古内町・知内町、檜山郡上ノ国町、松前郡福島町でトドマツ-キタゴヨウ群落として確認された小団地について報告する。</p> <p>確認された地点は標高40～225mと比較的低い山地の尾根部から斜面中部である。分布は特に知内川水系の森越川及び中ノ川流域に集中し、そのほか知内川水系のミナゴヤ川や湯ノ川流域、木古内川水系瓜谷川流域や大平川流域、幸連川流域でもわずかに見られた。群落高は概ね15m～25m程度で階層構造は高木層・亜高木層・低木層・草本層の4層が認められた。高木層にはキタゴヨウ（ヒメコマツ）が優占し、ブナやミズナラ、トドマツ等と混生していた。</p> <p>本群落はブナ-チシマザサ群団やトリアシショウマ-ミズナラ群集、スギ植林・トドマツ植林に隣接しており、特にスギ植林・トドマツ植林と隣接する場所では、森林施業の影響を受けて一部が消失、もしくは林内環境の変化が発生することが懸念される。現在のところ、保護制度による保護はなされていないため注意を要する。</p>						
	保護の現状（省略可）	(1)保護制度の種類・名称					
	(2)具体的保護対策の種類（番号で記入）	0	(3)当該群落へのインパクトの種類（番号で記入）				8
	(4)上記の補足その他の現状に対する所見						
技術的・管理的に							
資料の種類		文献					
現地調査および写真判読							
現地確認状況	1・2	調査区番号	KrS13-KrY10-KrY11-OaS05-OaY03-SmS04-SmS07-YaY04	現地調査地点の凡例名	トドマツ-キタゴヨウ群落		
調査地点コード							
調査者所属	株式会社地域環境計画			調査者氏名	伊藤美穂子・千布拓生		

(注)本群落は平成28年度植生調査植生図作成業務で確認された地域の重要な群落をまとめたものである。特定植物群落(追加)として正式に選定されたものではないが、環境保全上重要な群落として留意されたい。

選定基準

- A: 原生林もしくはそれに近い自然林(特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること)
- B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落または個体群
- C: 比較的普通にみられるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
- D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が
- E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの(武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林等。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれのないように注意すること)
- F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
- G: 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落または個体群
- H: その他、学術上重要な植物群落または個体群(種の多様性の高い群落、貴重種の生育地となっている群落等)

保護対策の種類

- 0: 特になし
- 1: 立入禁止柵、制札等群落保護のための措置がなされている。
- 2: 歩道、木道、案内板(解説板)等利用者のための施設がある。
- 3: 監視人、管理人が常時(または季節的に)配置されている。
- 4: 土地所有者の意向等により、通常立ち入りが制限されている。
- 5: 毎年、間伐、下草刈り等が実施されている。
- 6: 定期的に清掃活動が行われている。
- 7: その他
- 8: 不明

インパクトの種類

- 0: 特になし, 1: 人の立入, 2: 盗採, 3: 農林業開発, 4: 道路建設, 5: 観光開発, 6: 水辺の開発, 7: その他の開発, 8: 周辺の開発, 9: 植物の侵

現地確認状況

- 1: 組成調査を実施, 2: 優占種調査を実施, 3: アプローチ困難などにより遠景の写真撮影による優占種調査を実施, 4: アプローチ困難などにより遠景の写真撮影のみ実施, 5: 現地確認なし

### 2.4.3 図化基準案の作成

現地調査計画にて作成した使用凡例案をもとに、現地調査結果及び収集した地域植生情報等を加え、使用凡例案を修正する。修正した凡例には凡例番号をふり、主要凡例について優占種、判読キー（判読画像上で他の植生から区分される特徴）、凡例の決定方法、類似する群落との区別点、分布・立地等を記載した「図化基準案」（表 2.4.5）を作成する。特に、整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の「山岳地調査の手引き」に従う。

現地調査法人の管理者は、図化基準案を作成者に周知することで、図化精度の均一化を図る。また、作成者への「資料2 伐採跡地・土地利用区分等判読の手引き」の徹底を図る。凡例区分の共通認識を得るために以下のような手法が有効である。

- 作成者全員が集まり、図化基準について協議し合意を図る会議を開く。
- 作成者全員で現地エクスカージョンを実施し、自然性の高い植生や判定の難しい凡例について現地確認を行い、現場の植生を見て共通認識を図る。
- 自然植生を分布及び立地により配列した上でそれぞれに代償植生を対応させて、ブロック全体の凡例を把握する。

表 2.4.5 図化基準案（例）

植生区分	群落名	優占種	判読の難易度	空中写真上での特徴	凡例決定の方法 (空中写真以外)	分布・立地	類似群落との区別点
IV	スギ-ブナ群落	ブナ、スギ	C	丸い大きな樹冠の中に三角錐の樹冠が林立している。	現地確認、第2回・第3回植生図	加瀬木園幅の標高1000m付近に分布。第2回・第3回植生図にも図示。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。
IV	クロモジ-ブナ群落	ブナ、チマキザサ	A	淡色で円形の大きな樹冠が、散在する樹林。	現地確認、第2回・第3回植生図	中国山地の標高約700~800m以上に分布する。大青、加瀬木、郷原、岩屋堂、岩坪、若狭、雨ノ山等の概ね標高800m以上で記録。	中国山地に成立し、ブナの優占することで区分されるが、空中写真では樹高の高いミズナラの優占林、ブナ-ミズナラ群落と類似するため、現地調査又は第2回・第3回植生図を使用し確認する。
IV	チャボガヤ-イヌブナ群落	イヌブナ	A	淡色。樹高が高く、円形のやや大きな樹冠のまとまり。	現地確認、地形図	ブナクラス域の斜面中部から下部の急傾斜でやや不安定な立地に分布する。	イヌブナが優占することで区別される。空中写真ではクレーミズナラ群落と類似するため、現地調査により確認する。
IV	イヌシデ-アカシデ群落	イヌシデ、アカシデ、ミズメ	A	樹冠はやや小さく、丸みを帯びる。	現地確認、既存資料	急傾斜地などの、シキの散在する不安定な立地。板根、加瀬木、郷原、岩屋堂、岩坪の園幅で記録。	イヌシデ、アカシデ、ミズメが優占することで区分する。現地確認及び立地条件により区分する。
IV	ジュウモンジシダーサワグルミ群落	サワグルミ、トチノキ、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ等	A	淡色。樹高が高く、円形のやや大きな樹冠のまとまり。	現地確認、既存資料	中国山地沿いの標高600m付近以上に分布する。大青、郷原、雨ノ山等の園幅で記録。	空中写真によるケヤキ群落との区分は困難。現地調査により確認。
IV	ケヤキ群落(IV)	ケヤキ	A	多様。緩傾斜では樹冠が大きく、急傾斜では樹冠が認識しにくい。早春の空中写真では樹冠を認識しにくい。	現地確認、既存資料	中国山地沿いの標高600m付近以上に分布する。大青、郷原、雨ノ山等の園幅で記録。	ケヤキ群落(VI)とは、標高により区分し、境界は標高約650m~700m。空中写真によるジュウモンジシダーサワグルミ群落との区分は困難。現地調査により確認。
IV	岩角地・風衝地低木群落	サラサドウダン、ツツジ類	B	樹冠は小さく、まばらである。色調は明るい。	現地確認、第2回・第3回植生図、既存資料	高海拔の尾根筋から北斜面にかけて分布する。日本原、大青の園幅で記録。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。なだれ地自然低木群落とは、斜面方向により区分する。
IV	なだれ地自然低木群落	アセビ、リョウブ、ヤナギ属の一種、チマキザサ	B	淡色。小さな樹冠がややまばらに分布する。群落高は低い。	現地確認、第2回・第3回植生図	那岐山系の尾根筋から南斜面にかけて分布する。樺、日本原、大青の園幅で記録。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。なだれ地自然低木群落とは、斜面方向により区分する。
V	ブナ-ミズナラ群落	ブナ、ミズナラ	A	淡色。樹高が高く、円形のやや大きな樹冠のまとまり。	現地確認、既存資料	中国山地の標高約700m以上に分布する。鹿野、岩坪、加瀬木、美作加茂、智頭、大青、日本原等の園幅で記録。	地域によって異なるが、標高約700m以上に成立。林型にブナが優占する林分をクレーミズナラ群落と区分して整理。クレーミズナラ群落に比べ、高海拔地に分布する。
V	クレーミズナラ群落	ミズナラ、クリ	A	淡色の、樹高が高く、不整形の小さな樹冠のまとまり。	現地確認、第2回・第3回植生図、既存資料	中国山地の高海拔地。鹿野、岩坪、加瀬木、美作加茂、智頭、大青等の園幅で記録。	地域によって異なるが、標高約650m以上に成立。ブナ-ミズナラ群落とはブナを欠くことにより区分する。ミズナラの優占することで区別されるが、空中写真ではよく発達した林分が、ブナの優占林と類似する可能性がある。現地調査ならびに第2回・第3回植生図、ヒアリング結果を用いて確認する。

※図化基準がわかりにくい二次林、垂直分布や微地形の相違で凡例が分かれる場合等、作成者間の共通認識が必要な凡例のみ作成する。

#### 2.4.4 植生図案の作成・提出

現地調査によって修正した使用凡例案及び図化基準案に準じて、判読画像を再判読し、区分線・区分内容を 1/2.5 万地形図等に移写して植生図案を作成する。不明な区分線・区分内容があった場合は、現地調査を補足的に実施し、植物群落の分布状況を再確認し、これらを決定する。土地利用凡例等の図化については、「資料2 伐採跡地・土地利用区分等判読の手引き」を遵守する。

植生図案は、重点地域における現地調査→確認→修正→全体へ展開・標準化することにより図幅ごとの精度調整を行う。

植生図案の作成から納品までは図 2.4.1 に示したフローによる。現地調査法人は、工程に応じて1次確認用植生図(5面あたり1面で図幅の1/4~1面の範囲)、2次確認用植生図(5面あたり1面で図幅単位)、さらに植生図全図面を、植生図の精度確認のための資料として幹事法人に提出し、修正方法を協議しながら図化を進める。

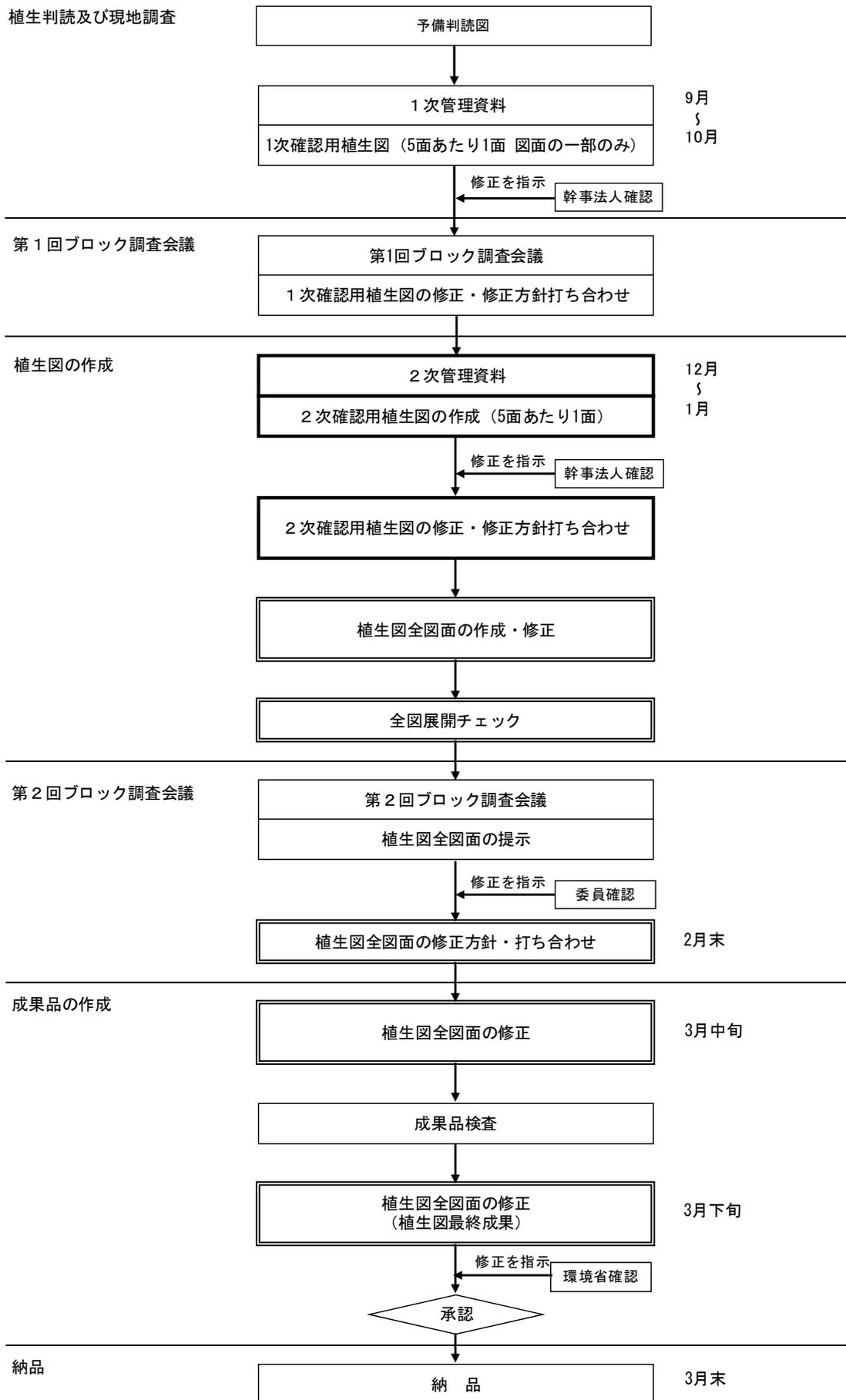


図 2.4.1 植生図の確認資料作成のフロー

(1) 予備判読図

現地調査法人の管理者は、各作成者の予備判読図を精査して、①作成者間の図化精度に違いがないか、②作成者間の図化基準にずれがないか、確認を行う。他作成者と比べて著しく精度の劣る判読図があった場合は、早急に技術指導を行う。また、図化精度の統一性、作業の遅れ等の問題があれば、幹事法人に報告し、対応策を協議する。

(2) 1次管理資料の提出と進捗状況の報告

現地調査法人は、第1回ブロック調査会議開催の1ヶ月以上前までに、植生調査業務の精度を示す管理資料として、次に示す1次管理資料（(1)～(3)）及び関連資料(4) をとりまとめ、環境省及び幹事法人に提出する。

1次管理資料は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

提出する1次管理資料の精度は、本要領の資料に例示した全国レベルの図化精度基準に適合することを条件とする。

1次管理資料の提出と進捗状況の報告（4.3.6に示す）の目的は、現地調査法人が作成している植生図の標準的な精度を確かめ、必要に応じて精度の向上を図り、図化精度のレベルを確定することにある。

幹事法人は、必要に応じてブロック統括委員等の学識経験者から助言を得て1次管理資料の内容を確認し、確認結果を「1次確認用植生図の確認結果」にとりまとめ、第1回ブロック調査会議にて「1次確認用植生図の確認結果」を提出し、会議にて協議を行う。

現地調査法人は、幹事法人による確認と、第1回ブロック調査会議で得られる委員の助言を反映して、植生図 GIS データ入力前までに1次管理資料を修正し、その他の図幅の植生図化の精度の目安とする。

1) 1次確認用植生図一覧表及び一覧図

現地調査法人は、1次確認用植生図について、各図面の管理者、作成者、使用した空中写真\*、及び判読上の問題等を一覧表（表2.4.6）にとりまとめ、位置を一覧図に示す。

デジタルオルソを使用した場合は、デジタルオルソの位置精度の確認結果も記入する。また、整備地域が過年度及び本年度整備地域の植生図と接合している場合は、接合部分での植生の整合性について確認しながら判読を進める必要があるため、接合部分の作成状況を報告する。

\*2次メッシュ管理リストに記載したもの

表 2.4.6 1次確認用植生図一覧表フォーム

番号	標準判読図	撮影主体等	整理番号	撮影地区	管理者	作成者	管理者のコメント
1	厚床①	国土地理院	H0-2005-5X C12-5	根室	○○▲▲	■▲△△	
2	婦羅理	国土地理院	H0-2005-5X C17-2、C18-3	根室	○○▲▲	●●□□	

## 2) 使用凡例案及び図化基準案

現地調査法人は、使用する凡例の一覧表、図化基準案を整理し、その時点での最新の使用凡例案と主要凡例についての図化基準案を作成する。凡例の判断がつかず図化が難しい場合は、中途段階の凡例で代替する。その場合は凡例の細分の方針や目安を図化基準や配分摸式図に示す（例：図化基準にミズナラ群落とコナラ群落は標高 400mを目安に区分することを記載しマークする）。

## 3) 1次確認用植生図

1次確認用植生図は、1/2.5万地形図を基図とし、重点地域から現地調査法人が作成地域を選定して、画像判読及び現地調査から最終的な凡例適用を想定した植生図を作成する。作成する枚数は作成者ごとに1地域以上とし、作成地域の配置に偏りがないよう調整する。作成者1名あたりの作成範囲は、1/2.5万地形図の1/4～1/5以上とする。植生図1面全てを提出する場合には、特に確認すべき範囲に印をつけて提出する。現地調査法人の業務管理者は、提出前に1次管理資料の精度を確認し、必要に応じて修正方針等の指示を記入する。

## 4) 判読画像

1次確認用植生図の範囲が立体視できる空中写真、判読に使用した画像等の一式を提出する。空中写真のコピーは不可とし必ず原写真を提出する。幹事法人が1次管理資料の確認に1ヶ月程度の時間を費やすため、現地調査法人は、写真の提出が他の判読作業に支障のないように留意すること。

## 2.5 第1回ブロック調査会議

第1回ブロック調査会議の目的は、「植生図作成の進捗状況を確認して、整備地域における植生図作成上の課題について協議を行い、ブロック検討委員から助言を得る」ことにある。

出席者等は 1.5.3(3)及び仕様書を参照する。ブロック検討委員が欠席した場合にはヒアリングを行い、ヒアリング調査票にとりまとめて環境省及び幹事法人に提出する。

### 2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載

現地調査法人は、必要に応じてブロック統括委員及び幹事法人と協議を行い、表 2.5.1 に示す会議資料を作成して会議開催1週間前までに環境省及び幹事法人に提出する。幹事法人及び環境省は提出後3日以内に資料の内容を確認・承認する。承認後、現地調査法人は、会議資料をブロック調査会議検討委員あてに事前送付するとともに、業務管理サイトに会議資料を掲載し、出席者に周知する。事前送付の日程がとれない場合には環境省及び幹事法人と調整する。

表 2.5.1 第1回ブロック調査会議の提出資料

No.	資料名	内容	報告書との対応
0	議事次第	●議事次第、出席者	—
1	整備地域	●整備地域の一覧図 地形図を基図として、図郭の一覧図を示す。	1. 調査概要 図 1
2	既存資料による整備地域の植生概況	●整備地域全体の 1/5 万植生図（縮小版） 1/20 万地形図、陰影等を基図とし、1/2.5 万植生図統一凡例で置換した 1/5 万植生図 GIS データで、整備地域全体の植生図を作成する。整備地域に隣接する外側の図枠も含める。 自然植生分布図、植生区分別分布図等に分割して示してもよい。 ●植生概況（文章） 山地、海岸部等の植生区分、地域における重要な植生等について、ごく簡単にまとめる。 ●その他の既存資料 特定植物群落の分布、既存の植生図等を示す。植生配分が地形、地質等の環境要素に強く影響を受けている整備地域では、地質図、地形分類図等を示しても良い。 ●収集資料一覧表	5. 検討結果 図 5～  5. 検討結果  5. 検討結果 6. 特定植物群落等 7. 収集資料 表 7
3	現地調査計画及び調査結果	●現地調査計画の概要 重点地域・植生、調査区分等について図示する。調査地点配分表は不要。 ●現地調査地点位置図 地形図等を基図として、地点位置を表示する。 ●組成表または個票 区分の難しい凡例や仮凡例については、組成表または個票を示す。参考資料としてもよい。	3. 現地調査結果概要 表 3.1 図 3  5. 検討結果
4	使用凡例案	●現地調査、既存資料及び 1/5 万植生図をもとに選定した凡例案 隣接図の使用凡例、1/5 万植生図凡例のなかで使用しなかった凡例とその理由を付記する。これらは別表としてもよい。	2. 凡例一覧 表 2
5	植生図作成上の課題	●課題に関する主題図及び概要（文章） クラス域の境界、隣接植生図との不整合、二次林の分布境界等、植生図作成上の課題を 1/5 万植生図データ等を用いて図示し、概要をまとめる。	5. 検討結果
参考資料	植生図の作成手法	●植生図作成方法、図化手法及び GIS データ作成手法に関するフローチャート及び説明文	1(2)作成手法
	ヒアリング調査票	●業務開始時のブロック統括委員の助言、ブロック検討委員の助言等のヒアリング結果	資料 8
都道府県提供資料		都道府県から資料提供があった場合、会議資料に追加する。	—
規定資料外の資料		上記資料のほかに検討すべき事項がある場合、任意に資料を作成する。	—

### 2.5.2 会議の開催

現地調査法人は、会議資料をもとに植生図の作成状況を報告し、作成中の植生図全図を並べて提示し、会議出席者の意見を収集する。会議では、以下の事項を優先して協議する。統一凡例にない新規凡例については、技術専門部会（凡例検討部会）での検討が必要であるため、ブロック調査会議での検討に必要な資料を準備し提示すること。

- 使用凡例案の適切性
- 重点地域として選定した地域の植生の図化方法
- 1/5万植生図からの大きな変更点（使用しなかった1/5万植生図凡例と根拠等）
- その他植生図作成上の課題

現地調査法人は、植生図の精度向上のため、ブロック検討委員より専門的な立場からの助言を受ける。

幹事法人は、1次管理資料の確認結果等を会議にて報告する。

環境省は、植生図の作成状況の報告と協議の内容について確認する。

### 2.5.3 議事録及び議事概要の作成

現地調査法人は、会議開催後14日以内に第1回ブロック調査会議の議事録及び議事概要を作成し、ブロック統括委員及び検討委員、環境省及び幹事法人に提出する。正確な議事録作成のために、会議中の発言を録音するか速記者を配置する。環境省及び幹事法人は、提出後1週間以内に議事録及び議事概要の内容を確認し、修正の必要があれば現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は、修正を終えた議事録及び議事概要をブロック統括委員、環境省及び幹事法人に提出する。

### 2.5.4 会議後の打合せ（中間打合せ）

原則として第1回ブロック調査会議終了後（当日）に、以下の事項について打合せを行う。必要に応じて、ブロック統括委員及びブロック検討委員に同席いただく。打合せの手順、記録簿の作成等については2.2.2 打合せ を参照のこと。

- 第1回ブロック調査会議の協議結果に関する今後の対応
- 1次管理資料に修正の必要があった場合、修正内容と修正完了の期日
- 植生図作成の進捗状況の確認と今後の予定

## 2.6 凡例検討部会

### 2.6.1 仮凡例の検討

第1回ブロック調査会議で仮凡例（新規凡例または検討を要する凡例）が挙げられた場合、現地調査法人は、幹事法人が主催する凡例検討部会に出席し、仮凡例について報告を行う。また、凡例検討部会の委員から、会議前に現地調査法人へ問い合わせがあった場合は回答を行う。現地調査法人が事前に提出する仮凡例等の検討資料の項目を表2.6.1に示した。

幹事法人は、現地調査法人や凡例検討部会委員の意見を受けて、必要な資料を調整し仮凡例検討資料として凡例検討部会に提出する。また、RL種の有無を確認し、RL種を含む場合は公開用凡例案を提出する。

なお、凡例検討部会の検討を効率的に行うため、関連する既存凡例との違いが明確になるよう、現地調査結果に加え、既存資料の組成データや、過年度調査の組成データを組み入れた組成表を作成する。

表 2.6.1 仮凡例検討資料の項目

1. 大・中・細区分の位置づけ
2. 群落の内容
3. 関連する既存凡例とのちがい（新設する理由）
4. 関連するブロック凡例とのちがい
5. 別添資料 組成調査票、組成表、現地写真、調査地点位置図、分布図、 空中写真、既存資料、ブロック凡例案<以上、現地調査法人>
6. RL種の有無と公開用凡例案<幹事法人>

#### 仮凡例の条件

仮凡例は次の要件の①と②を満たし、かつ③以下のいずれかにあてはまるものとする。

- ① 当該の群落の種組成を検討できる調査資料があり（原則として2地点以上、既存資料でもよい）、類似する既存の植生単位と明らかに区別できること。ただし、組成的には明らかに区分できなくても均質な群落が広がりを示している場合は抽出して検討する。
- ② 1/2.5万の縮尺で図化可能な分布範囲・面積であること。
- ③ 局地的であっても希少性が高く、図化する必要性が高い群落であること。
- ④ シカ採食草原など野生動物による植生変化の観点から植生図化の必要性が高い群落であること。
- ⑤ 侵略的外来種が著しく広い範囲に優占していて、植生図化の必要性が高い群落であること。
- ⑥ 特定種等の希少な個体群の植分ではないこと。
- ⑦ 維管束植物を主要構成種とする群落であること。

※凡例の類推が困難な不明な箇所に対し、凡例として登録されていない既存凡例の大区分レベル、中区分レベルの凡例を適用することがある。その場合も仮凡例として凡例検討部会で検討する。

## 2.6.2 仮凡例の検討フロー

仮凡例の検討から新規凡例登録までのフローを図 2.6.1 に示す。

幹事法人は、凡例検討部会の仮凡例検討結果をまとめ、追加される凡例の色を設定する。

現地調査法人は、凡例検討部会の検討結果を第2回ブロック調査会議で報告する。また、設定された色で植生図を出力し、仮凡例の色を確認する。修正案や仮凡例の追加がある場合は幹事法人に提出し、凡例検討部会で再検討する。

凡例検討部会の仮凡例検討結果が第2回ブロック調査会議で承認されなかった場合、植生分科会で仮凡例の最終確認を行う。

植生分科会の承認を受けて新凡例として決定した場合は、現地調査法人は新凡例コードと凡例名及び凡例色を用いて植生図の図化を行う。

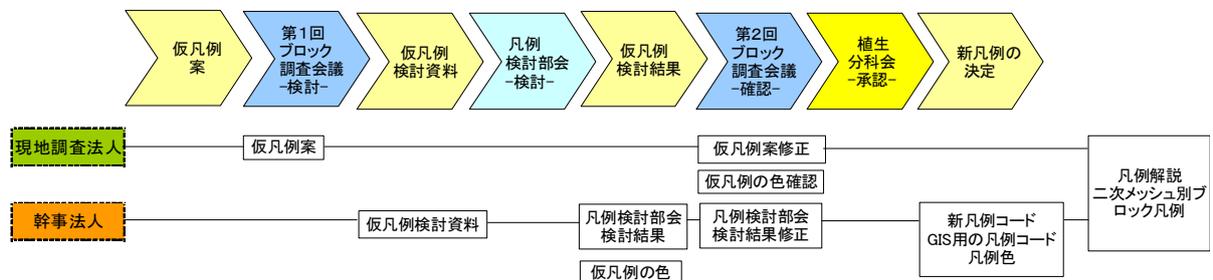


図 2.6.1 新規凡例登録までのフロー

## 2.7 植生図 GIS データの作成

### 2.7.1 植生図案の確定

#### (1) 使用凡例及び図化基準の確定

現地調査法人は、第1回ブロック調査会議の協議結果、現地調査結果及び収集した地域植生情報等をふまえ、使用凡例案の追加、変更の検討を行い最終的な使用凡例を確定する。また、作成者間の図化精度を均一化するため、主要凡例について図化基準の調整を図る。

各凡例は、原則として統一凡例の細区分に位置づけられたものとし、中区分または大区分の追加、変更がある場合は検討課題として整理する。

確定した凡例には凡例番号をふり、各凡例について現地調査結果をもとに以下の項目等を追加し、図化基準を確定する。

- 優占種
- 分布・立地
- 類似群落との区別点
- 優占種調査地点、組成調査地点
- 2次メッシュ（図幅）単位での凡例の出現状況

#### (2) 区分線・区分内容の確定

現地調査法人は、承認を受けた1次確認用植生図（ブロック調査会議での助言を踏まえた修正が求められた場合にはその修正を施したもの）と同程度の精度で担当図幅全体の植生図案の区分内容・区分線を確定し、最終的な植生図作成に向けて作業を進める。現地調査法人の業務管理者は、幹事法人の1次確認用植生図の確認結果及びブロック調査会議の指摘事項を各作成者に周知し、図幅ごとの精度管理を徹底する。

## 2.7.2 植生図 GIS データの入力及び修正

現地調査法人は、確定した植生図案の GIS 入力を行う。GIS データの入力は「植生図 GIS データ作成ガイドライン」、GIS データの仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書」に従う。

ディスプレイ上で画像を判読しながら GIS 入力を行う手法の場合は、区分線の屈曲が細かくなりすぎないように留意する。植生判読の際には画像の拡大表示と縮小表示を繰り返すことになるが、区分線を入力する表示縮尺としては、標準的な山地植生で概ね 1/7,000~1/8,000 程度が望ましい。区分線を入力する表示縮尺は、整備地域の植生の細かさによって適切な縮尺を決めることとし、作成者間で表示縮尺の統一を図る。

GIS データ入力後、各図幅の作成者は GIS データの紙出力図（1/2.5 万縮尺）を確認し、区分線の位置ずれ、凡例間違い、誤判読等をチェックし、データの修正を行う。これらの作業を繰り返し、植生図 GIS データを完成させる。

植生判読と GIS 入力を同時並行で行う作成手法においても、植生図 GIS データの紙出力図（1/2.5 万縮尺）を確認し、GIS データの修正を行う。

### 2.7.3 2次管理資料の提出と進捗状況の報告

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議の1ヶ月前までに、植生調査業務の精度を示す管理資料として、次に示す2次管理資料（(1)～(5)）を環境省及び幹事法人に提出する。

2次管理資料は幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

#### (1) 2次確認用植生図一覧表・一覧図

各図面の管理者、作成者、使用した写真、判読上の問題等を一覧表にとりまとめ、位置を一覧図に示す。2次確認用植生図の対象範囲は、1次確認用植生図の確認を行った部分を含む図面一面（5面あたり1面）とする。

#### (2) 使用凡例及び図化基準

確定した使用凡例一覧、主要凡例についての図化基準を管理資料とする。

#### (3) 2次確認用植生図

2次確認用植生図は図面一面のGISデータ出力図（縮尺1/2.5万）を単位とし、業務管理者が精査したものとする。現地調査法人の業務管理者は、2次確認用植生図を作成するにあたり、各作成者の作業内容を精査し、図化精度の均一化を図る。また、幹事法人の1次確認用植生図確認結果及び第1回ブロック調査会議の指摘事項が植生図に反映されているかの確認を行う。これまでの指摘事項が反映されていない場合は、業務管理者または作成者が修正を行い、2次確認用植生図を完成させる。

#### (4) 1次確認用植生図の反映結果図

現地調査法人の業務管理者は、幹事法人の1次確認用植生図の確認結果及び第1回ブロック調査会議の指摘事項についての反映結果を「1次確認用植生図の確認結果」に記入したものの（手描きでもよい）を管理資料とする。

#### (5) 植生図GISデータ

植生図GISデータのshpファイルを管理資料とする。この後の工程でGISデータを修正することがあるため、各種GISデータ検査（植生図GISデータ作成ガイドライン P11 4.9データの検査 参照）をクリアしていなくともよい。

## 2.7.4 植生図全図の確認

### (1) GIS データの出力と確認

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議までに整備地域全域の植生図 GIS データ及び出力図を作成し、会議で提示する。また、植生図の全体図（縮小版）を作成し、植生概況を把握するとともに図面間の不連続等を確認する。

会議前に出力図により全図面の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておき、協議資料としてまとめる。

### (2) 全図面の区分内容の確認（全図展開チェック）

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議の前に、出力図全面を並べて区分内容の確認を行う全図展開チェックを実施する（図 2.7.1 参照）。確認事項は、植生学上の間違いがないか、個別の図面では確認しにくい問題点がないか（図面間の隣接部分、作成者による著しい差等）、GIS データ入力時に発生する間違いがないか等とする（1.8 植生図の図化指針及び資料 1 参照）。この時点で図化基準の検討が必要な場合は、第2回ブロック調査会議での検討課題とする。

会議前に出力図全面の展開チェックにより全体の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておき、協議資料としてまとめる。

全図面の確認時には、図面一面一面の確認を同時に行うと効果的である。



図 2.7.1 植生図の全図展開チェック写真

### (3) 過年度図幅との接合の確認

現地調査法人は、過年度作成図と接合する図幅について、接合エラーを調整する。ただし、経年変化等の理由で接合できない場合は不整合とする。過年度の植生図の修正が必要な場合は整備地域の内部でポリゴンが無理に閉じず画像にしたがって図郭境界まで線引きし、接合エラー修正図案をとりまとめる。植生図が Web-GIS でシームレスに表示されるようになったため、過年度の植生図の修正が必要な場合は、GIS データの修正を行うことが望ましい。過年度植生図との不整合と対応策については、表 2.7.1 を参考にする。

表 2.7.1 植生図（A図）と過年度植生図（B図）の接合

接合図(B図)のデータ仕様	A図の接合方法	接合エラー	データ作成方法
GISデータ	図形を構成するノードなどについて図郭間で一致させる。	①同じ凡例がない場合 A図にB図と類似する凡例を適用しノードを一致させる。 ②古いB図に変化がある場合 Bの出力図に赤で修正内容を記入する。	

(4) GIS データの確認

現地調査法人は、GIS データの構造を確認する。以降の作業段階で図形の変更が発生する可能性があるため、納品検査用の論理検査プログラムではなく GIS ソフトで対応可能な確認でもよい。問題点があれば打合せ等で協議する。

## 2.8 第2回ブロック調査会議

第2回ブロック調査会議の目的は、「調査成果を確認し、植生図としての精度が確保されているかを検討する」ことにある。

第2回ブロック調査会議は植生図の全面最終案が出来た段階で開催し、植生分科会開催前の2月下旬までに終了することとする。会議の出席者等は1.5.3(3)を参照する。なお、整備地域に係わる都道府県のブロック検討委員が欠席した場合にはヒアリングを行い、ヒアリング調査票にとりまとめて環境省及び幹事法人に提出する。

### 2.8.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載

現地調査法人は、必要に応じてブロック統括委員及び幹事法人と協議を行い、表2.8.1に示す会議資料を作成して会議開催1週間前までに環境省及び幹事法人に提出する。幹事法人及び環境省は提出後3日以内に資料の内容を確認・承認する。承認後、現地調査法人は、会議資料をブロック調査会議検討委員あてに事前送付するとともに、業務管理サイトに会議資料を掲載し、出席者に周知する。事前送付の日程がとれない場合には、環境省及び幹事法人と調整する。



## 2.8.2 会議の開催

現地調査法人は、会議資料をもとに最終成果から得られた知見等を報告し、整備地域全域の植生図案を並べて提示する。会議では、以下の事項を優先して協議する。

- 植生図の精度
- 整備地域全体の植生配分（1/5万植生図との比較等）
- 植生図作成上の課題の検討結果

現地調査法人は、ブロック検討委員による植生図の精度向上のための専門的な立場からの助言を受ける。特に図幅ごとの植生図の精度について確認を受け、修正の必要な箇所の指摘を踏まえ修正方法を協議する。（指摘を受けた修正内容については後の修正漏れがないよう付箋等で記録しておく）。出席者が植生図を確認する時間を会議時間中に確保する。

幹事法人は、会議にて最終成果及び進捗状況の確認結果等を報告する。

環境省は、植生図の作成状況の報告と協議の内容について、確認する。

## 2.8.3 議事録及び議事概要の作成

現地調査法人は、会議開催後14日以内に第2回ブロック調査会議の議事録及び議事概要を作成し、ブロック統括委員及び検討委員、環境省及び幹事法人に提出する。正確な議事録作成のために、会議中の発言を録音するか速記者を配置する。幹事法人及び環境省は、提出後10日以内に議事録及び議事概要の内容を確認し、修正の必要があれば現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は、修正を終えた議事録及び議事概要を環境省及び幹事法人に提出する。

## 2.8.4 会議後の打合せ（中間打合せ）

原則として第2回ブロック調査会議終了後（当日）に、以下の事項について打合せ協議を行う。修正の必要が生じた場合には、ブロック統括委員等に同席いただき、植生図修正の確認工程について協議する。打合せの手順、記録簿の作成等については、2.2.2 打合せ を参照のこと。

- 第2回ブロック調査会議の協議結果に関する今後の対応
- 最終成果に修正の必要があった場合、修正内容と修正完了の期日
- 植生図作成の進捗状況の確認と今後の予定
- 植生分科会で報告するブロック別成果の内容

## 2.9 植生分科会

現地調査法人は、植生分科会に出席し、植生図案から得られた知見等について概要を報告する。また、整備地域全域の植生図案を会場に提示し、植生分科会委員の確認を受ける。

幹事法人は、植生分科会の会議資料を作成し、各ブロックの植生図案化の精度管理結果等について報告を行う。また、技術専門部会やブロック調査会議であげられた課題のうち全国統一の必要性の高いものを整理し、対応策が示せるものは案をとりまとめる。

植生分科会委員は、現地調査法人及び幹事法人の報告結果について、専門的な立場から意見を述べる。また、植生図案を確認し、修正の必要があれば意見を述べる。

## 2.10 成果品の作成

現地調査法人は、成果品案を作成し、幹事法人及び環境省の確認を受ける。全ての成果品案について確認を行うものであり、幹事法人及び環境省からの指摘事項を踏まえた修正を実施し、成果品として環境省に納品する。

### 2.10.1 植生図の最終確認

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議以降に修正した植生図の最終確認を行う。現地調査法人は、幹事法人が作成した「2次確認用植生図の確認結果」、第2回ブロック調査会議議事録、及び植生分科会にて指摘を受けた場合は該当指摘事項と照合し、幹事法人等の指摘箇所が植生図出力図に反映されているかどうか確認する。2次確認用植生図の反映結果については、幹事法人が作成した「2次確認用植生図の確認結果」に書き込み、管理資料として成果品案とともに幹事法人に提出する(2.10.2 参照)。

### 2.10.2 成果品案等の提出

#### (1) 成果品案確認の提出物

現地調査法人は、表 2.10.1 に示した成果品案及び管理資料(2次確認用植生図の反映結果図)を幹事法人に送付し、幹事法人による成果品案の確認を受ける。報告書案は、業務管理サイトにアップし、環境省、幹事法人の確認を受ける。

表 2.10.1 成果品案確認のための提出物

提出資料	
成果品案	1 GIS データ出力図及び接合部修正案
	2 電子ファイル(報告書案、GIS データ、現地調査データベース)
管理資料	3 2次確認用植生図の反映結果図
	4 電子ファイル(GIS データ論理検査ログファイル、現地調査データベースエラーチェック結果)

#### 1) GIS データ出力図及び接合部修正案

「植生図 GIS データ製品仕様書」、「植生図 GIS データガイドライン」により作成した植生図の GIS データ出力図。

過年度植生図と不整合がある場合は、接合部修正図案を添付する。

#### 2) 電子ファイル

3. 調査成果とりまとめ(3.3~3.5 参照)により整理した報告書案、GIS データ、現地調査データベースの電子ファイル。

### 3) 2次確認用植生図の反映結果図

幹事法人の2次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図

#### (2) 確認結果の連絡

幹事法人及び環境省は、主に以下の事項について成果品案の確認を行い、必要に応じて植生分科会座長もしくはブロック統括委員に確認した上で環境省と調整し、指摘事項について現地調査法人へ連絡する。現地調査法人は連絡を受けた事項に対して対応方針を検討する。

- 中間打合せで合意した修正事項について未修正の箇所
- 植生区分または入力方法に問題のある図幅（空中写真、現地写真による確認）
- 未決定凡例（仮凡例、二次林の適用等の決定方法）
- その他改善すべき事項（凡例色の変更等）

#### 2.10.3 成果の確認

現地調査法人は、納期の10日前を目途に幹事法人及び環境省より、修正した成果品案について確認を受ける。確認はGISデータ出力図を中心に行う。現地調査法人は、植生図一面一面について具体的な修正内容も含め環境省もしくは幹事法人からの指示を受け、修正内容の協議を行うとともに、合意した修正を行う。

## 2.11 納品

現地調査法人は、修正事項を反映させた成果品一式を作成し、環境省に納品する。環境省は修正がなされていることを確認する。また、現地調査法人は、承認後の報告書及び植生図 GIS 出力図をブロック調査会議関係者（ブロック統括委員、ブロック検討委員、整備地域に該当する都道府県の担当者）に送付する。

### 3. 調査成果とりまとめ

#### 3.1 成果品の概要

##### 3.1.1 成果品の概要

- 成果品は植生図、報告書及びそれらに対応する電子ファイルからなる。電子ファイルには内部管理資料として現地DB、現地写真等の電子ファイルのみのものも含まれる。また、判読に使用した空中写真は原則として全て納品する。本章は下記の項目に分けて述べる。

- GIS 植生図の出力図
- ブロック版報告書
- 現地調査データ
- 電子ファイル（電子媒体）
- 空中写真・判読参照画像等

- 植生図は、秘匿すべき環境省レッドリスト（以下、RL 種）が含まれる凡例がある図面は非公開の「確認用」植生図とし、別途環境省 RL 種が含まれない「公開用」植生図を作成する。
- 報告書は、構成の異なる「公開用」報告書と「確認用」報告書の2種を作成する。「公開用」報告書は秘匿すべき環境省 RL 種を除いて作成する。
- 成果品その他の概要を表 3.1.1～表 3.1.3 に示す。報告書（紙媒体）の部数は仕様書参照。
- 下記の点に留意する。

#### 【成果品の留意点】

- ブロック版報告書  
本編1の表題を調査概要に、表1-1の表題を2次メッシュ別管理リストにする。（表3.3.1参照）
- GIS 植生図出力図  
出力図右下に管理番号のラベルを貼る。
- 現地調査データ  
組成（資料）は表3.4.5に示す方法により入力する。
- 電子ファイル（電子媒体）  
内部管理用データに隣接図修正案を含める。
- 空中写真・参照画像等  
空中写真は専用アルバムまたは適切なフォルダに収録する。

表 3.1.1 成果品一覧1 (紙媒体)

区分	調査年度	ブロック (例)	該当電子ファイル コード	内容	数量	詳細
報告書	H00	北海道	1-3	ブロック版報告書	仕様書参照	公開用
	H00	北海道	4-5	ブロック版報告書(確認用)	仕様書参照	非公開
植生図 GIS 出力図	H00	北海道	6-7	植生図 GIS 出力図	各1	
	H00	北海道	8-9	植生図 GIS 出力図(環境省 RL 情報あり)*	各1	
空中写真・ 参照画像	H00	北海道	-	空中写真アルバム	各1	
	H00	北海道	13	参照画像出力図	各1	納品可能な場合のみ

\* 秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例がない場合は不要

\* この他、ブロック版報告書(確認用)及び植生図出力図は、ブロック調査会議関係者(ブロック統括委員、検討委員、該当する都道府県担当者)に送付する。植生図の電子ファイル(jpg・GISデータ)送付は個別に確認する。ただし、2ヵ年度(1年目)は不要。

表 3.1.2 成果品一覧2 (電子ファイル)

区分	調査年度	ブロック (例)	電子ファイル コード	内容	備考	数量	詳細
報告書	H00	北海道	1-3	ブロック版報告書		3	公開用報告書の pdf・オリジナルファイル
	H00	北海道	4-5	ブロック版報告書(確認用)		2	確認用報告書の pdf・オリジナルファイル、ブロック調査会議資料の pdf・オリジナルファイル
植生図 GIS データ	H00	北海道	6	植生図 GIS データ	正	1	公開用 shp データ、色設定ファイル
	H00	北海道	7	植生図 GIS データ	副	1	
	H00	北海道	8	植生図 GIS データ(環境省 RL あり)*	正	1	秘匿すべき環境省 RL あり版を含む shp データ、色設定ファイル
	H00	北海道	9	植生図 GIS データ(環境省 RL あり)*	副	1	
内部管理用 データ	H00	北海道	10	内部管理用データ	正	1	現地データ・現地写真・その他の管理ファイル
	H00	北海道	11	内部管理用データ	副	1	現地データ・現地写真・その他の管理ファイル
	H00	北海道	12	内部管理用データ(数値地 図)		1	背景図の数値地図等
	H00	北海道	13	内部管理用データ(参照画 像)		1	納品可能な場合のみ

\* 秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例がない場合は不要

表 3.1.3 成果品の概要

		公開用		確認用(非公開)		内部管理用(非公開)	
報 告 書	報告書 (紙媒体)				ラベル あり/なし ※環境省RL種の有無にかかわらず必ず作成する ※環境省RL種が出現する場合は「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする 複製をブロック統括委員、検討委員全員、行政担当官に送付。	現地DB 現地写真 作業用Shp等 空中写真情報 過年度植生図修正案jpg	
	報告書 (電子ファイル)		上記に該当するファイル ORG.PDF		上記に該当するファイル ORG.PDF ラベル あり/なし ※環境省RL種が出現する場合は「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする		
植 生 図	植生図 (紙媒体)		図面一式 複製をブロック統括委員、担当県委員、行政担当官に送付。		該当する図面のみ ラベル 複製をブロック統括委員、担当県委員、行政担当官に送付。 ※「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする	数値地図(背景図として加工したもの) 作業用Shp等	
	植生図 (電子ファイル)		Shp. Jpg. 凡例色設定Shp ログファイル 一式		Shp. Jpg一式 環境省RL情報 凡例色設定Shp ※「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする		
空 中 写 真 ・ 参 照 画 像	空中写真・参照画像 (紙媒体)			※秘匿凡例のあるブロックのみが該当する。他のブロックは不要。			空中写真アルバム 参照画像出力図 (ネットで公開されている画像は除く)
	空中写真・参照画像 (電子ファイル)						判読に使用した画像・デジタルオルソ HD等

### 3.1.2 環境省 RL 種にかかわる情報

- 環境省 RL 種にかかわる情報とは、秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例、秘匿すべき環境省 RL 種及びこれらの所在地等のうち、凡例検討部会等の協議により秘匿対象となったものを指す。
- 公開用の成果品は、RL 種にかかわる情報を抽出し凡例置換、削除等によって調整する（表 3.1.4）。

<p><b>報告書</b></p> <p>公開用報告書は、確認用報告書をもとにして、「新 RL 抽出マクロ」*等を用いて環境省 RL 種がないように文章や表を整える。変更内容は報告書の資料に示す。</p> <p>*幹事法人から配布</p> <p><b>植生図</b></p> <p>公開用植生図は、秘匿すべき RL 種を含む凡例を凡例検討部会で設定した別凡例に置き換える。同じ凡例が隣接する場合はポリゴンを統合する（植生図 GIS データ作成ガイドライン参照）。</p>
---

表 3.1.4 環境省 RL 種にかかわる情報と公開用データ作成方法

	対象	公開用データ作成方法	備考
報告書	環境省 RL 種を含む凡例のうち、公開 561 種に該当せず凡例検討部会の協議により秘匿対象になったもの	置換・統合	報告書用の新 RL 抽出マクロで抽出し置換する。
	環境省 RL 種のうち、公開 561 種に該当せず凡例検討部会等の協議により秘匿対象になったもの	削除	報告書用の新 RL 抽出マクロで抽出し削除する。
	環境省 RL 種を含む既存の群落名	削除	報告書用の新 RL 抽出マクロで抽出し別名に変更する。
	“稀少”“貴重種”等の語	削除	凡例解説、本文から検索し削除する。
	秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例の位置が特定可能な表現	削除	位置情報を地域名等に変更する。
植生図	秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例	置換／統合	<p>属性の凡例コード、凡例名等を置換する。 凡例番号は以下を確認して記入する。</p> <p>①置換後の凡例がブロックの凡例にない。→凡例番号は変更しない。</p> <p>②置換後の凡例がブロックの凡例にすでにある。→凡例番号をすでにある凡例と同じにする。また、置換した結果同じ凡例のポリゴンが接する場合はポリゴンを統合する。</p>

\*平成 19（2007）年レッドリスト選定時に公開種が 408 種から 561 種に変更されたため、平成 24（2012）年度から 561 種とした。



### 3.3 ブロック版報告書

植生調査の結果は、植生調査報告書（ブロック版報告書）公開用と確認用にとりまとめる。公開用報告書と確認用報告書との違いは次のとおりである。

- ・ 公開用報告書は RL 種を削除または置き換える。
- ・ 資料の構成が異なる。 公開用報告書の資料は議事概要のみであるが、確認用報告書の資料はその他に議事録、RL 種出現状況、凶化基準等を含む。
- ・ 確認用報告書の方が作成上は重要であり、確認用報告書から公開用報告書を作成する。
- ・ 確認用報告書は納品するほかに、ブロック統括委員、検討委員全員、該当する都道府県担当者に送付する。

ブロック版報告書は所定の「ブロック版報告書フォーム\*」に従って作成する。

\*「ブロック版報告書フォーム」のファイル(ワード、エクセル)は幹事法人から送付する。

#### 3.3.1 ブロック版報告書の仕様

##### (1) 分冊方法

法人別ブロック別に分け「公開用」と「確認用」を作成する。

公開用報告書は、秘匿すべき環境省 RL 種等について、位置が特定できる表現や貴重種を多く含むという表現を基本的に全て削除する。

確認用報告書は環境省 RL 種等の秘匿を行わないものとし、秘匿すべき環境省 RL 種等を含む場合は「環境省 RL 情報あり (取扱注意)」のマークを付ける。RL 種が無い場合は表紙のマークは不要であるが、必ず確認用 (非公開)と記載する。

##### (2) 製本

- 公開用報告書の体裁は表紙にミント（レザック 66 175 kg）を用い、くるみ製本とする。
- 確認用報告書の体裁は表紙にミント（レザック 66 175 kg）を用い、くるみ製本とする。
- 用紙は可能な限り市中回収古紙を含む再生紙を使用する（図 3.3.1）。

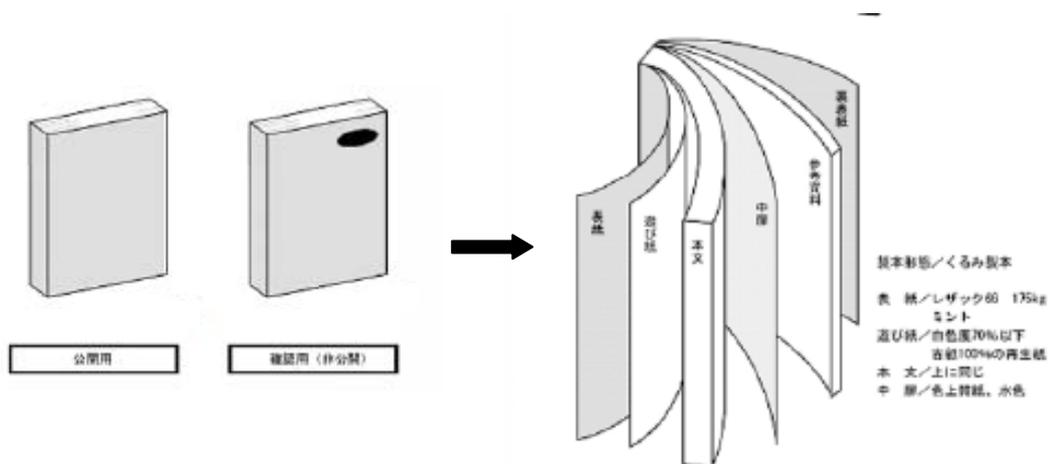


図 3.3.1 装丁・印刷形態

### (3) ページのふり方

- 先頭に、遊び紙、はじめに、サマリー、まえがき、目次（ページ外）をおく。
- 中扉は水色紙とし参考資料目次、資料目次（確認用報告書のみ）を印刷する（ページ外）。
- 本文は“- 1 -”、参考資料は“- 参 1 -”、確認用報告書の資料は“- 資 1 -”からの連番とする。
- A3 は原則として両面印刷とし、右側ページは奇数、左側ページは偶数とする。
- A3 は片面印刷とし右下に奇数と偶数 2 ページを連続してふる（例：- 1 - - 2 -）。
- A3 をはさむと、その前の A4 が奇数ページの場合は A4 裏面を白紙とし 1 ページ分とばす（図 3.3.2）。

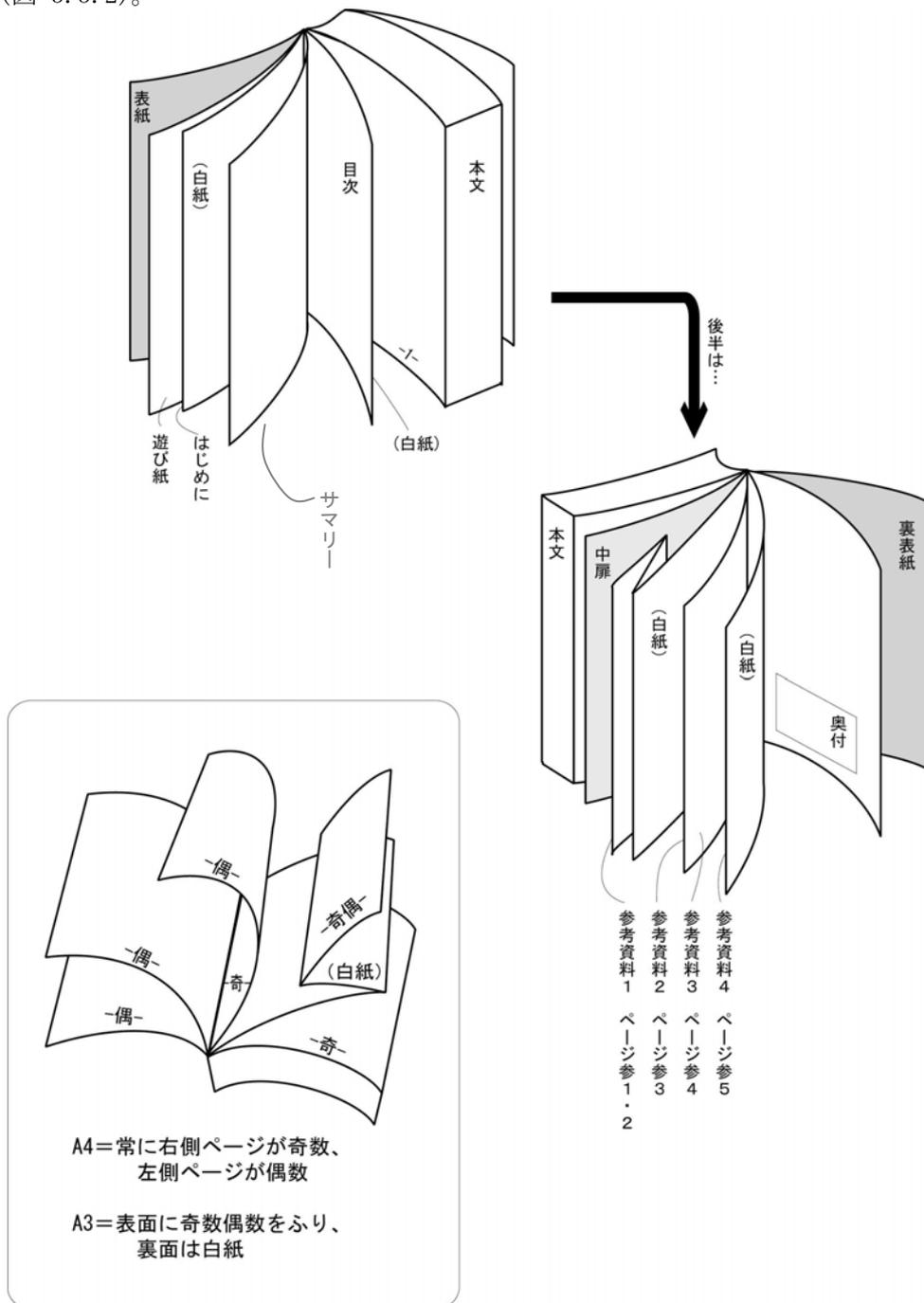


図 3.3.2 ページのふり方

### 3.3.2 ブロック版報告書の作成

#### (1) 目次・構成

ブロック版報告書は公開用・確認用ともに本編、資料編、参考資料の構成とする。目次・図表・資料一覧を表 3.3.1 に示す。

表 3.3.1 植生調査報告書<ブロック版>の目次・図表・資料一覧

	報告書の構成	単年度		2カ年度 1年目		2カ年度 2年目		備考
		公開用	確認用	公開用	確認用	公開用	確認用	
本編	本文	●	○	●	○	●	○	H29（4）実施体制を追加  △表は省略可。項目は共通
	1 調査概要							
	2 凡例一覧							
	3 現地調査結果概要							
	4 ブロック別凡例解説			△	△			
	5 検討結果							
	6 特定植物群落等							
	7 収集資料							
8 検討委員・調査者								
本編 中 図 表	図1 整備地域	○	○	○	○	○	○	ブロック調査会議規定資料
	図3 調査地点位置図	○	○	○	○	○	○	ブロック調査会議規定資料
	図5-1～	○	○	○	○	○	○	
	図6-1 特定植物群落及び調査地点位置図	○	○	○	○	○	○	ブロック調査会議規定資料
	図6-2 環境保全上重要な群落位置図	○	○	-	-	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表1-1 2次メッシュ別管理リスト	○	○	○	○	○	○	実施計画書
	表1-2 判読情報_20xx_○○	○	○	○	○	○	○	
	表1-3 打合せ一覧	○	○	○	○	○	○	H29 追加
	表1-4 ヒアリング一覧	○	○	○	○	○	○	H29 追加
	表2 ブロック別凡例一覧表_20xx_○○	●	○	●	○	●	○	ブロック調査会議規定資料
	表3-1 現地調査概要	○	○	○	○	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表3-2 調査地点一覧（組成調査）	●	○	●	○	●	○	ブロック調査会議規定資料
	表3-3 調査地点一覧（優占種調査1・2）	●	○	●	○	●	○	ブロック調査会議規定資料
	表4 ブロック別凡例解説	●	○	●△	○△	●	○	△省略可
	表5-1～	●	○	●	○	●	○	
	表6-1 特定植物群落確認状況一覧表	○	○	○	○	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表6-2 環境保全上重要な群落調査票	○	○	-	-	○	○	ブロック調査会議規定資料
表7 収集資料一覧表	○	○	○	○	○	○	ブロック調査会議規定資料	
表8 ○○ブロック検討委員・調査者名簿	○	○	○	○	○	○		
資料編	資料1 非公開の環境省 RL 種の掲載状況	-	○	-	○	-	○	
	資料2-1 第1回○○ブロック調査会議議事概要	●資1	○資2-1	●資1	○資2	●資1	○資2-1	資料番号注意
	資料2-2 第2回○○ブロック調査会議議事概要	●資2	○資2-2	-	-	●資2	○資2-2	資料番号注意
	資料3-1 第1回○○ブロック調査会議議事録	-	○資3-1	-	○資3	-	○資3-1	資料番号注意
	資料3-2 第2回○○ブロック調査会議議事録	-	○資3-2	-	-	-	○資3-2	
	資料4 ○○ブロック検討事項一覧表	-	○	-	△	-	○	△省略可
	資料5 ○○ブロック図化基準	-	○	-	○	-	○	ブロック調査会議規定資料
	資料6 ○○ブロック凡例	-	○	-	○	-	○	
	資料7 打合せ記録簿	-	○	-	○	-	○	H29 追加
	資料8 ヒアリング調査票	-	○	-	○	-	○	
	資料9 空中写真・衛星画像の数量	-	○	-	○	-	○	
資料10 植生図全体図（植生図一覧図）	-	○	-	-	-	○		
参考資料	参考資料1 平成○○年度整備地域一覧（全国）	○	○	○	○	○	○	
	参考資料2 組成調査票サンプル	●	○	●	○	●	○	
	参考資料3 優占種調査票1 サンプル	●	○	●	○	●	○	
	参考資料4 優占種調査票2 サンプル	○	○	○	○	○	○	
	参考資料5 現地写真サンプル	○	○	○	○	○	○	

●は秘匿すべき環境省 RL 種を削除する

報告書作成にあたり以下の点に留意する。

- 本編5の検討結果はブロック調査会議等の具体的な資料、図表を示し、検討結果と課題を明確にさせる。
- 凡例解説(表4)は凡例の定義、地域的な特記事項(優占種、構造、生態的立地、他凡例との関係、分布)の順に述べ、原則として254文字以下でまとめる。
- 特定植物群落や重要な植物群落の現地確認結果を位置図(図6)と一覧表(表6)にまとめる。
- 議事概要、議事録の参加者所属・役職とブロック検討委員・調査者名簿(表8)のそれとを一致させる。
  
- 環境省の著作物となるため、「環境省は・・・」等の表現は避ける。
- 共通の表記方法に準拠する(例:1/5万植生図、○○-○○群集等)。
- 表(エクセルファイル)は文字が隠れないように行幅、列幅を調整する。
- 下記の(2)共通の表記方法に準拠する。特に、群集名に使用する「-」は全角マイナスを用いる。

## (2) 共通の表記方法

凡例解説、本文等の用語はすべて以下のように統一する。

### 1) 調査名等

- 調査地域、調査範囲、対象範囲、整備範囲、整備対象地域 → 整備地域
- 第2回第3回、第2回3回、第2回第3回調査 → 第2回・第3回基礎調査
- 第7回調査 → 第7回基礎調査(平成22年度以後、第8回の語は不使用)
- 旧植生図 → 1/5万植生図(平成22年度から変更)
- 第6回(平成12年度)以降の植生図 → 1/2.5万植生図(平成22年度から変更)
- 旧凡例 → 1/5万植生図凡例
- ブロック会議 → ブロック調査会議
- 現地法人 → 現地調査法人

### 2) 年号

- 文中では和暦(例:平成○○年度)
- DBデータは西暦(例:2015)
- 昨年 → 具体的な年を和暦で示す。

### 3) 漢字

- など → 等

### 4) 数字

- 2桁以上の数字は半角で統一する。なお、表題の平成○○年度のみ全角とする。
- 1桁の数字は文中では全角で統一し、表やファイル名の数字は原則として半角を用いる。

- 4桁以上の数字には3桁区切りを入れる（例 2,300m）。
- 植生区分を示すローマ数字 I～X は使用可とする。凡例名でローマ数字を使用する場合は半角アルファベット大文字（IV 等）で表記してもよい（HTML 変換で文字化けするため）。

#### 5) 専門用語

- 群集名に使用する－は全角マイナスを用いる（○○－○○群集）。

#### (3) 公開用の環境省 RL 種の扱いについて

「3.1.2 環境省 RL 種にかかわる情報」参照。

#### (4) ブロック版報告書の確認

現地調査法人は報告書案をとりまとめ、環境省及び幹事法人に送付する。環境省及び幹事法人によるチェックを受け修正を行い、環境省の承認を得て印刷する。

### 3.3.3 ファイル作成要領

オリジナルファイルから PDF ファイルを作成し、各フォルダに格納する。

#### (1) オリジナルファイル

- ファイル名は年度、ブロック、図表及び資料番号を\_で連結し示す。  
（例：20xx\_北海道\_表 3-1 組成調査一覧表.xls）
- 「ブロック版報告書フォーム」の xls をxlsx に変更してもよい。
- ファイルから不要なシートは削除する。
- 本編、資料編、参考資料の各フォルダに格納する。

#### (2) PDF ファイル

- 公開用報告書は全部まとめて 20xx\_北海道ブロック報告書.pdf とする。
- 確認用報告書も同様に 20xx\_北海道ブロック報告書（確認用）.pdf とする。

### 3.4 現地調査データ

#### 3.4.1 現地調査データ入出力の概要

現地調査データは、データベースとして整理する。その後出力用ユーティリティにより個票や組成表に出力することができるので、組成検討に活用する（図 3.4.1）。

\*H〇〇全国植生 Db, 入力フォーマット、植生データ出力マクロ等は幹事法人により配布する。

##### (1) 入力

現地調査データの inputs は、植生現地調査データベース”H〇〇全国植生 Db. accdb”（アクセスファイル）によって行う（図 3.4.2）。

- H〇〇全国植生 Db. accdb はデータ入力、表示・編集、エラーチェック、データ出力、写真ファイル名変換の機能をもつ。
- 入力には入力フォーマット（エクセルファイル）を使って Db にインポートすることもできるが、現地調査地点コード（23 桁）の間違いを避けるため、できるだけアクセスファイルで入力する。

##### (2) 出力

植生データ出力マクロ”H〇〇植生出力. xlsm”（エクセルファイル）（図 3.4.3）を用いて上記(1)で入力した植生現地調査データベースを読み込むと、選択した調査地点について個票（帳票）や組成表（素表）が出力できる。帳票出力例を表 3.4.1 に、素表出力例を表 3.4.2 に示した。

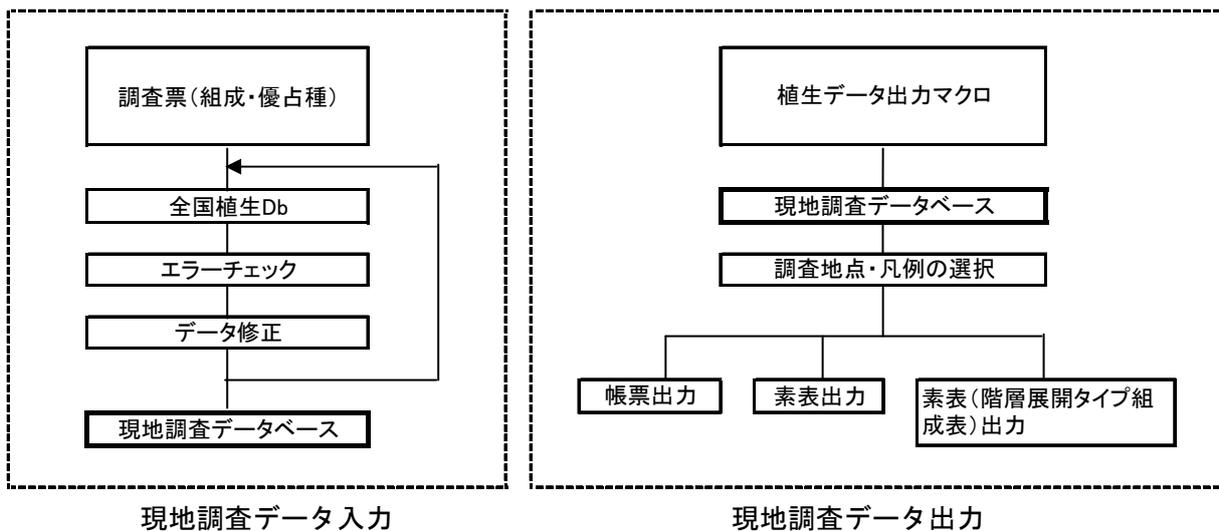


図 3.4.1 現地調査データ入出力の関連

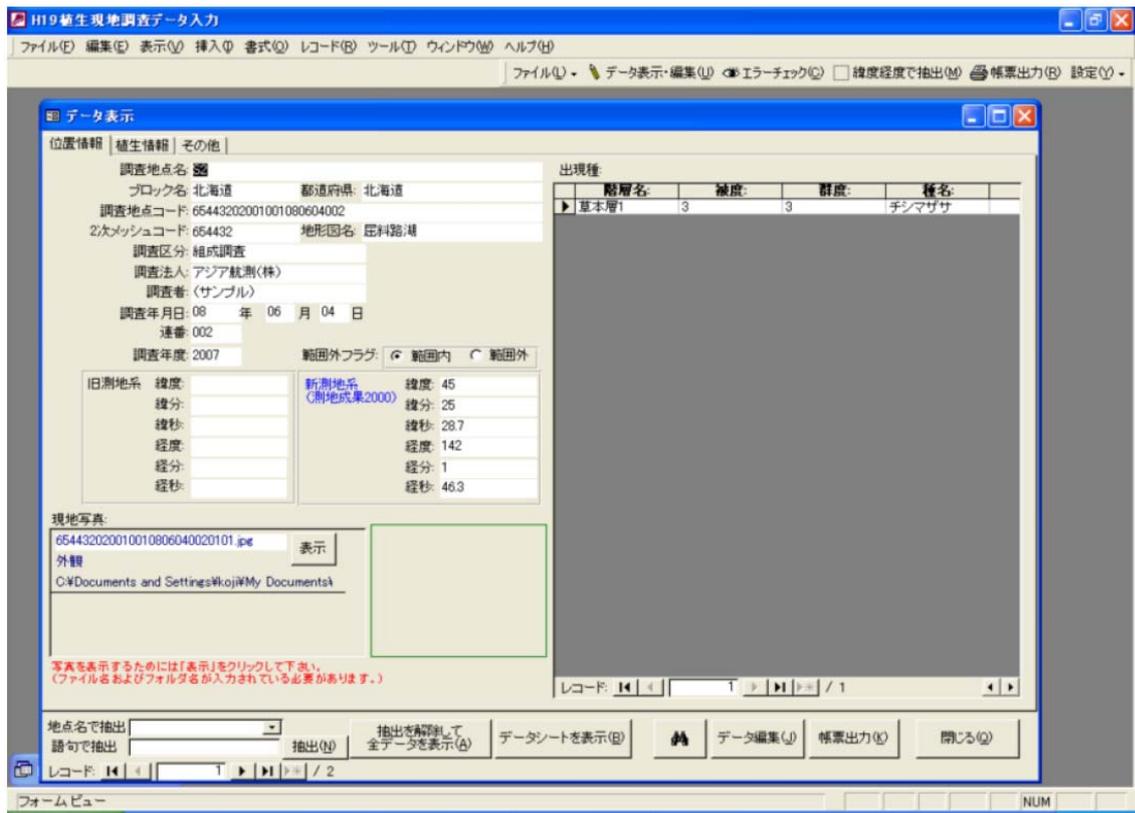


図 3.4.2 入力：現地調査 DB の編集画面

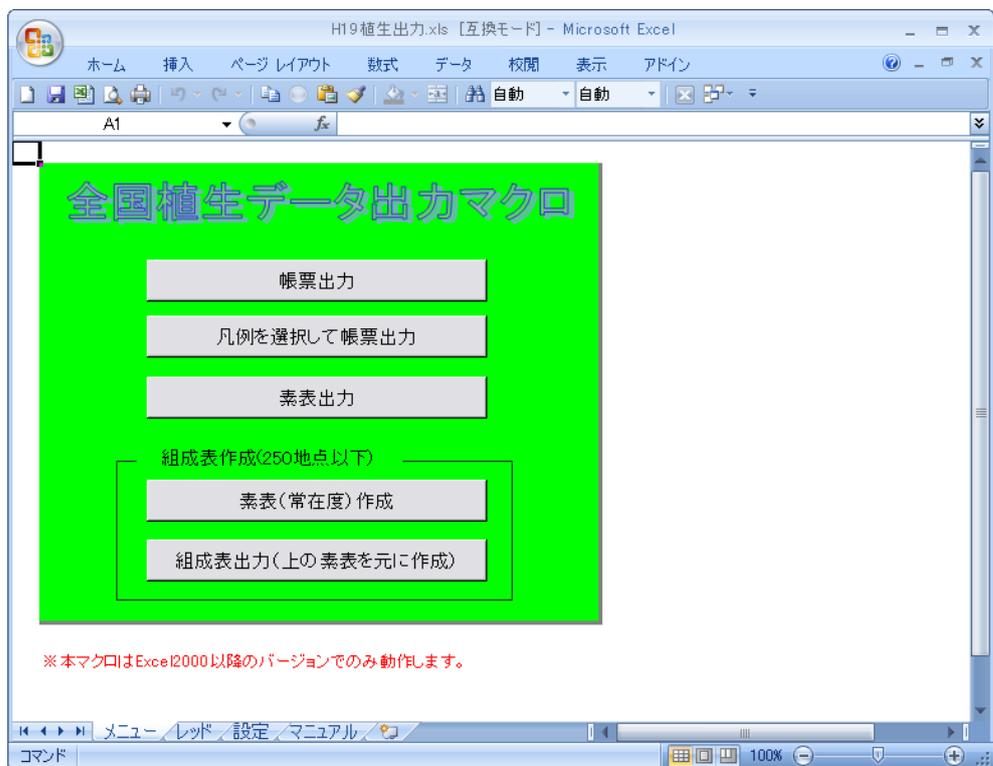


図 3.4.3 出力：全国植生データ出力マクロのメニュー画面

表 3.4.1 全国植生データ出力マクロによる帳票出力例（組成調査）

植生調査票						組成調査	調査年度
二次メッシュ	調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番		2009
地点コード	533642	02	013	001	090728	003	調査地点名 S03
二次メッシュ	533642	地形図名	広野		調査年月日		09年07月28日
ブロック名	北陸	都道府県名	福井	市町村名	南条郡南越前町広野	出現種数	87
緯度	旧測地系	35度 43分 30秒			新測地系	35度 43分 42秒	
経度		136度 17分 19秒		136度 17分 9秒			
調査面積	10×10	海拔	400m	方位	S80W		
傾斜	20°	地形	斜面下部	土壌	褐森土		
風当	弱	日当	中陰	土湿	適		
資料No.		資料名称					
発行年		発行者		記載された群落			

階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数
高木層	ミズナラ	16	90	50	7
亜高木層	-	8	65	15	9
低木層1	-	4	50	5	8
低木層2					
草本層1	チシマザサ	2	80	-	11
草本層2	-	0.5	75	-	66
コケ層					

植生区分	V	ブナクラス域代償植生	凡例コード	220103	凡例名	オオバクロモジ-ミズナラ群集
大区分	落葉広葉樹二次林	中区分	ブナ-ミズナラ群落		細区分	オオバクロモジ-ミズナラ群集
群落名						

被度群度	種名	被度群度	種名	被度群度	種名
<高木層>		2-3	キバナアキギリ	+	ウワミズザクラ
3-3	ミズナラ	2-3	ツタウルシ	+	オオカメノキ
2-3	シナノキ	2-2	ハイイヌガヤ	+	オオバキボウシ
2-2	ミズメ	2-2	ミヤマカタバミ	+	クモギリソウ
1-2	ケヤキ	1-2	アカソ	+	サルナシ
1-2	ケンポナシ	1-2	イワガラミ	+	シシガシラ
1-1	コナラ	1-2	エゾアジサイ	+	ショウジョウバカマ
1-1	ネムノキ	1-2	オクノカンスゲ	+	チゴユリ
<亜高木層>		1-2	シロヨメナ	+	ナガバモミジイチゴ
2-2	ウワミズザクラ	1-2	タチシオデ	+	ナライシダ
2-2	サワシバ	1-2	チャボガヤ	+	ナルコユリ
2-2	ハクウンボク	1-1	ニワトコ	+	ノササゲ
2-2	ヤマモミジ	+2	アキチウジ	+	ハクウンボク
1-2	イタヤカエデ	+2	アキノタムラソウ	+	ヒメアオキ
1-2	ウリハダカエデ	+2	ウツギ	+	ホソバトウゲシバ
1-1	イヌブナ	+2	ウリハダカエデ	+	マユミ
+2	ツルアジサイ	+2	オオカモメヅル	+	マルバアオダモ
+	ヤマボウシ	+2	カエデコロ	+	マルバマンサク
<低木層1>		+2	キツタ	+	ミズナラ
2-2	シナノキ	+2	コチヂミザサ	+	ムラサキシキブ
2-2	ヤマモミジ	+2	サカゲイノデ	+	ムラサキマユミ
1-2	サワシバ	+2	ジュウモンジシダ	+	ヤマザクラ
1-2	ムラサキシキブ	+2	スミレサイシン	+	ヤマジノホトギス
1-1	ウリハダカエデ	+2	ゼンマイ	+	ヤマハッカ
+	タカノツメ	+2	タンナサワフタギ	+	ヤマブキシヨウマ
+	ヤマボウシ	+2	ツルアリドオシ	+	ユクノキ
+	ユクノキ	+2	トウゴクシダ		
<草本層1>		+2	ハナイカダ		
3-4	チシマザサ	+2	ハンショウヅル		
2-3	ユキツバキ	+2	フジ		
2-2	オオバクロモジ	+2	ミズヒキ		
2-2	コマユミ	+2	ミゾソバ		
1-2	コアジサイ	+2	ミツバアケビ		
1-2	タンナサワフタギ	+2	ヤブコウジ		
1-2	ミヤマガマズミ	+2	リョウメンシダ		
1-2	ヤブデマリ	+	アカシデ		
1-1	リョウブ	+	イタドリ		
+	ツノハシバミ	+	イヌシデ		
+	ナナカマド	+	イボタノキ		
<草本層2>		+	ウリカエデ		

調査法人名	〇〇株式会社
調査者	植生太郎
代表写真	533642020130010907280030101.jpg
備考	

表 3.4.2 全国植生データ出力マクロによる素表出力例（組成調査）

ブロック名	北海道											
地点コード	67415402C	67415402C	67415702C	67416402C	67416402C	67416702C	67417702C	67427002C	67427002C	68410602C	68411702C	68411702C
調査地点名	21豊徳SA	21豊徳SA	23豊幌SR	16夕来SM	16夕来SM	19下豊別	14曲淵SFI	15鬼志別	15鬼志別	07声問SA	04宗谷SR	04宗谷SR
調査年	06	06	06	06	06	06	06	06	06	06	06	06
調査月	07	07	07	07	07	07	07	07	07	07	07	09
調査日	19	19	24	19	19	20	17	22	22	17	15	07
2次メッシュコード	674154	674154	674157	674164	674164	674167	674177	674270	674270	684106	684117	684117
地形図名	豊徳①	豊徳①	豊幌	夕来	夕来	下豊別	曲淵	鬼志別	鬼志別	声問	宗谷①	宗谷①
都道府県名	北海道											
市町村名	宗谷支庁	宗谷支庁	宗谷支庁	稚内市	稚内市	宗谷支庁	稚内市	宗谷支庁	宗谷支庁	稚内市	稚内市	稚内市
凡例コード	120101	120101	120101	120101	120101	120101	120101	120101	120101	120101	120101	120101
凡例名	トドマツ											
海拔	10	10	180	20	30	80	70	40	70	5	52	81
方位	N57E	S28E	N80W	N60W	N34W	S61W	S85E	N54E	N84E	S80W	N30E	S54E
傾斜	16	6	24	5	15	38	35~40	9	4	2	9	15
調査面積	15×20	20×20	20×20	20×20	15×20	12×20	20×20	20×30	20×20	30×20	5×10	20×20
高木層高さ(m)	15	13	17	20	16	12	11~15	18	12	13	19	19
高木層植被率(%)	90	90	70	80	60	50	80	60	80	80	45	45
亜高木層高さ(m)	8	7	8	5~10	8	8	8~10	10	7	9	10	10
亜高木層植被率(%)	30	30	20	70	40	70	20	30	20	20	10	10
低木層1高さ(m)	2	2.5	4		6.0		1.5~2.0	3	2.5	3	6	5
低木層1植被率(%)	10	10	15		25		20	30	20	10	95	5
低木層2高さ(m)												
低木層2植被率(%)												
草本層1高さ(m)	0.8	0.8	2.6	1.13	2.0	2.5	0.8~1.2	1.2	1	1	1.8	2.2
草本層1植被率(%)	60	90	100	60	90	20	95	80	80	90	100	85
草本層2高さ(m)			1.0			1						1.1
草本層2植被率(%)			15			80						50
コケ層高さ(m)			<1		<1							
コケ層植被率(%)												
出現種数	出現回数 17	10	32	13	15	14	41	26	14	21	21	45
トドマツ	12	3	2	4	2	3	3	3	3	4	2	2
ナナカマド	11	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	+
ミズナラ	11	2	3	2	1	1	2	3	1	4	1	+
ツタウルシ	9	2	1	r		1	2	2	2	+	2	+
チシマザサ	9	5	5			5	4	4	3	4	4	+
オオカメノキ	8	+	1			1	1	1	1	1	1	+
ダケカンバ	8	3	1	1	1	1	+	+	1	+	2	+
エゾイタヤ	8				1	2	1	+	1	1	+	+
ハリギリ	7	1	+	1	1		+	+	1	+	+	+
イワガラミ	7	1					3	+	2	1	+	2
ツルシキミ	7		+				+	1	1	1	+	+
ツルツゲ	6	+		+			+	+	+	+	+	+
シラカンバ	6			1		1	1	2	2	1		
ハリウツギ	5	1	+		1			1			+	
エゾマツ	4							1	2			+
シラネウラボ	4	+			+							1
ツルアジサイ	4		+				1	+				+
ミヤマタタビ	4		+				+		+			+
ケヤマハンノキ	4				1	1	1					+
マイヅルソウ	4						+	+		3	3	
コシアブラ	3			1				+				
ヒロハツリバナ	3	+			1					+		
キハダ	3	2	+	1								
ホオノキ	3	1						+		1		
チシマアザミ	3		+				+	+				
ウド	3					2	+					+
ハイイヌツゲ	3									+	+	+
ヤマウルシ	2									+		
ハナヒリノキ	2									+		
アカイタヤ	2		1	1								
エゾヤマザクラ	2		1		1							
オククルマムグラ	2		+				+					
オシダ	2		+				1					
ヒメコヨウイチゴ	2		+					1				
ルイヨウシヨウマ	2		+				1		1			
クマイザサ	2			4	5							
ヤチダモ	2				+							+
ハルニレ	2					1	+					+
オニシモツケ	2					+						+
エゾアジサイ	2						+	+				+
ヨブスマソウ	2						+					+
タラノキ	2								1			+
オオバスのノキ	2								+		+	+
ツバメオモト	2									+	+	
オオヤマザクラ	1											
クロミサンザシ	1	+										
ツルアジサイ	1	+										
ヤマクマバナ	1	+										
ミズキ	1		1									
オオツリバナ	1		+									
ミヤマノキシノブ	1		+									
クロツリバナ	1		1									
エンレイソウ属の一種	1		+									
ザゼンソウ	1		+									
ナライシダ	1		+									
ホンバトウゲシバ	1		+									
ミヤマタニタデ	1		+									
ミヤマニガウリ	1		+									
ササバギラン	1			r								
サルナシ	1				1							
ミズバショウ	1				r							
エゾイラクサ	1					2						
ヤマブドウ	1					1						
エゾニユウ	1					+						
シナノキ	1						2					
ツリバナ	1						+					

### 3.4.2 現地調査データの内容

現地調査データは、「調査地点一覧」、「植物表（階層別種リスト）」「全写真リスト」の3つのテーブルと「調査者コード」に整理する。調査地点一覧のフィールドを表 3.4.3 に、植物表のフィールドを表 3.4.4 に示した。また、組成（資料）の入力事例を表 3.4.5～3.4.6 に示した。 \*ファイル（アクセス、エクセル）は幹事法人より送付する。

#### (1) 調査地点一覧

調査地点一覧には、1地点1レコードとして以下の項目を記載する。優占種調査結果は、「調査地点一覧」のみに格納する。

- 調査地点情報（調査地点コード\*1、 2次メッシュ、 調査区分、ブロック、 都道府県、市町村、 緯度・経度等）
- 調査実施情報（調査者、調査年月日等）
- 凡例（植生区分、凡例、群落名等）
- 階層区分（高木層～コケ層の優占種名、植被率、高さ等）
- 立地情報（海拔、方位、傾斜、地形、土壌等）
- 資料情報（既存資料引用の場合）
- 現地写真ファイル名\*2のうち、代表的な写真ファイル名

#### (2) 植物表（階層別種リスト）

植物表には、組成調査結果の出現種1種を1レコードとして調査地点コード\*1、階層区分、被度、群度、種名を記載する。組成調査票の項目は「調査地点コード\*1」をキーとして「調査地点一覧」及び「植物表」を組み合わせて表示される。

##### \*1 調査地点コード

- ・ 調査地点コードは、管理コードと識別コードの組み合わせにより設定（全て半角数字の23桁表示）。
- ・ 管理コードは、[二次メッシュ+調査区分]の組み合わせで管理。優占種調査2は調査区分05とする。
- ・ 識別コードは、[法人ID+調査者ID+年月日+連番]の組み合わせで管理。
- ・ ※[法人ID+調査者ID+連番]で、地点の個別識別は可能であるが、調査実施時における誤設定を軽減させるため、[年月日]単位に連番を振りなおすこととする。

例) 管理コード[二次メッシュ+調査区分]+識別コード[法人ID+調査者ID+年月日+連番]→ 53394501001001010801001

項目	コード設定	桁数	事例
二次メッシュ	標準地域メッシュの第2次地域区画のコード	6	533945
調査区分	優占種調査1 ; 01、組成調査 ; 02、組成（資料） ; 03 優占種（資料） ; 04、優占種調査2 ; 05	2	01
法人ID	全国単位に設定する、法人のID	3	001
調査者ID	調査年度別法人単位に設定する、調査者のID	3	001
年月日	年（2桁）+月（2桁）+日（2桁）	6	010801
連番	[法人ID+調査者ID+年月日]別に振られる、連続番号	3	001

##### \*2 現地写真ファイル名（写真ファイル名のつけ方）

- ・ 全て半角の英数字・記号の30桁表示。
  - ・ 写真ファイル名は、調査地点コード、写真区分、連番、ファイル形式（拡張子）の組み合わせにより設定。
- 例) [調査地点コード] + [写真区分+連番] + [ファイル形式] → 533945010010010108010010101.jpg

項目	コード設定	桁数	事例
調査地点コード	上記に示す調査地点コード	23	上記参照
写真区分	外観 ; 01、林内 ; 02、林床 ; 03	2	01
連番	[調査地点コード+写真区分]別に振られる連続番号	2	01
ファイル形式	画像ファイルの拡張子	3	.jpg

表 3.4.3 調査地点一覧のフィールド

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
調査地点コード	調査地点名	2次メッシュコード	調査区分コード	調査法人コード	調査者コード	調査年	調査月	調査日	連番	
39270501004004020128006	ok-y6	392705	01	004	004	02	01	28	006	
11	12	13	14	15	16					
緯度 原	緯分 原	緯秒 原	経度 原	経分 原	経秒 原	秒は小数第1位まで記入				
17	18	19	20	21	22	23	24	緯度 原～経秒 原の測地系。 緯度～経秒はJGD2000		
緯度_NEW	緯分_NEW	緯秒_NEW	経度_NEW	経分_NEW	経秒_NEW	範囲外フラグ	入力測地系			
26	4	49.2	127	38	37.5	0	JGD2000			
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
ブロックコード	都道府県コード	群落名称(相観区分的な視点)	最高階層区分	最高階層優占種名	最高階層高さ	代表写真ファイル名	植生区分	凡例コード	凡例名	群落名
8	47		3	アダン	3.5	392705010040040201280060101.jpg	VI	390200	アダン群団	
36	37	38	39	40						
高木層優占種	高木層高さ	高木層植被率	高木層胸高直径	高木層種数						
41	42	43	44	45						
亜高木層優占種	亜高木層高さ	亜高木層植被率	亜高木層胸高直径	亜高木層種数						
46	47	48	49	50						
低木層1優占種	低木層1高さ	低木層1植被率	低木層1胸高直径	低木層1種数						
アダン	3.5									
51	52	53	54	55						
低木層2優占種	低木層2高さ	低木層2植被率	低木層2胸高直径	低木層2種数						
56	57	58	59	60						
草本層1優占種	草本層1高さ	草本層1植被率	草本層1胸高直径	草本層1種数						
61	62	63	64	65						
草本層2優占種	草本層2高さ	草本層2植被率	草本層2胸高直径	草本層2種数						
66	67	68	69	70						
コケ層優占種	コケ層高さ	コケ層植被率	コケ層胸高直径	コケ層種数						
71	72	73	74	75	76	77	78	79		
調査面積	出現種数	市町村名	海拔	方位	傾斜	地形	土壌	風当		
		糸満市	20	S	45					
80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	
日当	土湿	資料No	資料名称	発行者	発行年	記載された群落名	記載ページ等	備考	調査年度	
									2013	

表 3.4.4 植物表のフィールド

1	2	3	4	5	6
調査地点コード	階層	被度	群度	種名	備考
57401002001008001014007	1	1	1	オオヤマザクラ	

表 3.4.5 調査地点一覧における組成（資料）の入力事例

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
調査地点コード	調査地点名	2次メッシュコード	調査区分コード	調査法人コード	調査者コード	調査年	調査月	調査日	連番	
39270503004008020128006	Na06-11	392705	03	004	008	73	08	04	078	
11	12	13	14	15	16	調査者コード 資料+Tabで1つの調査者コードを設ける。		連番 資料のTabのうち、該当する地点の連番または調査番号を入れる。		
緯度原	緯分原	緯秒原	経度原	経分原	経秒原					
17	18	19	20	21	22	23	24			
緯度_NEW	緯分_NEW	緯秒_NEW	経度_NEW	経分_NEW	経秒_NEW	範囲外フラグ	入力測地系			
0	0	0	0	0	0	0	JGD2000			
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
ブロックコード	都道府県コード	群落名称(相観区分的な視点)	最高階層区分	最高階層優占種名	最高階層高さ	代表写真ファイル名	植生区分	凡例コード	凡例名	群落名
5	20						IV	140802	シャクナゲ-ヒノキ群集	ホソバシャクナゲ-ヒノキ群集
36	37	38	39	40	2次メッシュコード 調査地などからできるだけ2次メッシュを入れる。1次メッシュしか確定できなければ 3927-99とす					
高木層優占種	高木層高さ	高木層植被率	高木層胸高直径	高木層種数						
	13	80								
41	42	43	44	45	調査地点名 資料、Tab番号、調査Noをコードで記入するとわかりやすい。					
亜高木層優占種	亜高木層高さ	亜高木層植被率	亜高木層胸高直径	亜高木層種数						
	6	10								
46	47	48	49	50						
低木層1優占種	低木層1高さ	低木層1植被率	低木層1胸高直径	低木層1種数						
	3	40								
51	52	53	54	55						
低木層2優占種	低木層2高さ	低木層2植被率	低木層2胸高直径	低木層2種数						
56	57	58	59	60						
草本層1優占種	草本層1高さ	草本層1植被率	草本層1胸高直径	草本層1種数						
	0.4	20								
61	62	63	64	65						
草本層2優占種	草本層2高さ	草本層2植被率	草本層2胸高直径	草本層2種数						
66	67	68	69	70						
コケ層優占種	コケ層高さ	コケ層植被率	コケ層胸高直径	コケ層種数						
71	72	73	74	75	76	77	78	79		
調査面積	出現種数	市町村名	海拔	方位	傾斜	地形	土壌	風当		
30×20	21	木曾郡木曾町開田	1680							
80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	
日当	土湿	資料No	資料名称	発行者	発行年	記載された群落名	記載ページ等	備考	調査年度	
			長野県の現存植生	長野県	1979	ホソバシャクナゲ-ヒノキ群集			2013	

表 3.4.6 植物表の組成（資料）の入力事例

1	2	3	4	5	6
調査地点コード	階層	被度	群度	種名	備考
39270503004008020128006	1	2	2	ヒノキ	

### (3) 種名の表記

- 植物の種名は地域植物誌との照合等を行い誤同定のないようにチェックする。
- 植物の種名は平成 29 年度から基本的に「グリーンリスト」\*に準じることとし、全角カタカナで表記する。
- 不明種のうち、科または属レベルまでわかるものは、「○○科の一種」、「○○属の一種」とする。学名の科名、属名を用いて「sp.」を付しても良い（例：Compositae sp. Angelica sp.）。同じ属で複数出現する場合は「○○属の一種 1」「○○属の一種 2」・・・とする。
- 不明種のうち、種レベルまでほぼわかるが同定に疑問の残るものは、種名の後に「sp.」を付ける。
- 種名の注記や備考等は、別フィールドに記入する。種名と同じフィールドには入れない。
- 「グリーンリスト」に掲載されていない地域固有種等は、標準和名+学名を入力する。

\*日本植物分類学会データベース委員会及び絶滅危惧植物第一委員会の有志が作成した日本の維管束植物の網羅的リスト。以下の日本植物分類学会ウェブページより入手可能。

<http://www.rdplants.org/gl/index.html>

## 3.5 電子ファイル（電子媒体）

### 3.5.1 格納媒体

格納媒体は、DVD-R 等とする。

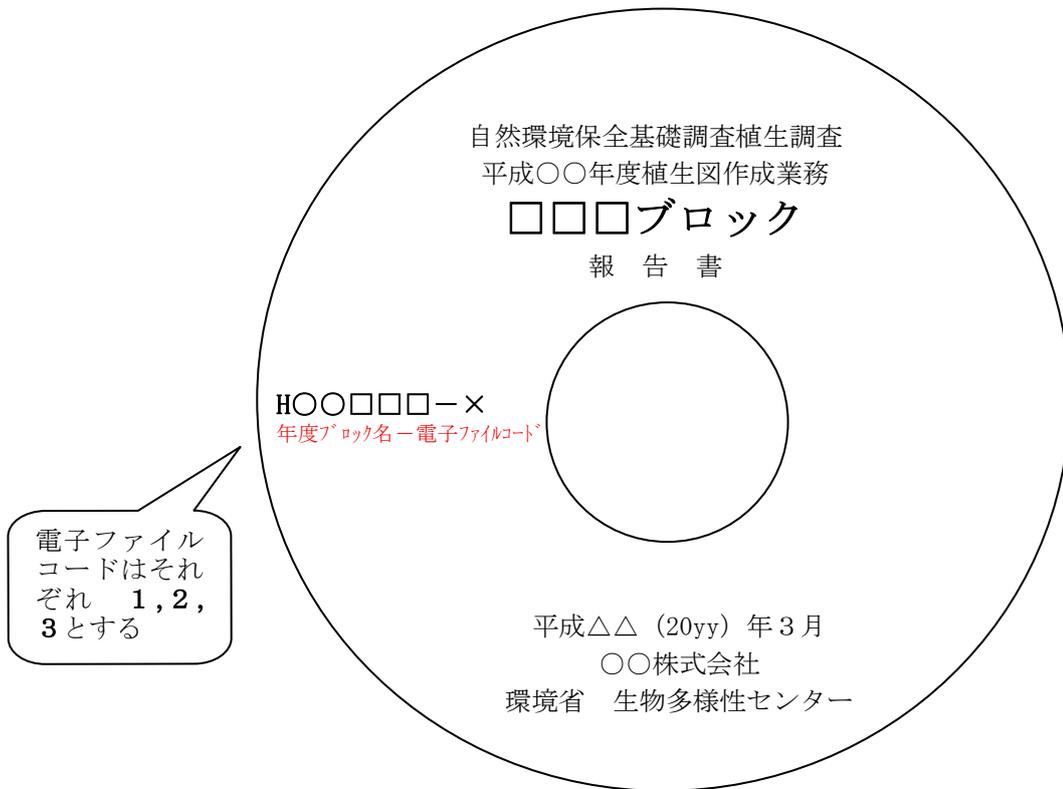
### 3.5.2 電子媒体の表題

格納媒体には電子ファイルコードを付け、以下の項目を印刷する。報告書、植生図 GIS データに秘匿すべき環境省 RL 種が含まれている場合は「環境省 RL 情報あり」という赤ラベルを付ける。

- 事業名称：自然環境保全基礎調査植生調査（例）
- 業務名称：平成〇〇年度植生図作成業務（例）
- ブロック名：□□□ブロック
- 内容（項目）：報告書・植生図 GIS データ・内部管理資料 ※項目が複数 DVD にまたがる場合は、項目名の後に（通し番号／該当項目がまたがる枚数）を表記する。
- ID： ※H〇〇□□□-電子ファイルコード（表 3.1.2）
- 事業年度（納品年月）：平成△△（20yy）年3月
- 受注者名称：〇〇株式会社
- 発注者名称：環境省 生物多様性センター

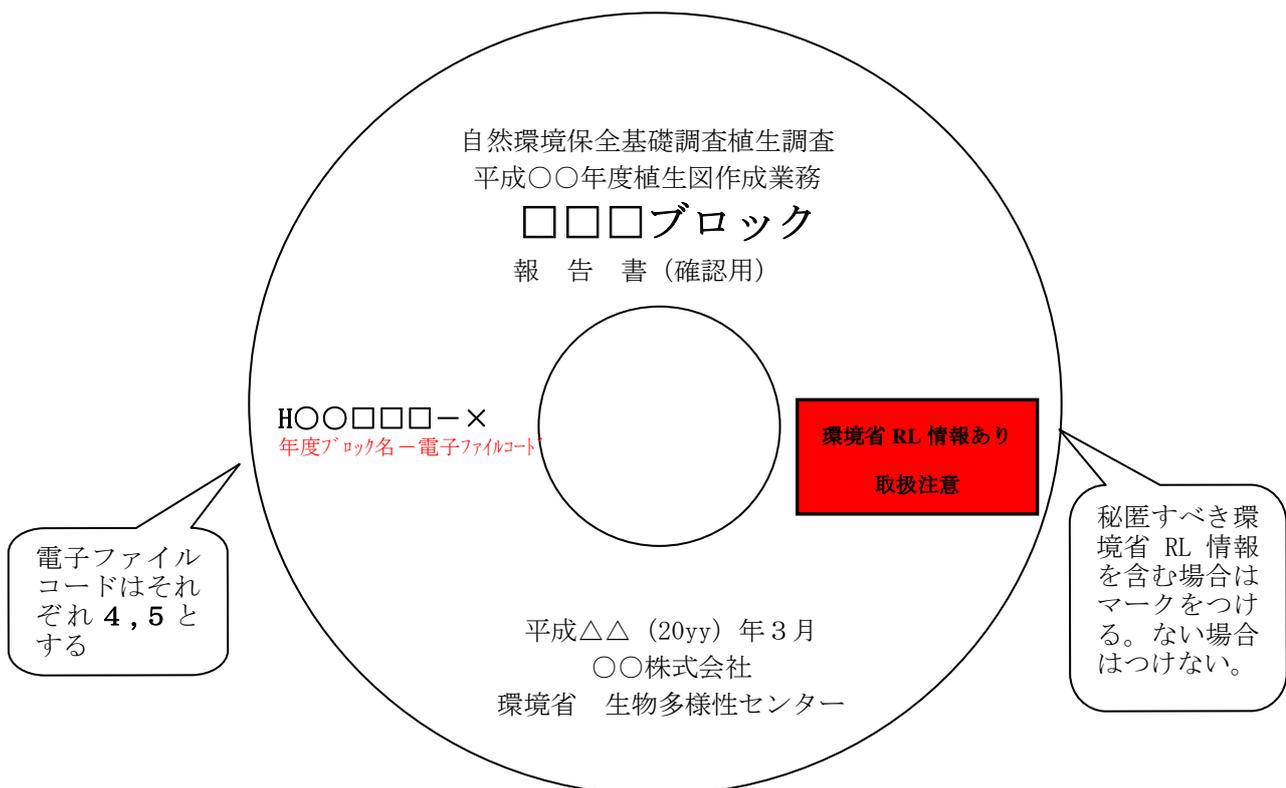
(1) 報告書（公開用）DVD（納品部数3部）

秘匿すべき環境省 RL 情報を含まないブロック用報告書の電子ファイルを格納する。



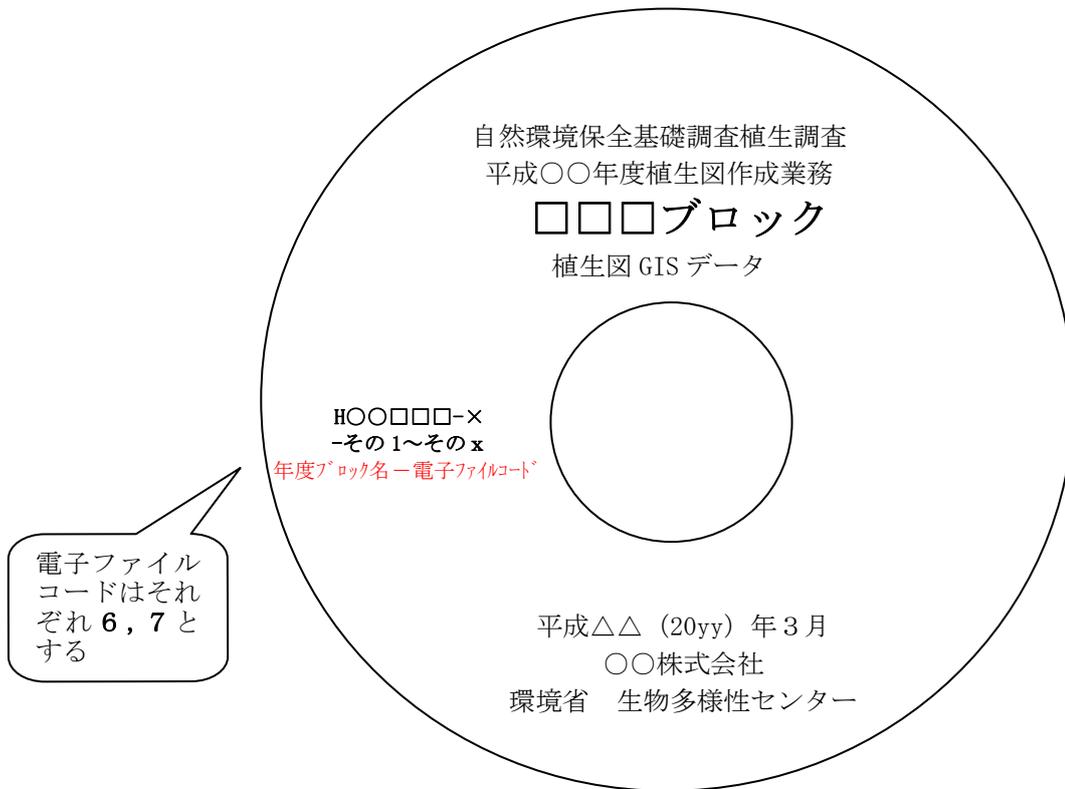
(2) 報告書（確認用）DVD（納品部数2部）

資料編や秘匿すべき環境省 RL 情報を含むブロック用報告書、及びブロック調査会議資料の電子ファイルを格納する。



(3) 植生図 GIS データ（公開用）DVD（納品部数 2 部）

秘匿すべき環境省 RL 情報を含まない植生図 GIS データ・色設定ファイル一式を格納する。



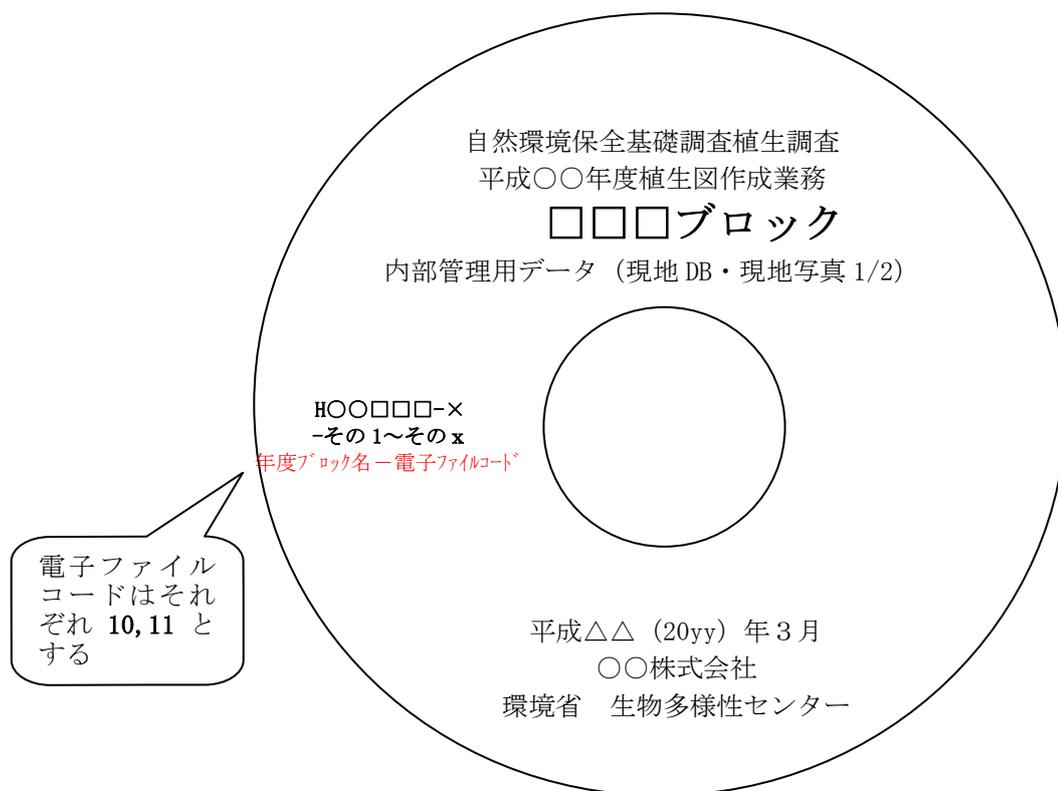
(4) 植生図 GIS データ（環境省 RL あり版）DVD（納品部数 2 部）

秘匿すべき環境省 RL 情報を含む植生図 GIS データ・色設定ファイル一式を格納する。環境省 RL 情報を含む植生図がない場合は不要とし、電子ファイルコードは欠番とする。



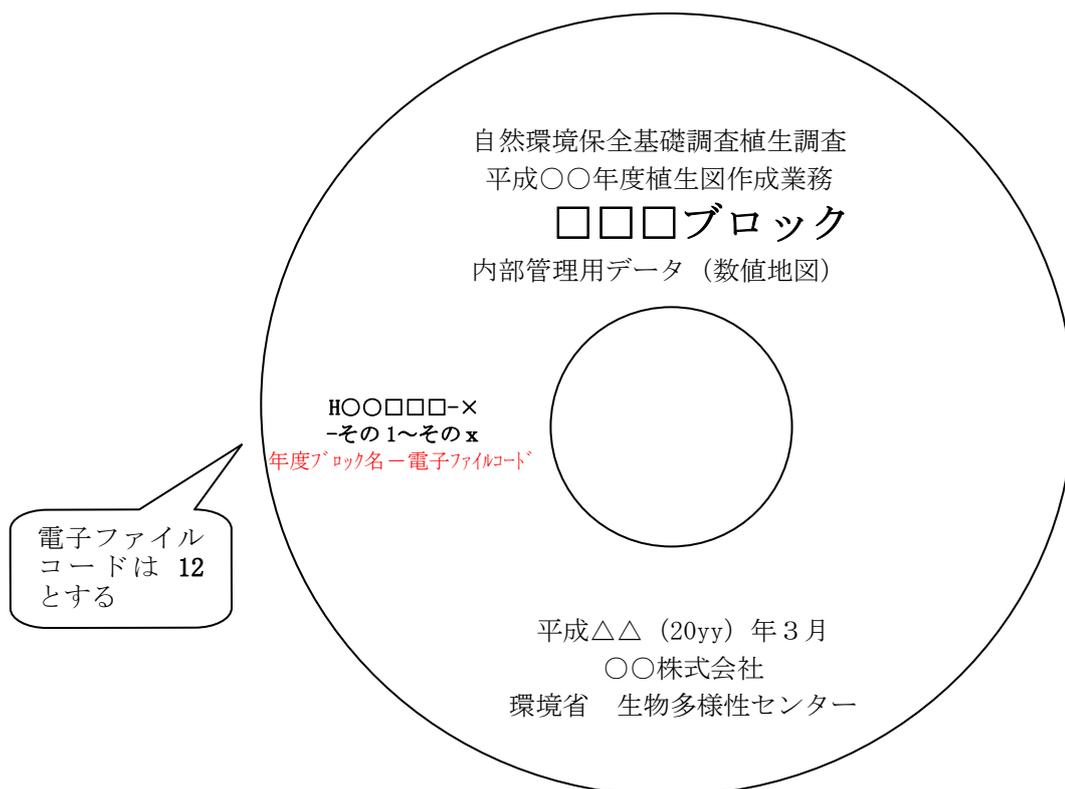
(5) 内部管理用データ DVD (納品部数 2 部)

数値地図以外の内部管理用データを格納する。



(6) 内部管理用データ DVD (納品部数 1 部)

数値地図、デジタルオルソ等の内部管理用データを格納する。



### 3.5.3 DVD の内容

#### (1) DVD の部数

納品する DVD は表 3.1.2 に示す部数とする。

#### (2) フォルダ構成

以下のフォルダに該当ファイルを格納する。

##### <1-1. 報告書公開用>

01 ブロック版報告書

##### <1-2. 報告書確認用>

01 ブロック版報告書

02 ブロック調査会議資料 ※以下のサブフォルダを設定して会議資料(ファイルのみ)を格納する。

第1回ブロック調査会議 ※最終版、pdf またはオリジナルファイル(組成表は必ずオリジナルファイルを入れる。)

第2回ブロック調査会議 ※同上

##### <2-1. 植生図 GIS データ公開用>

04 植生図 GIS データ ※04 植生図 GIS データの下に以下のサブフォルダを設定して格納する。

JGD- shape, jpg ※LOG ファイルは shape のサブフォルダにそれぞれ格納する。

COLOR ※凡例色設定にかかわるレイヤーファイルまたはエクセルファイルを格納する。

##### <2-2. 植生図 GIS データ環境省 RL あり版>

04 植生図 GIS データ ※同上

##### <3-1. 内部管理用データ>

02 現地データ

03 現地写真 ※03 現地写真の下に以下のサブフォルダを設定して格納する。

2次メッシュコード(半角数字6桁)\_(半角アンダーバー)図葉名

05 内部管理用データ ※ブロック調査会議議事録(オリジナル)、空中写真台帳、その他作業用 shape ファイル

06 CHM

07 過年度植生図修正案 jpg、修正した過年度植生図 GIS データ

##### <3-2. 内部管理用データ(数値地図等)>

08 数値地図 ※背景図として使用したファイルを格納する。

09 デジタルオルソ(任意) ※空中写真コード、コース、番号等をファイル名または別添の対応表で示す。

#### (3) 電子ファイル 報告書ファイル等

ファイルは原則としてフィルタをとっても当該ブロックのみが表示されるものとする。ファイル名は原則として年度、ブロック名、図表番号、図表名を組み合わせる。

ファイル名: 年度(西暦年4桁半角数字)\_(半角アンダーバー)ブロック名\_図表名等.xls

・例: 20xx\_北海道\_表 3-1 組成調査一覧表.xls

・例: 20xx\_北海道\_現地写真リスト.xls

**(4) 植生図 GIS データ**

「04 植生図 GIS データ」に JGD, COLOR のサブフォルダを設定し、関連ファイル一式を格納する。JGD には shape, jpg を設ける。

**(5) 現地写真ファイル等**

現地写真は、内部管理用のフォルダ「03 現地写真」に、サブフォルダとして2次メッシュコード\_図幅名等を設け、該当する現地写真（jpg ファイル）を格納する。

**(6) クリアリングハウスメカニズムのメタデータ**

クリアリングハウスメカニズム（CHM）のメタデータは全体が含まれる範囲（右上ー右下等の4点）を登録する。登録番号は未記入でよい。

<3-1. 内部管理用データ>に 06 CHM のフォルダを設け、メタデータを格納する。

**(7) 参照画像等**

公開されていない画像を主判読画像とした場合、納品可能な画像は電子ファイルまたは画像出力図を納める。参照画像出力図は、1面を左右に分けて A3 に縮尺 1/2.5 万で印刷し、冒頭に画像一覧図及び撮影時期一覧図をつけ、A3 フォルダに収録する。

なお、Web で公開されている「[地図・空中写真閲覧サービス](#)」や Google, Yahoo, BingMap 等の画像を参照した場合は納品の対象外とする。

### 3.6 空中写真等

使用した空中写真、標定図、収録アルバム別写真リスト等を空中写真アルバムに整理し納品する。

#### 3.6.1 空中写真に関わる成果品の構成

##### (1) 空中写真に関わる成果品とは

空中写真アルバムに関わる成果品は、以下の2点で構成される（図 3.6.1）。これらの成果品の構成の概要を図 3.6.2 に示す。

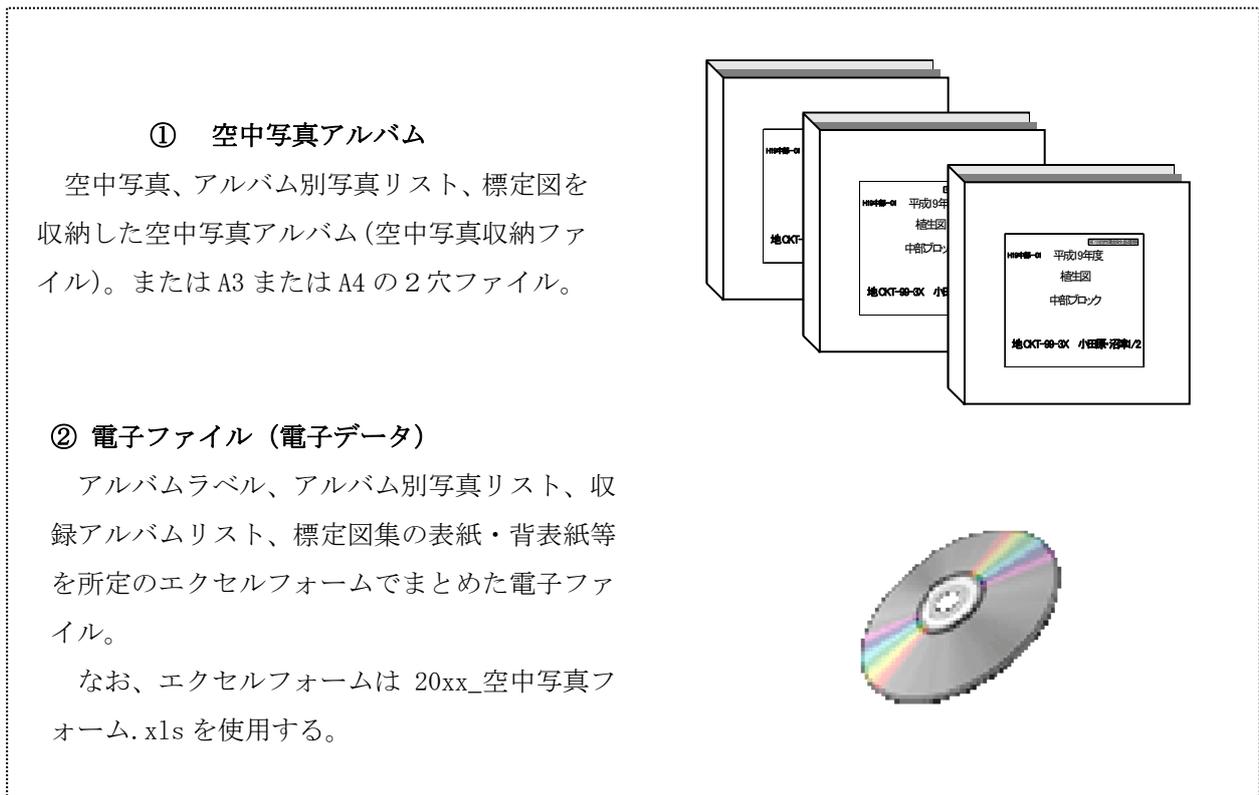


図 3.6.1 成果品

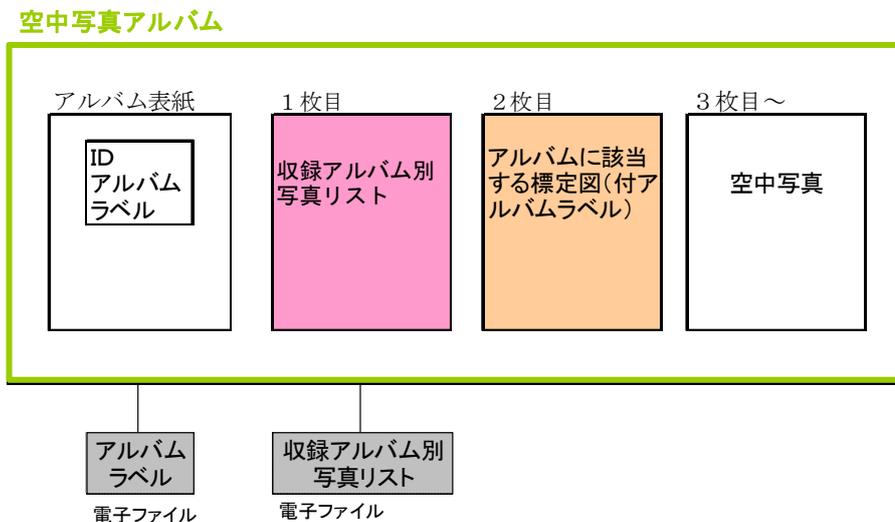


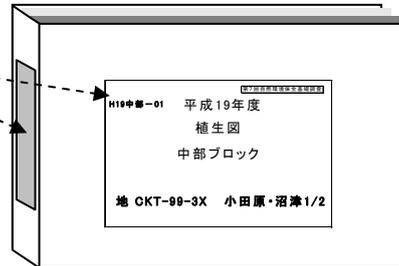
図 3.6.2 空中写真に関わる成果品構成の概要

## (2) 空中写真アルバムの構成

1冊の空中写真アルバムには表紙のラベルを貼り、標定図、空中写真及びアルバム別写真リストを収録する。

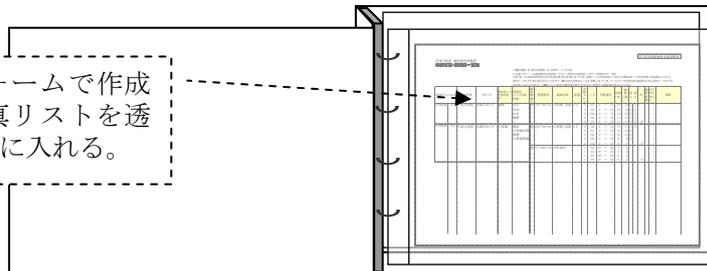
### 1) アルバム表紙・背表紙

所定のエクセルフォームで作成したラベルを貼る



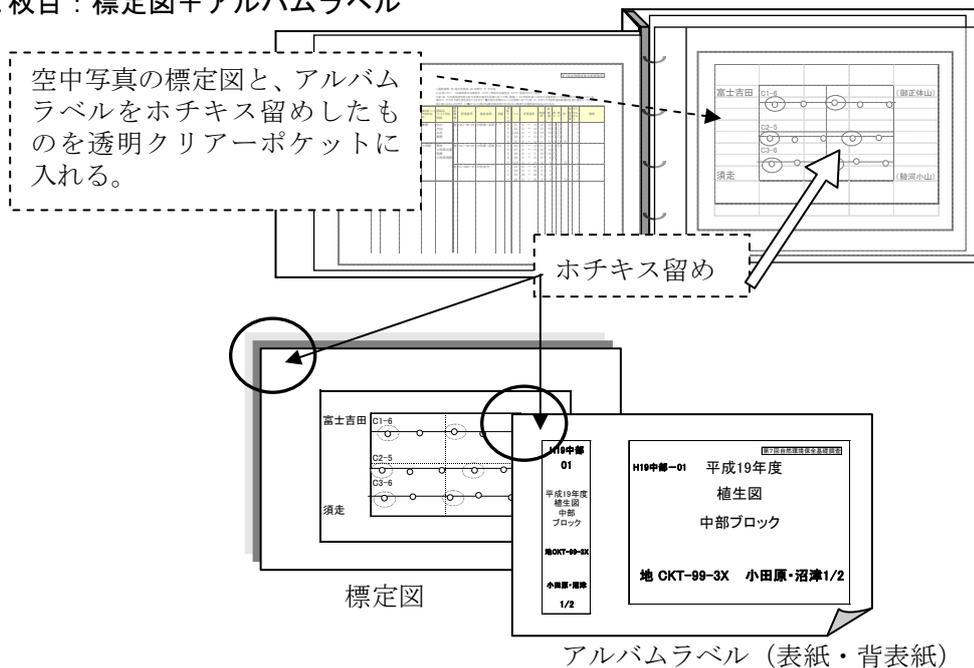
### 2) 1枚目：アルバム別写真リスト

所定のエクセルフォームで作成したアルバム別写真リストを透明クリアポケットに入れる。



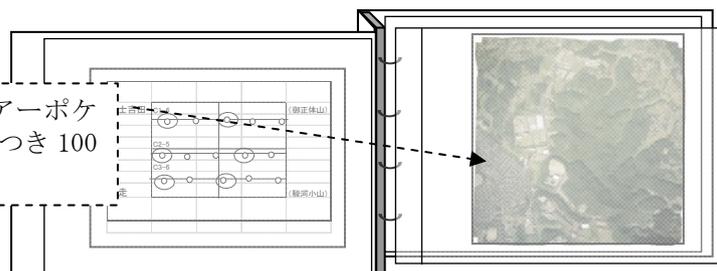
### 3) 2枚目：標定図+アルバムラベル

空中写真の標定図と、アルバムラベルをホチキス留めしたものを透明クリアポケットに入れる。



### 4) 3枚目以降：空中写真

空中写真を透明クリアポケットに入れる。1冊につき100枚程度収容可能。



### 3.6.2 空中写真アルバムの整理

#### (1) アルバム単位の決定

空中写真は原則として年度別法人別、ブロック別、撮影地区別にまとめ、コース、番号の若い順に整理する。

ブロックの撮影地区別の枚数によって、各アルバムに収録する撮影地区を決定し、年度ブロック単位で連番をふり、アルバム ID を設定する。1つの撮影地区が2つ以上のアルバムに分かれる場合、また1つのアルバムに2つ以上の撮影地区を収録する場合は特に留意する。アルバム単位はアルバム一覧表にまとめる（表 3.6.1）。

表 3.6.1 アルバム一覧表（例）

収録アルバムID		作成年度	図の区別	ブロック	撮影 機関	整理番号	撮影地区	枝番
H24中部	01	平成24年度	植生図	中部ブロック(2/2)	地	CKT-99-3X	小田原・沼津	1/2
H24中部	02	平成24年度	植生図	中部ブロック(2/2)	地	CKT-99-3X、KT-2001-2Y	小田原・沼津2/2、大月地方	2/2

#### (2) アルバムへの収録

アルバムに収録する空中写真については、以下のことに留意する。

##### 【空中写真収録の留意点】

- 空中写真はアルバム別（ブロック別、撮影地区別）にまとめ、コース、番号の若い順に並べる。
- アルバムの台紙には、写真を3枚以上入れない。
- コースごとに写真の上下を揃える。
- コースが変わるところにインデックスをつける。「C1 1～10」のように書く。
- 補助写真は撮影範囲の該当する写真の近くに入れる。枚数が多い場合はまとめて収納してもよい。
- 補助的に使った写真の標定図は、その写真が収録されている直前に入れてもよい。

### (3) アルバムラベルの作成

アルバムラベル（表紙、背表紙）は所定のエクセルフォームを用いて作成する。1部を表紙・背表紙として切り抜いて使用し、1部を標定図に添付する。

アルバムラベルには表 3.6.2 の諸元を記入する。年度別法人別の連番をふり、アルバムIDとする。アルバム名は収録写真の撮影地区とする。アルバムラベル例を図 3.6.3 に示す。

表 3.6.2 アルバムラベルの諸元

項目	例	注
収録アルバムID	H25 中部-01	年度ブロッカー連番(01 から)
作成年度	平成 27 年度	
図の区別	植生図	
ブロック	北海道	
撮影機関	地/林/そ	地:国土地理院 林:林野庁 そ:その他
整理番号	HO-02-1X	
撮影地区	岩見沢	“地区”は不要
枝番	1/4	1つの撮影地区が2つ以上のアルバムにわたる場合は、“連番/全体の数”として示す。「その1」などは不可。
撮影機関	地/林/そ	1つのアルバムに2つ以上の撮影地区を収納する場合は、全ての撮影地区を示す。
整理番号	HO-02-2X	同上
撮影地区	帯広	同上

#### \*\*留意点

- 表紙ラベルには撮影地区を原則として全て記入する。ただし、補助写真の枚数が少ない場合は除いてもよい。
- 背表紙ラベルに撮影地区が書ききれない場合は代表的なものにする。

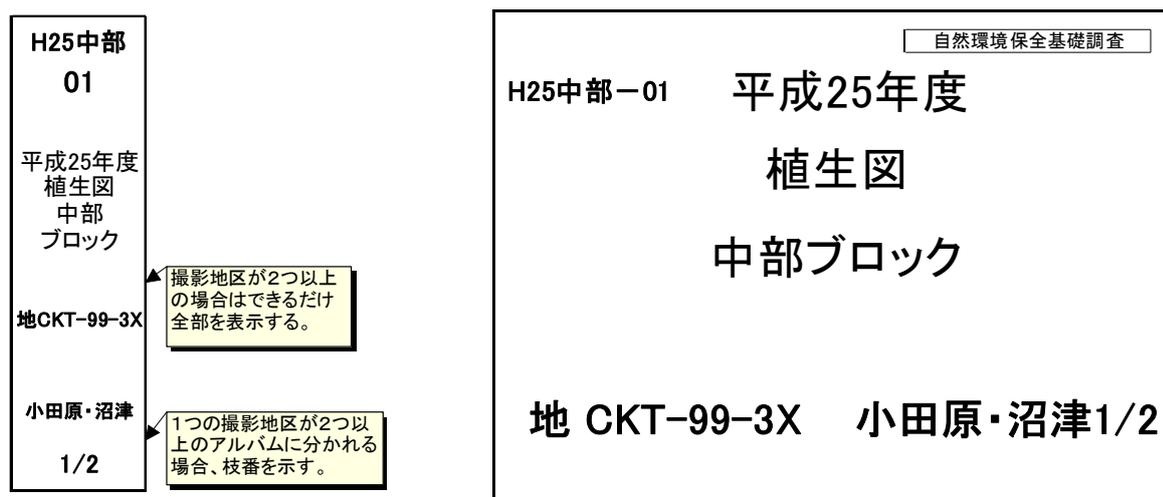


図 3.6.3 アルバムラベル（例）

#### (4) アルバム別写真リストの作成

アルバム別写真リストを所定のエクセルフォームを用いて作成する。作成例を表 3.6.3 に示す。

表 3.6.3 アルバム別写真リスト (例)

自然環境保全基礎調査																			
収録アルバムID	作成年度	ブロック	標定図(1/5万地形図名)	図幅名(1/2.5万地形図)	撮影機関1)	整理番号	撮影地区	枝番	白黒/カラー	コース	写真番号	枚数(式)	枚数(値)	前後3)	計	補助写真	デジタル	備考	
H25中部 O1	平成25年度	中部ブロック	秦野	中川 大山 山北 秦野	地	CKT-99-3X	小田原・沼津	1/2	3	C1	2 ~ 13	12	12	○	61			1	
									3	C2	2 ~ 14	13	13	○					1
									3	C3A	2 ~ 15	14	14	○					1
									3	C4	2 ~ 12	11	11	○					1
									3	C5	2 ~ 12	11	11	○					1
H25中部 O2	平成25年度	中部ブロック	小田原	関本 小田原北部 箱根 小田原南部	地	CKT-99-3X	小田原・沼津	2/2	3	C6	2 ~ 12	11	11	○	51			1	
									3	C7	2 ~ 13	12	12	○					1
									3	C8	2 ~ 11	10	10	○					1
									3	C9	2 ~ 10	9	9	○					1
									3	C10	2 ~ 10	9	9	○					1
									1	C3	21 ~ 23	3	3						1
1	C4	21 ~ 23	3	3		1													
1	C5	20 ~ 22	3	3		1													
1	C6	21 ~ 23	3	3		12													

アルバムに収録した写真に対する標定図と1/2.5万地形図との対応。行が足りない場合は下に追加する。同じ行の写真との対応ではないので注意。

1)撮影機関 地:国土地理院 林:林野庁 その他  
2)白黒・カラー 1:白黒原版の白黒焼き 2:カラー原版の白黒焼き 3:カラー原版のカラー焼  
3前・後 ○は実体視可能な空中写真の番号を昇順に並べた時、図幅(1/2.5万地形図)に対応する標定図(1/5万地形図)の範囲外にわたる場合に、それぞれ前と後を含むことを示す。●は空中写真のコースを昇順に並べた時、コースが1/5万地形図の範囲外を含む場合に、それぞれ前と後になることを示す。○●がついた場合は標定図の列に示されない隣接する標定図があることになる。

### 3.6.3 標定図の整理

#### (1) 標定図への記入

標定図への記入例を図 3.6.4 に示す。

標定図は A4 版とし、1/2.5 万地形図の図郭線と地形図名を記入する（手書きまたはシール貼り付け）。たとえば、標定図が 1/5 万の場合は 4 分割線を入れ、4 隅に 1/2.5 万地形図名を入れる。標定図に記入した地形図名が整備地域に該当しない場合は、地形図名に（ ）を付ける。

標定図上で、アルバムに収録した空中写真のコースごとに、番号の端と端を○で囲む。標定図のコース別に左端の○印から右端の○印までの写真を収録したことを示す。

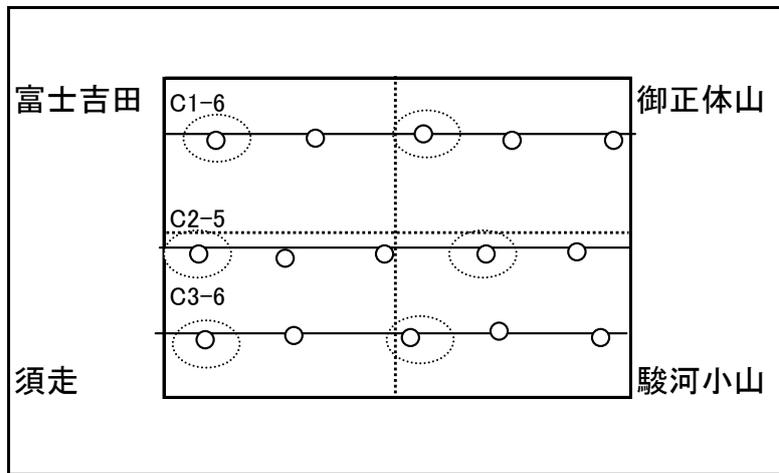


図 3.6.4 標定図の記入例

## (2) アルバムへの収録

アルバムごとの標定図の先頭にアルバムラベルをつける。

左上をホチキス留めし、アルバムの巻頭2枚目に収録する。

なお、撮影地区が2つ以上のアルバムにわたる場合、原則としてアルバムごとに標定図を添付する。

### 3.7 電子ファイル

ファイルは以下の一式をエクセルのシート別にまとめ、ファイル名を「20xx\_北海道\_空中写真.xls」のようにつけ、ブロック別に内部管理用データとして格納する。

- (1) アルバムラベル
- (2) 収録アルバム別写真リスト
- (3) 収録アルバムリスト：アルバム1冊につき1行のアルバム名のリスト

## 資料編

- 資料 1 全国レベルの精度基準
- 資料 2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き
- 資料 3 環境省統一凡例一覧
- 資料 4 山岳地調査の手引き



## 全国レベルの精度基準

### ◆植生図の精度を向上させるポイント

#### 1. 植生学の基礎的な知見と現地調査結果の反映に関する事項

- 植生の水平的、垂直的な分布パターンを正しく認識し、図化が行われているか。
- 地形の構成や微地形の配列に基づく植生配分を正しく図化しているか。
- 自然植生と代償植生の区別が正しく行われているか。
- 特殊な立地における植生や希少な群落が漏れなく図化されているか。
- 伐採地など、土地利用に従った凡例を正しく適用しているか。

#### 2. 画像判読と図化技術に関する事項

- 判読画像から正しく植生の内容を判読して図化しているか。
- 植生の区分線の位置精度が正確か。
- 植生ポリゴンの粗密さに偏りがなく、適切な抽出面積が保たれているか。
- GIS 入力線と地形図にずれがないか (判読結果を地形図に移写する際に移写ずれがないか)

### ◆位置精度

地形図の位置を正、尾根・谷・海岸のズレの許容度は25m未満とする(図1)。特に、オルソ画像上等で判読した判読線を地形図と重ね合わせる作業がある場合は、細部にわたって精査し、ズレが生じていた場合は修正入力する。

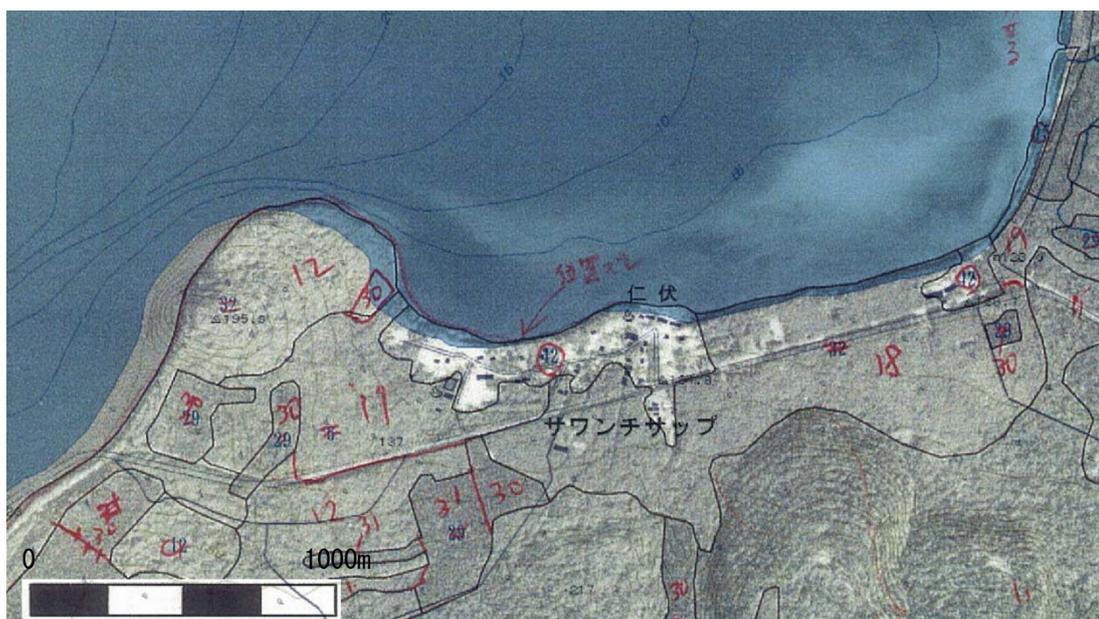


図1 地形図と海岸線がずれている例

◆群落の最小取得面積：

群落の最小取得面積は、1 ha とする。ただし自然植生は必要に応じて1 ha より細かいものも抽出してよい。(図2)

原則として最小取得面積は1 ha (縮尺1/2.5 万万地形図上で4 mm×4 mm) とする。ただし、写真判読時点で既存資料などから稀少な植生等と判断できる場合は、1 ha 未満であっても、625 m<sup>2</sup> (縮尺1/2.5 万地形図上で1 mm×1 mm) を限度として、空中写真および地形図上に表示する。

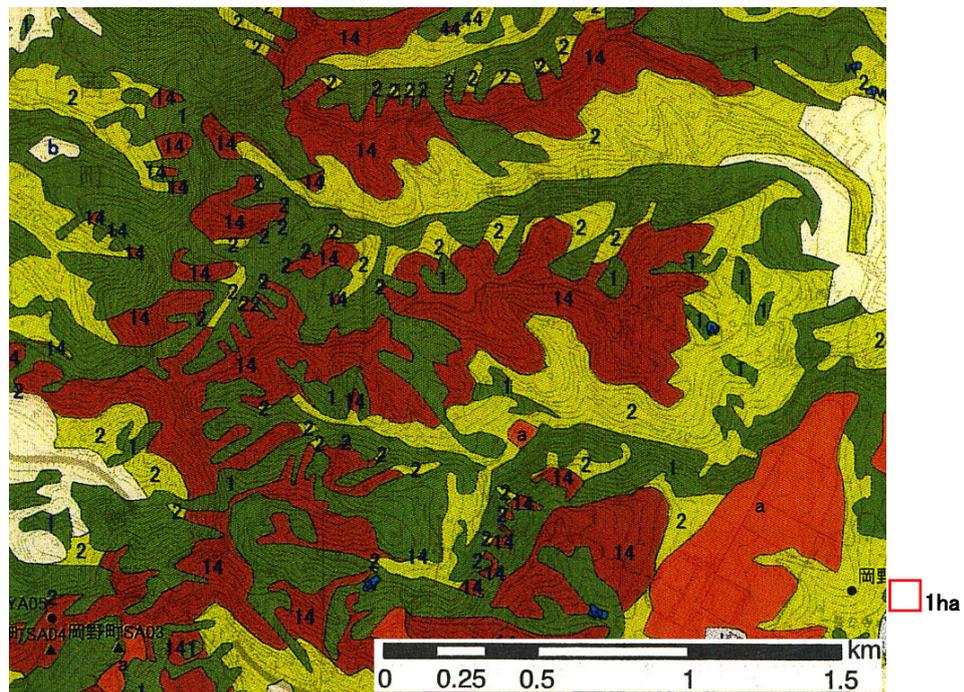


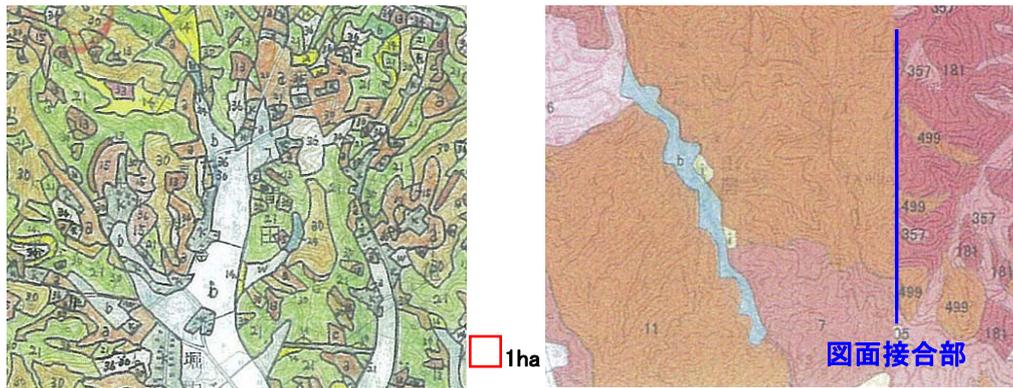
図2 最小取得面積が小さい例

◆精度が低いと判断する基準

- ポリゴンが細かすぎる・粗すぎる（写真によって異なる場合はブロックで検討）、作成者により精粗の差が著しいもの（図3）
- 特殊立地の植生で地形との対応がまちがっているもの（図4）
- 植生パターンが全くわからないもの（図5）
- 判別しやすい凡例がまちがっているもの（図6、7）
- GIS データが粗いもの（図8）
- ポリゴンの凹凸が細かすぎるもの（図9）
- 雲影、山影を植生と見誤っているもの
- 地形形状や植生学の知見が生かされていないもの（図10）

その他

- 小面積混在型のパッチを代表させる方法（図11）



ポリゴンが細かすぎる例  
代償植生 1ha 未満のポリゴンを抽出しすぎている。

ポリゴンが粗すぎる例  
1ha ポリゴンの抽出が粗く（青ライン左側）隣接図と不整合が起きている。

図3 ポリゴンが細かすぎる・粗すぎる例

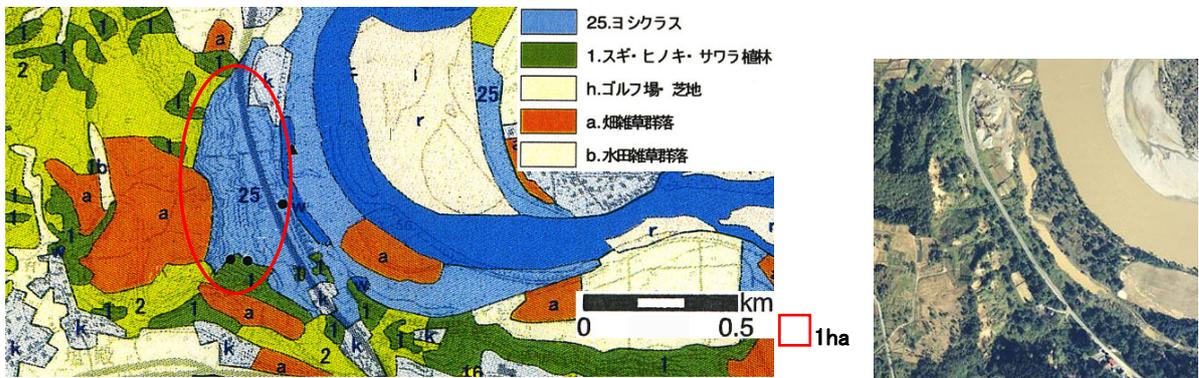


図4 特殊立地と地形との対応がまちがっている例

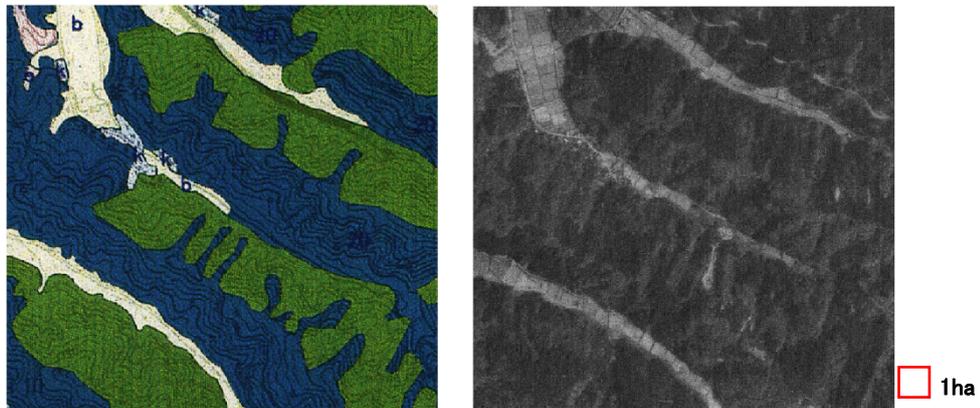


図5 抽出精度が粗く、空中写真で見える植生パターンが反映されていない例



図6 判別しやすい凡例がまちがっている例

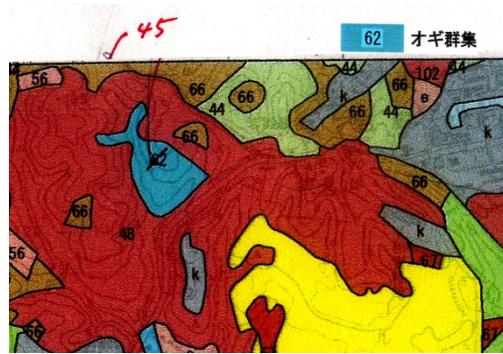


図7 誤った凡例が記入されている例

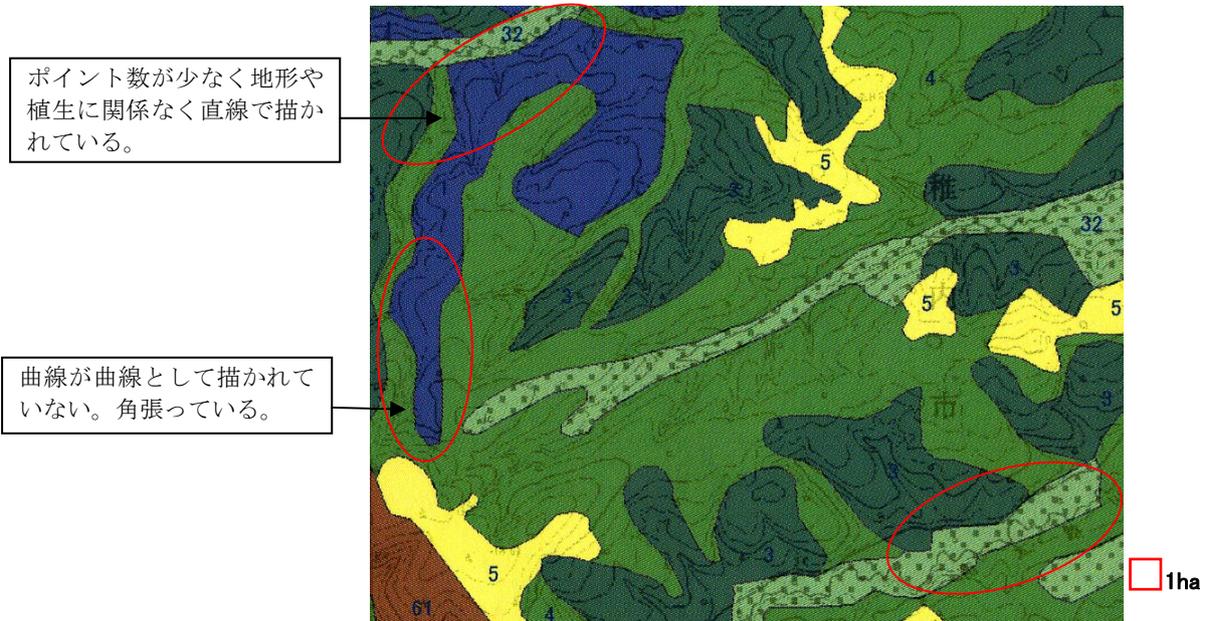
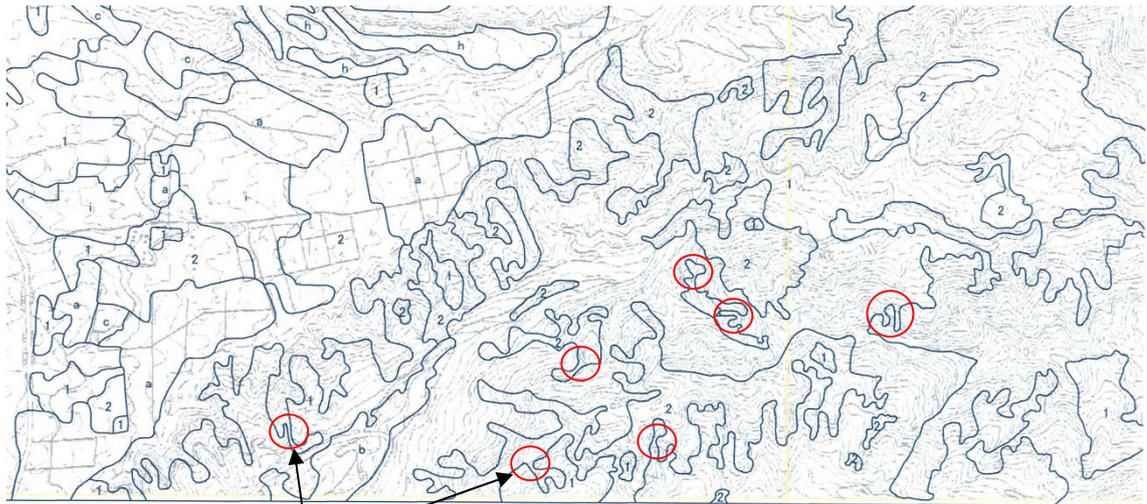


図8 GISデータが粗い例



細長いポリゴンや湾曲しているポリゴンのくびれの幅が狭すぎて、1mm 以下になっている

【注意】ディスプレイ上でオルソ画像等を拡大しすぎると、樹冠投影図に近いような、細かい判読線をとってしまう。判読線を入力する工程では、作業者全体でスケールを統一し、なめらかな判読線をひくことを心がける。

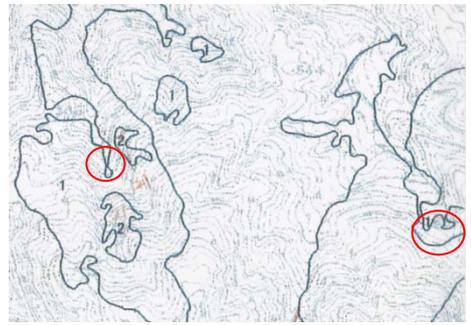
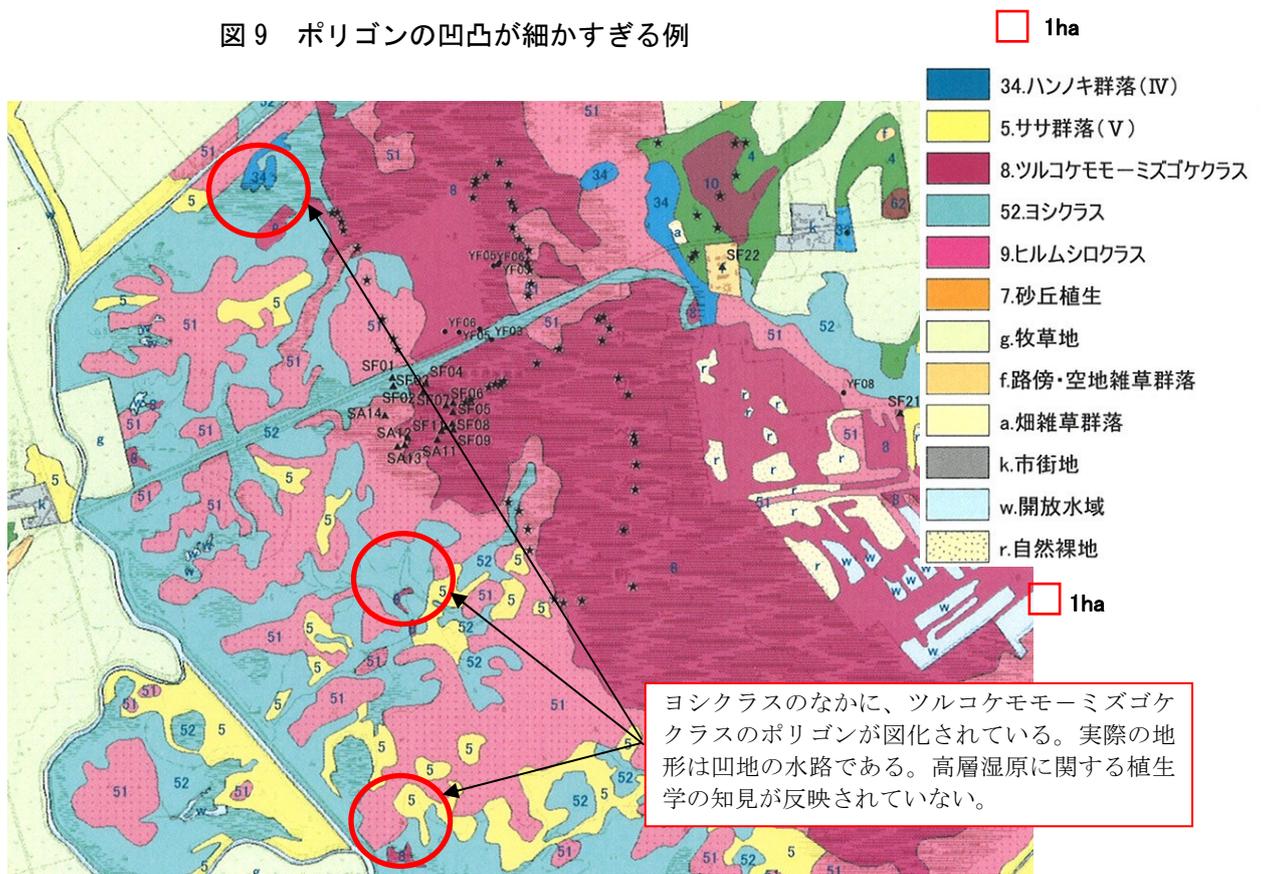


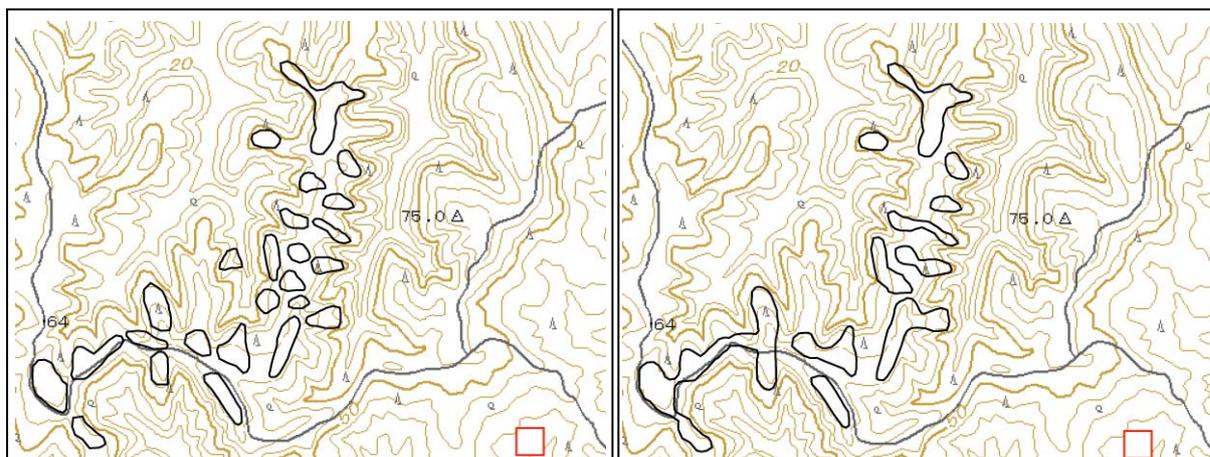
図9 ポリゴンの凹凸が細かすぎる例



ヨシクラスのなかに、ツルコケモームズゴケクラスのポリゴンが図化されている。実際の地形は凹地の水路である。高層湿原に関する植生学の知見が反映されていない。

図10 地形形状や植生学の知見が生かされていない例

小面積混在型のパッチを代表させる方法（全体として地域の植生パターンが示されればよい）  
（図 11）



実際のポリゴン配置

空中写真または地形図上への表記

図 11 小面積混在型のパッチを代表させる方法



580700

r (自然裸地)

(概要)

・露岩地、崩壊地、河原、砂浜等の、自然的条件によって植被で覆われていない土地。

(相観)

・岩石、砂礫等が一面を覆い、写真上では、明るい白色を呈する。  
・「特殊立地の植生」(砂丘植生、海岸断崖地植生、河川敷砂礫地植生等)を含む場合があるが、写真情報ではわかりにくい。

(類似凡例の区別点、区分のポイント等)

・荒廃裸地等で緑化のための植栽が行われている場合は、植被率、植生高にかかわらず植林地として区分する。  
・人工的に切り崩された不自然な地形を有する採石場と区別する。  
・地形や周辺の土地利用状況等から判断する。

(立地)

・上記(概要)と同じ。



崩壊地



砂浜



露岩地



河原

・写真上には区分記号を記入する。区分線は必要に応じて表記する。

・写真情報および既存資料から、1ha未満であっても、特殊立地の植生を含む可能性がある箇所は写真上に注記する。

・河原、砂浜、露岩地等は自然性の草地(河原の自然草原、砂丘植生等)を小規模で含んでいる場合がある。しかし、写真条件(撮影時期と縮尺)によって、これらの「特殊立地の植生」が写真情報では識別できないことが多い。既存資料等により、特殊立地の植生がありそうな場合は、現地調査の必要な箇所として写真上に注記する。

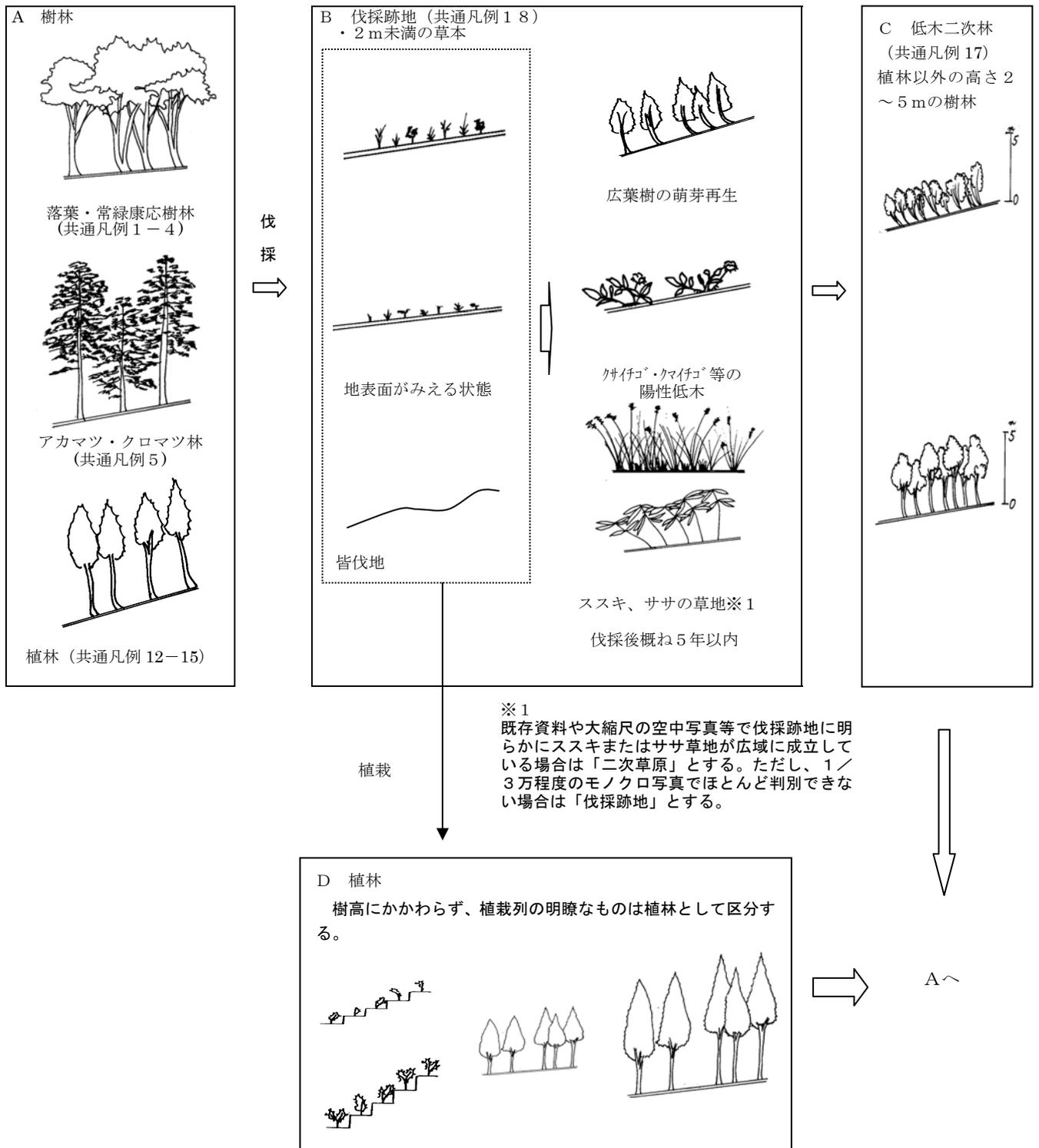
(判読対象Ⅱ)

※判読対象Ⅱとは、植林、竹林、低木二次林、伐採跡地を指す

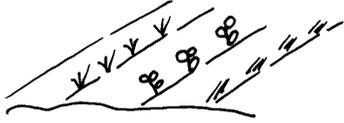
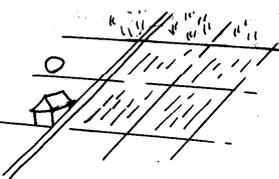
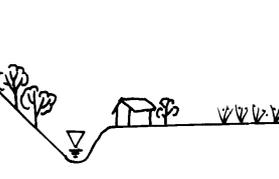
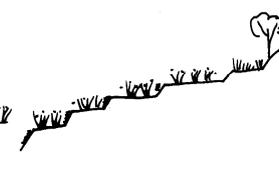
区分記号 (凡例)	内 容	備 考
100000, 260000, 460000 伐採跡地	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林の伐採後、概ね5年以内に形成される草本群落または高さ1～2m程度の低木群落。</li> <li>・ 伐採跡地で植栽列が識別できないもの。皆伐地。</li> </ul> <p>(相観)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高さ2m未満の草地または広葉樹低木林。</li> <li>・ 空中写真上では、周りを植林に囲まれ、地表面が全面または部分的に露出しているか、または肌理の細かな背の低い植生が地表を覆っている。</li> <li>・ 山地の斜面で、樹木がなく周辺の樹林地より明るい感じがする。</li> </ul> <p>(類似凡例の区別点、区分のポイント等) ※別紙-2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 植生高約2m以上(5m未満)の低木群落は、「低木二次林」として区分する。</li> <li>・ 写真判読で、ススキ等の禾本科草本類またはササ類が識別できる優占する場合は「二次草原」として区分してもよいが、小縮尺の写真情報では判別が困難である。</li> <li>・ 原則として、写真上で明らかに植栽列が識別できる場合は、それらの高さ、植被率にかかわらず「植林地」とする。例えば、新植後、下草刈り等の手入れがされておらず、陽性低木あるいはススキ等が優占的に覆っていても、植栽列が認められるのであれば植林地とする。</li> <li>・ 樹高にかかわらず、植栽列が明瞭に識別できる場合は植林として区分する。</li> </ul> <p>(立地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山地、丘陵地の植林地に隣接することが多く、平地では少ない。</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>伐採直後 (皆伐地)      草本類      陽性木本類      萌芽再生 ※次ページ参照</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて区分記号と区分線を写真に表記する。</li> </ul>

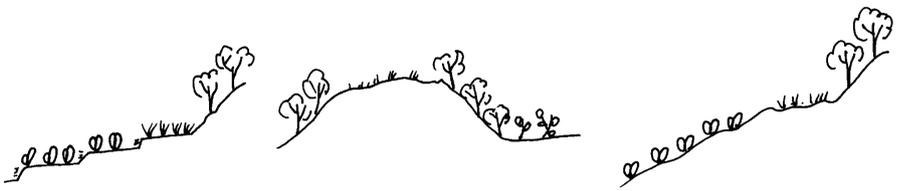
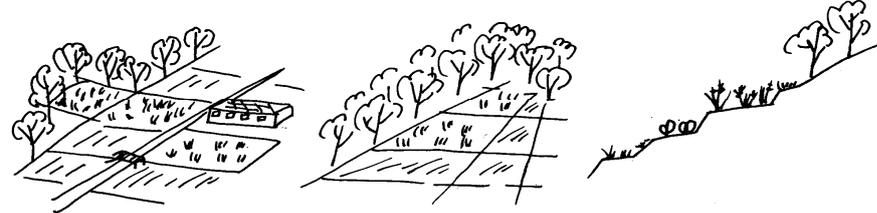
■ 伐採に関わる判読区分の相互関係

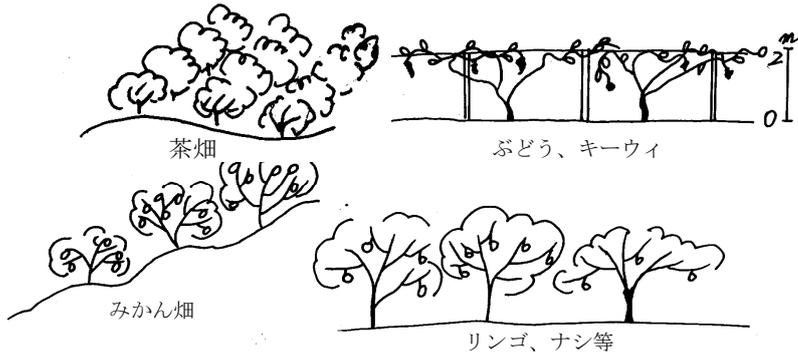
これらの区分は、遷移系列上で時間的に近接しており、実際の群落の中身は交錯している。また、伐採跡地や新植地は、時間差や管理の度合いで優占する中身が異なってくる。

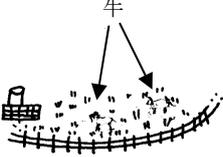
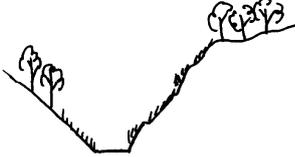
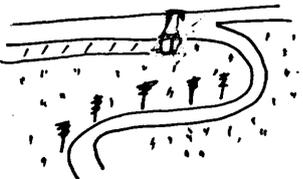


(判読対象Ⅲ)

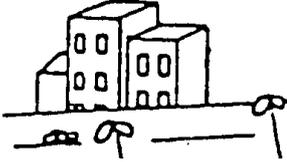
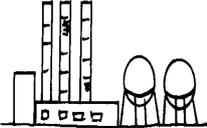
区分記号 (凡例)	内 容	備 考
570300 a (畑)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 陸稲、麦、野菜等の畑作物を栽培している耕作地。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不整形の区画が明瞭で、栽培作物の緻密な筋、列を有する高さ2m未満の栽培草地。</li> <li>・ 区画は平坦または緩やかな傾斜を有し、区画の規模は小さい場合が多い。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不整形の「水田」は、季節によっては、畑と似た相観を示すが、畦や用水路の有無、地形状況等から判断する。</li> <li>・ 周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「放棄畑」と区別する。</li> <li>・ 地形図記号(荒地等)を参考にして「放棄畑」等と区分する。ただし、写真の撮影時期と地形図の作製・修正年次に留意すること。</li> <li>・ 都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周囲の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。</li> <li>・ 畑地は、住宅地や水田等と混在する機会が多いが、1～3haの小規模なものは隣接する区分に含める。</li> <li>・ ビニールハウス、温室等は、地図記号を参考にして畑とする。</li> <li>・ 沖縄の「サトウキビ畑」「パイナップル畑」もここに含める。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。</li> <li>・ 平地部に多いが、山地～丘陵地の谷底底地や山腹斜面にも分布する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>畑 (野菜、麦等)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ビニールハウス</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>
570400 b (水田)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 水稻、い草、蓮等を栽培している耕作地。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 縦断に走る水路や畦で区画され、区画内は水平、均一な色調を示す。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「畑」は、水田と似た相観を示すが、畦や用水路の有無、地形状況等から判断する。</li> <li>・ 周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「放棄畑」と区別する。</li> <li>・ 写真情報のほか、地形図記号(荒地等)を参考にして「放棄畑」等と区分する。ただし、写真の撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。</li> <li>・ 都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周囲の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。</li> <li>・ 水田は、住宅地や畑等と混在する場合もあるが、1～3haの小規模なものは隣接する区分に含める。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖積平地に広く分布する。丘陵地～山地においても、谷底平地や山腹斜面(棚田)に分布する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>沖積平地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>谷底平地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>棚田</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>

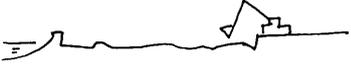
<p>570101 c (放棄畑)</p>	<p><u>(概要)</u> ・畑の放棄後に成立する植生高2m未満の草本群落。</p> <p><u>(相観)</u> ・畑の形状を残した高さ2m未満の草地。 ・空中写真上では、不整形の区画が明瞭で、作物を栽培している筋が明瞭にみえない。 ・周辺の利用されている畑よりも荒れた感じがする。</p> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u> ・一面に草本類がやや不均一に覆っている。 ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「畑」と区別する。 ・地形図記号(荒地地等)を参考にして「畑」等と区分する。写真の撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。 ・放棄畑は、作物が栽培されている畑に隣接するが多い。写真上で、明らかに利用されている畑との被覆状況を比較すると区別しやすい。 ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。 ・「放棄水田」は、写真上で似た相観を示すが、用水路の有無や周囲の土地利用状況から判断する。 ・畑の放棄後、一時的にススキ草が成立する場合がある。既存資料や現地確認等によって耕地跡に明らかにススキ草が成立していると判断された場合は「二次草原」とする。 ・放棄後の年数が長いと、「低木二次林」へと遷移する。</p> <p><u>(立地)</u> ・平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。 ・畑と隣接することが多い。</p> <div style="text-align: center;">  <p>段々畑の放棄畑                      台地の放棄畑                      斜面の放棄畑</p> </div>	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>
<p>570500 d (放棄水田)</p>	<p><u>(概要)</u> ・水田の放棄後に成立する植生高2m未満の草本群落。</p> <p><u>(相観)</u> ・水田の形状を残した高さ2m未満の草地。 ・空中写真上では、畦や水路で囲まれた区画が明瞭で、稲作、稲刈り跡の均一な筋が明瞭にみえない。一面に草本類がやや不均一に覆っている。 ・利用されている周辺の水田より荒れた感じがする。</p> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u> ・一面に草本類がやや不均一に覆っている。 ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「水田」と区別する。 ・地形図記号(荒地地等)を参考にして「水田」等と区分する。写真の撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。 ・放棄水田は、稲作を行っている水田に隣接するが多い。写真上で、明らかに利用されている水田との被覆状況を比較すると区別しやすい。 ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。 ・「放棄畑」は、写真上で似た相観を示すが、用水路・畦の有無や周囲の土地利用状況から判断する。 ・水田の放棄後、ヨシ群落が成立する場合がある。既存資料や現地確認等によって水田跡地に明らかにヨシが優占すると判断された場合はヨシクラスとする。 ・放棄後の年数が長いとハンノキ等の湿地性の木本類が侵入し、「低木二次林」、「落葉広葉樹林・樹冠小」へと遷移する。</p> <p><u>(立地)</u> ・沖積平地に多いが、山地、丘陵地の谷底低地の山際等にも小面積で分布する。 ・水田と隣接することが多い。</p> <div style="text-align: center;">  <p>沖積平地の放棄水田                      谷地の放棄水田                      斜面の放棄水田</p> </div>	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>

<p>570200 e (果樹園・茶畑)</p> <p>570201 e1 (茶畑)</p> <p>570202 e2 (常緑果樹園)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね2m以上の果樹(林檎、梨、葡萄、桃、蜜柑等)が栽培されている樹園地、または茶畑。そのほか、桑畑、苗木畑もここに含める。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空中写真上では、区画の形状が明瞭で、果樹または茶畑の規則的な配列が明瞭である。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>山地斜面等には長期間放棄され、低木類が入っている場合がある。栽培種以外の低木類が50%以上で優占する箇所は「低木二次林」とする。</li> <li>植栽され管理下にある栗園は果樹園とする。</li> <li>地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域によって果樹の種類や規模、立地は様々である。</li> </ul> <p><u>(細分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域によって茶畑、常緑果樹園を細分する。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>
<p>570100 f (路傍・空地雑草群落)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市とその周辺域の空地や造成地に成立する高さ概ね1m未満の草地。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空中写真上では、住宅地や建物、コンクリート構造物に隣接して区画の形状が明瞭であることが多い。</li> <li>部分的に地表面も露出し、やや肌理の不均一な草地が用地を覆う。地表面と草地が斑状に混在することが多い。</li> <li>比較的、明るい感じであるが、一様でなく牧草地よりもやや粗い感じがする。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>草地としては類似した相観を示す「放棄畑」「放棄水田」「二次草原」等とは、地形や隣接するまたは周囲の土地利用状況から判断する。住宅地に分布する草地はここに含める。</li> <li>1～3ha程度のまとまった区画において、「造成地」と混在する場合は、優占率の高い方で区分する。</li> <li>面積が概ね1haに満たない場合は、市街地等隣接する区分に含める。</li> <li>地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住宅地の造成地、工場の資材置場、一度造成された高水敷等、主として都市域に多い。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>

<p>560200 g (牧草地、採草地)</p>	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種等の植栽後、刈り取り等によって管理されている植生高 0.5～1.5m 程度の牧場等の人工草地。</li> <li>・牧場、採草地ではイネ科の外来牧草が播種され定期的に耕起されることが多い。</li> <li>・牧場、飛行場（草地の滑走路）等の人為管理下にある草地もここに含める。</li> </ul> <p>(相観)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空中写真上では、肌理が細かく平滑な草地が平地または緩やかな傾斜の地表を一面に覆う。</li> <li>・区画は、畑に較べて大きい。</li> </ul> <p>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・踏みつけや刈り取りによって維持されているシバ草地（「二次草原」）や管理下にある「ゴルフ場・芝地」とは、植生高の高さ、周囲の土地利用状況等から区別する。</li> <li>・高速道路沿いの大規模法面（概ね 1 ha 以上）のうち、均一な人工草地がまとまっている場合は、ここに含める。1 ha 未満の場合は、道路（「市街地等」）に含める。</li> <li>・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。</li> <li>・牧場に付随する 1～2 ha 未満のサイロ、畜舎等の構造物は、「牧草地、採草地」に含める。構造物が 2～3 ha 以上の場合は、「市街地等」として区分する。</li> </ul> <p>(立地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牧場、牧草地は、丘陵地の山頂、緩やかな斜面、台地等に大規模にまとまっていることが多い。</li> <li>・平地部の都市とその周辺地域では、飛行場、牧場等。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>牛</p> <p>牧場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>飛行機等</p> <p>飛行場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>長大法面</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>
<p>560100 h (ゴルフ場・芝地)</p>	<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・頻繁な刈り取りによって維持されている植生高 10 cm 未満のゴルフ場や公園のシバ草地。</li> </ul> <p>(相観)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空中写真上では、樹林または人工構造物に囲まれた不整形の区画に、肌理が極めて細かく均一な草地が一面に地表を覆う。</li> <li>・頻繁に刈り取りされるため、刈り跡が帯状の列としてみえることがある。</li> </ul> <p>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゴルフ場・芝地」は、土地利用的な区分ではなく植被の質で区分する。</li> <li>・ゴルフ場内の 1 ha 未満の樹林地は、隣接する区分に含める。</li> <li>・半自然状態にある放牧地のシバ草地（二次草原）とは、周囲の地形や土地利用状況から判断する。</li> <li>・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。</li> </ul> <p>(立地)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴルフ場は、都市周辺の起伏の緩やかな丘陵地、河川敷等に多い。</li> <li>・その他、大規模な公園、インターチェンジ盛土法面等にまとまって分布する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ゴルフ場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>公園・グラウンド</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>インター・チェンジ</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>

<p>580101 i (緑の多い住宅地)</p>	<p>(概要)  <ul style="list-style-type: none"> <li>都市域または集落において、公園的な樹林、植え込み、農地等の緑被が概ね 30%以上で住宅地等と混在する区域。</li> </ul> </p> <p>(相観)  <ul style="list-style-type: none"> <li>同上</li> </ul> </p> <p>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)  <ul style="list-style-type: none"> <li>都市域では、道路、河川・水路、地形線等によって括られる概ね 3～5 ha 程度のまとまりのある区画を単位として緑被率を判断する。ただし、その中に 1ha 以上の樹林地、農地、草地がある場合は緑の多い住宅地を含めずに抽出する。</li> <li>都市域では、全体的な緑被の分布と住宅地のまとまり具合を考慮し、「緑の多い住宅地」と「住宅地等」を区分する。</li> <li>第 2 回・第 3 回植生図では、同一基準で区分されていない場合が多いので注意する。</li> <li>都市域の 1 ha 以上の残存樹林は、「落葉・常緑広葉樹林」として区分する。</li> <li>地形図上で表現されている“樹林に囲まれた居住地”は、ほぼこれに該当する。</li> </ul> </p> <p>(立地)  <ul style="list-style-type: none"> <li>都市とその周辺地域において、公園や並木等の多く含む住宅地。</li> <li>水田または畑が優占する平地部の屋敷林等を含む集落。</li> </ul> </p> <div data-bbox="363 582 1292 851"> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>公園木、並木等と混在</span> <span>小規模の樹林、農地と混在</span> <span>屋敷林の多い集落</span> </p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>
-------------------------------	---	--

<p>580100 k (市街地等)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緑被率 30%未満の市街地等。</li> <li>・ 大規模な植被はほとんどみられず、住宅地、ビル、道路、コンクリート・アスファルト等の人工構造物が卓越する区域。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同上</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市域では、道路、河川・水路、地形線等によって括られる概ね3～5ha程度のまとまりのある区画を単位として緑被率を判断する。</li> <li>・ 都市域では、全体的な緑被の分布と住宅地のまとまり具合を考慮し、「緑の多い住宅地」と「住宅地等」を区分する。</li> <li>・ 第2回・第3回植生図では、同一基準で区分されていない場合が多いので注意する。</li> <li>・ 植被のない運動場、グラウンド、学校敷地等はここに含める。</li> <li>・ 「養豚場」「養鶏場、鶏舎」はここに含める。※小規模のサイロ等は「牧草地、採草地」に含める。</li> <li>・ 緑被のない「墓地」「霊園」はここに含める。</li> <li>・ 「メガソーラー」はここに含める。</li> <li>・ 水田等の耕作地が優占する地域に分布する住宅地は、地形図の界線で括られる住宅地のまとまりを対象として、1ha以上のものを抽出する。</li> <li>・ 「公園」は緑被がなければ「市街地等」に含める。まとまった面積（1ha以上）でシバが覆う場合は「ゴルフ場・芝地」とする。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市とその周辺地域のまとまった住宅地、市街地。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>建物・道路</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>駐車場</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>住宅地</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コンクリート構造物</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> <li>・ 原則として、幅1.5mm未満(縮尺1/2.5万地形図)の道路は隣接する植生区分に含める。</li> <li>・ 大規模な高速道路、有料道路等概ね幅1.5mm以上(縮尺1/2.5万地形図)の道路については、「市街地等」として道路の両側に区分線を入れる。これ以外の小規模な道路は、周辺の凡例に含める。</li> <li>・ 一本の道路が隣接する複数図面にかけて分布する場合は、区分線の入れ方に相違が生じないように注意する。</li> </ul>
<p>580300 L (工場地帯)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場（製造工場、化学工場、造船所、中小工場等）を主とする地区。</li> <li>・ 工場の敷地面積が、1ha以上のまとまった区画において50%以上を占める区域。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資材置き場等に隣接して工場、倉庫等の細長い建造物が規則的に並んでいる。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図記号を参考に、建物の配列具合、敷地のまとまり等から「市街地等」と区分する。</li> <li>・ 土地の履歴が干拓地であっても、工場等が建設されている場合は、「工場地帯」等の該当する凡例を適用する。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨海部の重化学プラントや造船所、都市周辺では自動車工場、まとまった町工場等が該当する。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>工場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>重化学プラント</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>造船所</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>

<p>580400 m (造成地)</p> <p>580401 m1 (煙害跡裸地)</p> <p>580402 m2 (泥炭採掘跡)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採石場、ボタ山、造成中の宅地等の人工的な土地改変により、植被がみられない裸地。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地形が改変され、まとまって地肌が露出している。</li> <li>宅地造成の場合、地形が平坦にならされ整形な区画となる。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長期間放置された採石場や造成裸地等は、時間の経過につれて「路傍・空地雑草群落」、「低木二次林」へと変化する。これらの区分は、地表を覆う緑被の状態や周辺の土地利用状況から判断した上で、該当する凡例を適用する。</li> <li>採石場は、地形図記号を参考に、写真撮影時点の範囲を判読・移写する。</li> <li>資材置き場、学校敷地等、造成後に何らかの土地利用がされている裸地は、ここに含めない。資材置き場は、植被の状況により「路傍・空地雑草群落」等に、学校敷地は「市街地等」に含める。</li> <li>林道等の道路脇で、材木置き場、車両待避所等として一時的に造成されている土地は、ここに含める。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市の周辺域では、大規模な宅地造成がみられる。</li> <li>丘陵地～山地には、様々な規模の採石場が分布する。</li> </ul> <p><u>(細分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>銅精錬所周辺の裸地を「煙害跡裸地」として細分する。山地や島嶼の斜面にまとまって地肌が露出している。過去に煙害によって裸地化され表土が変質したために植被の回復が進まない。</li> </ul> <p><u>(細分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>北海道のサロベツ湿原の泥炭採掘跡地にみられる、肥料として活用されずに戻された浮遊泥炭粒子の集まり。植被はほとんどない。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>
<p>580500 n (干拓地)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>頻水地形や水面を干して陸地化した区域。</li> </ul> <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海域に隣接し、かつての海底面がみえ、植被はみられない。</li> </ul> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>干拓後に、工場や住宅地等が建設されている場合は、「工場地帯」、「市街地等」等、該当する凡例を適用する。</li> </ul> <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海域または河口に隣接している。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</li> </ul>

<p>580200 p (残存・植栽樹群をもった公園・墓地等)</p>	<p><u>(概要)</u> ・比較的新しく形成された残存・植栽樹群をもつ大面積の都市公園等。</p> <p><u>(相観)</u> ・並木、樹群地、草地、芝地、グラウンド、駐車場、人工構造物、池等が混在する。</p> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u> ・まとまった面積（1ha以上）でシバが覆う場合は「ゴルフ場・芝地」として区分する。 ・1ha以上のグラウンド、駐車場、人工構造物は「住宅地」として区分する。 ・1ha以上の面積でさまざまな植生・土地利用が混在しているが、単独で1haを超える並木、樹群地、草地、芝地、グラウンド、駐車場、人工構造物、池が存在しない場合はまとめて括る。</p> <p><u>(立地)</u> ・都市とその周辺地域。</p>	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>
<p>580800 s (残存・植栽樹群地)</p>	<p><u>(概要)</u> ・50～100年生の雑多な残存樹・植栽樹からなる樹群地。 ・屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林等。</p> <p><u>(相観)</u> ・優占種がはっきりせず、群集名や群落名がはっきりしない。</p> <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u> ・林床が管理されていたり、欠如していても、高木層から群集名・群落名が類推できるものは「s」とはしない。 ・1ha以上の面積でさまざまな植生・土地利用が混在しているが、樹群の面積が1haを超える場合はまとめて括る。</p> <p><u>(立地)</u> ・都市域または集落における屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林。</p>	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>

更新履歴

2000.3.15 判読情報資料図作成指針の資料2「全国共通判読指針」として新規作成

2004.6.25 植生原図作成指針の別紙1「伐採跡地・土地利用等判読指針」として該当部分を抜粋

- 2007.6.5 細分凡例 e-1, e-2, p, s,, m-1 を追加

2008.6.4 表題の「指針」を「手引き」に変更、判読対象Ⅰ, Ⅱ, Ⅲの説明を追加、「備考（写真表記等）」の列名を修正  
区分記号の L を大文字に変更、区分記号のハイフンを削除

「特殊立地の植生」等の判読区分名に凡例名（例）を付記、w, m等の内容を修正



植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注	シカ等食害
38	II 05	亜高山帯針葉樹林	01	オオシラビソ群団	05	カラマツ群落	050105	カラマツ群落	細				27				9		
39	II 05	亜高山帯針葉樹林	01	オオシラビソ群団	06	シラビソ群集	050106	シラビソ群集	細				2	2006	6	近畿	9		
40	II 05	亜高山帯針葉樹林	01	オオシラビソ群団	07	イトズゲトウヒ群落	050107	イトズゲトウヒ群落	細		シカ食害地		4	2006	6	近畿	9		●
41	II 05	亜高山帯針葉樹林	01	オオシラビソ群団	08	キタヨウキアエソマツ群落	050108	キタヨウキアエソマツ群落	細				1	2008	2	東北	9		
42	II 05	亜高山帯針葉樹林	01	オオシラビソ群団	09	マイヅルソウ・ノミヤガ群集	050109	マイヅルソウ・ノミヤガ群集	細				5	2009	5	中部	9		
43	II 05	亜高山帯針葉樹林	01	オオシラビソ群団	10	イラモミ群落	050110	イラモミ群落	細		(マイヅルソウ・ノミヤガ群集)		0	2010	3	関東	9		
44	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	00	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	060100	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	中				56				9		
45	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	05	ミヤマハンノキ群落	060105	ミヤマハンノキ群落	細				22				9		
46	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	06	ダケカンバ群集	060106	ダケカンバ群集	細				26	2003	2	東北	9		
47	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	07	ササ・ダケカンバ群落	060107	ササ・ダケカンバ群落	細		移		42				9		
48	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	08	タネノカリヤス・ダケカンバ群集	060108	タネノカリヤス・ダケカンバ群集	細				3	2004	5	中部	9		
49	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	09	ナンコクミネカエデ・ダケカンバ群集	060109	ナンコクミネカエデ・ダケカンバ群集	細				0	2009	7	中国・四国	9		
50	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	10	フサガヤ・ヒロハカツラ群集	060110	フサガヤ・ヒロハカツラ群集	細				2	2013	5	中部	9		
51	II 06	亜高山帯広葉樹林	01	ミドリユキササ・ダケカンバ群団	11	オオハユキササ・ヤハズハシノキ群集	060111	オオハユキササ・ヤハズハシノキ群集	細				2	2009	1	北海道	9		
52	II 06	亜高山帯広葉樹林	03	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	00	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	060300	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	中				14	2005	1	北海道	9		
53	II 06	亜高山帯広葉樹林	03	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	01	ダケカンバ群落	060301	ダケカンバ群落	細				8				9		
54	II 06	亜高山帯広葉樹林	03	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	02	ダケカンバ・ハイマツ群落	060302	ダケカンバ・ハイマツ群落	細				0				9		
55	II 06	亜高山帯広葉樹林	03	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	03	イワノカリヤス・ダケカンバ群落	060303	イワノカリヤス・ダケカンバ群落	細				30	2000	1	北海道	9		
56	II 06	亜高山帯広葉樹林	03	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	04	ミヤマハンノキ群落	060304	ミヤマハンノキ群落	細				93	2000	1	北海道	9		
57	II 06	亜高山帯広葉樹林	04	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	05	ササ・ダケカンバ群落	060305	ササ・ダケカンバ群落	細		移		20				9		
58	II 06	亜高山帯広葉樹林	04	エゾミシダ・ウコンウツギ群団	01	ナナカマド・ミネカエデ群落	060401	ナナカマド・ミネカエデ群落	細				20	2009	7	中国・四国	9		
59	II 06	亜高山帯広葉樹林	05	岩角地・風衝地低木群落	00	岩角地・風衝地低木群落	060500	岩角地・風衝地低木群落	中				14	2005	1	北海道	9		
60	II 07	高草原及び風衝草原	00	高草原及び風衝草原	00	高草原及び風衝草原	070000	高草原及び風衝草原	大				50	2011	5	中部	10		
61	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	00	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	070100	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	中				0				10		
62	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	01	トナリフクロ・タネノカリヤス群落	070101	トナリフクロ・タネノカリヤス群落	細				0				10		
63	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	02	ミヤマキンポウゲ群落	070102	ミヤマキンポウゲ群落	細				0				10		
64	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	03	ハイケイソウ・ミヤマイ群落	070103	ハイケイソウ・ミヤマイ群落	細				0				10		
65	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	04	ミヤマイ群集	070104	ミヤマイ群集	細				0				10		
66	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	05	センジュアサミ・ミヤマシンドウ群集	070105	センジュアサミ・ミヤマシンドウ群集	細				2	2014	5	中部	10		
67	II 07	高草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ・ミヤマキンポウゲ群団	06	ナガハキアサザ群落	070106	ナガハキアサザ群落	細		新		2	2016	1	北海道	10		
68	II 07	高草原及び風衝草原	02	ササ群落	02	ササ群落	070200	ササ群落	中				107				10		
69	II 07	高草原及び風衝草原	02	ササ群落	01	チシマザサ群落	070201	チシマザサ群落	細				58				10		
70	II 07	高草原及び風衝草原	02	ササ群落	02	オウノカンスゲ・チシマザサ群集	070202	オウノカンスゲ・チシマザサ群集	細				0				10		
71	II 07	高草原及び風衝草原	03	トウゲフキ群落	00	トウゲフキ群落	070300	トウゲフキ群落	中		検	シカ食害地	2	2005	1	北海道	10		注1
72	II 07	高草原及び風衝草原	04	ナンゴククガイソウ群落	00	ナンゴククガイソウ群落	070400	ナンゴククガイソウ群落	中				0	2009	7	中国・四国	10		
73	III 08	亜高山帯二次林	01	ダケカンバ群落	00	ダケカンバ群落	070500	シカ食害草原	中				107	2014	5	中部	4		●
74	III 08	亜高山帯二次林	02	アカエソマツ群落	01	アカエソマツ群落	080201	アカエソマツ群落	細				4	2007	1	北海道	7		
75	III 09	二次草原	01	ササ群落	00	ササ群落	090100	ササ群落	中				13				5		
76	III 09	二次草原	01	ササ群落	01	チシマザサ群落	090101	チシマザサ群落	細				24				5		
77	III 09	二次草原	01	ササ群落	02	クマイザサ群落	090102	クマイザサ群落	細				19				5		
78	III 09	二次草原	02	ヒゲノカリヤス群落	00	ヒゲノカリヤス群落	090200	ヒゲノカリヤス群落	中				0	2011	5	中部	5		
79	III 09	二次草原	03	ハンゴンソウ群落	01	オオハシヨリマーハンゴンソウ群落	090301	オオハシヨリマーハンゴンソウ群落	細		シカ食害地		0	2009	1	北海道	4		●
80	III 09	二次草原	00	伐採跡地群落	00	伐採跡地群落	100000	伐採跡地群落	大				14				4		
81	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマザサ・ブナ群団	00	チシマザサ・ブナ群団	110100	チシマザサ・ブナ群団	中				227				9		
82	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマザサ・ブナ群団	01	ヒメアオキ・ブナ群集	110101	ヒメアオキ・ブナ群集	細				3				9		
83	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	02	チシマザサ・ブナ群団	02	マルハマンサク・ブナ群集	110102	マルハマンサク・ブナ群集	細				20				9		
84	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマザサ・ブナ群団	03	スギ・ブナ群落	110103	スギ・ブナ群落	細				73				9		
85	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマザサ・ブナ群団	04	クロモジ・ブナ群集	110104	クロモジ・ブナ群集	細				32				9		
86	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	03	エゾイタヤ・シナノキ群団	01	エゾイタヤ・シナノキ群集	110301	エゾイタヤ・シナノキ群集	細				52				9		
87	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	03	エゾイタヤ・シナノキ群団	02	エゾイタヤ・ケヤキ群集	110302	エゾイタヤ・ケヤキ群集	細				117	2000	4	北陸	9		
88	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	04	カンワ群団	01	カンワ群落	110401	カンワ群落	細		④版		79				9		
89	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	04	カンワ群団	02	ヤマモモジガサ・カンワ群集	110402	ヤマモモジガサ・カンワ群集	細				31	2000	2	東北	9		

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注	シカ等食害
90	IV	11	IV	11	03	ネムノキ-カンナ群集	110403	ネムノキ-カンナ群集	細					5	2002	九州・沖縄	9		
91	IV	11	IV	11	04	カンナ群団	110404	ミズナラ群集(海岸風衝型)	細					12	2006	1	北海道	9	
92	IV	11	IV	11	00	カンナ群団	110500	ミズナラ群集(日本海型)	細					2015	2	東北	9		
93	IV	11	IV	11	05	ミズナラ群落	110501	ホツジ-ミズナラ群集	細		新			2016	4	北陸	9		
94	IV	12	IV	12	00	カケカンナ群落	110600	カケカンナ群落(IV)	中		新			177	2016	1	北海道	9	
95	IV	12	IV	12	01	サウシバ-ミズナラ群団	120101	トドマツ-ミズナラ群落	細					2	2007	1	北海道	9	
96	IV	12	IV	12	02	サウシバ-ミズナラ群団	120102	ミズナラ群落(北海道)	細					192	2007	1	北海道	9	
97	IV	12	IV	12	03	サウシバ-ミズナラ群団	120103	エノキヤ-ミズナラ群落	細					64	2001	1	北海道	9	
98	IV	12	IV	12	04	サウシバ-ミズナラ群団	120104	トドマツ群落(駒澤林)	細		移	(トドマツ-ミズナラ群落)		2008	1	北海道	9		
99	IV	12	IV	12	05	サウシバ-ミズナラ群団	120105	ドロノキ群落	細					5			9		
100	IV	13	IV	13	00	スズケ-フナ群団	130100	スズケ-フナ群団	中					31			9		
101	IV	13	IV	13	01	スズケ-フナ群団	130101	ヤマボウシ-フナ群集	細					4			9		
102	IV	13	IV	13	03	スズケ-フナ群団	130103	ミヤコザサ-フナ群集	細					7			9		
103	IV	13	IV	13	04	スズケ-フナ群団	130104	オオモミガサ-フナ群集	細					2			9		
104	IV	13	IV	13	05	スズケ-フナ群団	130105	スズケ-フナ群集	細					74			9		
105	IV	13	IV	13	06	スズケ-フナ群団	130106	シラキ-フナ群集	細					2			9		
106	IV	13	IV	13	07	スズケ-フナ群団	130107	ツクシヤクナケ-フナ群集	細					2	2002	5	中部	9	
107	IV	13	IV	13	08	スズケ-フナ群団	130108	ウケガサ-フナ群落	細			(オオモミガサ-フナ群集)		6	2006	6	近畿	9	
108	IV	13	IV	13	09	スズケ-フナ群団	130109	ウラジロモミ-フナ群集	細					5	2008	5	中部	9	
109	IV	13	IV	13	10	スズケ-フナ群団	130110	アサシヤクナケ-フナ群集	細					0	2010	3	関東	9	
110	IV	13	IV	13	11	スズケ-フナ群団	130111	フナ-イヌフナ群集	細		後			2011	7	中国・四国	9		
111	IV	13	IV	13	12	スズケ-フナ群団	130112	ツガ-フナ群落	細					2015	5	中部	9		
112	IV	13	IV	13	13	スズケ-フナ群団	130113	オオモミガサ-フナ群落	細					25			9		
113	IV	13	IV	13	00	イヌフナ群落	130200	イヌフナ群落	中					18			9		
114	IV	13	IV	13	01	イヌフナ群落	130201	チャボガヤ-イヌフナ群集	細					5			9		
115	IV	13	IV	13	02	イヌフナ群落	130202	コハクシボク-イヌフナ群集	細					17	2000	2	東北	9	
116	IV	13	IV	13	03	イヌフナ群落	130203	モミ-イヌフナ群集	細					14	2000	2	東北	9	
117	IV	13	IV	13	04	イヌフナ群落	130204	アサシヤクナケ-イヌフナ群落	細					0	2010	3	関東	9	
118	IV	13	IV	13	05	イヌフナ群落	130205	アブラツツジ-イヌフナ群集	細					0			9		
119	IV	13	IV	13	00	ミズナラ群落	130300	ミズナラ群落(太平洋型)	中					36			9		
120	IV	13	IV	13	01	ミズナラ群落	130301	リョウブ-ミズナラ群集	細					0	2010	8	九州・沖縄	9	
121	IV	13	IV	13	02	ミズナラ群落	130302	ツクシコウモリ-ミズナラ群集	細		後			2011	3	関東	9		
122	IV	13	IV	13	03	ミズナラ群落	130303	ツクシコウモリ-ミズナラ群集(自然林)	細					76			9		
123	IV	13	IV	13	04	イヌフナ群落	130401	イヌフナ群落	細					10			9		
124	IV	13	IV	13	05	コハクシボク-イヌフナ群落	130402	アサシヤクナケ-イヌフナ群落	中					0	2010	8	九州・沖縄	9	
125	IV	13	IV	13	00	コハクシボク-イヌフナ群落	130500	コハクシボク-イヌフナ群落	細					4			9		
126	IV	13	IV	13	01	コハクシボク-イヌフナ群落	130501	クワモミ-コハクシボク-イヌフナ群落	細					2010	8	九州・沖縄	9		
127	IV	13	IV	13	02	コハクシボク-イヌフナ群落	130502	ツクシコウモリ-イヌフナ群落	細					2011	3	関東	9		
128	IV	14	IV	14	00	コナラ群落	130601	クリ-コナラ群集(自然林)	細					25			9		
129	IV	14	IV	14	01	ウラジロモミ群落	140100	ウラジロモミ群落	中					3			9		
130	IV	14	IV	14	02	ウラジロモミ群落	140101	ウラジロモミ-コメツガ群落	細					5	2004	5	中部	9	
131	IV	14	IV	14	03	ウラジロモミ群落	140102	カニコウモリ-ウラジロモミ群集	細					2014	3	関東	9		
132	IV	14	IV	14	00	ウラジロモミ群落	140103	サワダツ-ウラジロモミ群集	細					37			9		
133	IV	14	IV	14	01	ウラジロモミ群落	140200	ヒノキアスナロ群落(IV)	中					24	2000	2	東北	9	
134	IV	14	IV	14	02	ウラジロモミ群落	140201	フナ-ヒノキアスナロ群落	細					36			9		
135	IV	14	IV	14	03	ウラジロモミ群落	140300	クロベ-キタヨウ群落	中					61			9		
136	IV	14	IV	14	04	ウラジロモミ群落	140301	アカミイヌツゲ-クロベ群集	細					12			9		
	IV	14	IV	14	05	ウラジロモミ群落	140400	クロベ-ヒメコマツ群落	中					3			9		
	IV	14	IV	14	00	アスナロ群落	140500	アスナロ群落	中	C							9		

植生区分	大区分	中区分	細コード	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	更新状況	注記	副凡例
138	IV 14	冷温帯針葉樹林	06	ツガ群落	コカスゲ-ツガ群落	140601	コカスゲ-ツガ群落	細 C			
139	IV 14	冷温帯針葉樹林	06	ツガ群落	ハイノキ-ツガ群落	140602	ハイノキ-ツガ群落	細 C			
140	IV 14	冷温帯針葉樹林	03	ツガ群落	アケボノツツジ-ツガ群落	140603	アケボノツツジ-ツガ群落	細 C	後		
141	IV 14	冷温帯針葉樹林	04	ツガ群落	クリシシミツバツツジ-ツガ群落	140604	クリシシミツバツツジ-ツガ群落	細			
142	IV 14	冷温帯針葉樹林	07	ツガ群落	ツガ-トガサワラ群落	140700	ツガ-トガサワラ群落	中 C			
143	IV 14	冷温帯針葉樹林	08	ヒノキ群落	ヒノキ群落	140800	ヒノキ群落	中 C			
144	IV 14	冷温帯針葉樹林	08	ヒノキ群落	シノブカガマ-ヒノキ群落	140801	シノブカガマ-ヒノキ群落	細			
145	IV 14	冷温帯針葉樹林	08	ヒノキ群落	シヤクナガ-ヒノキ群落	140802	シヤクナガ-ヒノキ群落	細			
146	IV 14	冷温帯針葉樹林	08	ヒノキ群落	ツクシヤクナガ-ヒノキ群落	140803	ツクシヤクナガ-ヒノキ群落	細	後		
147	IV 14	冷温帯針葉樹林	04	ヒノキ群落	マルハノキ-ヒノキ群落	140804	マルハノキ-ヒノキ群落	細			
148	IV 14	冷温帯針葉樹林	09	コウヤマキ群落	コウヤマキ群落	140900	コウヤマキ群落	中 C			
149	IV 14	冷温帯針葉樹林	09	コウヤマキ群落	フナ-コウヤマキ群落	140901	フナ-コウヤマキ群落	細	後		
150	IV 14	冷温帯針葉樹林	10	スギ群落	スギ群落	141000	スギ群落	中 C			
151	IV 14	冷温帯針葉樹林	10	スギ群落	ヒメヒサカキ-スギ群落	141001	ヒメヒサカキ-スギ群落	細			
152	IV 14	冷温帯針葉樹林	11	モミ群落	モミ群落	141100	モミ群落	中			
153	IV 14	冷温帯針葉樹林	11	モミ群落	アオハダ-モミ群落	141101	アオハダ-モミ群落	細		(モミ-イヌブナ群集)	
154	IV 14	冷温帯針葉樹林	13	ハリモミ群落	ハリモミ群落	141300	ハリモミ群落	中			
155	IV 14	冷温帯針葉樹林	14	サウラ群落	サウラ群落	141400	サウラ群落	中			
156	IV 14	冷温帯針葉樹林	15	トドマツ-キタコヨウ群落	トドマツ-キタコヨウ群落	141500	トドマツ-キタコヨウ群落	中			
157	IV 14	冷温帯針葉樹林	16	トドマツ群落	トドマツ群落	141600	トドマツ群落	中	新		
158	IV 15	岩角地針葉樹林	01	アカマツ群落	アカマツ群落 (IV)	150100	アカマツ群落 (IV)	中			
159	IV 15	岩角地針葉樹林	01	アカマツ群落	ヒメコマツ-アカマツ群落	150101	ヒメコマツ-アカマツ群落	細 C	後		
160	IV 15	岩角地針葉樹林	02	ヒメコマツ群落	ミヤマキリジマ-アカマツ群落	150102	ミヤマキリジマ-アカマツ群落	細			
161	IV 15	岩角地針葉樹林	02	ヒメコマツ群落	ヒメコマツ群落	150200	ヒメコマツ群落	中 C			
162	IV 16	溪畔林	01	サウラルミ群落	オキシヤクナガ-クワロベ群落	160201	オキシヤクナガ-クワロベ群落	細 C			
163	IV 16	溪畔林	01	サウラルミ群落	ジュウモンシジダ-サウラルミ群落	160101	ジュウモンシジダ-サウラルミ群落	細			
164	IV 16	溪畔林	01	サウラルミ群落	ヤハズアジサイ-サウラルミ群落	160103	ヤハズアジサイ-サウラルミ群落	細			
165	IV 16	溪畔林	01	サウラルミ群落	ヤマタイミンガサ-サウラルミ群落	160104	ヤマタイミンガサ-サウラルミ群落	細			
166	IV 16	溪畔林	02	シオンジ群落	テツカエテ-タカネズミズキ群落	160200	テツカエテ-タカネズミズキ群落	細			
167	IV 16	溪畔林	02	シオンジ群落	シオンジ群落	160201	シオンジ群落	中			
168	IV 16	溪畔林	02	シオンジ群落	ミヤマクマラビ-シオンジ群落	160202	ミヤマクマラビ-シオンジ群落	細			
169	IV 16	溪畔林	03	ハルニレ群落	イワボタン-シオンジ群落	160300	ハルニレ群落	中			
170	IV 16	溪畔林	03	ハルニレ群落	ハルニレ群落	160301	ハルニレ群落	細			
171	IV 16	溪畔林	03	ハルニレ群落	オニヒヨウタン-ハルニレ群落	160302	オニヒヨウタン-ハルニレ群落	細			
172	IV 16	溪畔林	04	ケヤキ群落	ケヤキ群落 (IV)	160400	ケヤキ群落 (IV)	中			
173	IV 16	溪畔林	04	ケヤキ群落	チャボガヤ-ケヤキ群落	160401	チャボガヤ-ケヤキ群落	細 C			
174	IV 16	溪畔林	04	ケヤキ群落	ヒメウハミソウ-ケヤキ群落	160402	ヒメウハミソウ-ケヤキ群落	細			
175	IV 16	溪畔林	04	ケヤキ群落	オオモミジ-ケヤキ群落	160403	オオモミジ-ケヤキ群落	細			
176	IV 16	溪畔林	04	ケヤキ群落	タマフキ-ケヤキ群落	160404	タマフキ-ケヤキ群落	細			
177	IV 16	溪畔林	05	アサガリ群落	コクサギ-アサガリ群落	160501	コクサギ-アサガリ群落	細 C			
178	IV 16	溪畔林	06	オオハヤサガリ群落	オオハヤサガリ群落	160600	オオハヤサガリ群落	中			
179	IV 16	溪畔林	07	カツラ群落	カツラ群落	160700	カツラ群落	中	後		
180	IV 16	溪畔林	08	ヤチタモ群落	ハシドイ-ヤチタモ群落	160801	ハシドイ-ヤチタモ群落	細	移		
181	IV 16	溪畔林	08	ヤチタモ群落	エンソツ-ヤチタモ群落	160802	エンソツ-ヤチタモ群落	細			
182	IV 17	沼沢林	01	ヤチタモ群落	ヤチタモ群落	170100	ヤチタモ群落	中			
183	IV 17	沼沢林	01	ヤチタモ群落	ハンノキ-ヤチタモ群落	170102	ハンノキ-ヤチタモ群落	細			
184	IV 17	沼沢林	02	沼沢林	ハンノキ群落 (IV)	170200	ハンノキ群落 (IV)	中			
185	IV 17	沼沢林	03	沼沢林	レンゲツツジ-ズミ群落	170301	レンゲツツジ-ズミ群落	細			
186	IV 17	沼沢林	04	ミヤマウメトキ群落	ミヤマウメトキ-ハイイヌツツジ群落	170401	ミヤマウメトキ-ハイイヌツツジ群落	細			
187	IV 17	河辺林	01	ヤナギ高木群落	ヤナギ高木群落 (IV)	180100	ヤナギ高木群落 (IV)	中			
188	IV 18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	オオハヤナギ-ドロノキ群落	180101	オオハヤナギ-ドロノキ群落	細 V			

植生区分	大コード	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例
189	IV 18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	02	ケンヨウヤナギ群落	180102	ケンヨウヤナギ群落	細			
190	IV 18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	03	シロヤナギ群落	180103	シロヤナギ群落	細			
191	IV 18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	04	ユビノヤナギ群落	180104	ユビノヤナギ群落	細			
192	IV 18	河辺林	02	ヤナギ低木群落	00		180200	ヤナギ低木群落(IV)	中			
193	IV 18	河辺林	03	オニグルミ群落	00		180300	オニグルミ群落(IV)	中			
194	IV 18	河辺林	04	ヤマハシノキ群落	00		180400	ヤマハシノキ群落	中			
195	IV 18	河辺林	05	河辺ヤシヤブシ群落	00		180500	河辺ヤシヤブシ群落	中			
196	IV 18	河辺林	06	河辺アカマツ群落	00		180600	河辺アカマツ群落	中			
197	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	00		00		190000	岩角地・風衝地低木群落	大			
198	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラク・ミヤマナラ群団	00		190100	ウラジロヨウラク・ミヤマナラ群団	中			
199	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラク・ミヤマナラ群団	01		190101	ミヤマナラ群落	細			
200	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラク・ミヤマナラ群団	03		190103	ミネヤナギ群落	細			
201	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラク・ミヤマナラ群団	04		190104	キアラボク群落	細			
202	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	02	ヤシヤブシ群落	00		190200	ヤシヤブシ群落	中			
203	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	02	ヤシヤブシ群落	01		190201	ミヤマカリシマヤシヤブシ群落	細			
204	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	03	オオヒタヤメイガツ群落	01		190301	ミヤマカタハミ・オオヒタヤメイガツ群落	細			
205	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	04	オオヒメツツ群落	01		190401	サイコクワイボク・オオヒメツツ群落	細			
206	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	05	イワシデ群落	00		190500	イワシデ群落(IV)	中			
207	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	05	イワシデ群落	01		190501	イワツクハネツツギ・イワシデ群落	中			
208	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	06	ヤマボウシ群落	00		190600	ヤマボウシ群落	細			
209	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	07	オナカマド群落	01		190701	オナカマド群落	細			
210	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	09	ホシヤクナゲ群落	00		190900	ホシヤクナゲ群落	中			
211	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	10	イワヒバ群落	00		191000	イワヒバ群落	中			
212	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	10	イワヒバ群落	01		191001	イブキシモツケ・イワヒバ群落	細			
213	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	11	イワヒバ群落	02		191002	ダンキク・イワヒバ群落	細			
214	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	11	シロヤシオ群落	00		191100	シロヤシオ群落	細			
215	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	12	ミヤマビヤクシ群落	01		191201	ヤクシマシヤクシ群落	細			
216	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	13	ミヤマハンノキ群落	01		191300	ミヤマハンノキ群落(IV)	中			
217	IV 19	岩角地・風衝地低木群落	14	ニシキウツギ群落	00		191401	キリンマヒコタイ・ニシキウツギ群落	細			
218	IV 20	なだれ地自然低木群落	00		00		200000	なだれ地自然低木群落	大			
219	IV 20	なだれ地自然低木群落	01	タニウツギ群落	00		200100	タニウツギ群落	中			
220	IV 20	なだれ地自然低木群落	01	タニウツギ群落	01		200101	ヒメヤシヤブシ・タニウツギ群落	細			
221	IV 20	なだれ地自然低木群落	01	タニウツギ群落	02		200102	ダイセンヤナギ・タニウツギ群落	細			
222	IV 20	なだれ地自然低木群落	02	ミヤマカワハラハンノキ群落	01		200201	ウワハミソウ・ミヤマカワハラハンノキ群落	細			
223	IV 21	自然草原	00	ササ群落	00		210000	自然草原	大			
224	IV 21	自然草原	01	ササ群落	01		210100	ササ群落(IV)	中			
225	IV 21	自然草原	01	ササ群落	01		210101	ミクラササ群落	細			
226	IV 21	自然草原	01	ササ群落	02		210102	チシマササ群落(IV)	細			
227	IV 21	自然草原	01	ササ群落	03		210103	チマキササ群落(IV)	細			
228	IV 21	自然草原	01	ササ群落	04		210104	ヤクシマダケ群落	細			
229	IV 21	自然草原	01	ササ群落	05		210105	イワノガリヤス・チシマササ群落	細			
230	IV 21	自然草原	02	シモツケソウ群落	00		210200	シモツケソウ群落	中			
231	IV 21	自然草原	02	シモツケソウ群落	01		210201	フシアガシヨウマ・シモツケソウ群落	細			
232	IV 21	自然草原	03	シマノガリヤス群落	00		210300	シマノガリヤス群落	中			
233	IV 21	自然草原	03	シマノガリヤス群落	01		210301	シマノガリヤス・シマノガリヤス群落	細			
234	IV 21	自然草原	04	オオヨモギ・オオヨドリ群団	00		210400	オオヨモギ・オオヨドリ群団	中			
235	V 22	落葉広葉樹二次林	01	フナ・ミズナラ群落	00		220100	フナ・ミズナラ群落	中			
236	V 22	落葉広葉樹二次林	01	フナ・ミズナラ群落	01		220101	スギ・ミズナラ群落	細			
237	V 22	落葉広葉樹二次林	01	フナ・ミズナラ群落	02		220102	クリ・ミズナラ群落	細			
238	V 22	落葉広葉樹二次林	01	フナ・ミズナラ群落	03		220103	オオハクモシ・ミズナラ群落	細			
239	V 22	落葉広葉樹二次林	01	フナ・ミズナラ群落	04		220104	フナ二次林	細			

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例名	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例	新規凡例ブロック	新規凡例ブロックコード	2次メッシュ数	植生自然度2.5万	注	シカ等食害
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	05	シロモジ群落	シロモジ群落	220105	シロモジ群落	細							5	7		
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	06	キタコブシ-ミズナラ群落	キタコブシ-ミズナラ群落	220106	キタコブシ-ミズナラ群落	細							38	2	東北	
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	07	キンキマサガラ-ミズナラ群落	キンキマサガラ-ミズナラ群落	220107	キンキマサガラ-ミズナラ群落	細							7	6	近畿	
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	08	カインサササドウダシ-ミズナラ群落	カインサササドウダシ-ミズナラ群落	220108	カインサササドウダシ-ミズナラ群落	細							0	未		
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	09	クリ-ミズナラ群落(中国山地)	クリ-ミズナラ群落(中国山地)	220109	クリ-ミズナラ群落(中国山地)	細							0	未		
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	10	フクオウツギ-ミズナラ群落	フクオウツギ-ミズナラ群落	220110	フクオウツギ-ミズナラ群落	細							0	2013	関東	
V	22	落葉広葉樹二次林	01	ブナー-ミズナラ群落	11	トリアシヨウマ-ミズナラ群落	トリアシヨウマ-ミズナラ群落	220111	トリアシヨウマ-ミズナラ群落	細							0	2016	1	北海道
V	22	落葉広葉樹二次林	02	カンジデ群落	00			220200	カンジデ群落(V)	中							94			
V	22	落葉広葉樹二次林	03	ウダイカンハ群落	00			220300	ウダイカンハ群落	中							22			
V	22	落葉広葉樹二次林	04	リョウブ群落	00			220400	リョウブ群落	中							0			
V	22	落葉広葉樹二次林	04	リョウブ群落	01	リョウブ-ミズナラ群落	リョウブ-ミズナラ群落	220401	リョウブ-ミズナラ群落	細							10	2000	6	近畿
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	00			220500	コナラ群落(V)	中							48			
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	01	オウチヨウジサクラ-コナラ群落	オウチヨウジサクラ-コナラ群落	220501	オウチヨウジサクラ-コナラ群落	細							164	2000		
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	02	カスミザクラ-コナラ群落	カスミザクラ-コナラ群落	220502	カスミザクラ-コナラ群落	細							33			
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	03	ユキグニミツハツツジ-コナラ群落	ユキグニミツハツツジ-コナラ群落	220503	ユキグニミツハツツジ-コナラ群落	細	C						159	2001	4	北陸
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	04	イヌサクラ-コナラ群落	イヌサクラ-コナラ群落	220504	イヌサクラ-コナラ群落	細	C						21	2001	4	北陸
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	05	ホノヒカガステ-コナラ群落	ホノヒカガステ-コナラ群落	220505	ホノヒカガステ-コナラ群落	細							44	2000	2	東北
V	22	落葉広葉樹二次林	07	アカンデ-イヌシデ群落	00			220700	アカンデ-イヌシデ群落(V)	中							288			
V	22	落葉広葉樹二次林	08	クマシデ群落	00			220800	クマシデ群落	中							20			
V	22	落葉広葉樹二次林	08	クマシデ群落	01	コガクウツギ-クマシデ群落	コガクウツギ-クマシデ群落	220801	コガクウツギ-クマシデ群落	細							18			
V	22	落葉広葉樹二次林	09	シラカンハ群落	00			220900	シラカンハ群落	中							34			
V	22	落葉広葉樹二次林	09	シラカンハ群落	01	ササ-シラカンハ群落	ササ-シラカンハ群落	220901	ササ-シラカンハ群落	細							131			
V	22	落葉広葉樹二次林	09	シラカンハ群落	02	レンガツツジ-シラカンハ群落	レンガツツジ-シラカンハ群落	220902	レンガツツジ-シラカンハ群落	細							3			
V	22	落葉広葉樹二次林	09	シラカンハ群落	03	エノヤマナラシ群落	エノヤマナラシ群落	220903	エノヤマナラシ群落	細							1	2007	1	北海道
V	22	落葉広葉樹二次林	10	ハシドイ群落	00			221000	ハシドイ群落	中							0			
V	22	落葉広葉樹二次林	11	ミズナラ群落	01	シラカンハ-ミズナラ群落	シラカンハ-ミズナラ群落	221101	シラカンハ-ミズナラ群落	細							6			
V	22	落葉広葉樹二次林	11	ミズナラ群落	02	コナラ-ミズナラ群落	コナラ-ミズナラ群落	221102	コナラ-ミズナラ群落	細							19			
V	22	落葉広葉樹二次林	11	ミズナラ群落	03	ミヤコササ-ミズナラ群落	ミヤコササ-ミズナラ群落	221103	ミヤコササ-ミズナラ群落	細							0	2009	2	東北
V	22	落葉広葉樹二次林	12	オニグルミ群落	00			221104	オニグルミ群落(V)	中							242	2000	4	北陸
V	22	落葉広葉樹二次林	13	ケヤキ群落	00			221300	ケヤキ二次林	中							104	2001	2	東北
V	22	落葉広葉樹二次林	14	ダケカンハ群落	00			221400	ダケカンハ群落(V)	中							32	2005	2	東北
V	22	落葉広葉樹二次林	15	イヌブナ二次林	00			221500	イヌブナ二次林	中							32	2005	2	東北
V	23	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	00			230100	アカマツ群落(V)	中							18	2003	2	東北
V	24	常緑針葉樹二次林	02	ヒノキアスナロ群落	00			240000	落葉広葉樹低木群落	大							354	2000	5	中部
V	24	落葉広葉樹低木群落	01	リウウツギ群落	00			240100	リウウツギ群落	中							14			
V	24	落葉広葉樹低木群落	01	リウウツギ群落	01	ニシキウツギ-リウウツギ群落	ニシキウツギ-リウウツギ群落	240101	ニシキウツギ-リウウツギ群落	細							34			
V	24	落葉広葉樹低木群落	01	リウウツギ群落	02	タニウツギ-リウウツギ群落	タニウツギ-リウウツギ群落	240102	タニウツギ-リウウツギ群落	細							90			
V	24	落葉広葉樹低木群落	01	リウウツギ群落	03	ヤマカモジガサ-リウウツギ群落	ヤマカモジガサ-リウウツギ群落	240103	ヤマカモジガサ-リウウツギ群落	細							8			
V	24	落葉広葉樹低木群落	02	リウウツギ群落	04	ツクシウツギ-リウウツギ群落	ツクシウツギ-リウウツギ群落	240104	ツクシウツギ-リウウツギ群落	細							0	未	0	0
V	24	落葉広葉樹低木群落	02	タイセ-ミツハツツジ群落	01	ススキ-タイセ-ミツハツツジ群落	ススキ-タイセ-ミツハツツジ群落	240201	ススキ-タイセ-ミツハツツジ群落	細							0			
V	24	落葉広葉樹低木群落	03	アセビ群落	00			240300	アセビ群落	中							0			
V	24	落葉広葉樹低木群落	03	アセビ群落	01	ツシママコナー-アセビ群落	ツシママコナー-アセビ群落	240301	ツシママコナー-アセビ群落	細							6	2001	8	九州・沖縄
V	24	落葉広葉樹低木群落	04	ツツジ科植物群落	01	レンガツツジ群落	レンガツツジ群落	240401	レンガツツジ群落	細							0	2010	3	関東
V	24	落葉広葉樹低木群落	04	ツツジ科植物群落	02	アヲミツハツツジ群落	アヲミツハツツジ群落	240402	アヲミツハツツジ群落	細							0	2010	7	中国・四国
V	24	落葉広葉樹低木群落	04	ツツジ科植物群落	03	オノツツジ群落	オノツツジ群落	240403	オノツツジ群落	細							0	2010	7	中国・四国
V	24	落葉広葉樹低木群落	04	ツツジ科植物群落	04	ヤマツツジ群落	ヤマツツジ群落	240404	ヤマツツジ群落	細							2013	2	東北	

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例名	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例
288	V 24	落葉広葉木低木群落	05	コハクツツル群落	01	オオマルバテンニンソウ-コハクツツル群落	オオマルバテンニンソウ-コハクツツル群落	240501	オオマルバテンニンソウ-コハクツツル群落	細			シカ食害	
289	V 25	二次草原	01	ササ群落	00	ササ群落	ササ群落(V)	250100	ササ群落(V)	細				
290	V 25	二次草原	01	ササ群落	01	チシマザサ-クメイザサ群落	チシマザサ-クメイザサ群落	250101	チシマザサ-クメイザサ群落	中				
291	V 25	二次草原	02	ササ群落	02	チマキザサ群落	チマキザサ群落(V)	250102	チマキザサ群落(V)	細				
292	V 25	二次草原	01	ササ群落	03	スズタケ群落	スズタケ群落	250103	スズタケ群落	細				
293	V 25	二次草原	01	ササ群落	04	ミヤコササ群落	ミヤコササ群落	250104	ミヤコササ群落	細				
294	V 25	二次草原	01	ササ群落	05	ハコネダケ群落	ハコネダケ群落	250105	ハコネダケ群落	細				
295	V 25	二次草原	01	ササ群落	06	ナガボシソウワレ-モコウ-エゾミヤコササ群落	ナガボシソウワレ-モコウ-エゾミヤコササ群落	250106	ナガボシソウワレ-モコウ-エゾミヤコササ群落	細				
296	V 25	二次草原	01	ササ群落	07	ミヤコザサ群落	ミヤコザサ群落	250107	ミヤコザサ群落	細				
297	V 25	二次草原	02	ススキ群団	00	ススキ群団	ススキ群団(V)	250200	ススキ群団(V)	中			シカ食害	
298	V 25	二次草原	02	ススキ群団	01	エゾヤマハギ-ススキ群落	エゾヤマハギ-ススキ群落	250201	エゾヤマハギ-ススキ群落	細				
299	V 25	二次草原	02	ススキ群団	02	ノナシヨウブ-ススキ群落	ノナシヨウブ-ススキ群落	250202	ノナシヨウブ-ススキ群落	細				
300	V 25	二次草原	02	ススキ群団	03	カワラマツハ-ススキ群落	カワラマツハ-ススキ群落	250203	カワラマツハ-ススキ群落	細				
301	V 25	二次草原	02	ススキ群団	04	ヤマトラノオ-ススキ群落	ヤマトラノオ-ススキ群落	250204	ヤマトラノオ-ススキ群落	細				
302	V 25	二次草原	02	ススキ群団	05	ホクチアザミ-ススキ群落	ホクチアザミ-ススキ群落	250205	ホクチアザミ-ススキ群落	細				
303	V 25	二次草原	02	ススキ群団	07	ミヤマキリシマ-ススキ群落	ミヤマキリシマ-ススキ群落	250207	ミヤマキリシマ-ススキ群落	細				
304	V 25	二次草原	02	ススキ群団	08	ヤマアワ-マルバダケブキ群落	ヤマアワ-マルバダケブキ群落	250208	ヤマアワ-マルバダケブキ群落	細				
305	V 25	二次草原	02	ススキ群団	09	ツルギシマシロ-ヤマヌカホ群落	ツルギシマシロ-ヤマヌカホ群落	250209	ツルギシマシロ-ヤマヌカホ群落	細				
306	V 25	二次草原	03	シハ群団	00	シハ群団	シハ群団(V)	250300	シハ群団(V)	中				
307	V 25	二次草原	01	ヘビノコサ群落	00	ヘビノコサ群落	ヘビノコサ群落	250301	ヘビノコサ群落	細				
308	V 25	二次草原	04	オオモギ群落	00	オオモギ群落	オオモギ群落	250400	オオモギ群落	中				
309	V 25	二次草原	05	オオモギ群落	01	ハンゴンソウ群落	ハンゴンソウ群落	250500	ハンゴンソウ群落	中				
310	V 25	二次草原	05	オオモギ群落	02	イケマ-ハンゴンソウ群落	イケマ-ハンゴンソウ群落	250501	イケマ-ハンゴンソウ群落	細				
311	V 25	二次草原	02	オオモギ群落	02	オオモギ群落	オオモギ群落	250502	オオモギ群落	細				
312	V 25	二次草原	05	オオモギ群落	03	オオモギ群落	オオモギ群落	250503	オオモギ群落	細				
313	V 25	二次草原	06	マルバダケブキ群落	01	ヤマカモジグサ-マルバダケブキ群落	ヤマカモジグサ-マルバダケブキ群落	250601	ヤマカモジグサ-マルバダケブキ群落	細				
314	V 25	二次草原	07	イワヒメワラビ群落	01	イワヒメワラビ群落	イワヒメワラビ群落	250701	イワヒメワラビ群落	細				
315	V 25	二次草原	08	シカ食害草原	00	シカ食害草原	シカ食害草原	250800	シカ食害草原	中				
316	V 26	伐採跡地群落	00	伐採跡地群落	00	伐採跡地群落	伐採跡地群落(V)	260000	伐採跡地群落(V)	大				
317	VI 26	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	00	シラカシ群落	シラカシ群落	270100	シラカシ群落	中				
318	VI 27	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	01	シラカシ群落	シラカシ群落	270101	シラカシ群落	細				
319	VI 27	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	02	ツクハネガシ-シラカシ群落	ツクハネガシ-シラカシ群落	270103	ツクハネガシ-シラカシ群落	細				
320	VI 27	常緑広葉樹林	02	アラカシ群落	00	アラカシ群落	アラカシ群落	270200	アラカシ群落	中				
321	VI 27	常緑広葉樹林	02	アラカシ群落	01	ジャノヒゲ-アラカシ群落	ジャノヒゲ-アラカシ群落	270201	ジャノヒゲ-アラカシ群落	細				
322	VI 27	常緑広葉樹林	02	アラカシ群落	02	ナンテン-アラカシ群落	ナンテン-アラカシ群落	270202	ナンテン-アラカシ群落	細				
323	VI 27	常緑広葉樹林	03	アラカシ群落	00	アラカシ群落	アラカシ群落	270300	アラカシ群落	中				
324	VI 27	常緑広葉樹林	03	アラカシ群落	01	ミヤマシキミ-アカガシ群落	ミヤマシキミ-アカガシ群落	270301	ミヤマシキミ-アカガシ群落	細				
325	VI 27	常緑広葉樹林	04	ツクハネガシ群落	00	ツクハネガシ群落	ツクハネガシ群落	270400	ツクハネガシ群落	中				
326	VI 27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	00	ウラジロガシ群落	ウラジロガシ群落	270500	ウラジロガシ群落	中				
327	VI 27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	01	ヒメアオキ-ウラジロガシ群落	ヒメアオキ-ウラジロガシ群落	270501	ヒメアオキ-ウラジロガシ群落	細				
328	VI 27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	02	イヌノキ-ウラジロガシ群落	イヌノキ-ウラジロガシ群落	270502	イヌノキ-ウラジロガシ群落	細				
329	VI 27	常緑広葉樹林	06	イチイガシ群落	00	イチイガシ群落	イチイガシ群落	270600	イチイガシ群落	中				
330	VI 27	常緑広葉樹林	06	イチイガシ群落	01	ルリノキ-イチイガシ群落	ルリノキ-イチイガシ群落	270602	ルリノキ-イチイガシ群落	細				
331	VI 27	常緑広葉樹林	06	イチイガシ群落	02	ナナノガシ群落	ナナノガシ群落	270700	ナナノガシ群落	中				
332	VI 27	常緑広葉樹林	07	シリアカガシ群落	00	シリアカガシ群落	シリアカガシ群落	270800	シリアカガシ群落	中				
333	VI 27	常緑広葉樹林	08	シリアカガシ群落	01	シイモチ-シリアカガシ群落	シイモチ-シリアカガシ群落	270801	シイモチ-シリアカガシ群落	細				
334	VI 27	常緑広葉樹林	09	イヌツツ群落	01	ハイク-イヌツツ群落	ハイク-イヌツツ群落	270901	ハイク-イヌツツ群落	細				
335	VI 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	01	ヒカゲツツジ-ヤマグルマ群落	ヒカゲツツジ-ヤマグルマ群落	271001	ヒカゲツツジ-ヤマグルマ群落	細				
336	VI 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	02	ユズリハ-ヤマグルマ群落	ユズリハ-ヤマグルマ群落	271002	ユズリハ-ヤマグルマ群落	細				
337	VI 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	03	イワナンテン-ヤマグルマ群落	イワナンテン-ヤマグルマ群落	271003	イワナンテン-ヤマグルマ群落	細				
338	VI 27	常緑広葉樹林												

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例名	区分レベル	更新状況	注記	副凡例
339	VI 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	00	コジイ群落	271100	コジイ群落			
340	VI 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	01	サカキ-コジイ群落	271101	サカキ-コジイ群落			
341	VI 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	02	カナメチ-コジイ群落	271102	カナメチ-コジイ群落			
342	VI 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	03	クロハイ-コジイ群落	271103	クロハイ-コジイ群落			
343	VI 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	00	スタジイ群落	271200	スタジイ群落			
344	VI 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	01	ヤブコウジ-スタジイ群落	271201	ヤブコウジ-スタジイ群落			
345	VI 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	03	ホノカナワラビ-スタジイ群落	271203	ホノカナワラビ-スタジイ群落			
346	VI 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	04	オオシマカンクサ-スタジイ群落	271204	オオシマカンクサ-スタジイ群落			
347	VI 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	05	ミズハヤ-スタジイ群落	271205	ミズハヤ-スタジイ群落			
348	VI 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	06	ヤクシマアジサイ-スタジイ群落	271206	ヤクシマアジサイ-スタジイ群落			
349	VI 27	常緑広葉樹林	13	マテハシイ群落	00	マテハシイ群落	271300	マテハシイ群落			
350	VI 27	常緑広葉樹林	14	ホノバト群落	00	ホノバト群落	271400	ホノバト群落			
351	VI 27	常緑広葉樹林	15	ヤブツバキ群落	00	ヤブツバキ群落	271500	ヤブツバキ群落			
352	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	00	タブノキ群落	271600	タブノキ群落			
353	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	01	イノチ-タブノキ群落	271601	イノチ-タブノキ群落			
354	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	02	ヤブニッケイ-タブノキ群落	271602	ヤブニッケイ-タブノキ群落			
355	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	03	ムササビ-タブノキ群落	271603	ムササビ-タブノキ群落			
356	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	04	ハウサンボク-タブノキ群落	271604	ハウサンボク-タブノキ群落			
357	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	05	アコウ-タブノキ群落	271605	アコウ-タブノキ群落			
358	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	06	ハドノキ-タブノキ群落	271606	ハドノキ-タブノキ群落		伊豆	
359	VI 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	07	ラセイトアマアジサイ-タブノキ群落	271607	ラセイトアマアジサイ-タブノキ群落		伊豆	
360	VI 27	常緑広葉樹林	17	ホルノキ群落	00	ホルノキ群落	271700	ホルノキ群落			
361	VI 27	常緑広葉樹林	18	カコノキ群落	00	カコノキ群落	271800	カコノキ群落			
362	VI 27	常緑広葉樹林	19	ウバメガシ群落	00	ウバメガシ群落(常緑広葉樹林)	271900	ウバメガシ群落(常緑広葉樹林)			
363	VI 27	常緑広葉樹林	20	クロハイ群落	00	クロハイ群落	272000	クロハイ群落			
364	VI 27	常緑広葉樹林	21	イスノキ群落	00	イスノキ群落	272100	イスノキ群落			
365	VI 27	常緑広葉樹林	22	ハチジョウイヌツゲ群落	00	ハチジョウイヌツゲ群落	272200	ハチジョウイヌツゲ群落			
366	VI 28	暖温帯針葉樹林	01	モミ群落	00	モミ群落(VI)	280100	モミ群落(VI)		伊豆	
367	VI 28	暖温帯針葉樹林	01	モミ群落	01	シキミ-モミ群落	280101	シキミ-モミ群落			
368	VI 28	暖温帯針葉樹林	01	モミ群落	02	コガクツギ-モミ群落	280102	コガクツギ-モミ群落			
369	VI 28	暖温帯針葉樹林	02	ナギ群落	00	ナギ群落	280200	ナギ群落			
370	VI 28	暖温帯針葉樹林	03	イヌマキ群落	00	イヌマキ群落	280300	イヌマキ群落			
371	VI 28	暖温帯針葉樹林	03	イヌマキ群落	01	ヒトツバ-イヌマキ群落	280301	ヒトツバ-イヌマキ群落			
372	VI 28	暖温帯針葉樹林	04	ビヤクシン群落	00	ビヤクシン群落	280400	ビヤクシン群落			
373	VI 28	暖温帯針葉樹林	05	スギ群落	00	スギ群落(VI)	280500	スギ群落(VI)			
374	VI 28	暖温帯針葉樹林	05	スギ群落	01	タカサゴシダ-スギ群落	280501	タカサゴシダ-スギ群落			
375	VI 28	暖温帯針葉樹林	05	スギ群落	02	イノノキ-スギ群落	280502	イノノキ-スギ群落			
376	VI 28	暖温帯針葉樹林	06	ヒノキ群落	00	ヒノキ群落(VI)	280600	ヒノキ群落(VI)			
377	VI 28	暖温帯針葉樹林	07	トガサワラ群落	00	トガサワラ群落(VI)	280700	トガサワラ群落(VI)			
378	VI 28	暖温帯針葉樹林	08	ツガ群落	00	ツガ群落	280800	ツガ群落			
379	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落	00	アカマツ群落(VI)	290100	アカマツ群落(VI)		新	
380	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落	02	コバミツバツツジ-アカマツ群落(自然林)	290102	コバミツバツツジ-アカマツ群落(自然林)			
381	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落	03	オオツツジ-アカマツ群落(自然林)	290103	オオツツジ-アカマツ群落(自然林)			
382	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落	04	ヤマツツジ-アカマツ群落(自然林)	290104	ヤマツツジ-アカマツ群落(自然林)			
383	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	01	アカマツ群落	05	ユキクニミツバツツジ-アカマツ群落(自然林)	290105	ユキクニミツバツツジ-アカマツ群落(自然林)			
384	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	02	アカマツ群落	06	モチツツジ-アカマツ群落(自然林)	290106	モチツツジ-アカマツ群落(自然林)			
385	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹林	02	クロマツ群落	00	クロマツ群落(VI)	290200	クロマツ群落(VI)			
386	VI 30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	00	イタドリ-クロマツ群落	290201	イタドリ-クロマツ群落			
387	VI 30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	01	ケヤキ群落(VI)	300100	ケヤキ群落(VI)		④版	
388	VI 30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	01	コクサギ-ケヤキ群落	300101	コクサギ-ケヤキ群落			
389	VI 30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	02	イロハミミシ-ケヤキ群落	300102	イロハミミシ-ケヤキ群落			
390	VI 30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	03	コウヤワラビ-ケヤキ群落	300103	コウヤワラビ-ケヤキ群落			

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例
390	VI 30	落葉広葉樹林	01	ケヤキ群落	04	ケヤキ-ムクノキ群集	300104	ケヤキ-ムクノキ群集	細				
391	VI 30	落葉広葉樹林	02	ケヤキ群落	05	ツフキ-ケヤキ群落	300105	ツフキ-ケヤキ群落	細				
392	VI 30	落葉広葉樹林	00	ムクノキ-エノキ群落	00	ムクノキ-エノキ群落	300200	ムクノキ-エノキ群落	中				
393	VI 30	落葉広葉樹林	02	ムクノキ-エノキ群落	01	ムクノキ-エノキ群集	300201	ムクノキ-エノキ群集	細				
394	VI 30	落葉広葉樹林	03	ミズキ群落	00	ミズキ群落(VI)	300300	ミズキ群落(VI)	中		改		
395	VI 30	落葉広葉樹林	01	ウリノキ-ミズキ群落	01	ウリノキ-ミズキ群落	300301	ウリノキ-ミズキ群落	細				
396	VI 30	落葉広葉樹林	04	イヌシテ-アカシデ群落	01	イヌシテ-アカシデ群落	300401	イヌシテ-アカシデ群落(VI)	細		換		
397	VI 30	落葉広葉樹林	05	シマサルズベリ群落	01	シマサルズベリ群落	300501	シマサルズベリ群落	細				
398	VI 31	沼沢林	01	ハンノキ群落	00	ハンノキ群落(VI)	310100	ハンノキ群落(VI)	中				
399	VI 31	沼沢林	01	ハンノキ群落	01	サクラハハノキ群落	310101	サクラハハノキ群落	細				
400	VI 31	沼沢林	02	クズギ群落	00	クズギ群落(VI)	310200	クズギ群落(VI)	中				
401	VI 32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	00	ヤナギ高木群落(VI)	320100	ヤナギ高木群落(VI)	中				
402	VI 32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	01	ヤナギ群落	320101	ヤナギ群落	細				
403	VI 32	河辺林	02	ヤナギ高木群落	02	アカメヤナギ群落	320102	アカメヤナギ群落	細				
404	VI 32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	03	ココメヤナギ群落	320103	ココメヤナギ群落	細				
405	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	00	ヤナギ低木群落(VI)	320200	ヤナギ低木群落(VI)	中				
406	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	01	ネコヤナギ群落	320201	ネコヤナギ群落	細				
407	VI 32	河辺林	03	ヤナギ低木群落	03	ドウツギ-アキグミ群集	320203	ドウツギ-アキグミ群集	細				
408	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	04	タチヤナギ群集	320204	タチヤナギ群集	細				
409	VI 32	河辺林	03	カワラハンノキ群落	00	カワラハンノキ群落	320300	カワラハンノキ群落	中				
410	VI 32	河辺林	04	フサザクラ群落	00	フサザクラ群落	320400	フサザクラ群落	中				
411	VI 32	河辺林	01	フサザクラ群落	01	タマアジサイ-フサザクラ群集	320401	タマアジサイ-フサザクラ群集	細	F			
412	VI 32	河辺林	05	アキニレ群落	00	アキニレ群落	320500	アキニレ群落	細				
413	VI 32	河辺林	06	河辺ヤシロシ群落	00	河辺ヤシロシ群落(VI)	320600	河辺ヤシロシ群落(VI)	中				
414	VI 32	河辺林	01	アキグミ群落	00	アキグミ群落	320700	アキグミ群落	中				
415	VI 33	自然低木群落	01	ヤマヤナギ群落	00	ヤマヤナギ-ツクシヤブツクシ群団	330100	ヤマヤナギ-ツクシヤブツクシ群団	中				
416	VI 33	自然低木群落	02	オオハヤシヤブシ群落	00	オオハヤシヤブシ群落	330200	オオハヤシヤブシ群落(VI)	中				
417	VI 33	自然低木群落	02	オオハヤシヤブシ群落	01	ニオイツギ-オオハヤシヤブシ群集	330201	ニオイツギ-オオハヤシヤブシ群集	細			伊豆	
418	VI 33	自然低木群落	02	オオハヤシヤブシ群落	02	ラセイタマアジサイ-オオハヤシヤブシ群	330202	ラセイタマアジサイ-オオハヤシヤブシ群	細				
419	VI 33	自然低木群落	02	オオハヤシヤブシ群落	03	ハチジョウウススキ-オオハヤシヤブシ群落	330203	ハチジョウウススキ-オオハヤシヤブシ群落	細				
420	VI 33	自然低木群落	03	ハノノキ-ウラジロエノキ群団(自然林)	01	ガクアジサイ-ラセイタマアジサイ群集	330301	ガクアジサイ-ラセイタマアジサイ群集	細				
421	VI 33	自然低木群落	03	ハノノキ-ウラジロエノキ群団(自然林)	02	カニクサ-アカメガシワ群落	330302	カニクサ-アカメガシワ群落	細				
422	VI 33	自然低木群落	04	ハマボウ群落	00	ハマボウ群落	330400	ハマボウ群落	中				
423	VI 33	自然低木群落	05	ハマクサキ群落	00	ハマクサキ群落	330500	ハマクサキ群落	中				
424	VI 33	自然低木群落	07	イワシデ群落	00	イワシデ群落(VI)	330700	イワシデ群落(VI)	中				
425	VI 33	自然低木群落	07	イワシデ群落	01	ツシマンソングサ-イワシデ群集	330701	ツシマンソングサ-イワシデ群集	細			移	
426	VI 33	自然低木群落	08	イフキンモツケ群落	00	イフキンモツケ群落	330800	イフキンモツケ群落	中				
427	VI 33	自然低木群落	09	ハマナツメ群落	00	ハマナツメ群落	330900	ハマナツメ群落	中				
428	VI 33	自然低木群落	10	イワガサ群落	00	イワガサ群落	331000	イワガサ群落	中				
429	VI 33	自然低木群落	11	カンシ群落	01	ネムノキ-カンシ群集	331101	ネムノキ-カンシ群集(VI)	細			110403の常緑広葉樹混生タイプ	
430	VI 34	海岸風衝低木群落	00	トベラ群落	00	トベラ群落	340000	海岸風衝低木群落	大				
431	VI 34	海岸風衝低木群落	01	ウバメ群落	01	マサキ-トベラ群集	340101	マサキ-トベラ群集	細				
432	VI 34	海岸風衝低木群落	02	ウバメ群落	00	ウバメ群落	340200	ウバメ群落	中				
433	VI 34	海岸風衝低木群落	02	ウバメ群落	01	トベラ-ウバメ群集	340201	トベラ-ウバメ群集	細				
434	VI 34	海岸風衝低木群落	03	ハマビワ群落	01	オニヤブツツ-ハマビワ群集	340301	オニヤブツツ-ハマビワ群集	細				
435	VI 34	海岸風衝低木群落	03	ハマビワ群落	02	アカテツ-ハマビワ群集	340302	アカテツ-ハマビワ群集	細				
436	VI 34	海岸風衝低木群落	04	マルハニツケイ群落	00	マルハニツケイ群落	340400	マルハニツケイ群落	中				
437	VI 34	海岸風衝低木群落	05	モクダチハナ群落	00	モクダチハナ群落	340500	モクダチハナ群落	中				
438	VI 34	海岸風衝低木群落	06	ビヤクシン群落	01	ハマヒサカキ-ビヤクシン群落	340601	ハマヒサカキ-ビヤクシン群落	細			移 (トベラ-ウバメガシワ群集)	
439	VI 34	海岸風衝低木群落	07	オキナワハイネズ群落	00	オキナワハイネズ群落	340700	オキナワハイネズ群落	中				
440	VI 34	海岸風衝低木群落	08	ハマヒサカキ群落	01	シラタマカズラ-ハマヒサカキ群落	340801	シラタマカズラ-ハマヒサカキ群落	細				



植生区分	大コード	大区	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例	新規凡例ブロック	新規凡例ブロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	植生自然度2.5万	注	シカ等食害
480	VI 37	亜熱帯湿生林(マングローブ林)	02	マングローブ群落	00	00	370200	マングローブ群落	中							36				
481	VI 37	亜熱帯湿生林(マングローブ林)	03	サガリバナ-サキシマスオウノキ群落	01	01	370300	サガリバナ-サキシマスオウノキ群落	中							1				
482	VI 37	亜熱帯湿生林(マングローブ林)	03	サガリバナ-サキシマスオウノキ群落	01	01	370301	サガリバナ群集	細							4	2006	九州・沖縄		
483	VI 37	亜熱帯湿生林(マングローブ林)	03	サガリバナ-サキシマスオウノキ群落	02	02	370302	サキシマスオウノキ群集	細							4	2006	九州・沖縄		
484	VI 37	亜熱帯湿生林(マングローブ林)	03	サガリバナ-サキシマスオウノキ群落	03	03	370303	ハマボウ-サキシマスオウノキ群落	細							2	2009	九州・沖縄		
485	VI 39	亜熱帯低木群落	01	ソテツ群落	00	00	390100	ソテツ群落	中							115				
486	VI 39	亜熱帯低木群落	02	アダン群回	00	00	390200	アダン群回	中							29				
487	VI 39	亜熱帯低木群落	02	アダン群回	01	01	390201	オオハマボウ群集	細											
488	VI 39	亜熱帯低木群落	02	アダン群回	02	02	390202	オオハマボウ群落	細			小笠原				2013				
489	VI 39	亜熱帯低木群落	03	モンハノキ-クサトベラ群落	01	01	390301	モンハノキ-クサトベラ群集	細							39	2006	九州・沖縄		
490	VI 39	亜熱帯低木群落	03	モンハノキ-クサトベラ群落	02	02	390302	クサトベラ群落	細							0				
491	VI 39	亜熱帯低木群落	03	モンハノキ-クサトベラ群落	03	03	390303	モンハノキ群落	細							0				
492	VI 39	亜熱帯低木群落	05	海岸風衝低木群落(小笠原)	07	07	390507	トゲミドリノキ群落	細							0				
493	VI 39	亜熱帯低木群落	06	イボクサケ-シイノキカズラ群回	00	00	390600	イボクサケ-シイノキカズラ群回	細							0	2008		調整	
494	VI 39	亜熱帯低木群落	06	イボクサケ-シイノキカズラ群回	01	01	390601	ニッパヤシ群落	細							1	2006	九州・沖縄		
495	VI 39	亜熱帯低木群落	07	岩上低木群落	01	01	390701	ダイウワダン-ガジュマル群集	細							5	2008	九州・沖縄		
496	VI 39	亜熱帯低木群落	07	岩上低木群落	02	02	390702	シラカネノウメ群集	細			小笠原				0	2013		調整	
497	VI 39	亜熱帯低木群落	08	オオノソノテ-テリハコブ群回(雲霧林)	01	01	390801	ワダンノキ群集	細							0	2013		調整	
498	VI 39	亜熱帯低木群落	08	オオノソノテ-テリハコブ群回(雲霧林)	02	02	390802	ヒサカキ-ガクアジサイ群落	細							0	2013		調整	
499	VI 39	亜熱帯低木群落	08	オオノソノテ-テリハコブ群回(雲霧林)	03	03	390803	オオノソノテ-テリハコブ群落	細			改				0	2013		調整	
500	VI 39	亜熱帯低木群落	09	オオノソノテ-テリハコブ群回(乾性低木林)	01	01	390901	シマイノキ-コハノアカタツ群集	細							0	2013		調整	
501	VI 39	亜熱帯低木群落	09	オオノソノテ-テリハコブ群回(乾性低木林)	02	02	390902	ムニンアオガシニ-コハノアカタツ群集	細							0	2013		調整	
502	VI 39	亜熱帯低木群落	09	オオノソノテ-テリハコブ群回(乾性低木林)	04	04	390904	アカテツ群落	細							0	2013		調整	
503	VI 39	亜熱帯低木群落	10	タコノキ群落	00	00	391000	タコノキ群落	細							0	2013		調整	
504	VI 39	亜熱帯低木群落	11	ハドノキ-ウラジロエキ群回(自然林)	02	02	391102	オガサワラグ群落	細							0	2011		調整	
505	VI 39	亜熱帯低木群落	11	ハドノキ-ウラジロエキ群回(自然林)	03	03	391103	センダン群落	細							0	2011		調整	
506	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	00	00	400100	シイ-カンニ次林	中							893				注3
507	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	01	01	400101	ケヤキ-シラガシ群落	細							37				
508	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	02	02	400102	アカガシ二次林	細							71				注4
509	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	03	03	400103	スダジニ二次林	細							0				注5
510	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	04	04	400104	シラカシ群落	細							43				
511	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	05	05	400105	ウラジロガシ二次林	細							0				調整
512	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	06	06	400106	ツクハネガシ二次林	細							0				調整
513	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	07	07	400107	アラカシ二次林	細							0				調整
514	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	08	08	400108	シラカシ二次林	細							0				調整
515	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	09	09	400109	コジニ二次林	細							0				調整
516	VI 40	常緑広葉樹二次林	01	シイ-カンニ次林	10	10	400110	シリカガシ二次林	細							4	2004	中国・四国		注10
517	VI 40	常緑広葉樹二次林	02	タブノキ-ヤブニッケイ二次林	00	00	400200	タブノキ-ヤブニッケイ二次林	中							237				注12
518	VI 40	常緑広葉樹二次林	02	タブノキ-ヤブニッケイ二次林	01	01	400201	ヤマヤブソトツ-ヤブニッケイ群集	細							0				注13
519	VI 40	常緑広葉樹二次林	03	ヒサカキ二次林	00	00	400300	ヒサカキ二次林	中							0				
520	VI 40	常緑広葉樹二次林	04	マテハシニ次林	00	00	400400	マテハシニ次林	中							1	2002	中国・四国		
521	VI 40	常緑広葉樹二次林	04	マテハシニ次林	01	01	400401	ハウサンボク-マテハシニ次林群落	細							50				
522	VI 40	常緑広葉樹二次林	05	マサキ-トベラ二次林	00	00	400500	マサキ-トベラ二次林	中							0				注14
523	VI 40	常緑広葉樹二次林	06	ウハメカシニ次林	00	00	400600	ウハメカシニ次林	中							98				
524	VI 40	常緑広葉樹二次林	07	亜熱帯常緑広葉樹二次林	01	01	400701	ギョウキンカ-スダジニ群集	細							51	2000	九州・沖縄		注15
525	VI 40	常緑広葉樹二次林	07	亜熱帯常緑広葉樹二次林	02	02	400702	ポチヨブジョ-イジュ群落	細							44	2000	九州・沖縄		
526	VI 40	常緑広葉樹二次林	07	亜熱帯常緑広葉樹二次林	03	03	400703	ナギヨブジョ-ヤブニッケイ群落	細							51	2000	九州・沖縄		
527	VI 40	常緑広葉樹二次林	07	亜熱帯常緑広葉樹二次林	04	04	400704	ケナガエサカキ-スダジニ群集二次林	細							7	2006	九州・沖縄		注16
528	VI 40	常緑広葉樹二次林	08	アカテツ-ハマヒワ群集二次林	00	00	400800	アカテツ-ハマヒワ群集二次林	中							4	2008	九州・沖縄		
529	VI 40	常緑広葉樹二次林	09	ヤブツバキ二次林	00	00	400900	ヤブツバキ二次林	中							0	2009	九州・沖縄		

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例名	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注	シカ等食害
530	Ⅶ	41	コナラ群落	01	コナラ群落	00	コナラ群落(VII)	410100	コナラ群落	中					450				7		
531	Ⅶ	41	コナラ群落	01	コナラ群落	01	クレーコナラ群落	410101	クレーコナラ群落	細	F				219				7		
532	Ⅶ	41	コナラ群落	02	クレーコナラ群落	02	クスギコナラ群落	410102	クスギコナラ群落	細					228				7		
533	Ⅶ	41	コナラ群落	03	オニシバリコナラ群落	03	オニシバリコナラ群落	410103	オニシバリコナラ群落	細					86				7		
534	Ⅶ	41	コナラ群落	04	ノグルミコナラ群落	04	ノグルミコナラ群落	410104	ノグルミコナラ群落	細					17	2002	8	九州・沖縄	7		
535	Ⅶ	41	コナラ群落	05	アベマキコナラ群落	05	アベマキコナラ群落	410105	アベマキコナラ群落	細					214	2000	5	中部	7		
536	Ⅶ	41	コナラ群落	06	ケネササコナラ群落	06	ケネササコナラ群落	410106	ケネササコナラ群落	細					17	2000	5	中部	7		
537	Ⅶ	41	コナラ群落	07	クロモジコナラ群落	07	クロモジコナラ群落	410107	クロモジコナラ群落	細	F				32	2000	8	九州	7		
538	Ⅶ	41	コナラ群落	08	ホトボロキコナラ群落	08	ホトボロキコナラ群落	410108	ホトボロキコナラ群落	細	F				0	未			7		
539	Ⅶ	41	コナラ群落	09	ヒトツバタコ群落	09	ヒトツバタコ群落	410109	ヒトツバタコ群落	細				(ノグルミコナラ群落)	1				7		
540	Ⅶ	41	コナラ群落	10	クロキコナラ群落	10	クロキコナラ群落	410110	クロキコナラ群落	細				(ケネササコナラ群落)	0	未	0	調整	7		
541	Ⅶ	41	コナラ群落	11	フモトミズナラ群落	11	フモトミズナラ群落	410111	フモトミズナラ群落	細				(ケネササコナラ群落)	0	2009	5	中部	7		
542	Ⅶ	41	クスギ群落	00	クスギ群落	00	クスギ群落(VII)	410200	クスギ群落	中					0	2009	8	九州・沖縄	7		
543	Ⅶ	41	クスギ群落	01	クヌギ群落	01	クヌギ群落	410201	クヌギ群落	細				(アベマキコナラ群落)	0	2009	6	近畿	7		
544	Ⅶ	41	アベマキ群落	00	アベマキ群落	00	アベマキ群落	410300	アベマキ群落	中					0				7		
545	Ⅶ	41	アベマキ群落	01	アベマキ群落	01	アベマキ群落	410400	アベマキ群落	中					112				7		
546	Ⅶ	41	アベマキ群落	02	アベマキ群落	02	アベマキ群落	410501	アベマキ群落	細					0				8		
547	Ⅶ	41	アベマキ群落	03	アベマキ群落	03	アベマキ群落	410600	アベマキ群落	中					0				7		
548	Ⅶ	41	アベマキ群落	04	アベマキ群落	04	アベマキ群落	410601	アベマキ群落	細					0				7		
549	Ⅶ	41	アベマキ群落	05	アベマキ群落	05	アベマキ群落	410700	アベマキ群落	中					423				6		
550	Ⅶ	41	アベマキ群落	06	アベマキ群落	06	アベマキ群落	410701	アベマキ群落	細						2012	8	九州・沖縄	7		
551	Ⅶ	41	アベマキ群落	07	アベマキ群落	07	アベマキ群落	410800	アベマキ群落	中					58	2000	5	中部	7		
552	Ⅶ	41	アベマキ群落	08	アベマキ群落	08	アベマキ群落	410801	アベマキ群落	細					31	2000	8	九州・沖縄	7		
553	Ⅶ	41	アベマキ群落	09	アベマキ群落	09	アベマキ群落	410802	アベマキ群落	細					3	2004	5	中部	7		
554	Ⅶ	41	アベマキ群落	10	アベマキ群落	10	アベマキ群落	410900	アベマキ群落	中					22	2000	7	中国・四国	7		
555	Ⅶ	41	アベマキ群落	11	アベマキ群落	11	アベマキ群落	411000	アベマキ群落	中					1	2009	4	北陸	7		
556	Ⅶ	41	アベマキ群落	12	アベマキ群落	12	アベマキ群落	411001	アベマキ群落	細					70	2000	7	中国・四国	7		
557	Ⅶ	41	アベマキ群落	13	アベマキ群落	13	アベマキ群落	411002	アベマキ群落	細					9	2000	8	九州・沖縄	7		
558	Ⅶ	41	アベマキ群落	14	アベマキ群落	14	アベマキ群落	411200	アベマキ群落	中					111	2000	8	九州・沖縄	6		
559	Ⅶ	41	アベマキ群落	15	アベマキ群落	15	アベマキ群落	411201	アベマキ群落	細					3	2008	8	九州・沖縄	7		
560	Ⅶ	41	アベマキ群落	16	アベマキ群落	16	アベマキ群落	411202	アベマキ群落	細					2	2008	8	九州・沖縄	7		
561	Ⅶ	41	アベマキ群落	17	アベマキ群落	17	アベマキ群落	411203	アベマキ群落	細					2011	3	関東		7		
562	Ⅶ	41	アベマキ群落	18	アベマキ群落	18	アベマキ群落	411204	アベマキ群落	細					2013	3	関東		6		
563	Ⅶ	41	アベマキ群落	19	アベマキ群落	19	アベマキ群落	411300	アベマキ群落	中					5	2001	8	九州・沖縄	7		
564	Ⅶ	41	アベマキ群落	20	アベマキ群落	20	アベマキ群落	411400	アベマキ群落	中					0	未	0	調整	6		
565	Ⅶ	41	アベマキ群落	21	アベマキ群落	21	アベマキ群落	411501	アベマキ群落	細					8	2008	8	九州・沖縄	7		
566	Ⅶ	41	アベマキ群落	22	アベマキ群落	22	アベマキ群落	411600	アベマキ群落	中					0	2009	8	九州・沖縄	5		●
567	Ⅶ	41	アベマキ群落	23	アベマキ群落	23	アベマキ群落	411700	アベマキ群落	中					0	2009	8	九州・沖縄	5		●
568	Ⅶ	41	アベマキ群落	24	アベマキ群落	24	アベマキ群落	411800	アベマキ群落	中					0	2009	8	九州・沖縄	5		
569	Ⅶ	41	アベマキ群落	25	アベマキ群落	25	アベマキ群落	420100	アベマキ群落	中					494				7		
570	Ⅶ	41	アベマキ群落	26	アベマキ群落	26	アベマキ群落	420101	アベマキ群落	細	F				84				7		
571	Ⅶ	41	アベマキ群落	27	アベマキ群落	27	アベマキ群落	420102	アベマキ群落	細					229				7		
572	Ⅶ	41	アベマキ群落	28	アベマキ群落	28	アベマキ群落	420103	アベマキ群落	細					2				7		
573	Ⅶ	41	アベマキ群落	29	アベマキ群落	29	アベマキ群落	420104	アベマキ群落	細	F				183				7		
574	Ⅶ	41	アベマキ群落	30	アベマキ群落	30	アベマキ群落	420105	アベマキ群落	細					20				7		
575	Ⅶ	41	アベマキ群落	31	アベマキ群落	31	アベマキ群落	420106	アベマキ群落	細					0				7		
576	Ⅶ	41	アベマキ群落	32	アベマキ群落	32	アベマキ群落	420107	アベマキ群落	細					76	2000	7	中国・四国	7		
577	Ⅶ	41	アベマキ群落	33	アベマキ群落	33	アベマキ群落	420108	アベマキ群落	細					15	2000	7	中国・四国	7		
578	Ⅶ	41	アベマキ群落	34	アベマキ群落	34	アベマキ群落	420200	アベマキ群落	中					99				7		

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分シケル	更新状況	注記	副凡例
579	Ⅶ 42	常緑針葉樹二次林	03	リュウキエウマツ群落	00		420300	リュウキエウマツ群落(Ⅶ)	中			
580	Ⅶ 42	常緑針葉樹二次林	04	モミ群落	00		420400	モミ群落(Ⅶ)	中			
581	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	00	タケ・ササ群落	00		430000	タケ・ササ群落	大			
582	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	01	ヤダケ群落	00		430100	ヤダケ群落	中			
583	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	02	メダケ群落	00		430200	メダケ群落	中			
584	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	03	リュウキエウマツ群落	00		430300	リュウキエウマツ群落	中			
585	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	04	アズマネザサ群落	00		430400	アズマネザサ群落	中			
586	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	05	ネササ群落	00		430500	ネササ群落	中			
587	Ⅶ 43	タケ・ササ群落	06	カンザンチク群落	00		430600	カンザンチク群落	中			
588	Ⅶ 44	低木群落	00		00		440000	低木群落	大			
589	Ⅶ 44	低木群落	02	クス群落	00		440200	クス群落	中			
590	Ⅶ 44	低木群落	03	ツルダコ群落	00		440300	ツルダコ群落	中		小笠原	
591	Ⅶ 44	低木群落	04	マルハチ群落	01		440401	マルハチ群落	細		小笠原	
592	Ⅶ 44	低木群落	10	モリハコ群落	00		441000	モリハコ群落	中			
593	Ⅶ 44	低木群落	11	ソテツ群落	01		441101	キダチハマグルマルソテツ群落	細			
594	Ⅶ 44	低木群落	12	ハマコウ群落	00		441200	ハマコウ群落(Ⅶ)	中			
595	Ⅶ 44	低木群落	13	外来種低木二次林	01		441301	シチヘンゲ群落	中			
596	Ⅶ 44	低木群落	14	外来種つる植物群落	00		441400	外来種つる植物群落	中		シカ食害地	
597	Ⅶ 44	低木群落	15	カクアジサイ群落	00		441500	ガクアジサイ群落	中		小笠原	
598	Ⅶ 45	二次草原	01	ススキ群団	00		450100	ススキ群団(Ⅶ)	中		伊豆	
599	Ⅶ 45	二次草原	01	ススキ群団	01		450101	アズマネザサ・ススキ群集	細			
600	Ⅶ 45	二次草原	01	ススキ群団	02		450102	ネササ・ススキ群集	細			
601	Ⅶ 45	二次草原	03	チガヤ・ススキ群団	03		450103	チガヤ・ススキ群集	細			
602	Ⅶ 45	二次草原	04	メガルカヤ・ススキ群団	04		450104	メガルカヤ・ススキ群集	細			
603	Ⅶ 45	二次草原	02	シハ群団	00		450200	シハ群団(Ⅶ)	中			
604	Ⅶ 45	二次草原	02	シハ群団	01		450201	コウライシハ群落(Ⅶ)	細			
605	Ⅶ 45	二次草原	03	ウラジローコシダ群落	00		450300	ウラジローコシダ群落	中			
606	Ⅶ 45	二次草原	04	ダンチク群落	00		450400	ダンチク群落	中			
607	Ⅶ 45	二次草原	05	ハチジョウアザミ群落	00		450500	ハチジョウアザミ群落	中			
608	Ⅶ 45	二次草原	06	ハイキビ群落	00		450600	ハイキビ群落	中			
609	Ⅶ 45	二次草原	10	シマズメヒエ・スズメノコエ群落	01		451001	シマズメヒエ・スズメノコエ群落	細			
610	Ⅶ 45	二次草原	11	ナガハコニクサ・ススキ群団	00		451100	ナガハコニクサ・ススキ群団	中			
611	Ⅶ 45	二次草原	12	ニオウヤブマオ群落	00		451200	ニオウヤブマオ群落	中			
612	Ⅶ 45	二次草原	13	タイワンカモノハシ群落	00		451300	タイワンカモノハシ群落	中			
613	Ⅶ 45	二次草原	14	マツカゼソウ・イワヒメワラビ群落	01		451401	マツカゼソウ・イワヒメワラビ群落	細			
614	Ⅶ 45	二次草原	15	シダ草原	01		451501	ワラビ・タマシダ群落	細			
615	Ⅶ 45	二次草原	15	シダ草原	02		451502	コノミシダ群落	細			
616	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	00		451600	外来種二次草原	中			
617	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	11		451611	アオノリュウゼツラン群落	細			
618	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	12		451612	サイザルアザ群落	細			
619	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	13		451613	セイロンベンケイ群落	細			
620	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	14		451614	ホナガソウ群落	細			
621	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	15		451615	ハラアサガオ群落	細			
622	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	16		451616	クサトケイ群落	細			
623	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	17		451617	ハリケンクススキ群落	細			
624	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	18		451618	ホクワチヤ群落	細			
625	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	19		451619	ハタガヤ・キハナヒメワラビ群落	細			
626	Ⅶ 45	二次草原	16	外来種二次草原	20		451620	オニチカラシハ群落	細			
627	Ⅶ 45	二次草原	17	ハチジョウススキ群落	00		451700	ハチジョウススキ群落(Ⅶ)	中			
628	Ⅶ 46	伐採跡地群落	00		00		460000	伐採跡地群落(Ⅶ)	中			
629	Ⅶ 46	伐採跡地群落	01	山火事跡地群落	00		460100	山火事跡地群落	中			
630	Ⅶ 46	伐採跡地群落	01	山火事跡地群落	01		460101	ワラビ群落	細			
631	Ⅶ 47	湿原・河川・池沼植生	00		00		470000	湿原・河川・池沼植生	大			

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注	シカ等被害
632	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	00	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	470100	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	中					107				10		
633	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス(代償植生)	470101	ツルコケモモ・ミズゴケケラス(代償植生)	細					1	2006	1	北海道	5		
634	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	03	カラフトイソツツジ・ヤチツツジ群落	470103	カラフトイソツツジ・ヤチツツジ群落	細					2	2007	1	北海道	10		
635	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	04	カラフトイソツツジ・チャマスゴケ群落	470104	カラフトイソツツジ・チャマスゴケ群落	細					1	2007	1	北海道	10		
636	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	05	ニッコウソダン・ケンソノハミズゴケ群落	470105	ニッコウソダン・ケンソノハミズゴケ群落	細					3	2007	1	北海道	10		
637	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	06	ヒメウタスゲ・ワラミズゴケ群落	470106	ヒメウタスゲ・ワラミズゴケ群落	細					3	2007	1	北海道	10		
638	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	07	フルテ・ジュレレンケ合体群落	470107	フルテ・ジュレレンケ合体群落	細					2	2007	1	北海道	10		
639	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	08	ムジナスゲ・チャマスゴケ群落	470108	ムジナスゲ・チャマスゴケ群落	細					2	2009	1	北海道	10		
640	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	09	ヤチカンバ群落	470109	ヤチカンバ群落	細					2011	1	北海道	9			
641	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01	ツルコケモモ・ミズゴケケラス	10	ヤマドリヒゼンマイ・トマリヌグ群落	470110	ヤマドリヒゼンマイ・トマリヌグ群落	細					2013	1	北海道	10			
642	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	02	ヌマガヤオ・ダ	00	ヌマガヤオ・ダ	470200	ヌマガヤオ・ダ	中					208				10		
643	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	02	ヌマガヤオ・ダ	01	オオミズゴケ群落	470201	オオミズゴケ群落	細					1	2003	8	九州・沖縄	10		
644	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	02	ヌマガヤオ・ダ	02	チマキザサ・ヌマガヤ群落	470202	チマキザサ・ヌマガヤ群落	細					2	2006	1	北海道	10		
645	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	03	貧養地小型植物群落	00	貧養地小型植物群落	470300	貧養地小型植物群落	中					27				10		
646	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	00	ヨシケラス	470400	ヨシケラス	中					1232				10	注17	
647	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	01	ミノソバ・ヨシ群落	470401	ミノソバ・ヨシ群落	細					136				5		
648	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	02	ヒライーカモノノシ群落	470402	ヒライーカモノノシ群落	細					9	2000	2	東北	10		
649	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	03	セイタイヨシ群落	470403	セイタイヨシ群落	細		移			21	2001	7	中国・四国	10	注18	
650	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	05	チマキザサ・ヨシ群落	470405	チマキザサ・ヨシ群落	細					1	2006	1	北海道	10		
651	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	06	ヨシ・ヤマナスグ群落	470406	ヨシ・ヤマナスグ群落	細					7	2003	1	北海道	10		
652	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	07	ツルスゲ・ヌマドリソウツツギ群落	470407	ツルスゲ・ヌマドリソウツツギ群落	細					4	2003	1	北海道	10		
653	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	08	ヨシ・イワノガリヤス群落	470408	ヨシ・イワノガリヤス群落	細					7	2003	1	北海道	10		
654	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	09	イワノガリヤス・カブスグ群落	470409	イワノガリヤス・カブスグ群落	細					2	2007	1	北海道	10		
655	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	10	ツルスゲ・ムジナスグ群落	470410	ツルスゲ・ムジナスグ群落	細					7	2003	1	北海道	10		
656	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	11	ツルスゲ・ミンソノハミズゴケ群落	470411	ツルスゲ・ミンソノハミズゴケ群落	細					1	2007	1	北海道	10		
657	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	12	ヤチヤナギ・ムジナスグ群落	470412	ヤチヤナギ・ムジナスグ群落	細					6	2003	1	北海道	10		
658	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	13	ホザキモツケ群落	470413	ホザキモツケ群落	細					14	2003	1	北海道	10		
659	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	14	ナガボソノワレモコウ・ヒメシダ群落	470414	ナガボソノワレモコウ・ヒメシダ群落	細		検			3	2009	1	北海道	5		
660	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	15	イワノガリヤス・ツルスグ群落	470415	イワノガリヤス・ツルスグ群落	細					2012	1	北海道	10			
661	Ⅷ 48	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	16	ムジナスゲ・ヤチスグ群落	470416	ムジナスゲ・ヤチスグ群落	細					2012	1	北海道	10			
662	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシケラス	17	オオソノカクイ群落	470417	オオソノカクイ群落	細					2013	3	関東	10			
663	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	00	河川敷砂礫地植生	470500	河川敷砂礫地植生	中					26				10		
664	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	01	ツルヨシ群落	470501	ツルヨシ群落	細					726				10	注19	
665	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	02	オギ群落	470502	オギ群落	細					401				10	注20	
666	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	03	ホツスガヤ群落	470503	ホツスガヤ群落	細					0				10		
667	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	04	カワラハハコ・ヨモギ群落	470504	カワラハハコ・ヨモギ群落	細					120	2000	5	中部	10		
668	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	06	カワラヨモギ群落	470506	カワラヨモギ群落	細					4	2002	7	中国・四国	10		
669	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	07	河川砂礫地外来草本群落	470507	河川砂礫地外来草本群落	細					2	2009	7	中国・四国	2		
670	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	08	河川砂礫地外来低木群落	470508	河川砂礫地外来低木群落	細					2013	5	中部	3			
671	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷砂礫地植生	09	フサフツツギ群落	470509	フサフツツギ群落	細					2013	5	中部	3			
672	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロケラス	00	ヒルムシロケラス	470600	ヒルムシロケラス	中					6	2000	8	九州・沖縄	10		
673	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロケラス	01	オニバス群落	470601	オニバス群落	細					4	2005	3	関東	2		
674	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロケラス	02	外来水草群落	470602	外来水草群落	細					23	2003	6	近畿	10		
675	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	08	漂流辺植生	00	漂流辺植生	470800	漂流辺植生	中											

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル	クラス	更新状況	注記	副凡例
676	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	08	リュウキュウツツブキ	01	リュウキュウツツブキ	470801	リュウキュウツツブキ	細				
677	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	08	湿流辺植生	02	湿流辺植生	470802	リュウキュウツツブキ	細				
678	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	08	湿流辺植生	03	湿流辺植生	470803	リュウキュウツツブキ	細				
679	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	08	湿流辺植生	04	湿流辺植生	470804	リュウキュウツツブキ	細				
680	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	08	湿流辺植生	05	湿流辺植生	470805	リュウキュウツツブキ	細				
681	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	09	河辺一年生草本群	00	河辺一年生草本群	470900	リュウキュウツツブキ	中				
682	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	09	河辺一年生草本群	01	河辺一年生草本群	470901	リュウキュウツツブキ	細				
683	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	10	マアザミ	00	マアザミ	471000	リュウキュウツツブキ	中				
684	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	11	カワケソノコ	00	カワケソノコ	471100	リュウキュウツツブキ	中				
685	Ⅷ 48	塩沼地植生	00		00		480000	塩沼地植生	大				
686	Ⅷ 48	塩沼地植生	01	ヒトモトス	00	ヒトモトス	480100	ヒトモトス	中				
687	Ⅷ 48	塩沼地植生	02	シオクグ	00	シオクグ	480200	シオクグ	中				
688	Ⅷ 48	塩沼地植生	02	シオクグ	01	シオクグ	480201	シオクグ	細				
689	Ⅷ 48	塩沼地植生	03	ウラギク	01	ウラギク	480301	ウラギク	細				
690	Ⅷ 48	塩沼地植生	03	ウラギク	02	ウラギク	480302	ウラギク	細				
691	Ⅷ 48	塩沼地植生	03	ウラギク	03	ウラギク	480303	ウラギク	細				
692	Ⅷ 48	塩沼地植生	04	アマモ	00	アマモ	480400	アマモ	中				
693	Ⅷ 48	塩沼地植生	04	アマモ	01	アマモ	480401	アマモ	細				
694	Ⅷ 48	塩沼地植生	05	マリタイム	01	マリタイム	480501	マリタイム	細				
695	Ⅷ 48	塩沼地植生	05	マリタイム	02	マリタイム	480502	マリタイム	細				
696	Ⅷ 48	塩沼地植生	06	1年生アツケ	01	1年生アツケ	480601	アツケ	細				
697	Ⅷ 48	塩沼地植生	07	ウミドリ	00	ウミドリ	480700	ウミドリ	中				
698	Ⅷ 48	塩沼地植生	07	ウミドリ	01	ウミドリ	480701	ウミドリ	細				
699	Ⅷ 48	塩沼地植生	08	オオク	00	オオク	480800	オオク	中				
700	Ⅷ 48	塩沼地植生	09	汽水淡水植物	01	汽水淡水植物	480901	汽水淡水植物	細				
701	Ⅷ 48	塩沼地植生	10	ミモチ	00	ミモチ	481000	ミモチ	中				
702	Ⅷ 48	塩沼地植生	11	アイアン	00	アイアン	481101	アイアン	細				
703	Ⅷ 49	砂丘植生	00		00		490000	砂丘植生	大				
704	Ⅷ 49	砂丘植生	01	ハマ	00	ハマ	490100	ハマ	中				
705	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマ	00	ハマ	490200	ハマ	中				
706	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマ	01	ハマ	490201	ハマ	細				
707	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマ	02	ハマ	490202	ハマ	細				
708	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマ	03	ハマ	490203	ハマ	細				
709	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマ	04	ハマ	490204	ハマ	細				
710	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマ	05	ハマ	490205	ハマ	細				
711	Ⅷ 49	砂丘植生	03	ハイ	00	ハイ	490300	ハイ	中				
712	Ⅷ 49	砂丘植生	04	ハマ	01	ハマ	490401	ハマ	細				
713	Ⅷ 49	砂丘植生	05	コウ	01	コウ	490501	コウ	細				
714	Ⅷ 49	砂丘植生	05	コウ	02	コウ	490502	コウ	細				
715	Ⅷ 49	砂丘植生	06	クン	00	クン	490600	クン	中				
716	Ⅷ 49	砂丘植生	07	ハマ	00	ハマ	490700	ハマ	中				
717	Ⅷ 49	砂丘植生	07	ハマ	01	ハマ	490701	ハマ	細				
718	Ⅷ 49	砂丘植生	09	原生花園	01	原生花園	490901	原生花園	細				
719	Ⅷ 49	砂丘植生	09	原生花園	02	原生花園	490902	原生花園	細				
720	Ⅷ 49	砂丘植生	10	磯浜	00	磯浜	491000	磯浜	中				
721	Ⅷ 49	砂丘植生	10	磯浜	01	磯浜	491001	磯浜	細				
722	Ⅷ 49	砂丘植生	10	磯浜	02	磯浜	491002	磯浜	細				
723	Ⅷ 49	砂丘植生	11	外来	01	外来	491101	外来	細				
724	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	00		00		500000	海岸断崖地植生	大				
725	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	01	エソ	01	エソ	500101	エソ	細				
726	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	01	エソ	02	エソ	500102	エソ	細				

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分シケル	クラス	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注	シカ等食害		
727	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	01	エソノカワラナデシコ-ホロマンノコギリノ群団	03	エソノユウ-ススキ群集	500103	エソノユウ-ススキ群集	細	換				12	2000	2	東北	10				
728	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	02	イブキボウフウ群団	03	ラセイトウ-ハマギク群集	500203	ラセイトウ-ハマギク群集	細					29	2000	2	東北	10				
729	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	02	イブキボウフウ群団	04	ハマボツ-キリンソウ群集	500204	ハマボツ-キリンソウ群集	細					14	2001	2	東北	10				
730	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	00	ホタンボウフウ群団	500300	ホタンボウフウ群団	中					0	未			10				
731	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	01	ハチジョウ-ススキ群集	500301	ハチジョウ-ススキ群集	細					41				10				
732	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	02	イノギク-ハマジョウ-ススキ群集	500302	イノギク-ハマジョウ-ススキ群集	細					60				10				
733	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	03	ノジギク群集	500303	ノジギク群集	細					0				10				
734	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	04	オキナワキ-ハマジョウ-ススキ群集	500304	オキナワキ-ハマジョウ-ススキ群集	細					11				10				
735	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	05	オガサワラス-ススキ群集	500305	オガサワラス-ススキ群集	細					0				10				
736	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	03	ホタンボウフウ群団	06	ラセイトウ-インギク群集	500306	ラセイトウ-インギク群集	中			伊豆		0		2013	3	関東	10			
737	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	05	海鳥営巣地植物群集	01	オヒシバ-スベリヒコ群集	500501	オヒシバ-スベリヒコ群集	細		改			0				10				
738	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	05	海鳥営巣地植物群集	02	フタタマヒシバ群集	500502	フタタマヒシバ群集	細					0				10				
739	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	06	海岸草本群集	00	海岸草本群集	500600	海岸草本群集	中		換			69	2000	4	北陸	10				
740	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	07	オオイトドリ群集	00	オオイトドリ群集	500700	オオイトドリ群集	中					10	2000	2	東北	10				
741	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	08	カワラナデシコ-ウシノケガサ群団	01	ダルマキク-ホソバワタ群集	500801	ダルマキク-ホソバワタ群集	細		移			19	2002	8	九州・沖縄	10				
742	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	09	ナガバカニクサ-ススキ群団	01	ナンヨウカモジガサ-ススキ群集	500801	ナンヨウカモジガサ-ススキ群集	細					2011	3	関東	10					
743	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	10	ナンハンカラムシ群集	00	ナンハンカラムシ群集	501100	ナンハンカラムシ群集	中			小笠原		2013	3	関東	10					
744	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	11	モクビヤッコウ群集	00	モクビヤッコウ群集	501100	モクビヤッコウ群集	中			小笠原		9				10				
745	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	01	石灰岩地植生	00	石灰岩地植生	510100	石灰岩地植生	中					20		2012	6	近畿	10			
746	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	01	石灰岩地植生	01	石灰岩地植生	510101	石灰岩地植生	中					5	2005	8	九州・沖縄	10				
747	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	03	岩壁植生	00	岩壁植生	510300	岩壁植生	中					0	2009	7	中国・四国	9				
748	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	00	蛇紋岩地植生	510400	蛇紋岩地植生	中					35	2000	5	中部	9				
749	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	01	アカマツ群集	510401	アカマツ群集(VIII)	細					2012	8	九州・沖縄	9					
750	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	02	ヒロハトウダツツジ-アカマツ群集	510402	ヒロハトウダツツジ-アカマツ群集	細					0	2009	2	東北	9				
751	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	03	ケスゲ-アラカシ群集	510403	ケスゲ-アラカシ群集	細					20	2000	2	東北	9				
752	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	05	風穴植生	00	風穴植生	510500	風穴植生	中					2014	1	北海道	9					
753	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	05	風穴植生	01	コキンバイ-レンゲツツジ群集	510501	コキンバイ-レンゲツツジ群集	細					2011	0	調整	10					
754	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	05	風穴植生	02	コケモ-エゾムラサキツツジ群集	510502	コケモ-エゾムラサキツツジ群集	細					2011	0	調整	10					
755	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	00	岩角地植生	510600	岩角地植生	中			移	510200から移動	2011	0	調整	10					
756	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	01	コメツツジ群集	510601	コメツツジ群集	細					2011	0	調整	10					
757	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	02	オノエラン-ハコネコメツツジ群集	510602	オノエラン-ハコネコメツツジ群集	細					2011	3	関東	10					
758	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	03	チヨウジョツツジ群集	510603	チヨウジョツツジ群集	細					2011	5	中部	10					
759	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	04	アノキク-アイノコマツ群集	510604	アノキク-アイノコマツ群集	細					2012	8	九州・沖縄	10					
760	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	06	オオシマツツジ-リョウブ群集	510606	オオシマツツジ-リョウブ群集	細			伊豆		2013	3	関東	10					
761	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	07	オオシマツツジ群集	510607	オオシマツツジ群集	細			新		2016	4	北陸	10					
762	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	01	火山荒原植生	00	火山荒原植生	520100	火山荒原植生	中					26				10				
763	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	02	硫黄孔原植生	00	硫黄孔原植生	520200	硫黄孔原植生	中					2013	3	関東	10					
764	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	03	硫黄孔原植生	01	イガガヤツツジ群集	520201	イガガヤツツジ群集	細			小笠原		2				10				
765	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	03	硫黄孔原植生	00	ミヤマキリシマ群集	520300	ミヤマキリシマ群集	中					7				10				
766	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	03	硫黄孔原植生	01	マイヅルソウ-ミヤマキリシマ群集	520301	マイヅルソウ-ミヤマキリシマ群集	細					13				10				
767	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	04	ヤマホタル-ススキ群集	02	キリシマアザミ群集	520302	キリシマアザミ群集	細					0		2010	8	九州・沖縄	4			
768	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	04	ヤマホタル-ススキ群集	01	フジアザミ-ヤマホタル-ススキ群集	520401	フジアザミ-ヤマホタル-ススキ群集	細					0				10				
769	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	05	コメツツジ群集	00	コメツツジ群集	520501	コメツツジ群集	細					0				10				
770	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	06	ハチジョウ-ススキ群集	00	ハチジョウ-ススキ群集	520600	ハチジョウ-ススキ群集	中					0				10				
771	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	07	タマシダ群集	01	シマタヌキラン-ハチジョウ-ススキ群集	520601	シマタヌキラン-ハチジョウ-ススキ群集	細					0				10				
772	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	07	タマシダ群集	00	タマシダ群集	520700	タマシダ群集	中					0				10				
773	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	08	噴気孔原植生	00	イタドリ-タマシダ群集	520701	イタドリ-タマシダ群集	細					3	2004	1	北海道	10				
774	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	09	マルハヤツキ-ハチジョウ-ススキ群集	00	噴気孔原植生	520800	噴気孔原植生	中					1	2008	0	調整	10				
775	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	09	マルハヤツキ-ハチジョウ-ススキ群集	01	イタドリ-ハチジョウ-ススキ群集	520901	イタドリ-ハチジョウ-ススキ群集	細					1	2008	8	九州・沖縄	10				
776	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	09	マルハヤツキ-ハチジョウ-ススキ群集	02	マルハヤツキ-ハチジョウ-ススキ群集	520902	マルハヤツキ-ハチジョウ-ススキ群集	細					1	2008	8	九州・沖縄	9				
777	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	10	シヤンヤン-ススキ群集	01	マルハヤツキ-シヤンヤン-ススキ群集	521001	マルハヤツキ-シヤンヤン-ススキ群集	細					1	2008	8	九州・沖縄	9				
778	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫黄孔原植生	10	シヤンヤン-ススキ群集	02	ヒカガハスラン-シヤンヤン-ススキ群集	521002	ヒカガハスラン-シヤンヤン-ススキ群集	細					0	2010	8	九州・沖縄	9				

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例名	区分シケル	クラス	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注
779	Ⅶ	Ⅴ	11	イソツツジ群落	01	ススキ-イソツツジ群落	521101	ススキ-イソツツジ群落	細				0	2008	1	北海道	10	
780	Ⅶ	Ⅴ	12	イソツツジ群落	01	アキグミ-イソツツジ群落	521201	アキグミ-イソツツジ群落	細				0	2008	1	北海道	10	
781	Ⅶ	Ⅴ	13	ミネヤナギ群落	00	ミネヤナギ群落(VIII)	521300	ミネヤナギ群落(VIII)	中				2010	1	北海道	10		
782	Ⅶ	Ⅴ	13	ミネヤナギ群落	01	ミネヤナギ-カラマツ群落	521301	ミネヤナギ-カラマツ群落	細		(ミネヤナギ群落)カラマツ逸出		2010	1	北海道	8		
783	Ⅶ	Ⅴ	14	ヒサカキ群落	01	ハナジヨウススキ-ヒサカキ群落	521401	ハナジヨウススキ-ヒサカキ群落	細				2013	3	関東	10		
784	Ⅶ	Ⅴ	00		00	隆起珊瑚礁植生	530000	隆起珊瑚礁植生	大				54				10	
785	Ⅶ	Ⅴ	01	ソナレシハ群落	00	ソナレシハ群落	530100	ソナレシハ群落	中				0				10	
786	Ⅶ	Ⅴ	02	ハイシハ群落	00	ハイシハ群落	530200	ハイシハ群落	中				0				10	
787	Ⅶ	Ⅴ	03	モクビヤッコ群落	00	モクビヤッコ群落	530300	モクビヤッコ群落	中				0				10	
788	Ⅶ	Ⅴ	03	モクビヤッコ群落	01	イソマツ-モクビヤッコ群落	530301	イソマツ-モクビヤッコ群落	細				1	2006	8	九州・沖縄	10	
789	Ⅶ	Ⅴ	03	モクビヤッコ群落	02	イソマツ群落	530302	イソマツ群落	細				2011	3	関東	10		
790	Ⅶ	Ⅴ	04	ゴウライシハ群落	00	ゴウライシハ群落	530400	ゴウライシハ群落	中				25				10	
791	Ⅶ	Ⅴ	05	コハマジンチヨウ群落	00	コハマジンチヨウ群落	530500	コハマジンチヨウ群落	中				0				10	
792	Ⅶ	Ⅴ	05	ミズガンビ群落	00	ミズガンビ群落	530700	ミズガンビ群落	中				9	2006	8	九州・沖縄	10	
793	Ⅶ	Ⅴ	08	トゲイボタ群落	00	トゲイボタ群落	530800	トゲイボタ群落	中				1	2008	8	九州・沖縄	10	
794	Ⅶ	Ⅴ	09	チソノウメ群落	01	ハリツルマサキ-チソノウメ群落	530901	ハリツルマサキ-チソノウメ群落	細				1565				10	
795	Ⅶ	Ⅴ	01	スギ・ヒノキ・サウラ群落	00	スギ・ヒノキ・サウラ群落	540100	スギ・ヒノキ・サウラ群落	中				14	2000	8	九州・沖縄	6	
796	Ⅶ	Ⅴ	01	スギ巨木林	01	スギ巨木林	540101	スギ巨木林	細		発達した林分		467				6	注21
797	Ⅶ	Ⅴ	02	アカマツ植林	00	アカマツ植林	540200	アカマツ植林	中				573				6	
798	Ⅶ	Ⅴ	03	クロマツ植林	00	クロマツ植林	540300	クロマツ植林	中				60				6	
799	Ⅶ	Ⅴ	04	エゾマツ植林	00	エゾマツ植林	540400	エゾマツ植林	中				246				6	
800	Ⅶ	Ⅴ	05	トドマツ植林	00	トドマツ植林	540500	トドマツ植林	中				168				6	
801	Ⅶ	Ⅴ	06	アカエゾマツ植林	00	アカエゾマツ植林	540600	アカエゾマツ植林	中				563				6	
802	Ⅶ	Ⅴ	07	カラマツ植林	00	カラマツ植林	540700	カラマツ植林	中				9				6	
803	Ⅶ	Ⅴ	08	リュウキユウマツ植林	00	リュウキユウマツ植林	540800	リュウキユウマツ植林	中				234				3	
804	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	00	外国産樹種植林	540900	外国産樹種植林	中				74				3	
805	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	01	ギンネム群落	540901	ギンネム群落	細				330				3	
806	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	02	ニセアカシア群落	540902	ニセアカシア群落	細				39	2000	5	中部	3	
807	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	03	テラダマツ植林	540903	テラダマツ植林	細				111	2000	8	九州・沖縄	3	
808	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	04	モクマオウ類植林	540904	モクマオウ類植林	細				26	2000	8	九州・沖縄	3	
809	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	05	ソウシジロ植林	540905	ソウシジロ植林	細				64	2001	1	北海道	3	
810	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	06	ストローマツ植林	540906	ストローマツ植林	細				0				3	
811	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	07	ニセアカシア植林	540907	ニセアカシア植林	細				0				3	
812	Ⅶ	Ⅴ	09	外国産樹種植林	08	インドゴムノキ植林	540908	インドゴムノキ植林	細		小笠原		533	2013	3	関東	6	
813	Ⅶ	Ⅴ	10	その他植林	00	その他植林	541000	その他植林	中				34				6	
814	Ⅶ	Ⅴ	11	その他植林(常緑針葉樹)	00	その他植林(常緑針葉樹)	541100	その他植林(常緑針葉樹)	中				22	2001	2	東北	6	
815	Ⅶ	Ⅴ	11	その他植林(常緑針葉樹)	01	モミ植林	541101	モミ植林	細				17	2003	2	東北	6	
816	Ⅶ	Ⅴ	11	その他植林(常緑針葉樹)	02	ウラジロモミ植林	541102	ウラジロモミ植林	細				5	2004	5	中部	6	
817	Ⅶ	Ⅴ	11	その他植林(常緑針葉樹)	03	シラビソ植林	541103	シラビソ植林	細				2	2004	5	中部	6	
818	Ⅶ	Ⅴ	11	その他植林(常緑針葉樹)	04	トクヒ植林	541104	トクヒ植林	細				0				6	
819	Ⅶ	Ⅴ	11	その他植林(常緑針葉樹)	05	ヒノキアスナロ植林	541105	ヒノキアスナロ植林	細		新		108	2016	1	北海道	6	
820	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	00	その他植林(落葉広葉樹)	541200	その他植林(落葉広葉樹)	中		移		44	2000	2	東北	6	
821	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	01	ヤチダモ植林	541201	ヤチダモ植林	細				185	2000	8	九州・沖縄	6	
822	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	02	クスギ植林	541202	クスギ植林	細				21	2000	7	中国・四国	6	
823	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	03	オオハヤシヤブシ植林	541203	オオハヤシヤブシ植林	細				11	2000	8	九州・沖縄	6	
824	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	04	ハンノキ群落	541204	ハンノキ群落	細				45	2000	5	中部	6	
825	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	05	オオシマザクラ植林	541205	オオシマザクラ植林	細				23	2000	4	北陸	6	
826	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	06	アキグミ植林	541206	アキグミ植林	細				0				6	
827	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	07	ハマナス植栽地	541207	ハマナス植栽地	細				52	2002	1	北海道	6	
828	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	08	シラカンハ植林	541208	シラカンハ植林	細				0	2010	3	関東	6	
829	Ⅶ	Ⅴ	12	その他植林(落葉広葉樹)	09	ヤシヤブシ植林	541209	ヤシヤブシ植林	細				0	2010	8	九州・沖縄	6	
830	Ⅶ	Ⅴ	13	その他植林(常緑広葉樹)	00	その他植林	541300	その他植林(常緑広葉樹)	中				3				6	

植生区分	大区分	中区分	細区分	凡例コード	凡例名	区分シケル	クラス	更新状況	注記	副凡例	2次メッシュ数	新規凡例作成年	新規凡例ブロックコード	新規凡例ブロック	植生自然度2.5万	注	
831	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	01 クスノキ雑林	541301	クスノキ雑林	細					87						
832	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	02 クスノキ巨木林	541302	クスノキ巨木林	細			秦運した林分		6	2000	8	九州・沖縄	3		
833	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	03 クスノキ群落	541303	クスノキ群落	細			瀬戸内少雨地の二次林		33	2000	7	中国・四国	3		
834	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	04 マチノシイ雑林	541304	マチノシイ雑林	細					0	未	5	中部	6		
835	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	05 イスノキ雑林	541305	イスノキ雑林	細					26	2006	8	九州・沖縄	6		
836	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	06 テリハボク雑林	541306	テリハボク雑林	細						2011	3	関東	6		
837	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	07 アカギ群落	541307	アカギ群落	細			小笠原			2013	3	関東	6		
838	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	08 オオハマボウ雑林	541308	オオハマボウ雑林	細			小笠原			2013	3	関東	6		
839	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	09 カシユマル群落	541309	カシユマル群落	細			小笠原			2013	3	関東	6		
840	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	10 オガサワラビロウ雑林	541310	オガサワラビロウ雑林	細			小笠原			2013	3	関東	6		
841	IX 54 雑林地	13 その他雑林(常緑広葉樹)	11 ヤブツバキ雑林	541311	ヤブツバキ雑林	細			伊豆			20	2005	2	東北	3	
842	IX 54 雑林地	14 外国産樹種吹付地	01 イタチハギ吹付地	541401	イタチハギ吹付地	細			追			12	2003	2	東北	3	
843	IX 54 雑林地	14 外国産樹種吹付地	02 イタチハギ群落	541402	イタチハギ群落	細						1245			3		
844	IX 55 竹林	00	00	550000	竹林	大						147			3		
845	IX 55 竹林	01 モウソウチク林	00	550100	モウソウチク林	中						45			3		
846	IX 55 竹林	02 マダケ・ハチク林	00	550200	マダケ・ハチク林	中						9			3		
847	IX 55 竹林	03 ホウライチク・ホテイチク林	00	550300	ホウライチク・ホテイチク林	中						2011	3	関東	3		
848	IX 55 竹林	04 タイサンチク林	00	550400	タイサンチク林	中									3		
849	IX 56 牧草地・ゴルフ場・芝地	01 ゴルフ場・芝地	00	560100	ゴルフ場・芝地	中									4		
850	IX 56 牧草地・ゴルフ場・芝地	02 牧草地	00	560200	牧草地	中									4		
851	IX 57 耕作地	01 路傍・空地雑草群落	00	570100	路傍・空地雑草群落	中			判読区分h						2		
852	IX 57 耕作地	01 路傍・空地雑草群落	01 放棄畑雑草群落	570101	放棄畑雑草群落	中			判読区分g						4	注22	
853	IX 57 耕作地	01 路傍・空地雑草群落	02 クサイ・ミノ・ボロスガ群集	570102	クサイ・ミノ・ボロスガ群集	細			判読区分f						4	注23	
854	IX 57 耕作地	02 果樹園	00	570200	果樹園	細			判読区分c						4		
855	IX 57 耕作地	02 桑樹園	01 茶畑	570201	茶畑	中			判読区分e						3		
856	IX 57 耕作地	02 果樹園	02 常緑果樹園	570202	常緑果樹園	細			判読区分e1						3		
857	IX 57 耕作地	02 果樹園	03 苗圃	570203	苗圃	細			判読区分e2						3		
858	IX 57 耕作地	03 畑雑草群落	00	570300	畑雑草群落	中			判読区分e3	伊豆					3		
859	IX 57 耕作地	04 水田雑草群落	00	570400	水田雑草群落	中			判読区分a						2		
860	IX 57 耕作地	04 水田雑草群落	01 ワサビ田	570401	ワサビ田	細			判読区分b						2		
861	IX 57 耕作地	05 放棄水田雑草群落	00	570500	放棄水田雑草群落	中			判読区分b1						2		
862	IX 58 市街地等	01 市街地	00	580100	市街地	中			判読区分d						4		
863	IX 58 市街地等	01 市街地	01 緑の多い住宅地	580101	緑の多い住宅地	細			判読区分k						1		
864	IX 58 市街地等	02 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	00	580200	残存・植栽樹群をもった公園、墓地等	中			判読区分i						2		
865	IX 58 市街地等	03 工場地帯	00	580300	工場地帯	中			判読区分p						3		
866	IX 58 市街地等	04 造成地	00	580400	造成地	中			判読区分L						1		
867	IX 58 市街地等	04 造成地	01 煙管跡裸地	580401	煙管跡裸地	細			判読区分m						1		
868	IX 58 市街地等	04 造成地	02 泥炭採掘跡裸地	580402	泥炭採掘跡裸地	細			判読区分m1						1		
869	IX 58 市街地等	05 干拓地	00	580500	干拓地	中			判読区分m2						1		
870	IX 58 市街地等	06 開放水域	00	580600	開放水域	中			判読区分n						99		
871	IX 58 市街地等	07 自然裸地	00	580700	自然裸地	中			判読区分w						88		
872	IX 58 市街地等	08 残存・植栽樹群地	00	580800	残存・植栽樹群地	中			判読区分r						3		
873	IX 58 市街地等	09 多年性雪渓	00	580900	多年性雪渓	中			判読区分s、雑多な 塵敷林等						98		

注1 現地で確認し、シカの食害の影響が強く不嗜好植物が優占し、元の構成種の減少が著しいものを自然度4とする。  
注2-16 現地で確認し、縞り返し伐採されて樹冠が小さく自然林の要素の少ないものを自然度5とする。  
注17 都市河川や埋立地等の人工的な立地に成立するものは自然度5とする。  
注18 水田放棄地に成立するものは自然度5とする。  
注19 都市河川の人工的な立地に成立するものは自然度5とする。  
注20 都市河川の人工的な立地に成立するものは自然度5とする。  
注21 現地で確認し、縞り返し伐採されて樹冠が小さく自然林の要素の少ないものを自然度7とする。  
注22-23 現地で確認し、外来種の多い群落は自然度2とする。

# 山岳地調査の手引き

## 目 次

はじめに	資 4-2
I. 計画	資 4-2
1. 既存資料	資 4-2
2. 既存画像データ	資 4-2
3. 現地調査計画・判読素図	資 4-5
4. 標本採取許可申請	資 4-5
II. 現地調査	資 4-6
1. 現地調査	資 4-6
2. 植生図	資 4-6
III. 凡例適用と図化の基本方針	資 4-7
1. 山岳地の凡例適用の基本方針	資 4-7
(1) 日本の山岳地の植物社会学的な位置づけ	資 4-7
(2) 凡例	資 4-7
(3) 図化	資 4-8
2. 山岳地の統一凡例と群集との対応	資 4-9
(1) 全国	資 4-9
(2) 北海道	資 4-9
3. 地形との関連	資 4-18
(1) 山岳地の一般的な植生配分	資 4-18
(2) 各地の研究例と図化事例	資 4-18
(3) ヨーロッパの事例	資 4-28
4. 標準的なくくり方	資 4-31
(1) 地形をわかりやすくする工夫	資 4-31
(2) 月山「植生図」の判読・図化にあたっての 判別点や工夫—偽高山の低木群落の細分	資 4-31
5. その他	資 4-34
(1) シカ食害による変化	資 4-34
参考文献	資 4-35

## はじめに

本手引きは、平成 24 年度技術手法検討部会の検討結果をふまえ、高山帯・亜高山帯の植生図について、一定精度を確保するための作業工程や作成手法におけるポイントをまとめたものである。事例として作成したモデル地域（芦別岳、月山、木曾駒ヶ岳）の資料や山岳地既存調査地点 DB を業務管理サイトに示すので参考にされたい。

## I. 計画

現地調査の困難な山岳地では、周到な準備と行けるところでの現地確認が重要である。以下に山岳地の調査計画策定時のポイントを示す。

### 1. 既存資料

- ・ 研究者にも協力していただき調査地域に関連する学術的な研究事例や植生情報を発掘する。
- ・ 新しい組成データが少ないため、植生変化のほとんどないところは既存の組成データも活用する。
- ・ 山岳地の主要文献の調査地点データを整理した「山岳地既存調査地点 DB」を調査地域の植生情報の抽出や課題設定に活用する（業務管理サイトに掲載）。

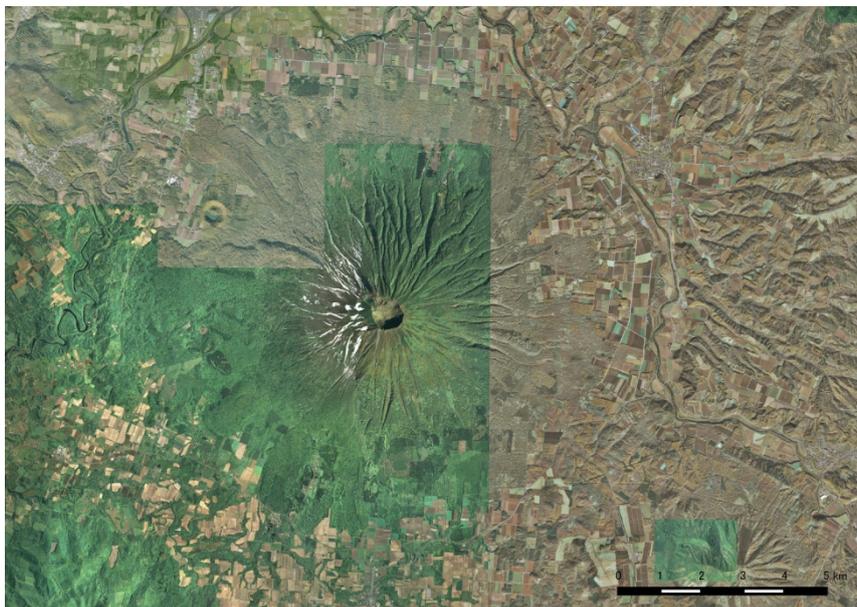
### 2. 既存画像データ

事前に高解像度のオルソ画像を確認するとよい。調査の準備期間が短縮できるばかりでなく、同じ種類の画像を判読に用いることにより判読の標準化が図れる。これまでの検討によると、空中写真であっても 1 種類で判読が可能といえる良好な画像はなかった。ベース画像だけでなく各画像の特徴を生かして組み合わせて利用する。

#### (1) 高解像度衛星画像

下記の画像情報がベース画像として活用しやすい。

- ・ GEOSPACE 航空写真（NTT 空間情報）



・ J-IMAGE50 (日本スペースイメージング)

衛星画像ベースマップ画像配信サービス

解像度：50cm、範囲：日本全国、使用衛星：Geoeye-1



(2) 1970年代カラー空中写真

秋のカラー写真が多く縮尺が 1/15,000 程度と大きく高山帯の植生判読がやりやすい。

国土地理院の運営する「地理院地図\*1」または「地図・空中写真閲覧サービス\*2」で閲覧する。後者は高解像度画像をダウンロードし連続写真を印刷すると実体視ができる。

\*1 <http://maps.gsi.go.jp/>

\*2 <http://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

亜高山帯以下は撮影後の経年変化があるため、最近の画像による確認を行う。高山帯でもササ群落はダケカンバ林への変化が広い範囲で見られるため、最近の画像により確認する。

地図・空中写真閲覧サービス

項目	内容
整理番号	CCR2011
コード番号	50
縮尺	250
撮影年月日	1976/10/07(第1)
撮影地域	本管野山
撮影高度(m)	4300
撮影縮尺	15000
カメラ	RC8
カメラ種別	カメラ
撮影機	アサヒ
撮影機製造国	国土地理院
撮影機種別	単眼カメラ
撮影機	単眼
ワンストップサービスの可否	可

表示中の縮尺: 2100倍です。  
縮尺を変更するには、マウスでスクリーンから、400倍縮尺の閲覧がご利用いただけます。

エレメント操作  
   
  
 申請情報  
 空中写真(1/200倍)購入  
 縮尺変更(ワンストップサービス)申請

(3) Web サイトの画像

Yahoo!航空写真、Googlemap、Bingmaps など判読しやすい画像は活用する。

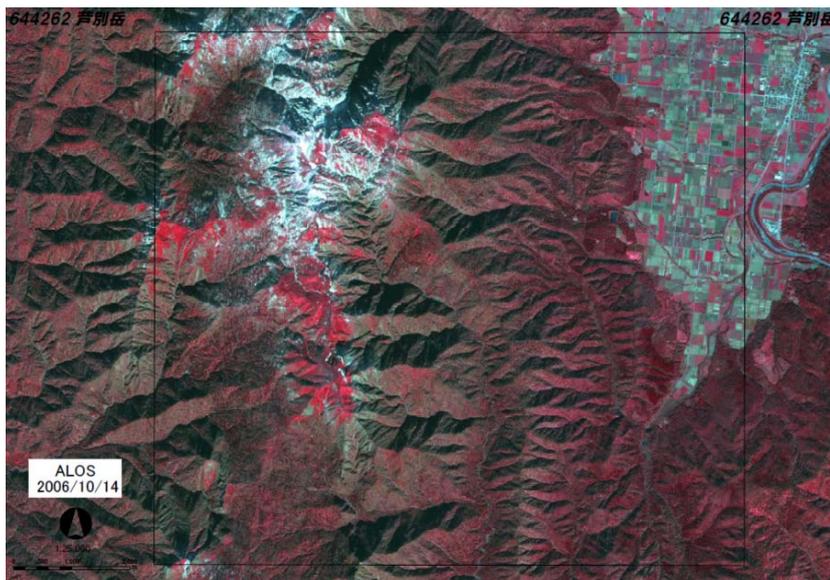
(4) ALOS パンシャープン画像

常緑と落葉、森林と草原の区別が容易な場合がある。概観の把握にも有効と考えられる。必要な場合は環境省生物多様性センターに申し出る。

整備範囲：全国

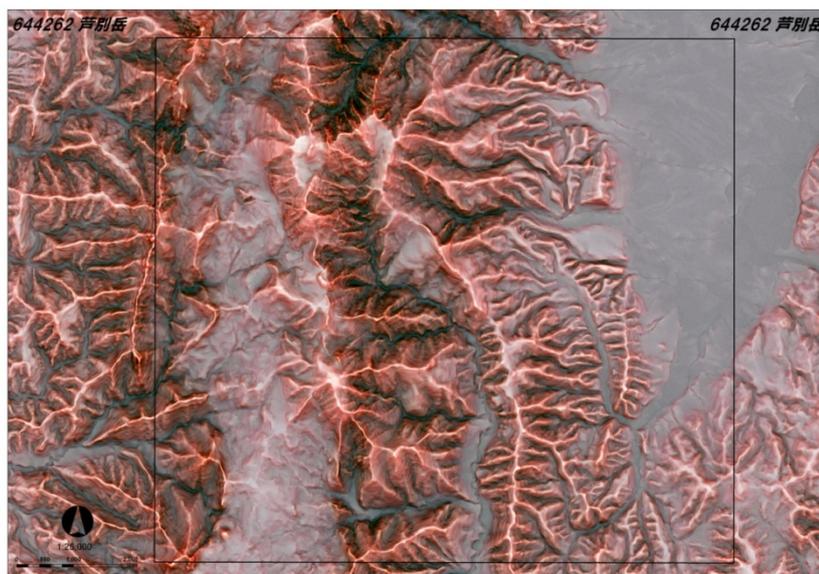
観測時期：2006年7月2日～2009年12月31日

解像度：2.5m



(5) 赤色立体地図 (Red Relief Image Map) \*

地形の概況把握に適する。 \*アジア航測特許の地形表現図 (特許第 3670274 号)



(基盤地図情報 (10mメッシュ (標高)) より作成)

## (6) 森林 GIS

森林 GIS のなかでも国有林の植林は信頼度が比較的高いため、活用する。

北海道はトドマツが自然林の主要構成種でもあるため、施業経緯が自然林か植林かの区別の根拠となる。山岳地に限らず北海道全域における必須資料として、国有林と民有林の両方の森林 GIS を活用することが望ましい。

林班界の形状、2 段林や植林後の変化は、現行では上層木の見え方を重視し森林 GIS のデータを修正している。方針を変更する場合は協議する。

### 3. 現地調査計画・判読素図

現地調査を実施するにあたり、画像全体を事前にみておき不明な箇所を抽出し、ルート沿いで同じように見える箇所など現地確認を行う地点と内容を地形図や画像に抽出し、周到な現地調査計画をたてる。(例：陰、不明箇所、相観が類似し細分できない凡例、画像で典型的と思われる箇所、ダケカンバの下限上限の標高、植生と立地との対応、特殊立地)

#### ◆現地踏査のポイント (例)

- 明瞭な線と見え方—稜線のハイマツ  
→画像や立体図の組み合わせにより明瞭に区分できる凡例を整理する
- 不明域—日陰で見えないところ
- 現地確認の必要性が高いポリゴン・凡例
  - 相観が同じで凡例へ細分する基準がわからないもの
  - 凡例候補が1つに絞り込めないもの
  - わずかな色調の違いがあるが内容がわからないもの
  - 針葉樹の量とか傾斜などから区分基準の設定が必要なもの (溪畔林とすべきかなど)
  - 面積狭小でも強調して図示したほうがよい凡例候補 (なだれ地の低木群落や草本群落)
- 特殊岩地等の分布域が限られる凡例
- この地方ならばこの標高でこの立地には○凡例という対応
- 地域別の課題の検討

### 4. 標本採取許可申請

- 自然公園や国有林では標本採取許可や入林許可の申請に2ヶ月程度かかるため、設計時に手続きの工数を考慮する。できるだけ早く申請を行う。

## II. 現地調査

### 1. 現地調査

#### (1) 調査地点の配置

- ・ 現地調査しないと区分できない凡例は、できるだけ現地で確認する。
- ・ 植生の相観の均一なところの中心部で組成調査を行う。組成データはたくさんでなくてよい。残った時間を相観写真（配分を示す写真）の収集に充てる。
- ・ 向かいの斜面はできる限り写真を撮る。登り下りでルートを変え広範囲の写真を撮るとよい。
- ・ 組成調査・優占種調査1の際に、同定困難なイネ科やスゲ属植物は標本を採取する。
- ・ 現地調査は好天時が望ましい。概況把握には紅葉の色によって樹種が区別できる秋の調査が適する。
- ・ 雪田の調査は融雪後が適当である。主要な群落で調査を行う。

#### (2) 調査範囲

- ・ 経路沿いで参考となる範囲外のデータは資料として残す。（標高による分布、画像の見え方と植生など）

#### (3) 調査員補助・予備日

- ・ 必要な場合は、ガイドやポーターを同行する。
- ・ 長期の登山になる場合は天候障害に備え予備日を設ける。

#### (4) 調査の担い手の育成

大学の植生学講座が減少し若い調査者が育ちにくくなっているため、業務のなかでも研究機関など外部協力を含め若い調査者の増加と育成を図る。

### 2. 植生図

- ・ 現地を踏査した人で写真や現地の植生情報を共有して再判読を行う。判読→現地確認→判読→現地確認→判読と繰り返して図化するのが理想的である。現地確認に1回しか行けない場合は、ほかで同じような見え方をするところを探して類推する。
- ・ 特に類推が難しい不明箇所等は、記録に残す。コメントを付け公開すると利用者が理解しやすい。
- ・ 植生図作成途中で大縮尺の図を作った場合は、微細な植生変化の履歴として重要なため、可能な限り作業段階の大縮尺図を残す。

### Ⅲ. 凡例適用と図化の基本方針

#### 1. 山岳地の凡例適用の基本方針

##### (1) 日本の高山帯の植物社会学的な位置づけ

日本の山岳地はヨーロッパアルプス等にみられる草原主体の高山帯ではなく、ハイマツの低木群落優勢であり、植生体系上はコケモモトウヒクラス域上部に含まれる。

しかし、常緑針葉樹林の優占する亜高山帯とは景観上明瞭に区別できるため、一般的にはいわゆる高山帯の植生域として分けられている。統一凡例では植生区分Ⅰの「高山帯自然植生域」として扱っている。

北海道北部では低地からみられ、南にいくほど高度を上げ、本州中部山岳で2,400m以上が相当する。

##### (2) 凡例

#### 山岳地の主要な凡例

- 山岳地の植生はおおむね風衝側のハイマツ群落、風衝草原、高山荒原、風背側の雪田、広葉草原、ダケカンバ等の落葉広葉樹林に大別できる。
- 植生図（1/25,000）では面積を重視し基本的に対応する凡例に区分する。

山岳地では風衝側と風背側で異なる多種の植生がみられるが大面積で広がる群落は少ない。そのため、植生図（1/25,000）は高山帯自然植生域の3つの大区分相当の凡例、すなわち、「コケモモハイマツ群落」、「高山ハイデ及び風衝草原」、「雪田草原」に区分し図化することが多かった。

今後は、大区分の「高山ハイデ及び風衝草原」に含まれている高山荒原「コマクサーイワツメクサクラス」を1つの大区分相当の単位として独立させ、山岳地の風衝側の植生をハイマツ群落、風衝草原、高山荒原に区分し、これに風背側の雪田を加えた4つに分ける。さらに山岳地の風背側のなだれ地に、亜高山帯を中心に分布する広葉草原やダケカンバ等の落葉広葉樹林を分ける。

表 1-1 に山岳地の主要凡例を示す。

表 1-1 山岳地の主要凡例

植生区分	相観	現在の一般的な区分	今後の基本的な区分
Ⅰ	ハイマツ群落	010101コケモモハイマツ群落	010101コケモモハイマツ群落
	風衝草原	020000高山ハイデ及び風衝草原	020000高山ハイデ及び風衝草原
	高山荒原		<b>020600コマクサーイワツメクサクラス</b>
	雪田	030000雪田草原	030000雪田草原
Ⅱ	広葉草原	070100シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団	070100シナノキンバイーミヤマキンポウゲ群団
	ダケカンバ林等	060100ミドリユキザサーダケカンバ群団	060100ミドリユキザサーダケカンバ群団
		060300エゾメシダーウコンウツギ群団	060300エゾメシダーウコンウツギ群団

植生区分

Ⅰ 高山帯自然植生域

Ⅱ コケモモトウヒクラス域自然植生

#### ※高山荒原

さまざまな物理的、化学的要因のために、植被が乏しく、砂礫の裸出面積の大きな場所を荒原と呼ぶこととする。荒原は重力による崩落地、雪田底砂礫地、周氷河作用による構造土性の礫地、火山砂礫地、特殊岩地、硫気孔原に区分できる（大場 1968-69）

なお、統一凡例には高山荒原という凡例名はなく、植物社会学的単位であるコマクサーイワツメクサクラスが該当する。コマクサーイワツメクサクラスは大区分の高山ハイデ及び風衝草原に所属させているが、凡例コードや凡例名の変更は行わず、大区分と同等の区分として分ける。

#### 地域の特徴を示す山岳地の凡例

- ・ 主要凡例以外に地域の特徴を示す植生が区分される場合は、図化可能な面積（1 ha 以上）があれば群集名等で細分してもよい。

現地調査が困難で類推も難しい場合は、中区分または大区分の凡例を用いる。その例として 470000 湿原・河辺・池沼植生、070000 高茎草原及び風衝草原が適用された。しかしこれらの凡例を安易に用いるのは避ける。

### （3）図化

#### 山岳地の図化方針

- ・ 山岳地では稜線を境に風衝側にハイマツ群落、風衝草原、高山荒原、風背側に雪田、広葉草原、ダケカンバ等の落葉樹林が分布する傾向がみられる。現地確認と画像に基づきこのような配分がわかるように図示する。
- ・ 立地の異なる植生がモザイク状に配分する場合は、縮尺 1/25,000 で図示可能な形状に変えてできるだけモザイクであることを示す。
- ・ 面積が小さくても、地形と対応する植生や地域的な特徴を示す植生は強調して図示してもよい。
- ・ 稜線や谷筋などの細長い形のポリゴンは幅 1mm 程度になるものを示す。

#### 群集複合体

風衝側斜面と風背側斜面で多種の群集が小パッチで接するため、群集複合体としてでないとは表現できない場合もある。群集の組み合わせには景観単位に応じたパターンがみられる。複合体凡例ではなく代表的な群落でまとめて図示する。

#### 疎らな植生

火山などで自然裸地から荒原に推移し明瞭な境界がない場合、おおむね植被率 5%以上をめやすに荒原とする。

## 2. 山岳地の統一凡例と群集との対応

統一凡例と山岳地の植生体系（中村 1986）との対応を表 2-1 に示す。

表 2-1 統一凡例と山岳地の植生体系との対応

山岳地の群系(例) (山岳地既存調査地点DBによる)		立地	クラス(群団)(中村1987)	統一凡例(例)	
01	風衝矮性低木群落	00	▲	02	高山ハイデ及び風衝草原
			▲	020101	コメバツガザクラ-ミネズオウ群集
02	風衝草原	00	▲	020301	オヤマノエンドウ-ヒゲハリスゲ群集
03	高山荒原群落	01	▲	020600	コマクサーイワツメクサクラス
		04	▽	020601	ミヤマクロスゲ-チシマクモマダ群集
		07	▲	020700	蛇紋岩地植生(Ⅰ)
04	雪田植生	01	▽	03	雪田草原
		02	▽	030201	エゾコザクラ群落
05	雪崩地・崩壊地高茎・広葉草原	00	▽	030203	タカネヤハズ/ハコ-アオノツガザクラ群集
06	積雪地低木群落	00	▽	07	高茎草原及び風衝草原
07	少雪地針葉低木群落	00	▲	06	亜高山帯広葉樹林
12	常緑針葉樹高木林	00	▲	060100	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団
			▲	060105	ミヤマハンノキ群落
11	湿原	01	▽	01	高山低木群落
		03	▽	010101	コケモ-ハイマツ群集
09	岩隙・岩壁・岩礫地植生	01	▲	04	亜高山帯針葉樹林(北海道)
		00	▲	040101	エゾマツトドマツ群集
10	その他の群落	02	▽	05	亜高山帯針葉樹林
				050101	オオシラビソ群集
				47	湿原・河川・池沼植生
				470100	ツルコケモ-ミズゴケクラス
				470200	ヌマガヤオーダー
				51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生
				510603	チョウジコメツツジ群集
				-	(未定)
				-	(未定)

立地：▲風衝側・尾根、▽：風背側・谷。両方に出現する場合もある。

### (1) 全国

山岳地の植生体系（群集レベル）と統一凡例との対応を付表 1 に示す。

地域固有で図化可能な群集については分布地を付記した。該当地域の調査時には留意して群集適用を検討する。

例：ナエバキスミレ群集（白山・三国）、オゼソウ群集（至仏）、ヒダカミセバヤ群集（日高南部）、ヒゲハリスゲ-オヤマノエンドウ群集（北アルプス）、エゾマメヤナギ-エゾオヤマノエンドウ群集（大雪北部）、タカネヒメスゲ群集（夕張）

### (2) 北海道

北海道の主要山系に分布する高山植物群落（佐藤謙 2007）を付表 2 に示す。



種	分布	備考
亜高山帯および高山帯の植生体系 中村(1986)、日本植生誌関東・東北、北海道、日本植生体系ウェブサービス <a href="http://www.jise.jp/top1.html">http://www.jise.jp/top1.html</a> 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センターから作成		
アシボスゲ-イワオウギ群集 <i>Carici brevisquamae-Hedysaretum vicicoidis</i> Ohba 1974	07 高草草原及び風衝草原	-
ヒゲナリヤス-ミヤマヘビノコザ群集 <i>Calamagrostis longisetae-Athyrietum yokoseensis alpicol/Ohba 1973</i>	07 高草草原及び風衝草原	-
ナエバキスミ群集 <i>Violetum breviscapitatae kishidae</i> Miyawaki et al. 1968	07 高草草原及び風衝草原	白山、三国 至弘
オゼソ群集 <i>Japonolinietum osensis</i> Nakamura in Miyawaki 1986	07 高草草原及び風衝草原	-
シコクワロ-シヨウソウ群集 <i>Geranio shikokian-Caricetum blepharicarpa Okuda in Miyawaki 1982</i>	07 高草草原及び風衝草原	-
シコクボウシ-ウバタケ群集 <i>Hosto shikokian-Angelicetum ubatakensis</i> Okuda in Miyawaki 1982	07 高草草原及び風衝草原	-
コガネク-イワナリヤ群集	07 高草草原及び風衝草原	-
コメスキ-分ナネノガリヤ群集	07 高草草原及び風衝草原	-
イブキゼリ-オオハシヨリヤ群集	07 高草草原及び風衝草原	-
ミヤマオグルマ-ナンゾソモソモ群集	07 高草草原及び風衝草原	-
エラントイ-ミネオウウラス <i>Cetrario-Loiseleurietea Suz-Tok. et Umezu 1964</i>	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
コメバガザラ <i>Arcteronia Suz-Tok. et Umezu 1964</i>	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
コメバガザラ群団 <i>Arcteronia Suz-Tok. et Umezu 1964</i>	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
コメバガザラ-オオハシヨリヤ群集 <i>Arcteronia-Loiseleurietum procumbentis</i> Ohba ex Suz-Tok. 1964	02 高山ハイネ子及び風衝草原	● 34
コメバガザラ群集 <i>Phyllocladocetum alpinae</i> Miyawaki et al. 1977	02 高山ハイネ子及び風衝草原	● 33
ウラシマツツジ-ウロメノキ群集 <i>Arctoo japonici-Vaccinietum uliginos.</i> (Yamazaki et Nagai. 1961) Ohba et al. 1980	02 高山ハイネ子及び風衝草原	●
コケモモ-イソツツジ群集	02 高山ハイネ子及び風衝草原	●
アオヤセシダ <i>Asplenietea rupestris</i> Br.-Bl. 1934	-	小面積で図示できない
イワキンバオ-ダー <i>Potentilletalia dickinsii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
イワキンバオ群団 <i>Potentillion dickinsii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
イブキモツケ-イワキンバオ群集 <i>Spiraea nervosa-Potentilletum dickinsii</i> Nakamura in Miyawaki 1981	-	小面積で図示できない
カンサイイブキ-オオメノコザ群集 <i>Carici-Primuletum okamotoi</i> Nakamura in Miyawaki 1984	-	小面積で図示できない
カメコシヤク-イワキンバオ群集 <i>Lilium monticolae-Potentilletum dickinsii</i> Nakamura in Miyawaki 1987	-	小面積で図示できない
カムイコザク-チャボセキヨウ群集 <i>Primula kamuianae-Tofieldietum kondoi</i> Nakamura in Miyawaki 1988	-	小面積で図示できない
ヒツシヨウ-コウイワウ群集 <i>Astilbo simplicifoliae-Primuletum reitii</i> Nakamura in Miyawaki 1985	-	小面積で図示できない
ムカデラ群集 <i>Sarcantheum scolopendrifolii</i> Chichibu 1980	-	小面積で図示できない
ユキクラカボ-イワキンバオ群集 <i>Agrostis hideoi-Potentilletum dickinsii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
イワハチオ-ツガルミセバヤ群集 <i>Arabido-Sedetum tsugaruensis</i> Okuda, K. Fujiwara et Miyawaki 1970	-	小面積で図示できない
イワハチオ群団 <i>Junctetum maximowiczii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
イワハチオ-イソツツジ群集 <i>Carici chrysolepis-Angelicetum saxicolae</i> Nakamura in Miyawaki 1982	-	小面積で図示できない
ヒダカミセバヤ群集 <i>Sedetum caudicifolium</i> Ohba et Sugawara 1980	-	小面積で図示できない
チチバハ-イソツツジ群集 <i>Sedetum sordidi</i> Ohba 1975	-	小面積で図示できない
ケンサンデン-イソツツジ群集	-	小面積で図示できない
コンレイカ-アケロシダ群集	-	小面積で図示できない
ヤマハナソウ-イワキンバオ群集	-	小面積で図示できない
エゾマツモ-イワキンバオ群集	-	小面積で図示できない
エゾマツモ-ミヨウキヤシヤ群集	-	小面積で図示できない
イトイ-ダー <i>Junctetalia maximowiczii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
イトイ群団 <i>Junctetalia maximowiczii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
トガシデン-イソツツジ群集 <i>Woodsia glabellae-Juncetum maximowiczii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
エビゴケ-ミヤマカラボシ群集 <i>Bryoxyphio-Crypsinetum veitchii</i> Ohba 1973	-	小面積で図示できない
エビゴケ-コウシヨウ群集 <i>Bryoxyphio-Pinguiculetum ramosae</i> Nakamura in Miyawaki 1986	-	小面積で図示できない
チチバハ-イソツツジ群集 <i>Primuletum tosaensis-rhodotrichae</i> Nakamura in Miyawaki 1986	-	小面積で図示できない
カラフトイワサゲ-ヒゲハリス <i>Carici rupestris-Kobresietea bellardi</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
オノエオ-ダー <i>Caricetalia tenuiformis</i> Ohba 1968	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
オヤマノエト群団 <i>Oxytropidion japonicae</i> Ohba 1967	02 高山ハイネ子及び風衝草原	● 北了
ヒゲハリスゲ-オヤマノエト群集 <i>Kobresio-Oxytropidetum japonicae</i> Ohba 1967 ex Shimizu 1969	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
ミヤマコメグサ-オヤマノエト群集 <i>Euphrasia insignis-Oxytropidetum japonicae</i> Ohba 1981	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
シラネヒコク-オヤマノエト群集 <i>Saussureo-Oxytropidetum japonicae</i> Ohba 1981	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
コマウスユキソウ群集 <i>Leontopodiolum shiranensis</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
ミヤマウスユキソウ群集 <i>Leontopodiolum fauriei</i> Ohba 1967	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
レソノイコ-オノエト群団 <i>Bupleuro-Canicetum tenuiformis</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	● 38
エゾマツモ-オノエト群集 <i>Salicaria-Oxytropidetum yessoensis</i> Tohyama in Ito, Tsujii et Tohyama 1971	02 高山ハイネ子及び風衝草原	● 45
タカヒメスゲ群集 <i>Caricetum melanocarpa</i> Nakamura in Miyawaki 1988	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
オオヒラウスユキソウ群集 <i>Leontopodiolum miyabanae</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
マシケナン群集 <i>Oxytropidetum shokanbetsuensis</i> Ohba 1967	02 高山ハイネ子及び風衝草原	● 44
エゾクモクサ群集 <i>Saxifragetum nishidae</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
エゾコウリナ-オノエト群集 <i>Hypochoerido-Caricetum tenuiformis</i> Ohba 1968	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
レソノイコ-オノエト群集 <i>Oxytropido megalanthae-Caricetum tenuiformis</i> Ohba 1967	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
ツクモグサ-リシリゲン群集 <i>Pulsatilla nipponicae-Oxytropidetum rishiriensis</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
ハヤチネウスユキソウ群集 <i>Leontopodiion hayachinensis</i> Ohba 1974	02 高山ハイネ子及び風衝草原	-
ハヤチネウスユキソウ-オノエト群集 <i>Leontopodiion hayachinensis-Caricetum tenuiformis</i> Ohba 1967	02 高山ハイネ子及び風衝草原	●
高山風衝草原		日本植生誌に本群団はない



種	産地	採集者	図説	分布	種一凡例	備考
亜高山帯および高山帯の補生体系 中村(1986)、日本補生誌関東・東北、北海道、日本補生体系ウェブページ <a href="http://www.jise.jp/top.html">http://www.jise.jp/top.html</a> 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 国際生態学センターから作成						
衝低木林	コメツツジ-ハコメツツジオ-ダー Rhododendretalia tschonoskii-tsusiophylli Ohba 1973 ハコメツツジ群 Rhododendron tsusiophyllum Miyawaki, Ohba et Murase 1969 シマキンレイカ-シマリガリヤス群集 Patrinio-Calamagrostietum insularis Ohba 1970 オノエラン-ハコメツツジ群集 Orchido-Rhododendretum tsusiophyllum Miyawaki, Ohba et Murase 1969 ツガザクラ群 Phyllocladion nipponicae Miyawaki et al. 1968 チヨウジコメツツジ群集 Rhododendretum tschonoskii tetramerii Ohba 1973 コメツツジ-ツガザクラ群集 Rhododendro-Phyllocladocetum nipponicae Miyawaki et al. 1968 corr. Ohba 1973 タカネオトギリ-コメツツジ群集 Hyperico sikokumontani-Rhododendretum tschonoskii Ohba 1973 コガネキウ-コメツツジ群集					日本補生誌東北では群団がコメツツジ-ハコメツツジ群団
低木林	ノイバラクラス Rosetea multiflorae Ohba, Miyawaki et Tx. 1973 トコロクスオ-ダー Dioscoreo-Puerarietalia lobatae Ohba 1973 ミヤマタタビ-ヤマブドウ群集 Actinido-Vitium coignetiae Miyawaki et al. 1968 キクハドコロ-ヤマブドウ群集 Dioscoreo-Vitium coignetiae Miyawaki et al. 1968 クロツル-リウウツキ群集 Tripterargio-Hydrangeetum paniculatae Ohba et Sugawara 1980 ホサキナガマト-リウウツキ群集 Sorbario sorbifoliae stelligerae-Hydrangeetum paniculatae Ohba et Sugawara 1980 シナキイチゴ-トカスグリ群集 Rubo marmorati-Ribetum sachalinensis Miyawaki et al. 1977 レンガツツジ-ズミ群集 Rhododendro-Maletum Miyawaki, Okuda et K. Fujiwara 1971 ミヤマモミジイチゴ群集 イケマ-ガナハソウ群集 クワイチゴ-クワイチゴ群集 カラハナソウ-サルナン群集					ノイバラクラスの自然補生は大区分にないため、隣接する群集に
高層温原	ツルコケモ-ミズゴケクラス Oxycocco-Sphagnetalia Br.-Bl. et Tx. 1943 チヤミスゴケオ-ダー Sphagnetalia fuscii Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1972 ヤマガヤ-イボミスゴケ群集 Moliniopsis-Sphagnetum papillosum Miyawaki et K. Fujiwara 1970 イソツツジ-チヤミスゴケ群集 Myrica tomentosae-Sphagnetum fuscii Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1972 ヌマガヤ-チヤミスゴケ群集 Leda diversifolia-Sphagnetum fuscii Miyawaki et Ohba 1970 ホロムイチゴ-イボミスゴケ群集 Rubo chamaemoris-Sphagnetum papillosum Miyawaki et Ohba 1970 ヒメツルコケモ-チヤミスゴケ群集 ワタスゲ-イボミスゴケオ-ダー Eriophoro vaginata-Sphagnetalia papillosum Tx. 1970 ヌマガヤ-イボミスゴケ群集 Moliniopsis-Sphagnetum papillosum Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970 ヌマガヤ-イボミスゴケ群集 Moliniopsis-Sphagnetum papillosum Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970 キダチミスゴケオ-ダー Sphagnetalia compacta Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970 イワチヨウ-キダチミスゴケ群集 Fauro cristata-galli-Sphagnetum compactum Miyawaki et K. Fujiwara 1972 ヤチチヨウ-キダチミスゴケ群集 Carici-Sphagnetum robustum Miyawaki, Itow et Okuba 1967 ミヤマミスゴケ群集 Sphagnetum robustum Miyawaki, Ohba et Okuba 1968 ミヤマミスゴケ群集 Rhynchosporo yasudanae-Sphagnetum tenellum Tx., Miyawaki et K. Fujiwara 1970 スキヤミスゴケ群集 クシノハミスゴケ群集 ウラミスゴケ群集 アオモリスゴケ群集 サンカクミスゴケ群集					
薄水草	ホロムイソウクラス Scheuchzerietes palustris Den Held, Barkman et Westhoff 1969 em. Tx., H. Suzuki et K. Fujiwara 1970 ホロムイソウオ-ダー Scheuchzerietalia palustris Nordhagen 1936 ヌマガヤ-ミツツギササ群集 Moliniopsis-Rhynchosporon albae Tx., H. Suzuki et K. Fujiwara 1970 ヌマガヤ-ミツツギササ群集 Moliniopsis-Rhynchosporon pulchrum Miyawaki et K. Fujiwara 1970 ユキイノヒゲ群集 Eriophorum dimorphoefytr Miyawaki et K. Fujiwara 1970 オオシノハナヒゲ-ヤチスガ群集 Rhynchosporo fauriei-Caricetum limosae Miyawaki et K. Fujiwara 1970 オオシノハナヒゲ-ヤチスガ群集 Rhynchosporon albo-yasudanae Miyawaki et K. Fujiwara 1970 ササスガ-ヤチスガ群集 Eriophorum gracilis-Caricetum limosae Miyawaki et K. Fujiwara 1970 ダケスガ群集 Caricetum pauperculae Miyawaki, Ohba et Okuba 1969 ヤチスガ-ナガノモウセンゴケ群集 ヤチスガ-ホロムイソウ群集 ヤチスガ群集					
草	ヌマハコベ-タネツツギバナクラス Montio-Cardaminetalia Br.-Bl. et Tx. 1943 オオハセンキウ-タネツツギバナオ-ダー Angelico genulflexae-Cardaminetalia Ohba 1975 オオハセンキウ-タネツツギバナ群集 Angelico genulflexae-Cardaminetalia Ohba 1975 リュウキンカ-ミナスソウ群集 Callitho-Lysichitonetum camischatcensis Miyawaki et K. Fujiwara 1970					小面積で図示できない 小面積で図示できない 小面積で図示できない 小面積で図示できない

種名	学名	採集地	採集年	採集者	標本数	備考
本種	チヨウジギクータヌキラン群集	Amico-Caricetum podogyneMiyawaki et al. 1977				
	タヌキラン群集	Caricetum podogyne Ohba 1975				
	フキユキラン群集	Saxifragetum japonicae Ohba 1975				
	オオハクネツケバク群集	Cardaminetum scutatae Ohba 1975				
	オカチホガシラシツルノモノウ群集	Cardamino kusisanae-Chrysoplenietum flagelliferi Nakamura in Miyawaki 1982				
	セキショウ群集	Acoretum graminei Ohba, Adachi et Maoka 1979				
	ヒレンゲーノールコスゲ群集	Sedo subtilis-Caricetum curvicolle Nakamura in Miyawaki 1982				
	ヒラキスゲーサトスゲ群集	Caricetum augustinowiczio-sadoensis Okuda in Miyawaki 1988				
	オウヤマガラン群集	Cardaminetum yezoensis torrentis Ohba 1982				
	クラスは未定 (中間湿原) Unknown					
	スマガヤオーダー	Molinioisetalia japonicae Miyawaki et K. Fujiwara 1970				
	スマガヤ群団	Molinioisetalia japonicae Miyawaki et K. Fujiwara 1970				
	ホロムイスゲースマガヤ群集	Carici-Molinioisetum japonicae Miyawaki, Itow et Okuba 1967				
	ミスギクースマガヤ群集	Inulo-Molinioisetum japonicae Miyawaki et K. Fujiwara 1970				
	ハナシヨウブースマガヤ群集	Irido spontanea-Molinioisetum japonicae Miyawaki, Okuda et K. Fujiwara 1971				
マアザミー	スマガヤ群集 Cirsiio-Molinioisetum japonicae Horikawa et al. 1959					
イワイチヨウ	シヨウシヨウスゲ群集 Faurio-Caricetum blepharicarpae Suz.-Tok. 1964 am. Miyawaki et K. Fujiwara 1970					
オオアセスゲ	スマガヤ群集					
ムジナスゲ	スマガヤ群集					
クマイザサ	スマガヤ群集					
ヨシクラス	Phragmitetea Tx. et Prsg. 1942					
ヨシオーダー	Phragmitetalia eurosibiricae Tx. et Prsg. 1942					
ミヤマホタルイ群団	Scirpion hondoensis Ohba 1973					
ミヤマホタルイ群集	Scirpetum hondoensis Miyawaki et al. 1968					
チンマササ群落						
イソツジ群落						
シラタノキークロウソク群落						
キンクゲータカネスギコケ群落						
チングルマーウツクシミスコケ群落						
フサハミスコケ群落						
ミヤマイヌノハナヒゲ	ユガミスコケ群落					
カワススゲ	ミダケスゲ群落					
ミネハライ	カワススゲ群落					
エノホソイ群落						
クロスマハリイ群落						
ヒメスゲ	ウラジロタロ子群落					

付表2 北海道の主要山系に分布する高山植物群落		(佐藤謙2007による)											
区分	植物群落	大 雪 37	知 床 23	日 高 34	夕 張 31	狩 場 山	二 セ コ 山 系	積 丹 山 系	暑 寒 別 岳	岨 山	大 平 山	利 尻 岳	本 州
1	風衝荒原・火山荒原・崩壊地荒原草本群落												
2	コマクサ-タカネスミレ群落 <i>Dicentra-Violetum crassae</i> Ohba 1969	C	R	R									O
3	イワブクロ群落	R	R	R									O
4	エゾイワツツクサ-ヒメイワタデ群落 <i>Stellario-Polygonetum ajanensis</i> Ohba 1969	C											
5	ミヤマクロステタ群落	C											
6	ヒメイワタデ-タカネスミレ群落	R											
7	コマスキ-イワブクロ群落	R											
8	ウラボシタデ-オオイトドリ群落	R											
9	メアカンキンバイ-ミヤマノガリヤス群落	R											
10	ミヤマアズマギク群落	R											
11	シロトコスミレ群落	C											
12	メアカンキンバイ-メアカンフスマ群落 <i>Potentillo miyabei-Arenarietum merckiioidis</i> Nakamura in Miyawaki 1988	R											O
13	オオイトツメクサ-イワブクロ群落 <i>Stellario-Penstemonetum frutescentis</i> Ohba 1969		R										O
14	ケシノキスミレ群落	C											
15	ウスユキトウヒレン群落	R											
16	エゾツツジ-イワブクロ群落	R											
17	サマエモギ-フタタタムシホ群落	R											
18	ミヤマハタザオ-オオイトツメクサ群落	R			R								
91	キクハクワガタ群落												
92	リシリヒナガシ群落												
93	シラケキクハクワガタ-ミヤマハタザオ群落											O	
94	シタンハコベ-マルバキギシ群落											O	
95	ヒメイワタデ-イブキヤコソウ群落											O	
19	雪田荒原草本群落												
20	ミヤマクロステゲ-チシマクモガサ群落 <i>Carici-Saxifragetum merckii</i> Ohba 1969	C	R										O
21	ミヤマタネツクバシ群落 <i>Cardaminetum nipponicae</i> Ohba 1969	C		R									O
22	エゾリソウ群落	C		R									
23	タカネイ-ヒメヤマキンバイ群落	C											
24	タテヤマキンバイ群落	R											
25	キバナノコマノツメ群落			R									
26	超塩性岩 荒原草本群落												
27	ユキハヒゴタイ群落 <i>Saussuretum chionophyllae</i> Ohba 1968			R									O
28	シロバキスミレ群落 <i>Violetum yubarianae</i> Ohba 1969			R									O
29	ナツアイヌナズナ群落												
30	ユウバリコザクラ群落				R								
31	エゾコウボウ群落				R								
32	風衝地 矮木群落												
33	ウラシマツツジ-クロマメノキ群落 <i>Arctoo japonici-Vacciniyetum uliginosi</i> (Yamazaki et Nagai 1961) Ohba et al 1980	C	R	C									O
34	コマバツガザクラ-ミネズオウ群落 <i>Arcterico-Loiseleurietum procumbentis</i> Ohba ex Suz.-Tok. 1964	C	C	C									O
35	ミヤマハハノキ-ウラシマツツジ群落	C											
36	チンゲルマ-イワウメ群落			R									
96	コマバツガザクラ-イワヒゲ群落												
97	ウラシマツツジ群落												
98	ウラシマツツジ-マルバヤナギ群落												O
37	風衝地 草本群落 (風衝草原)												
38	エソマヤナギ-エソオヤマノエンドウ群落 <i>Salici-Oxytropidetum yessoensis</i> Tohyama in Ito, Tsujii et Tohyama 1971	C											O
39	トカチオウギ群落	R											
40	ヒダカゲンゲ群落			C									
41	チンマゲンゲ群落												
42	ヒダカミヤマノエンドウ群落												
43	チシマギキョウ群落												O

区分	植物群落	大雪37	知床23	日高34	夕張31	狩場山	ニセコ山系	積丹山系	暑寒別岳	峠山	大平山	利尻岳	本州
44	エゾノコマグサ群集 <i>Saxifragetum nishidae</i> Ohba 1974	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	○
45	タカネヒメスゲ群集 <i>Caricetum melanocarpae</i> Nakamura in Miyawaki 1988	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	○
99	マンケゲンゲ群集	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
100	イチョウシダ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
101	シロバナミヤマムラサキ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
102	オオヒラウスユキソウ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
103	ツクモグサ・リシリゲンゲ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
46	雪田窪低木群落	C	C	R	C	O	-	-	-	-	-	-	-
47	アオノツガザクラ群落	R	R	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-
48	エゾノツガザクラ・チングルマ群落	C	R	R	C	-	-	-	-	-	-	-	-
49	ミネヤナキ群落	R	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50	コエゾツガザクラ群落	R	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
104	エゾノハクサンイチゲ・エゾノツガザクラ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
51	雪田短茎草本群落(雪田草原)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
52	ミネハライ・タカネクロスゲ群集	R	C	R	R	-	-	-	-	-	-	-	-
53	キンスゲ・エゾノザクラ群落	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
54	イワイチヨウ・エゾノザクラ群落	C	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
55	ホソバウルツソウ・ミヤマアケボノソウ群落	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
56	イワイチヨウ・イトキンスゲ群落	-	-	-	R	O	-	-	-	-	-	-	-
57	エゾノソイ・ミネハライ群落	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-
58	ミヤマキンポウゲ・ミヤマイ群落	C	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
59	ミヤマドジョウツナギ・オウヤマワラビ群集 <i>Glycerio alnastereti-Athyrietum alpestris</i> Ohba 1974	C	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
60	タカネウチソウ・ミヤマイ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
61	チシマキンバイソウ・チシマアサミ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
62	ミヤマキンポウゲ・タカネウチソウ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
105	ミヤマキンバイ・ミヤマクロスゲ群落	-	-	-	-	O	-	-	-	-	-	-	-
106	ミヤマキンポウゲ群落	-	-	-	-	O	-	-	-	-	-	-	-
107	イワイチヨウ・タカネショウジョウソク群落	-	-	-	-	-	O	-	-	-	-	-	-
108	オニノガリヤス群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
63	雪崩地・崩壊地高茎草本群落(高茎草原、広葉草原)	C	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-
64	チシマキンバイソウ群落	C	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-
65	エゾノハクサンイチゲ群落	C	-	R	R	-	-	-	-	-	-	-	-
66	ナガバキアザミ群落	C	-	R	-	-	O	-	-	-	-	-	-
67	リシリオウギ・ウラジロタテ群落	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
68	マルバヤナギ群落	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
69	ヒタカキンバイソウ群落	-	-	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70	フタマタンポポ・イワオウギ群集	-	-	-	C	-	-	-	-	-	-	-	-
71	エゾノルリソウ・カノコソウ群落	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-
72	シナノキンバイソウ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
73	エゾノハクサンイチゲ・シナノキンバイソウ群落	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-
109	エゾセントイカ群落	-	-	-	-	-	O	-	-	-	-	-	-
110	ナガバキアザミ・リシリスゲ群落	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-
111	ススキ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
112	シナノキンバイソウ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
113	キリキソウ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
114	イワオウギ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
115	ナガバキアザミ・エゾセントイカ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
116	シナノキンバイソウ・ミネアザミ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
117	イワオウギ・キハナオウギ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
118	ミヤマハルガヤ・リシリスゲ群集	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
119	ポタンキンバイソウ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
120	シユムシユノキノリソウ・イブキトラノオ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
74	積雪地低木群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

区分	植物群落	大 雪 37	知 床 23	日 高 34	夕 張 31	狩 場 山	二 セ コ 山 系	積 丹 山 系	暑 寒 別 岳	嵯 山	大 平 山	利 尻 岳	本 州
75	ミヤマハンノキ群落	C	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-
76	ウコンウツギ群落	R	C	C	C	-	-	-	-	-	-	○	-
77	ウラジロナカマド群落	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
78	ダケカンバ-タカネノガリヤス群落	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
121	ダケカンバ低木群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
79	嫌雪針葉低木群落	C	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-
80	コケモモ-ハイマツ群落 <i>Vaccinio-Pinetum pumilae</i> Maeda et Shimazaki 1951	C	C	C	C	○	○	○	○	○	○	○	○
81	その他の群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
82	チシマザサ群落	C	-	C	-	○	○	○	○	-	○	-	-
83	イワノガリヤス-ヒメスゲ群落	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
84	ムカゴトヲオ-ナンブソノモ群落	-	-	C	R	-	-	-	-	-	-	-	-
85	ナガバツガサクラ群落	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
86	カムイビランジ群落	-	-	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
87	アホイタヌキラン群落	-	-	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
88	ユウバクモマダ群落	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-
89	ミヤマイワテンダ群落	-	-	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-
122	ダケカンバ低木群落	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
123	ミヤマヒヤクシ群落	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
124	ヒロハハビノボラス-キンロバイ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
125	キツネヤナギ-タニウツギ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
126	ダケカンバ-ナガハキタアサミ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
127	アオノイワレンゲ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
128	ヒメヤブシ-タニウツギ群落	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
90	高山湿原 <sup>※2</sup>	R	C	-	R	-	-	-	-	-	-	-	-

※C: 山系内の複数の地域に分布する場合、R: 山系内の一地域に限られる場合。

※2: 高山湿原全体を植物群落に相当するものとした。

### 3. 地形との関連

#### (1) 高山帯の一般的な植生配分

高山帯の植生は地形との関連が密接にみられる。中部の高山帯の地形と植生モデルを図 3-1 に示す。



図 3-1 中部の高山帯の地形と植生モデルの例 日本の山と高山植物 (2009 小泉武栄)

- 雪田は主として風背側に立地するが風衝側にもみられる。雪田の立地には3つのタイプがある。1つ目は雪底に由来するもので稜線直下に稜線に並行に延びるタイプである。2つ目は谷頭部など緩やかな凹地にみられるタイプ、3つ目は風背側の斜面下部の急な谷筋にみられるタイプである。
- 風背側にも風衝側に主に分布する植生がみられることがある。カール底のモレーンや岩石氷河のハイマツ群落、風穴や強風の通り道の風衝草原など。

#### (2) 各地の研究例と図化事例

既存資料があり詳細な群落分布がわかっている場合は、細分して図示してもよい。

しかし、基本的には風衝側のハイマツ群落、風衝草原、高山荒原、風背側の雪田、広葉草原、ダケカンバ等の落葉樹林に大別する。

以下に、地形と植生の対応についての研究事例を示す。

① 斜面方位による積雪と植生の違い（八甲田山）

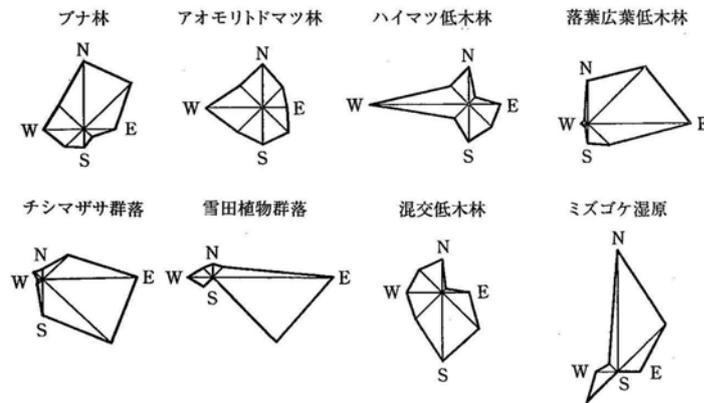


図 3-2 八甲田山の植物群落における斜面方位別出現頻度 (Yoshioka and Kaneko 1963)

② 雪田の雪融けの時期と植生（大雪山）

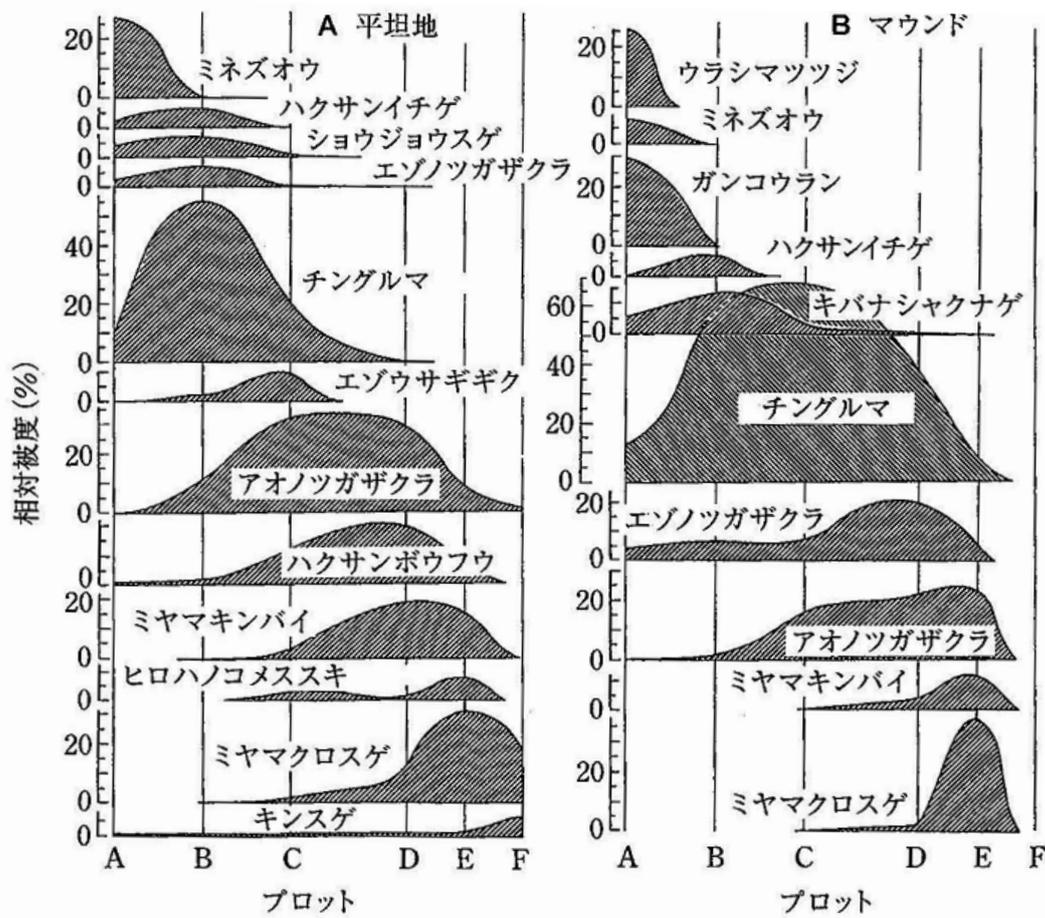


図 3-3 雪融けの傾度に沿った主要高山植物種の分布パターン

積雪は例年、プロットAからプロットFに向かってきえていく。北海道大雪山。(Kudo, 1996)

③ カールの地形と植生（北アルプス 野口五郎岳カール）

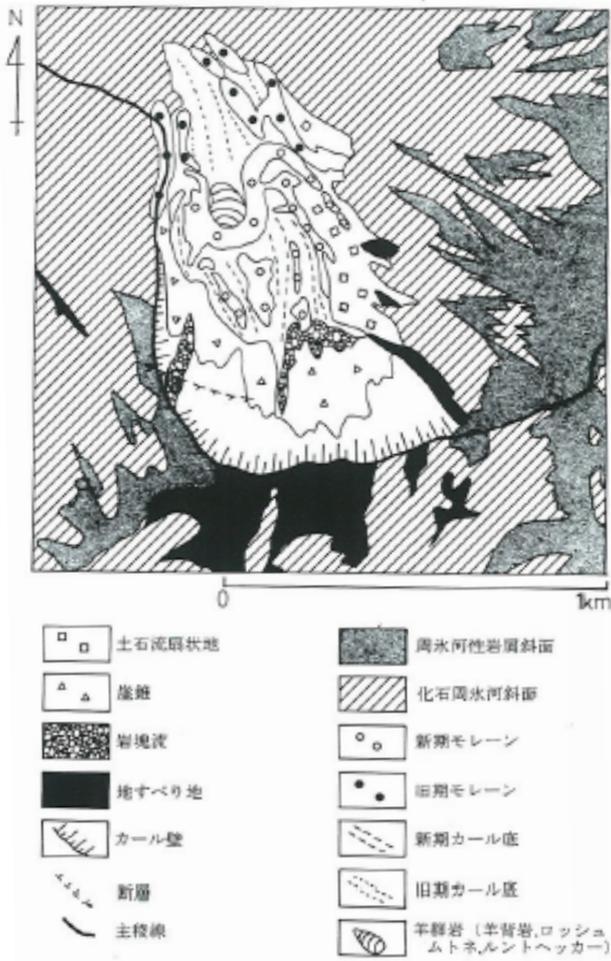


図 3-4 野口五郎岳カールの地形  
(水野 1999)

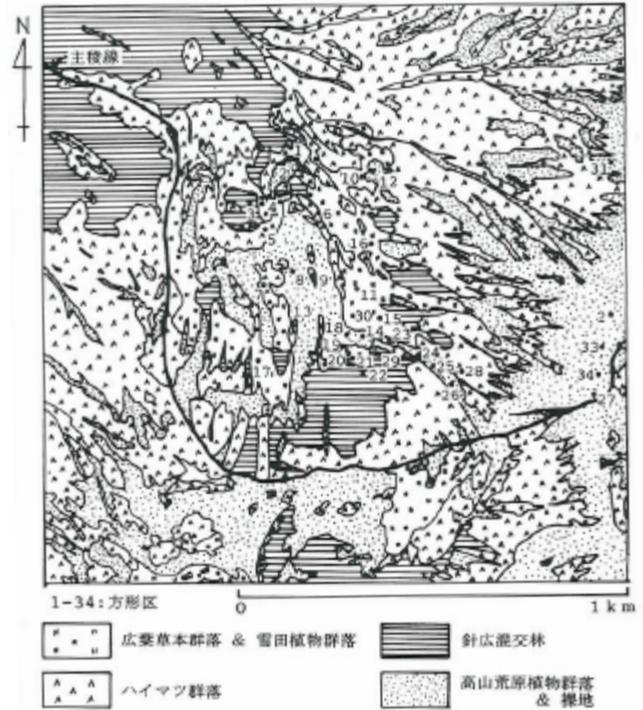


図 3-5 野口五郎岳カールの植生  
(水野 1999)

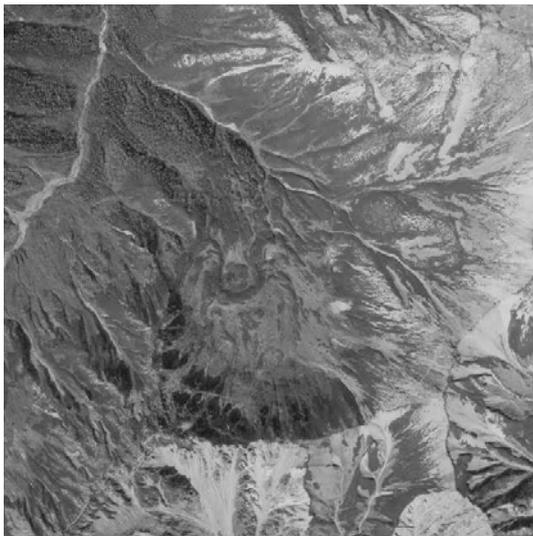


図 3-6 地理院空中写真  
(1973. 10. 10 撮影)



写真 3-1 野口五郎岳カールの植生  
秋の写真 (水野 1999)

緑: ハイマツ群落、灰褐色: 針広混交林 (ダケカンバ等)、  
黄土色: 広葉草本群落、淡黄: 雪田、灰: 荒原・裸地

④ カールの地形と植生（北アルプス 黒部五郎岳カール）

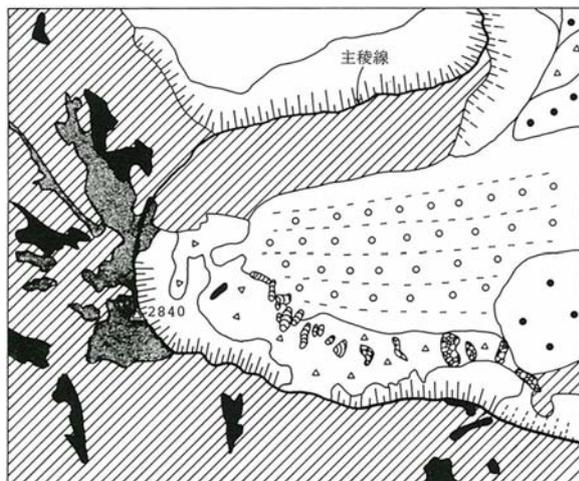


図 3-7 黒部五郎岳カールの地形  
(水野 1999)

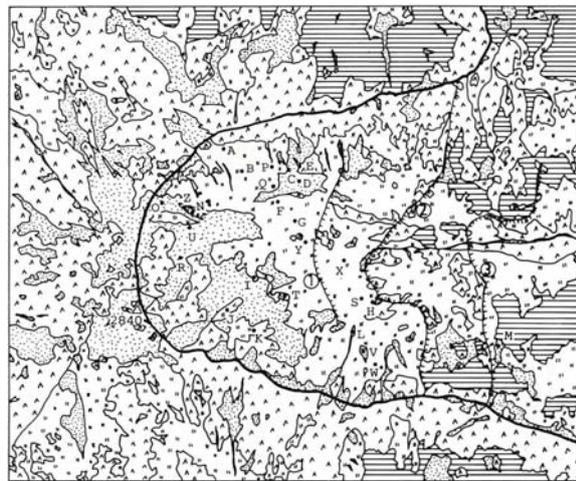


図 3-8 黒部五郎岳カールの植生  
(水野 1999)

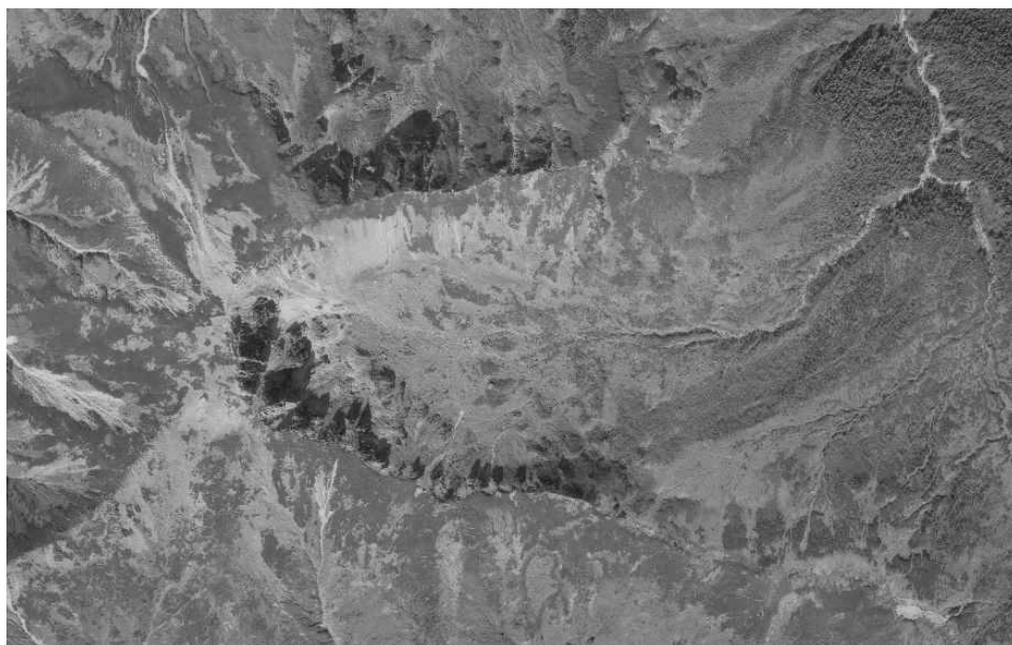


図 3-9 黒部五郎岳カールの地理院空中写真 (1973. 10. 10)

⑤ カールの地形と植生（南アルプス 荒川岳前岳カール）

大野啓一氏（元横浜国立大学）にヒアリングし、南アルプス荒川岳での図示方法を検討した。南アルプス荒川岳南東面における氷河地形と植物群落（増沢・富田・長谷川 2008）の地形と植生の区分（図 3-10、図 3-11、表 3-1）を参考にしている。

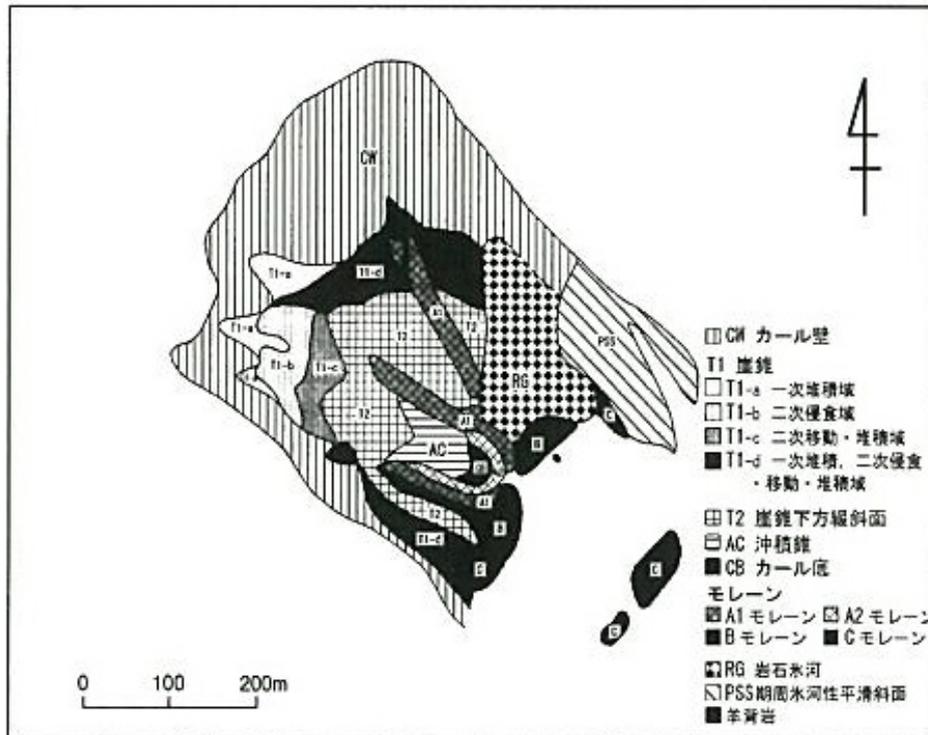


図 3-10 荒川岳の地形区分

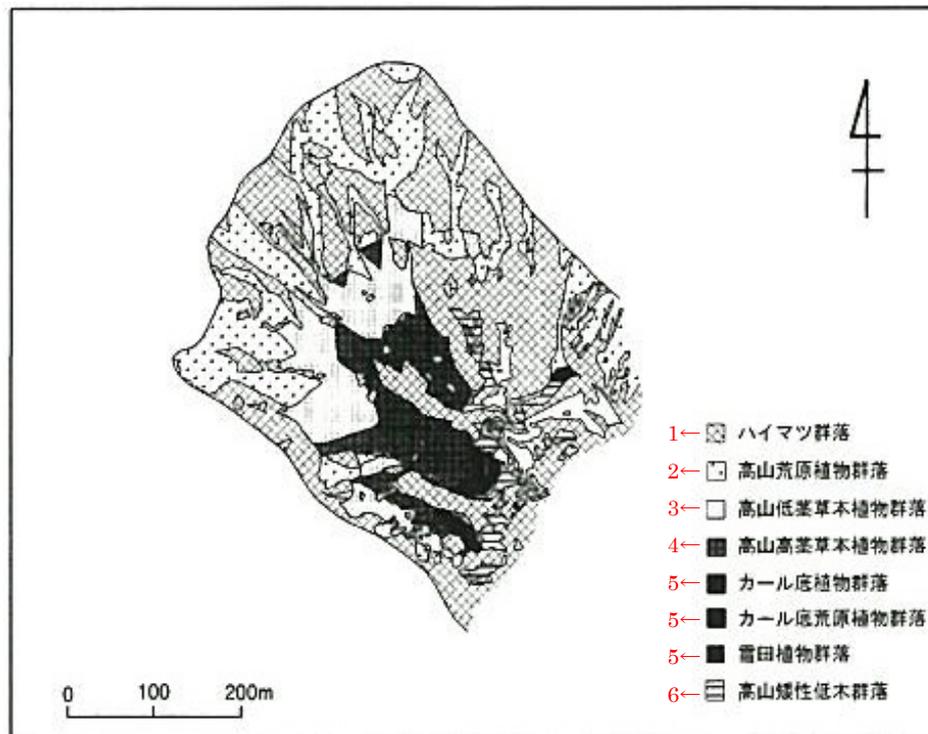


図 3-11 荒川岳の植生区分

1: コケモモ-ハイマツ群集、2: 高山ハイデ及び風衝草原、3: オヤマノエンドウヒゲハリス群集、4: シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団、5: 雪田草原、6: コメバツガザクラ-ミネズオウ群集

表 3-1 南アルプス荒川岳・前岳カールにおける植生区分と地形との対応

植物群落	構成種	地形	立地	植生単位	番号	統一凡例
1 ハイマツ群落	ハイマツ、キバナシヤクナゲ、コガネイチゴ、タカネナナカマド	カール壁・モレーン・岩石氷河・周氷河性平滑斜面	中間的な積雪地。安定地	コケモモ・ハイマツ群集	1	コケモモ・ハイマツ群集
2 高山荒原植物群落	イワツメクサ、タカネヒゴタイ、オンタデ、チシマギキョウ	カール壁～崖錐。砂礫が移動している	風衝地	タカネピランジ-ミヤマミナグサ群集	2	高山ハイデ及び風衝草原 など
3 高山低茎草本植物群落	イワオウギ、ミネウスユキソウ、ヒメカラマツ、コバノコメグサ、チシマギキョウ、コイワカガミ	崖錐～崖錐下方緩斜面。砂礫が移動が弱まるが裸地がある	風衝地・なだれ地	シラネヒゴタイ-オヤマノエンドウ群集	3	オヤマノエンドウ-ヒゲハリスゲ群集
4 高山高茎草本植物群落	シナノキンバイ、タカネスイバ、ハクサンフウロ、ミヤマアシボソスゲ、タカネヨモギ、イワノガリヤス、ホソバトリカブト、ハクサンイチゲ、クルマユリ	崖錐下方緩斜面～沖積堆上部	なだれ地。中間的な積雪地	クロユリ-タカネヨモギ群集	4	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団
5 カール底植物群落	アオノツガザクラ、ガンコウラン、タカネヤハズハハコ、ヨツバシオガマ	沖積堆下部～カール底上部。礫質	雪田。なだれ地	タカネヤハズハハコ-アオノツガザクラ群集	5	雪田草原
6 カール底荒原植物群落	タテヤマキンバイ、コメススキ	カール底最低部	雪田。滞水地	タカネヤハズハハコ-アオノツガザクラ群集		
7 雪田植物群落	(ツガザクラ、チングルマ、ハクサンコザクラ、イワイチョウ、シヨウジョウスゲ)	(高山の小さい谷、舟形地形、大きな窪み)	雪田	タカネヤハズハハコ-アオノツガザクラ群集		
8 高山矮性低木群落	ミネズオウ、コメバツガザクラ、コケモモ、ガンコウラン、ウラシマツツジ、クロマメノキ	モレーン・岩石氷河下部(高山の山頂、尾根。礫の移動が少ない。)	その他の立地(岩礫斜面・岩塊地)	コメバツガザクラ-ミネズオウ群集	6	コメバツガザクラ-ミネズオウ群集

( )内は「高山植物の生態学」(増沢1997)からの引用による。構成種は「南アルプス 3章 荒川三山カール群の高山植生」(大野啓一、増沢編2010)p234から追加。地域や地形に応じて出現する群落は異なる

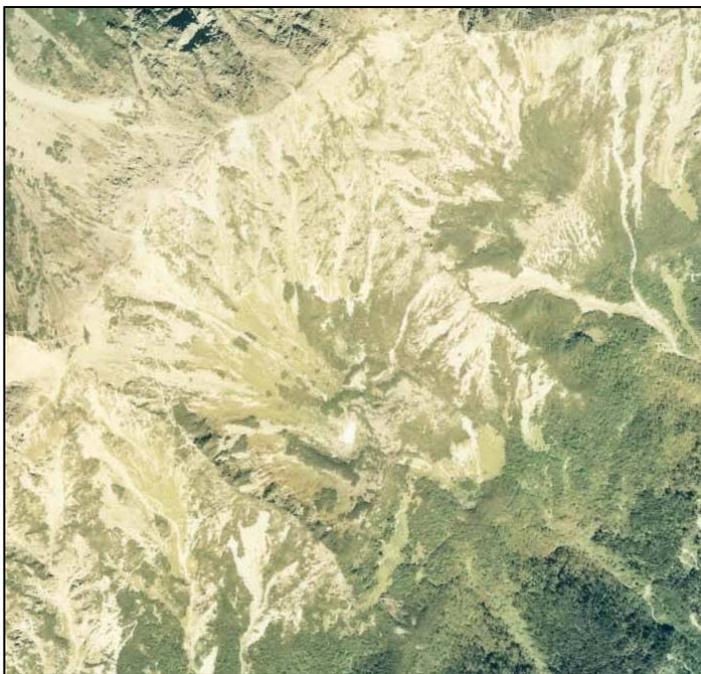


図 3-12 1976 年地理院空中写真  
\*位置補正なし



図 3-13 1976 年地理院空中写真+植生区分  
(増沢ら 2008)  
\*位置補正なし

植生図(1/25,000)は、既存資料(増沢・富田・長谷川 2008)の地形区分と植生区分との対応を参考に、新たに表示可能な細かさで画像から区分線を引く

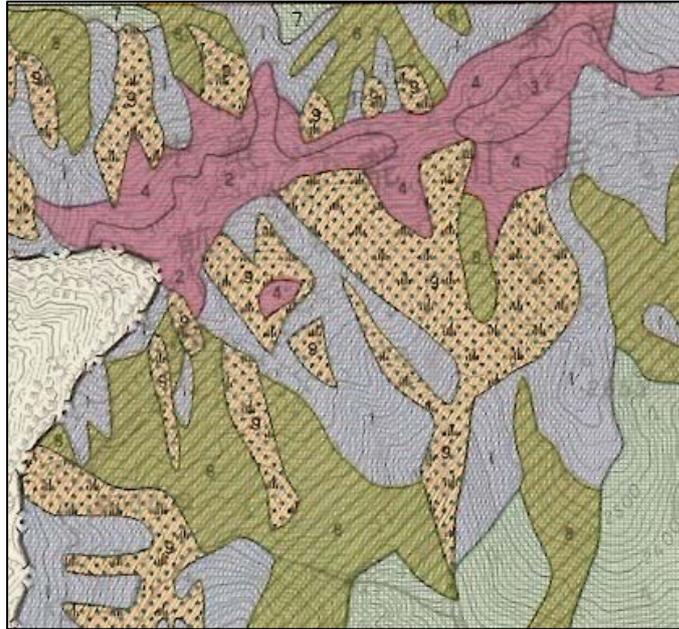


図 3-14 植生図 1/50,000 赤石岳 (1/25,000 に拡大)

- 1: 高山低木群落、2: コメバツガザクラミネズオウ群集、
- 4: コマクサーイワツメクサクラス、6: ミドリユキザサードケカンバ群団、7: シラビソートウヒ群団、9: シナノキンバイーミヤマキンボウゲ群団

注: 下線は前岳カールの図示例で適用していない統一凡例

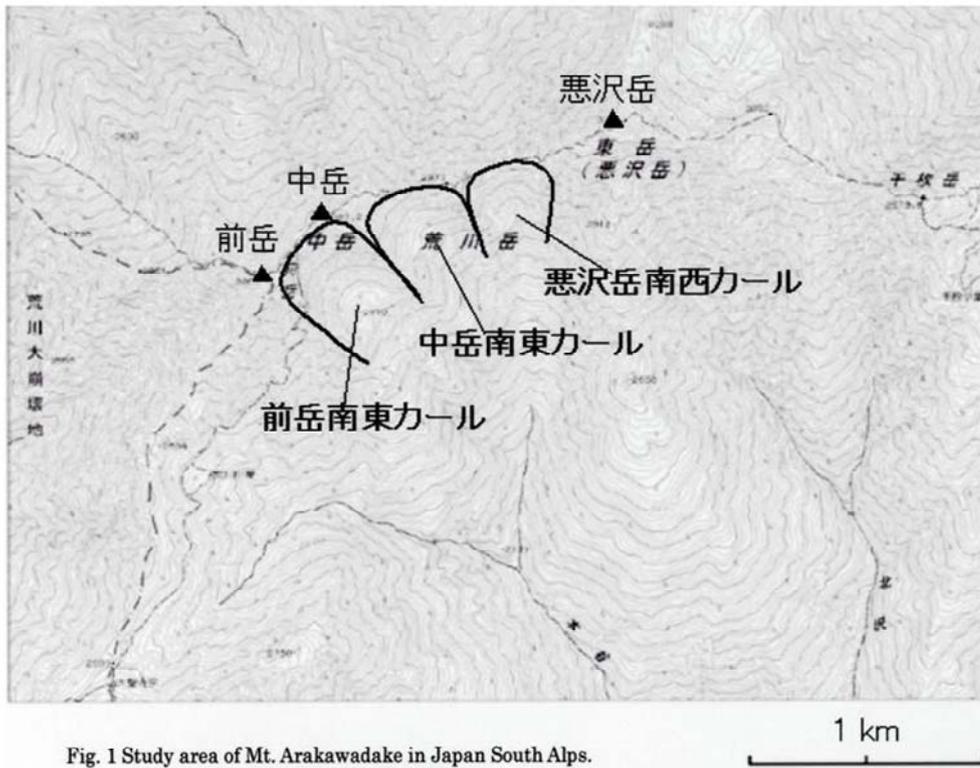


Fig. 1 Study area of Mt. Arakawadake in Japan South Alps.

図 3-15 荒川岳カールの地形



写真 3-2  
荒川岳前岳カール

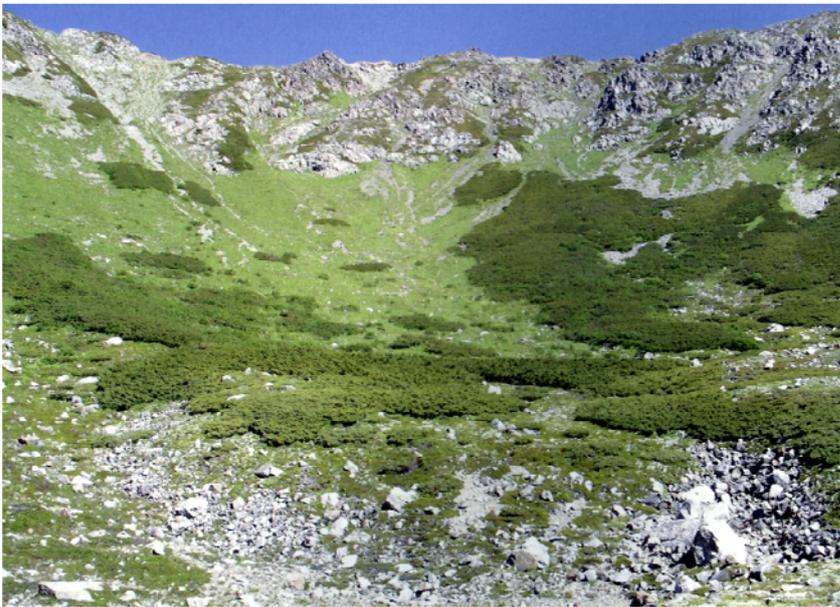
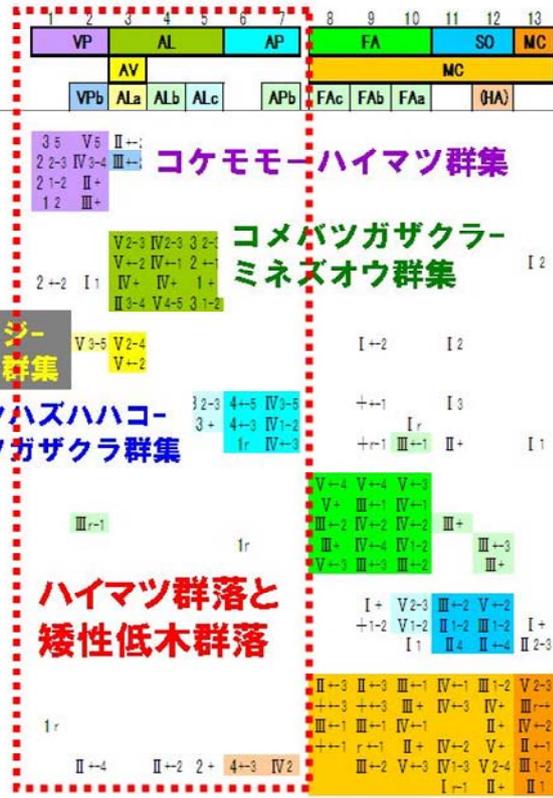


写真 3-3  
荒川岳前岳カール

高山植生総合常在度表(荒川岳)

**本研究の総合常在度表**

群集	群集	亜群集
1	コケモモ・ハイマツ群集(VPA)・上級単位(VP)標微種・区分種	
VPA	ハイマツ	Pinus pumila (Pall.) Regel
VPA	キバナシャクナゲ	Rhododendron aureum Georgi
VP	コガネイチゴ	Rubus pedatus Smith
	タカネナナカマド	Sorbus sambuifolia (Cham. et Sohtdl.) Roem.
2-1	コメバツガザクラ・ミネズオウ群集(ALA)・上級単位(OL)標微種・区分種	
ALA	ミネズオウ	Loiseleuria procumbens (L.) Desvaux
ALA	コメバツガザクラ	Arctostaphylos nana (Maxim.) Makino
VPA	コケモモ	Vaccinium vitis-idaea L.
	ガンコウラン	Empetrum nigrum L. var. japonicum K.Kooh
2-2	ウラシマツツジ・クロマメノキ群集(AVA)標微種・区分種	
AVA	クロマメノキ	Vaccinium uliginosum L.
AVA	ウラシマツツジ	Arotous alpinus (L.) Niedenzu var. japonicus (Nakai) Ohwi
3	タカネヤハズハハコ・アオノツガザクラ群集(APA)・上級単位(PH)標微種・区分種	
APA	アオノツガザクラ	Phyllodoce aleutica (Spreng.) A.Heller
	タチヤマキンバイ	Sibbaldia procumbens L.
APA	タカネヤハズハハコ	Anaphalis alpicola Makino
5	クロユリ・タカネヨモギ群集(FAA)・上級単位(TR)標微種・区分種	
FAA	シナノキンバイ	Trollius riederianus Fischer et Meyer var. japonicus (Miq.) Ohwi
FAA	タカネスイバ	Rumex arifolius All.
FAA	ハクサンフクロ	Geranium yesoense Franch. et Savat. var. nipponicum Nakai
	ミヤマシボソスゲ	Carex soita Maxim.
TR	ホソバトリカブト	Aconitum sensanense Nakai
4	シラネヒゴタイ・オヤマノエンドウ群集(SOA)・上級単位(CK)標微種・区分種	
SOA	ミネウスユキソウ	Leontopodium japonicum Miq. f. shiromunense (Nakai) Ohwi
	コバノコメメグサ	Euphrasia matsumurae
CK	チシマギキョウ	Campanula chamissonis Fedorov
6	タカネビランジ・ミヤマミミナグサ群集(MCA)・上級単位(DS)標微種・区分種	
DS	オンタデ	Aconogonon weyrichii (Fr. Sohm.) Hara var. alpinum (Maxim.) Hara
MCA	ミヤマミミナグサ	Cerastium schizopetalum Maxim.
	タカネヒゴタイ	Saussurea triptera Maxim. f. minor (Takeda) Ohwi
MCA	イワベンケイ	Rhodiola rosea L.
DS	コメススキ	Deschampsia flexuosa (L.) Trin.
DS	タカネツメクサ	Minuartia arctica (Stev.) Aschers. et Graebn. var. hondoensis Ohwi



高山植生総合常在度表(荒川岳)

**本研究の総合常在度表**

群集	群集	亜群集
1	コケモモ・ハイマツ群集(VPA)・上級単位(VP)標微種・区分種	
VPA	ハイマツ	Pinus pumila (Pall.) Regel
VPA	キバナシャクナゲ	Rhododendron aureum Georgi
VP	コガネイチゴ	Rubus pedatus Smith
	タカネナナカマド	Sorbus sambuifolia (Cham. et Sohtdl.) Roem.
2-1	コメバツガザクラ・ミネズオウ群集(ALA)・上級単位(OL)標微種・区分種	
ALA	ミネズオウ	Loiseleuria procumbens (L.) Desvaux
ALA	コメバツガザクラ	Arctostaphylos nana (Maxim.) Makino
VPA	コケモモ	Vaccinium vitis-idaea L.
	ガンコウラン	Empetrum nigrum L. var. japonicum K.Kooh
2-2	ウラシマツツジ・クロマメノキ群集(AVA)標微種・区分種	
AVA	クロマメノキ	Vaccinium uliginosum L.
AVA	ウラシマツツジ	Arotous alpinus (L.) Niedenzu var. japonicus (Nakai) Ohwi
3	タカネヤハズハハコ・アオノツガザクラ群集(APA)・上級単位(PH)標微種・区分種	
APA	アオノツガザクラ	Phyllodoce aleutica (Spreng.) A.Heller
	タチヤマキンバイ	Sibbaldia procumbens L.
APA	タカネヤハズハハコ	Anaphalis alpicola Makino
5	クロユリ・タカネヨモギ群集(FAA)・上級単位(TR)標微種・区分種	
FAA	シナノキンバイ	Trollius riederianus Fischer et Meyer var. japonicus (Miq.) Ohwi
FAA	タカネスイバ	Rumex arifolius All.
FAA	ハクサンフクロ	Geranium yesoense Franch. et Savat. var. nipponicum Nakai
	ミヤマシボソスゲ	Carex soita Maxim.
TR	ホソバトリカブト	Aconitum sensanense Nakai
4	シラネヒゴタイ・オヤマノエンドウ群集(SOA)・上級単位(CK)標微種・区分種	
SOA	ミネウスユキソウ	Leontopodium japonicum Miq. f. s
	コバノコメメグサ	Euphrasia matsumurae
CK	チシマギキョウ	Campanula chamissonis Fedorov
6	タカネビランジ・ミヤマミミナグサ群集(MCA)・上級単位(DS)標微種・区分種	
DS	オンタデ	Aconogonon weyrichii (Fr. Sohm.) Hara var. alpinum (Maxim.) Hara
MCA	ミヤマミミナグサ	Cerastium schizopetalum Maxim.
	タカネヒゴタイ	Saussurea triptera Maxim. f. minor (Takeda) Ohwi
MCA	イワベンケイ	Rhodiola rosea L.
DS	コメススキ	Deschampsia flexuosa (L.) Trin.
DS	タカネツメクサ	Minuartia arctica (Stev.) Aschers. et Graebn. var. hondoensis Ohwi

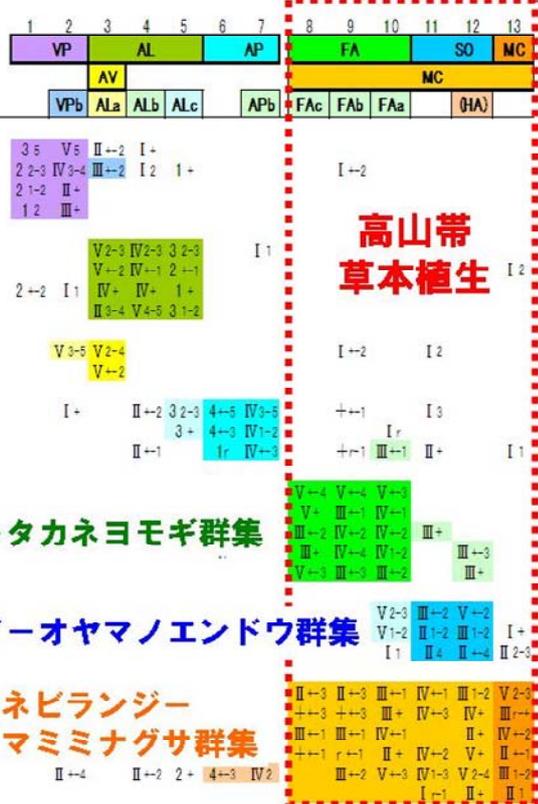


表 3-2 荒川岳の高山植生総合常在度表

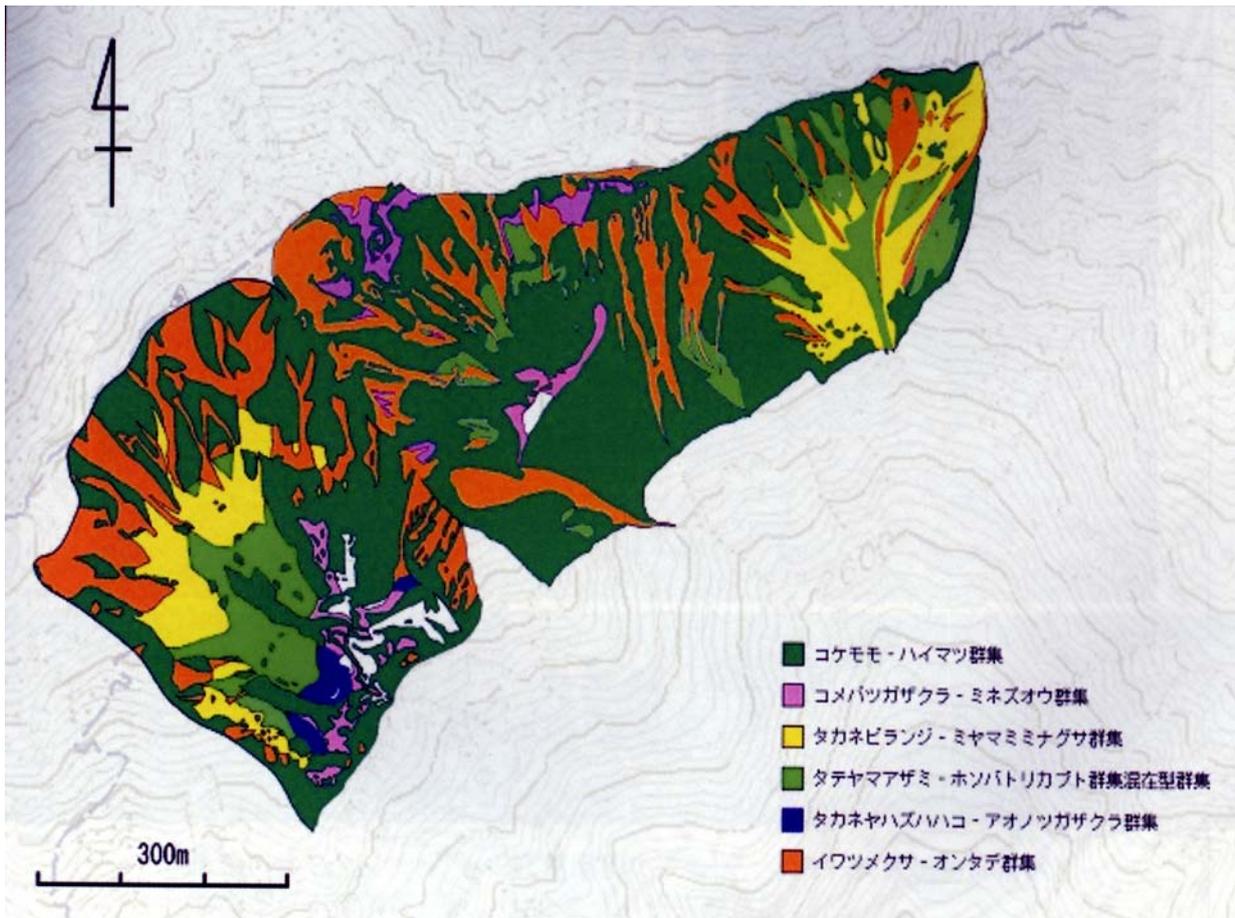


図 3-16 荒川三山の植生図

(3) ヨーロッパの事例

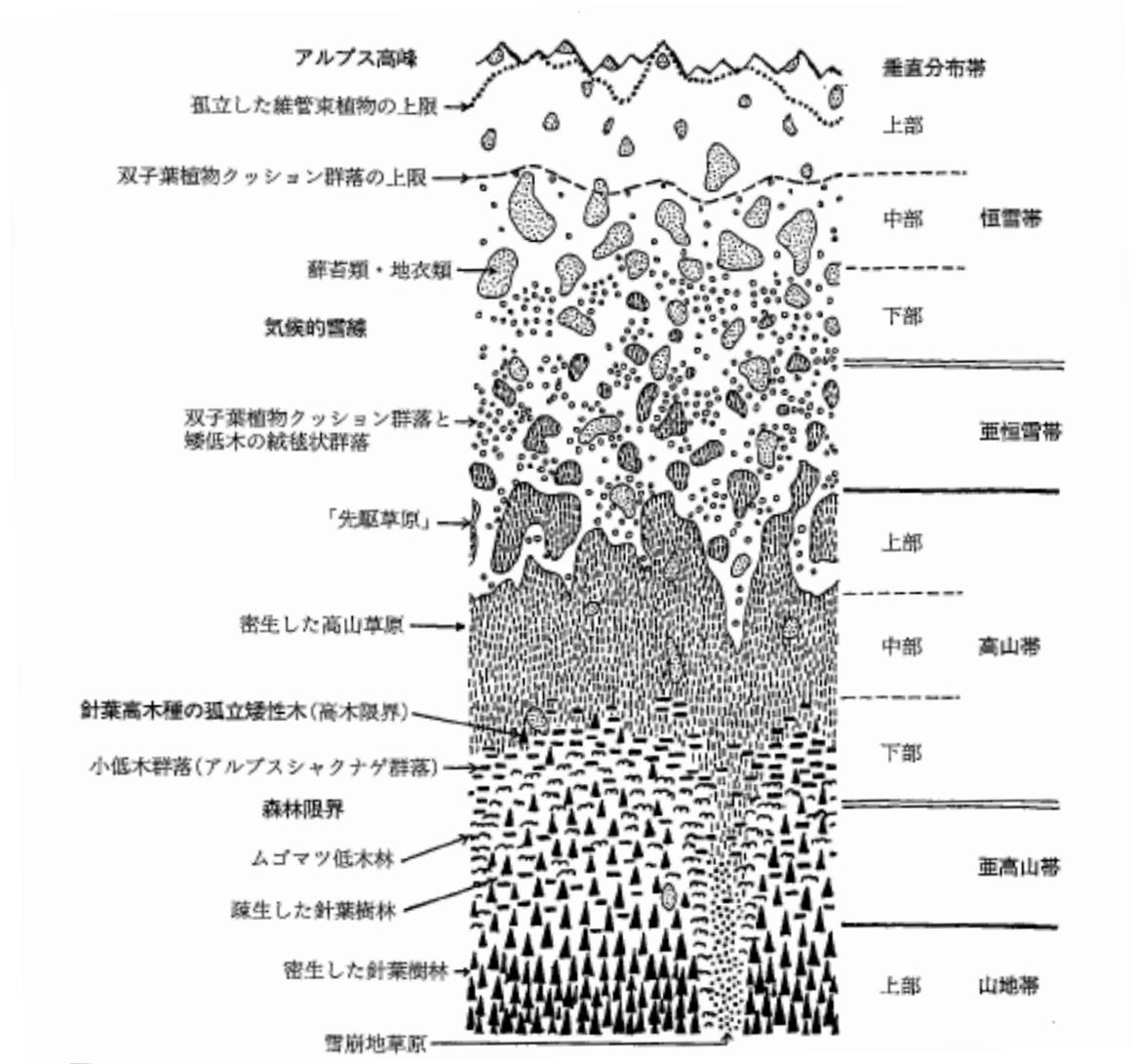


図 3-17 ヨーロッパアルプスにおける山地帯上部から恒雪帯までの群系モザイクの垂直分布模式図 (Ellenberg1978, 1996, 大場 1977) 佐藤 2007 より転載  
針葉樹が雪線で切れる。なだれ地には上位の群落が降りる。

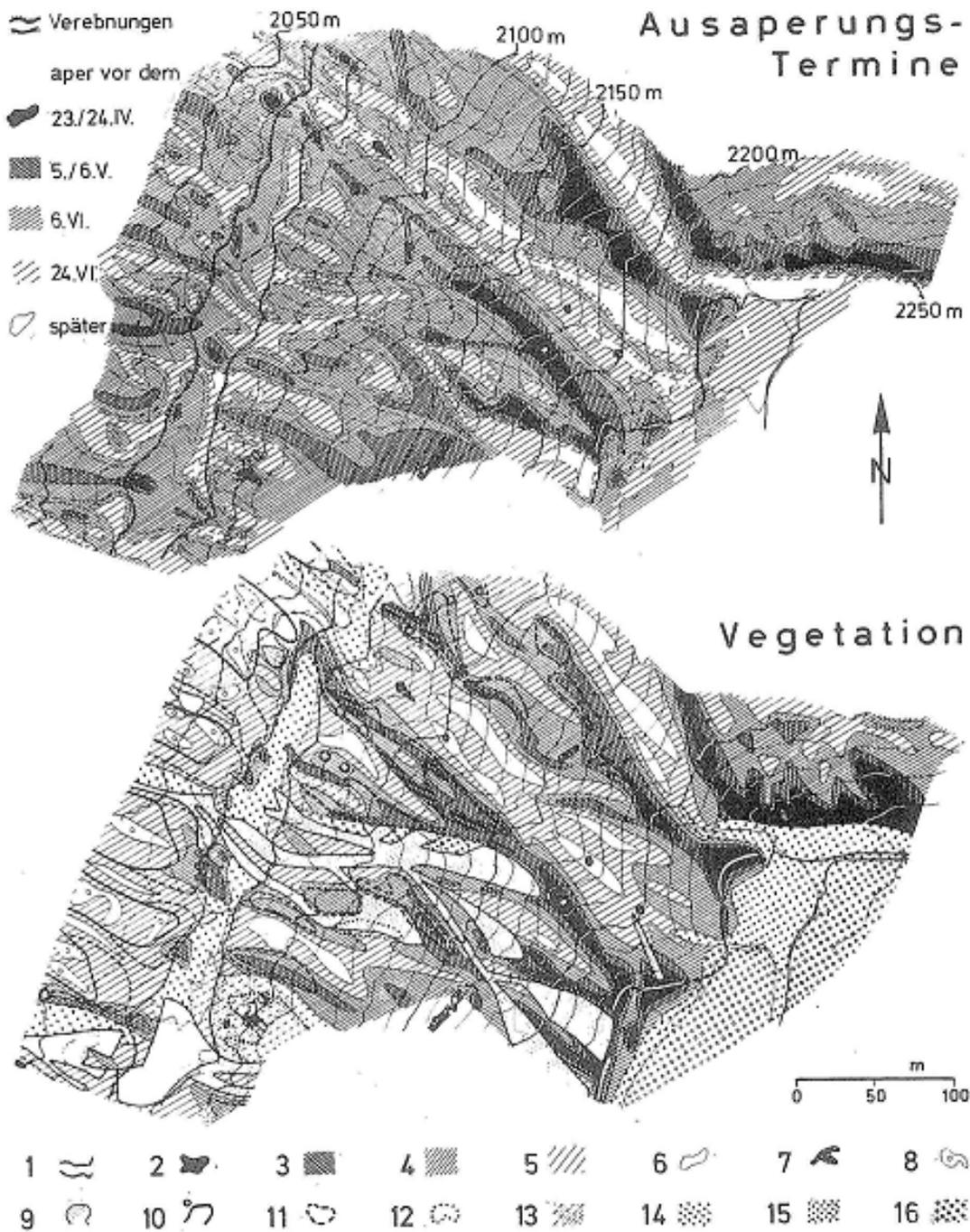


Abb. 325. Im Waldgrenzbereich und in der alpinen Stufe hängt die Verteilung der Pflanzengesellschaften wesentlich von der Andauer der Schneebedeckung ab. Eine Karte der Ausaperungstermine stimmt daher weitgehend mit der Vegetationskarte überein. Nach FRIEDEL aus AULITZKY (1961), verändert.

Oben: Interpolierte Karte der Ausaperungstermine oberhalb der Waldgrenze bei Obergurgl (2050–2250 m). Unten: Vereinfachte Vegetationskarte des oben dargestellten Geländeausschnittes. 1 = Verebnungen, 2 = Flechten-Windheiden, 3 = Alpenazaleen-Windheiden, 4 = Rauschbeerheiden, 5 = Alpenrosen-Heidelbeerheiden, 6 = dichte Alpenrosenheiden, 7 = Legföhren, 8 = Lücken im Alpenrosengestrüpp des subalpinen Waldes, 9 = Schuttvegetation, 10 = alte Arvenbestände, 11 = junge Arven, 12 = junge Lärchen, 13 = offenes Pionier-Alpenrosengestrüch mit *Rhacomitrium canescens*, 14 = Flächen mit Bodenüberhitzung, 15 = Flächen mit Bodenverdichtung, 16 = Krummseggenrasen (mittelalpin).

图 3-18 地形と植生 (Ellenberg1978)

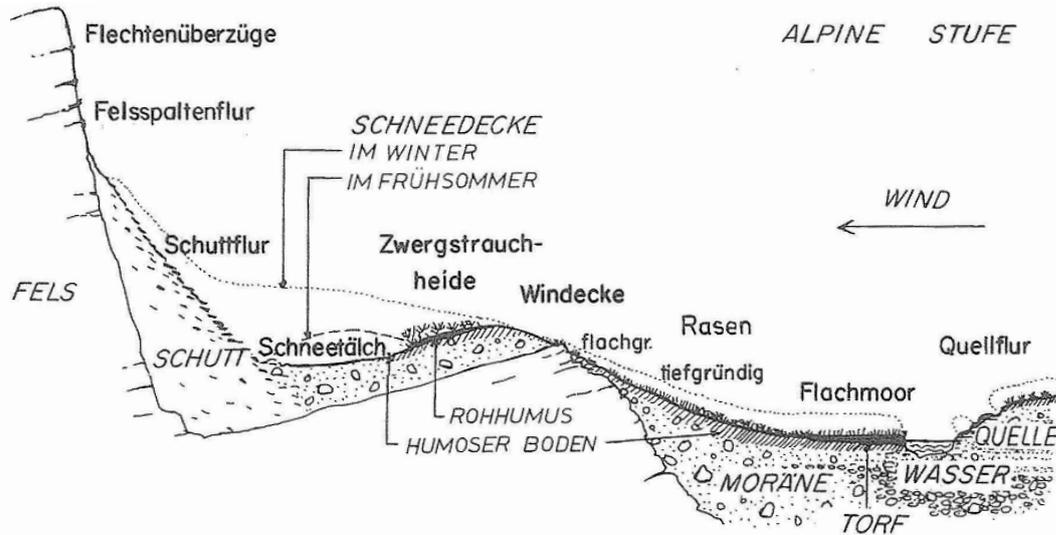


Abb. 328. Charakteristische Vegetationsformationen und deren Böden sowie die Dauer und Höhe der Schneedecke in der alpinen Stufe (halbschematisch). Je nach dem Basengehalt des Bodens werden die Formationen durch verschiedene Pflanzengesellschaften vertreten (s. Tab. 74 und folgende).

図 3-19 雪融け後の地形と対応する植物群落 (高山ハイデと湿原) (Ellenberg1978)

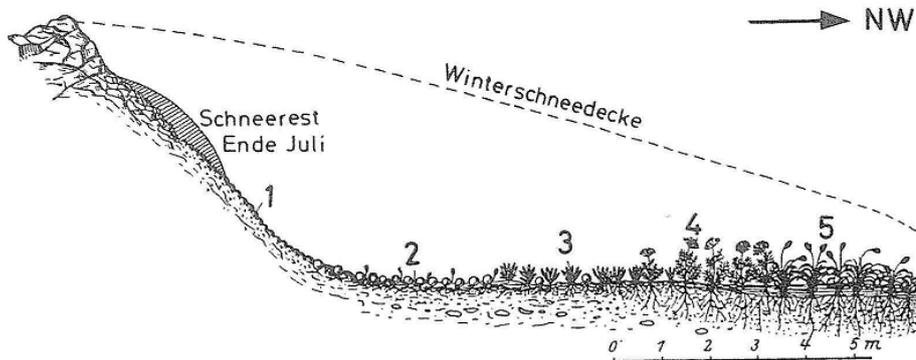


Abb. 338. Zonierung der Schneeboden-Vegetation am Minorjoch, Bernina, 2450 m ü. M. Nach BRAUN-BLANQUET (1951).

1 = Widerton-Sneeboden (*Polytrichetum sexangulare*), 2 = Typischer Krautweiden-Sneeboden (*Salicetum herbaceae*), 3 = Ausbildung mit *Gnaphalium supinum*, 4 = desgl. mit *Ligusticum mutellina*, 5 =

図 3-20 雪融けの時期と対応する雪田植物群落 (Ellenberg1978)

#### 4. 標準的なくくり方

##### (1) 地形をわかりやすくする工夫

- ・ 尾根の両側の斜面を同じ種類の植生が広く覆っている場合(図4-2ではミヤマハンノキ群落)、尾根のハイマツが幅 1mm 以下で細くても、鋭い尾根がある地形をわかりやすくするためにハイマツを括る。



図 4-1 札内岳左下の空中写真 1978 年



図 4-2 札内岳左下の植生図

##### (2) 月山「植生図」の判読・図化にあたっての判別点や工夫—偽高山の低木群落の細分—

※群落名の後に示した番号 1)～13)は、管理サイト植生図作成支援ツールの 574060 月山で Google 画像が参照できる。→現在は閲覧ができなくなっている。

###### ① 低木群落について

調査地は偽高山帯と言われる植生上の特徴から、各種の低木群落が多様な立地に広範に分布している。各群落は構成種、生育地の地形的、生態的特性、植生帯によって区分されている。比較的判断の容易な群落もあるが、群落特性や画像の写り方で判別が困難な群落があった。

- ・ 画像の見え方に特色があり、比較的判別しやすいのはハイマツ群落 1)、ヒメヤシャブシータニウツギ群落 2)である。ハイマツ群落は常緑低木林であるので紅葉期や落葉期には明瞭に識別できる。ヒメヤシャブシータニウツギ群落は濃い目の色調と斜面を流れ下るようなパターンが特

徴的で、急峻な地形（等高線の間隔、崩壊地・露岩地の記号）や隣接してクロベークタゴヨウ群落が生育することなども判断の材料となった。

- ・現地での観察や目視を基に画像で確認した結果、**ウラジロナナカマド群落 3**は生育地の特徴（雪田内の沢状地）と画像の見え方（チシマザサ群落よりやや濃い、他の低木群落より淡色）から比較的容易に抽出できた。
- ・生育地の特性によって判別したのは**ダケカンバ群落 4**、**ヤハズハンノキ群落 5**である。現地での観察によって確認し、画像である程度判別でき（ダケカンバは曲がりくねった白っぽい幹、ヤハズハンノキは黒っぽく、密でこぼことした樹冠）、地形図を手がかりに（ダケカンバは溶岩台地崖線から派生する尾根状地、ヤハズハンノキは椀状の沢筋）抽出した。
- ・**ミヤマナラ群落 6**はブナクラス域上部に断裂した帯状の分布があること、比較的平坦で幅のある尾根に生育すること、風衝地であること、湿原周囲に特異的に生育することなどが既存文献から理解され、それらを考慮して判別した。しかし、ナナカマドーミネカエデ群落や一部のヒメヤシャブシータニウツギ群落とが区別困難な場合もあった。それはミヤマナラ群落が画像では識別しにくかったことによる。ミヤマナラ群落は単調できめ細かなパターンであることが多かったが、色調では特徴がなかった（あるいは撮影季節によって明瞭になるかもしれない）。したがって、画像よりも生育地の特性から判断しなければならず、判断の困難な場所があった。
- ・**ナナカマドーミネカエデ群落 7**は最も広範に分布する低木群落であるが、画像に特徴がなく、特に**ミヤマナラ群落**とは**識別が非常に困難**であった。高海拔地においては他の低木群落が抽出可能であったために、迷うことが少なかったが、ブナクラスとの境界付近でミヤマナラ群落との区別が難しかった。地形的な特徴などを勘案しても、決め手となる画像での違いが読み取れず、苦慮した。最終的には、海拔高度、尾根の形状、斜面の方位などを手がかりに判断した。
- ・**チシマザサーブナ群団 8**は上限付近で低木林化し、高木群落とは様相を異にする。低木林化したブナ林と他の低木群落との識別は、現地での目視と画像での見え方を合わせた結果、おおむね可能となった。ブナ低木林は下部のブナ高木林からの連続性を手がかりに、白っぽい枝幹や丸みを帯びた樹冠で区別できた。

## ② 植生のモザイク 9)について

- ・チシマザサ群落、各種低木群落、雪田、湿原が入り組んだモザイクを呈する場合がある。現地での観察では、各植生は比較的明瞭に棲み分けており、例えばチシマザサと低木とが分離不能に混在することは少なかった。
- ・しかし、植生のモザイクでは省略と連結が必要であり、図化にあたっては、低木群落、湿原、雪田を**チシマザサ群落 10**)の中からくり出す要領で図示した。

## ③ 雪田と湿原の区分

- ・月山の図面では、溶岩台地上の緩斜面、斜面中腹の平坦～緩斜面、雪溜まりとなる沢筋に広く**雪田植生**が見られる。また、**弥陀ヶ原**、**念仏ヶ原**、**行者ヶ原**には**ミズゴケ湿原**が分布していることが知られている。

**湿原 11**)はおおむね上記3地域に発達するが、その境界部では画像による識別が困難であった。登山ルートにおける現地確認ができた地点では、ある程度実態を反映できたが、確認できない地点においての識別は難しかった。画像において、雪田と湿原の見え方は明らかに区別で

きる場合もあったが、一般化は難しかった。その都度、隣接するポリゴン同士で比較し、最終的には平坦な地形の場合を湿原とした。湿原は海拔 1600m よりも低い地域に分布するようである。

雪田 12) は広く分布し、画像での見え方も様々であった。事前の判読で雪田としながらも、その広範さに不安があった。雪田植生には様々なタイプがあり、仔細に画像と対応することで細分できるかもしれないが、1/25,000 図のスケールでは表示しきれないこと、雪田というカテゴリーが表せればその他の凡例とのバランスも取れ十分であると考え、細分はしなかった。しかし、雪田底の荒原に相当する部分が画像から判別できたので区分した。実態解明には組成調査が必要である。

現地調査では海拔 1,350m 付近から雪田が確認できた。それ以上の地域では地形と画像の色調などから、雪田を判別できた。しかし、溶岩台地崖線の東側急斜面においてはより低海拔地に草原が画像から判別され、既存資料では雪田植生として示されていた。溶岩台地上の明らかな雪田とは色調が異なって見えるので、他の草本群落である可能性も考えられた。しかし、踏査や遠望の困難な場所であるので、実態の解明は困難であろう。今回は既存資料に準じて、雪田植生として表示した。

#### ④ 高山域の代償植生 13) について

1/25,000 図では従来表記できなかつた高山域の代償植生を示すことができる。既存資料に調査データが少なく、実態が判明していないが、植生の保全やモニタリングのために記録されることが望ましいと考える。月山では、現地調査で確認でき、画像でも識別できた、ある程度の面積をもつ植分を表示した。

## 5. その他

### (1) シカの食害

南アルプスではシカの食害が報告されている。前岳、荒川岳、塩見岳、北荒川岳、仙丈岳では、1980年頃にはシナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンイチゲなどの風衝広葉草原が見られたが、2000年頃から食害と踏み付けによって、シカの食べないタカネヨモギ、バイケイソウ等が優占する草原や裸地が出現している。亜高山帯の高茎草原でもマルバダケブキやホソバトリカブトが優占する群落に変化している。1/25,000 図上で各 1cm 四方形の面積で広がっている。(2013. 3. 7 増沢先生のヒアリングによる)

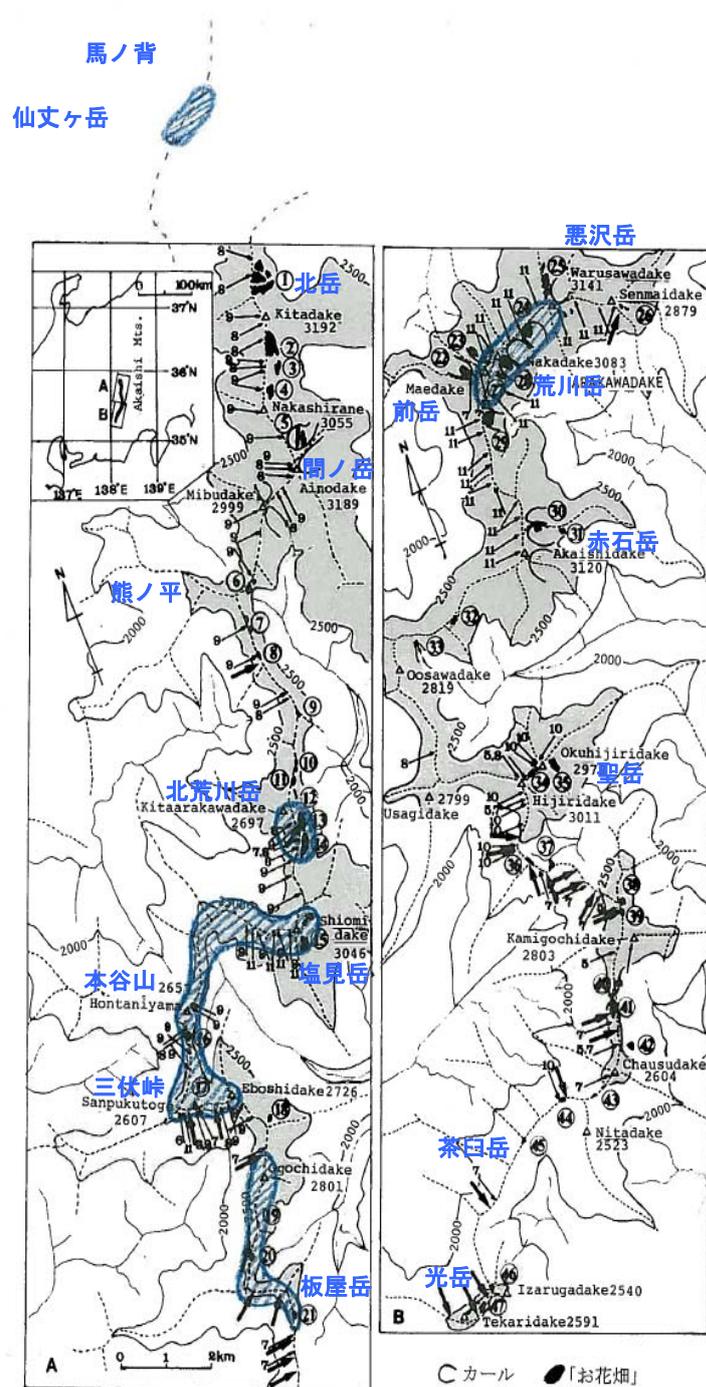


図 5-1 南アルプスにおいてシカ害が認められる地域 (水野 1999 に加筆)

## 参考文献

- Ellenberg, H (1978) *Vegetation Mitteleuropas mit den Alpen in oekologischer Sicht*. Verlag Eugen Ulmer. Stuttgart.
- 浅沼孝夫 (2002) 羅臼岳・硫黄山自然観察ガイド。知床サイト
- 菊池多賀雄 (2001) 地形植生誌。東京大学出版会
- 石塚和雄・橘ヒサ子・斎藤員郎 (1972) 鳥海山・飛鳥。山形県総合学術調査会
- 石塚和雄 (1978) 多雪山地亜高山帯の植生\_吉岡博士追悼植生生態論集
- 菊池多賀夫・菅原亀悦 (1978) IV 自然公園蔵王連峰の植生
- 伊藤浩司 (1973) 大雪山の植物群落。写真集「大雪山」
- 大場達之 (1969) 日本の高山荒原植物群落。神奈川県立博物館研究報告 1 (2)
- 大場達之 (1968) 日本の高山寒冷気候下における超塩基性岩地の植生。神奈川県立博物館研究報告 1 (1)
- 大場達之 (1973) 日本の亜高山広葉草原 1。神奈川県立博物館研究報告 (7)
- 大場達之 (1973) 日本の亜高山広葉草原—低木群落。神奈川県立博物館研究報告 (6)
- 大場達之・安達永眞・真岡都 (1979) 木曾山系太田切川流域の植生、中央アルプス太田切川流域の自然と文化総合学術報告書
- 小泉武栄 (1974) 木曾駒ヶ岳高山帯の自然景観
- 斎藤員郎 (1978) 東北地方の亜高山針葉樹林\_吉岡博士追悼植生生態論集
- 佐藤謙 (2007) 北海道高山植生誌。北海道大学出版会
- 中村幸人 (1986) 中部山岳以西の亜高山性植生の植物社会学的研究 その 1 群落区分とその体系化—横浜国立大学環境科学研究センター紀要 第 13 巻第 1 号
- 中村幸人 (1988) 中部山岳以西の亜高山性植生の植物社会学的研究 その 2 植生単位の分布特性—横浜国立大学環境科学研究センター紀要 第 14 巻第 1 号
- 羽田健三・小林圭介・平林国男 (1971) 仙丈岳・甲斐駒ヶ岳・戸台川周辺の植生。戸台自然休養林候補地学術調査報告。長野営林局長野営林局
- 羽田健三・平林国男・小林圭介・和田清 (1972) 御岳の植生。御岳自然休養林候補地学術調査報告。長野営林局
- 増沢武弘編著 (2010) 南アルプス 地形と生物。静岡県県民部環境局環境ふれあい室。
- 水野一晴 (1999) 高山植物と「お花畑」の科学。古今書院
- 宮脇昭・伊藤秀三・奥田重俊 (1967) 会津駒ヶ岳・田代山周辺 (福島県) の植生。日本自然保護協会
- 宮脇昭・大場達之・奥田重俊・中山冽・藤原一絵 (1968) 越後三山・奥只見周辺の植生 (新潟県・福島県)。越後三山 奥只見自然公園学術調査報告書
- 宮脇昭・大場達之・奥田重俊 (1969) 乗鞍岳の植生—主として飛騨側の高山帯と亜高山帯について—日本自然保護協会調査報告第 36 号。中部山岳国立公園乗鞍岳学術調査報告。

#### 更新履歴

- 2013.5 「高山帯・亜高山帯調査のための手引き」として平成25年度実施要領巻末資料に追加
- 2015.5 「山岳地調査の手引き」に改称
- 2016.4 既存資料、既存画像データの追加、表2-1の変更、その他表記を修正